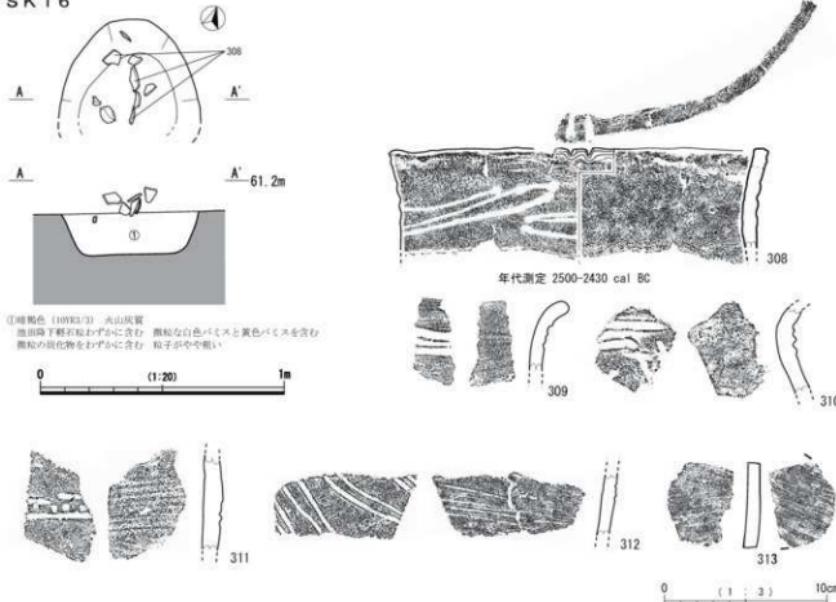


SK16



第110図 土坑16号と出土遺物

土坑18号（第113図）

検出状況

SK18は、C-6区のIVb層で検出された。長軸は1.71m、短軸1.13m、深さ45cm、推定面積は1.66m²を測る。平面形は梢円率0.66の梢円である。掘り込みの断面形状は、北側がなだらかに落ち込む。遺物は土器、石皿片、磨石等が主に北側落ち込み部分の中央の埋土上層から出土した。花崗岩製の石皿片が最上位に出土しているが、残存部が少なく分類・図化には至っていない。周囲からは花崗岩製石皿立石遺構が検出されているため、それらに関連した遺物・遺構である可能性も否定できない。

分類：タイプII

埋土

埋土は、暗褐色土1枚である。池田降下鉱石、白色バニス、橙色バニスや炭化物を含む。やや硬質でやや粘質の、粒子の細やかな土である。

出土遺物

319・320は深鉢の口縁部片である。320は口縁部外面にやや幅広の肥厚帯を形成し、肥厚帯には、棒状工具による連点文と棒状の沈線文を横に連続させた文様帶を

形成する。残存部外面の下端に横位の沈線が確認できるため、胴部にも文様が施されたことがわかる。口縁部には四線を巡らせ、所々に連点を施したと推測される。319a類と考えられる。319は直線的に立ち上がり、口縁部に指頭による強い押圧を連続させ、波状を呈し、VIB類と考えられる。321はⅣ類土器の胴部片と判断される。平行沈線間に棒状工具による円形刺突を連続して施す。

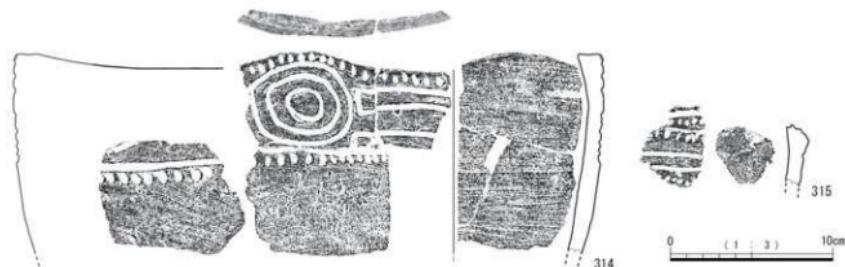
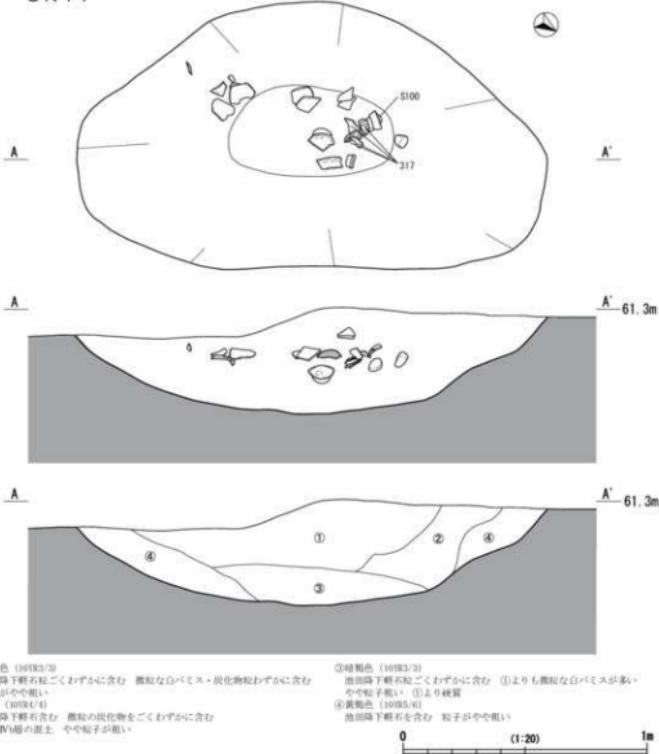
S102はホルンフェルス製の磨・敲石I類である。下面は敲打により割れ、正面には明瞭な磨面を形成しよく使用される。S103は、砂岩製の磨・敲石II類である。残存部が少なく形態の分類は難しい。破断面にも使用の痕跡が窺える。S104は砂岩製で、下面のほかに加工・使用の痕跡が薄いため、磨・敲石IV類として分類した。上面を欠損する。細長い自然縦の形状を活かして石斧として使用された可能性もある。

土坑19号（第114図）

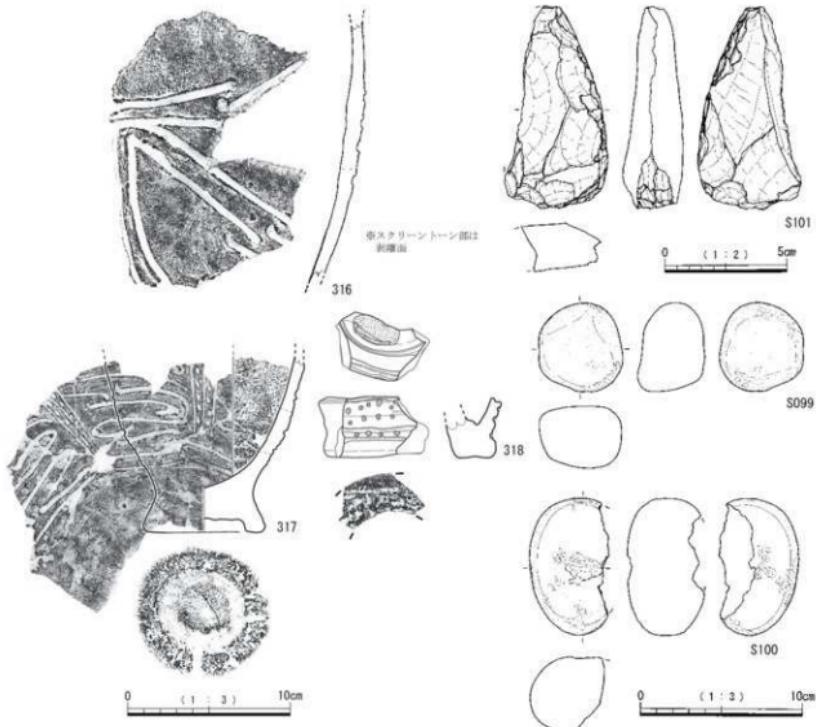
検出状況

SK19は、D-E-6区のVI層で検出された。長軸は0.88m、短軸0.82m、深さ15cm、推定面積は0.56m²を測る。

SK 17



第111図 土坑17号と出土遺物（1）



第112図 土坑17号出土遺物（2）

平面形は梢円率0.93の円形である。遺物は南西隅から出土。石器が出土した。

分類：タイプⅢ

埋土

埋土は、暗褐色土單層である。黄バミスの細粒、微粒の白バミスや炭化物を含む。粒子の細かい軟質土である。

出土遺物

322は深鉢の口縁部片で、肥厚させた口縁部外間に斜位の貝殻腹縁刺突文を施す。VIIa類と考えられる。

土坑20号（第114図）

検出状況

SK20は、E-6区のVI層で検出された。長軸は1.36m、短軸0.72m、深さ22cm、推定面積は0.74m²を測る。平面

形は梢円率0.53の梢円で、掘り込みはレンズ状の形状である。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は、にぶい黄褐色土單層である。黄バミスと橙バミスの細粒を含む。粒子の細かい軟質土である。

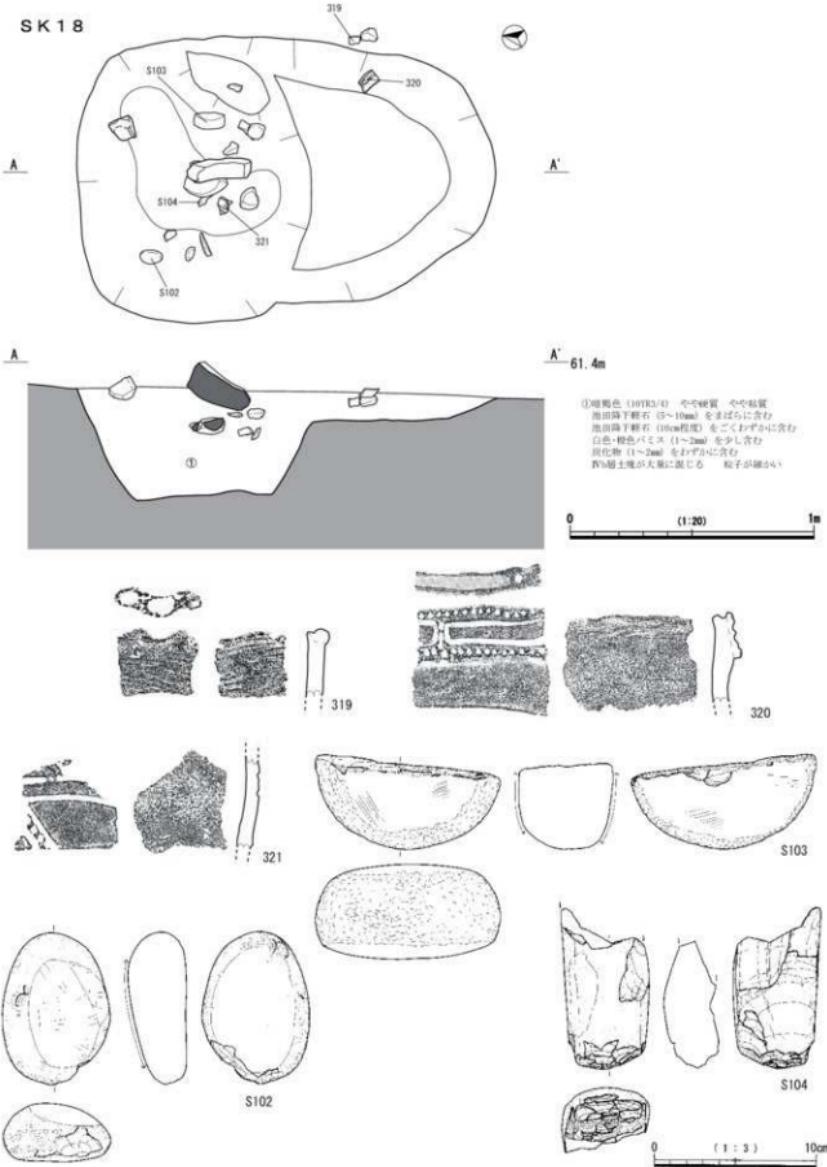
出土遺物

S105は安山岩B製の石錘で、両極打撃によって短径を打ち抜き形成する。掘り込みの外からの出土である。

土坑21号（第114図）

検出状況

SK21は、E-6区のVI層で検出された。長軸は0.61m、短軸0.42m、深さ14cm、推定面積は0.19m²を測る。平面



第113図 土坑18号と出土遺物

形は梢円率0.69の梢円である。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は、にぶい黄褐色土單層である。黄バミスの細粒を含む粒子の細かい土である。

土坑22号（第115図）

検出状況

SK22は、E-6区のVI層で検出された。長軸は0.92m、短軸0.58m、深さ27cm、推定面積は0.41m²を測る。梢円率0.63の梢円である。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は、にぶい黄褐色土、暗褐色土の2枚である。黄バミスの細粒、微粒の白バミスを含む粒子細かい軟質土である。

土坑23号（第115図）

検出状況

SK23は、B-7・8区のV層で検出された。長軸は1.02m、短軸0.70m、深さ37cm、推定面積は0.59m²を測る。平面形は梢円率0.69の梢円である。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は、褐色土2枚、黄褐色土の計3枚である。白バミス・黄バミスの微粒と微粒の炭化物を含む。Va層土やIVb層土が混じる。

出土遺物

323は口縁部最上位とそのやや下方に低い突帶をもうけて円形刺突文を連続させる。突帶間には横長の枠状の文様を横位に連続させると推測される。口唇部には凹線を巡らせる。口縁部文様帯からやや下がる位置に沈線を1条巡らせる。SK18から出土した320に形態が類似する。VIIa類と考えられる。

土坑24号（第115図）

検出状況

SK24は、B-7区のV層で検出された。長軸は0.72m、短軸0.64m、深さ34cm、推定面積は0.35m²を測る。平面形は梢円率0.89の円形である。

分類：タイプⅢ

埋土

埋土は、褐色土單層である。池田降下軽石、粒微粒の黄色バミスと白色バミス、微粒炭化物を含む火山灰質土である。

出土遺物

324・325は口縁部片である。324は直線的に開き、口縁端部あたりで内外面をわずかに肥厚させる。口唇部に

はごく浅い凹線を巡らせる。外面の肥厚帯の直下に平行沈線文を巡らせ、沈線間には同じ工具による斜位の単沈線を連続して施す。325はごくわずかに外反しながら開き口唇部に細沈線と貝殻腹縫刺突文を密に連続させた文様帯を有する。外面には細い沈線文を描くと推測される。VIIb類の範疇と捉えた。326は外反する口縁部の内面屈曲部より上位に文様帯を有する。上面施文型である。IXa類と考えられる。

土坑25号（第116図）

検出状況

SK25は、B-7区のIVb層で検出された。長軸は0.64m、短軸0.20+cm、深さ11cm、平面形は梢円と考えられる。掘り込みはレンズ状の形状でごく浅い。遺物は掘り込みの中央部分の上層からまとまって出土した。

分類：タイプIV

埋土

埋土は、暗褐色土1枚である。黄バミス、石粒や炭化物を含む。

出土遺物

328・329は口縁部小片で、前者からVIIb類とVIIa類に該当する可能性がある。330は深鉢で、完形には復元できなかったが口縁部～底部の一部が縦に接合した資料である。明瞭な波状口縁を呈し、頸部で大きく外反し、内面屈曲部以上に文様帯を有する。内面の後はごく緩い。内外面ともに貝殻条真で調整され、外面は無文である。底部は平底で白色物質が付着する。胎土には金色の雲母を多く含む。331は上げ底気味の大型の底部片である。

土坑26号（第117図）

検出状況

SK26は、D-7区のⅤ層で検出された。長軸は1.06m、短軸0.75m、深さ67cm、推定面積は0.60m²を測る。平面形は梢円率0.71の梢円である。垂直に近い角度で壁面を深く掘り込み、平坦な底面をつくる。遺物は土器の小片や磨・敲石片などが北側にやや偏って出土した。出土層位は底面から上層に散見される。

分類：タイプⅡ

埋土

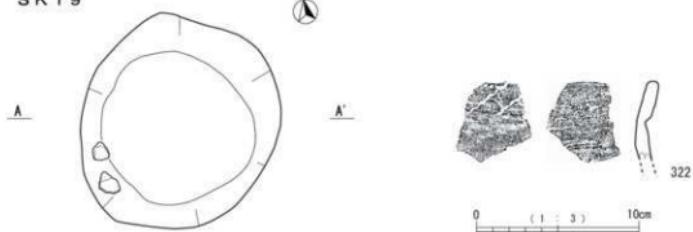
埋土は、暗褐色土1枚である。基本層はIVb層である。

出土遺物

332は無文の副部片である。胎土から縄文時代後期前半の遺物であると判断した。

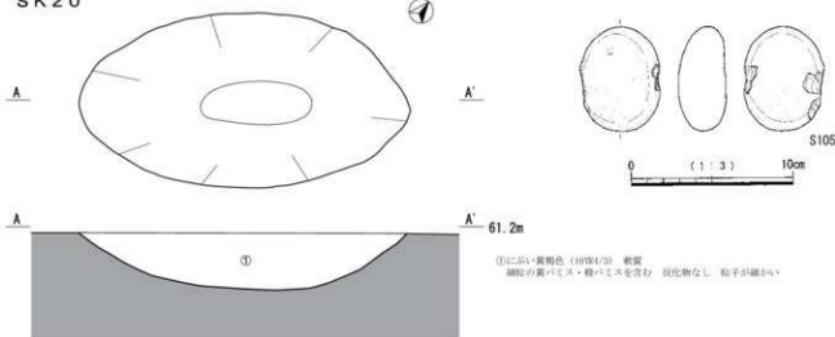
S106は安山岩B類製の磨・敲石Ⅱb類の破片である。破碎後に破断面の角を敲打に使用した痕跡がみられる。

SK 19



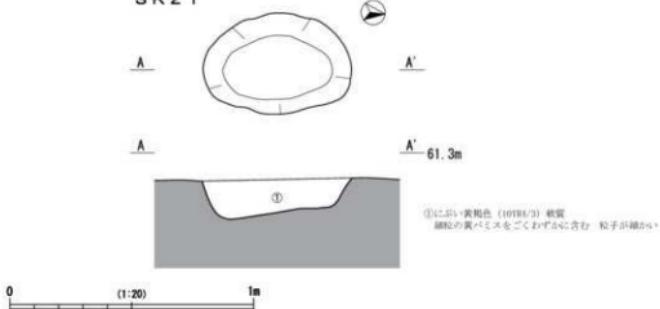
①暗褐色 (10YR3/3) 軟質
細粒の黄バニス・微細な白バニスをわずかに含む
微細の炭化物をごくわずかに含む 粒子が細かい

SK 20



①に近い黄褐色 (10YR4/3) 軟質
細粒の黄バニス・稍バニスを含む 炭化物なし 粒子が細かい

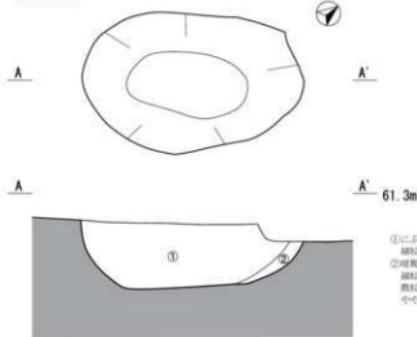
SK 21



①に近い黄褐色 (10YR3/3) 軟質
細粒の黄バニスをごくわずかに含む 粒子が細かい

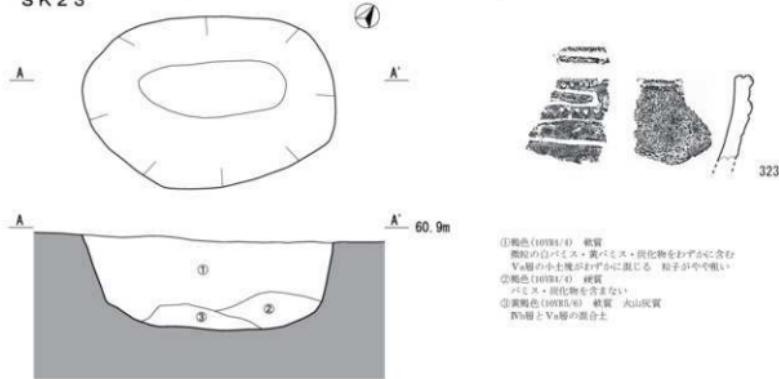
第114図 土坑19~21号と土坑19・20号出土遺物

SK 22



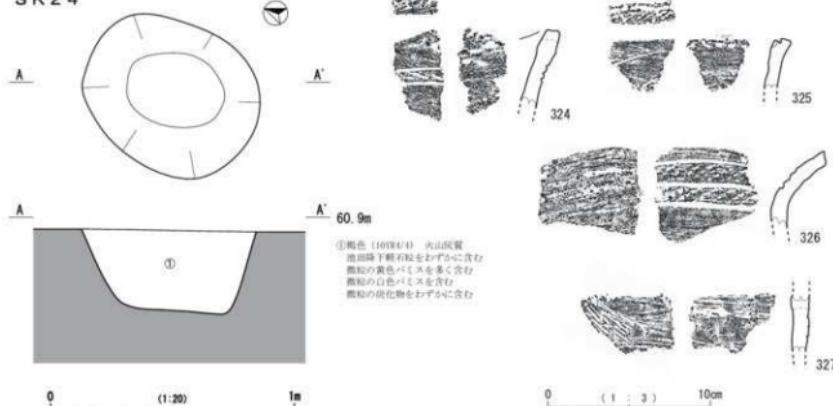
- ①に赤い黄褐色（10YR4/2）軟質
纖維の黄褐色を多く含む。粒子が細かい。
- ②暗褐色（10YR4/3）軟質
纖維の黄褐色を多く含む
纖維の白いバースが含まれる
やや黒色が濃い。粒子が細かい。

SK 23



- ①褐色（10YR4/4）軟質
纖維の白いバース・黄褐色・炭化物をわずかに含む
Va層の土壌はほとんどに見当たらない。粒子がやや粗い。
- ②褐色（10YR4/4）軟質
バニラ・炭化物を含まない。
- ③深褐色（10YR5/6）軟質、火山灰質
Vb層とVa層の混合土

SK 24



- ①褐色（10YR4/4）火山灰質
滑面の褐色を多く含む
纖維の黄色バースを多く含む
纖維の白色バースを含む
纖維の炭化物をわずかに含む

0 (1 : 20) 1m

0 (1 : 3) 10cm

第115図 土坑22~24号と土坑23・24号出土遺物

土坑27号（第117図）

検出状況

SK27は、E・F-7区のIVa層で検出された。長軸1.15m、短軸0.52m、深さ19cm、推定面積は0.42m²を測る。平面形は梢円率0.45の長梢円である。

分類：タイプI

埋土

埋土は、黒褐色土1枚で、炭化物の細粒を含む細かい粒子の軟質土である。

出土遺物

333は底部片で底面は網代痕をナデ消す。

土坑28号（第118図）

検出状況

SK28は、C-8区のIVb層で検出された。長軸は1.03m、短軸0.72m、深さ22cm、推定面積は0.55m²を測る。梢円率0.70の梢円である。北側は搅乱によって削平される。花崗岩製の石皿片が出土したが残存部分が少なく磨耗が著しいため復元には至らなかった。周辺で検出された花崗岩製の立石遺構と関連する遺構の可能性も考えられる。

分類：タイプII

埋土

埋土は、暗褐色土1枚である。黄バミス、白バミスを含む。にぶい黄褐色の斑状土塊が埋土下位に混じる。

出土遺物

334は無文の胴部片で内外面に貝殻条痕を残す。

土坑29号（第118図）

検出状況

SK29は、C-8区のIVb層で検出された。長軸は1.28m、短軸0.80m、深さ17cm、推定面積は0.82m²を測る。平面形は梢円率0.63の梢円である。底面は平坦である。

分類：タイプII

埋土

埋土の状況については不明である。

出土遺物

335・336は深鉢片で、336は口縁部～胴部下位までが残る。とともに頭部屈曲し、短い口縁部がやや大きく開く。335の口縁端部は厚く丸みを帯び、頭部に棒状工具による浅い沈線文が斜位に描かれる。336は平坦口縁であると推測され、胴部が張り出し、底部に向かって急な角度ですばまる丸みを帯びたプロポーションである。斜位の平行沈線文を基軸とし、その間にアーチ状のモチーフを描いた文様を横位に割り付けて描くと推測され、文様帶は最大径の少し下まで及ぶ。沈線は4～5mm程とやや太めで、始点と終点を入り組ませる。ともにVIIb類と考えられる。

土坑30号（第119・120図）

検出状況

SK30は、C-8区のIVb層で検出された。長軸は1.22+cm、短軸0.92m、深さ46cmを測る。東側をトレンチによって削平される。北側が一段低く、円形に落ち込む。遺物は落ち込み部分から花崗岩製の石皿、南側の埋土上位から土器片等が出土した。

分類：タイプIV

埋土

埋土は、褐色土・暗褐色土の2枚である。微粒の白バミスと黄バミスと炭化物を含む。

出土遺物

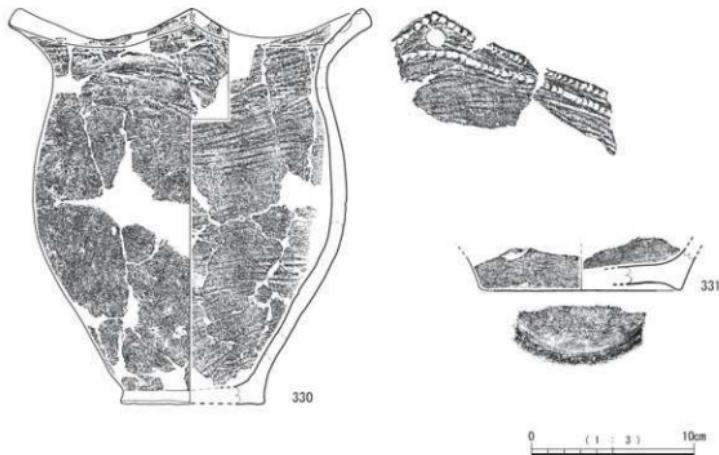
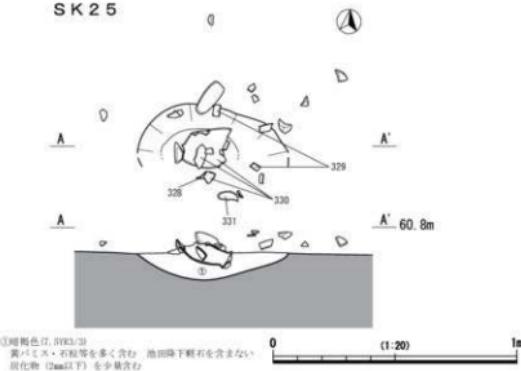
337はSK29から出土した336と文様と胴部形態の特徴が類似する深鉢である。波状口縁を呈し、波頂部には棒状工具による強い押圧を4か所施す。色調は黒色で、焼成が特に良好で硬質である。外表面は丁寧にナデて調整され、内面の調整には箋状の工具を使用している。VIIb類と考えられる。338は平坦口縁を呈し、口縁部外面に肥厚帯を有する。肥厚帯には深い沈線文を巡らせ、その上下に貝殻腹縁刺突文・円形刺突文を横位に連続させる。胴部には337に霧開きの似た平行沈線文が描かれるが、線幅はやや細い。VIIa類と考えられる。337と338は埋土の上層から混在して出土しており、ほぼ同時期に廃棄された可能性もある。

339・340は胴部片で、形態・胎土の特徴から337・338とは別個体と考えられる。有文の339はVII類と考えられる。341は底面から剥離した接地面近くの被片である。部分的に白色付着物がみられる。342は底面に網代痕が残る底部小片である。

343は胴部を用いた円盤状土製加工品である。残存部が少なく分類は難しく、VI～VII類の可能性が考えられる。

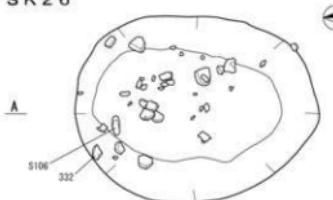
S107はホルンフェルス製で短冊型の打製石斧1類である。基部を欠損する。左右両側縁中央と・裏面の上半部が擦れて磨耗する。着柄の痕跡と推測される。S108は安山岩B類製の磨・敲石I類である。上面下面と側縁に敲打痕が残る。被熱の痕跡が窓える。S109は花崗岩製の石皿III類である。左側を欠く。方形を呈すると推測され、中央に凹みを形成する。S110は花崗岩製の石皿V類である。左右両面を欠く。中央に凹みを形成する。凹みの中央部分に敲打痕がみられる。I類もしくはII類の可能性がある。S110は残存デンブン粒子の分析により、磨面以外の部分から四角形状の粒子を検出し、コナラ属のデンブン粒子の可能性が示唆される。S107・S108の2個体は北側の落ち込み部分の底面から立てかけられた状態で出土して、周囲の花崗岩製の立石遺構の検出状況から、関連のある遺構の可能性もある。埋土②を主体とする落ち込み部分が、SK30とは別の遺構であった可能性も捨てきれない。

SK25

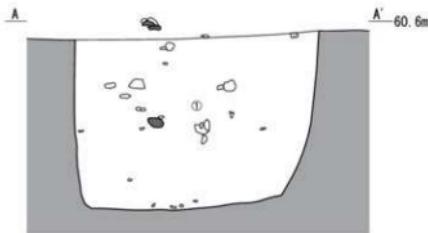


第116図 土坑25号と出土遺物

SK 26



A'

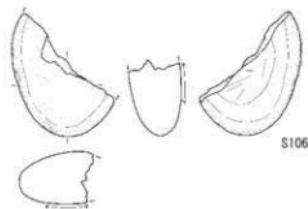


60.6m

①暗褐色土 (10YR3/4)
Wn層の埋土

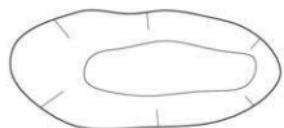


332



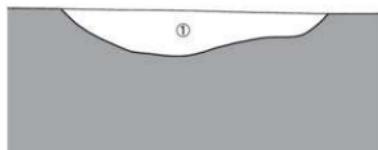
S106

SK 27

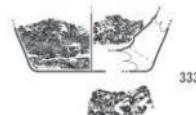


A'

61.5m



①黒褐色 (10YR2/3) 次質
細粒の炭化物を多く含む。粒子が細かい。



333

0 (1 : 3) 10cm

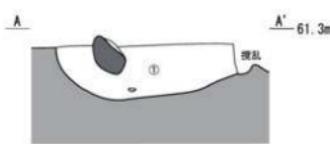
0 (1 : 20) 1m

第117図 土坑26・27号と出土遺物

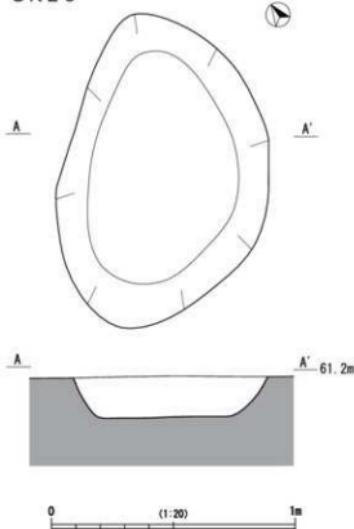
SK 28



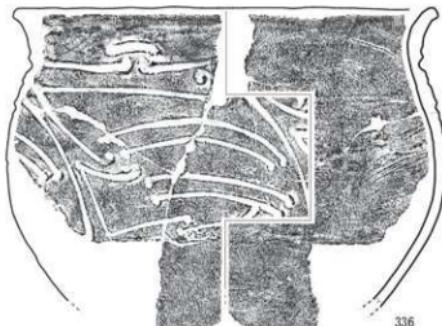
①珊瑚色 (10YR3/3)
裏面にスルビとくわびかに含む
樹脂の塊とスレーブな白いコスをわずかに含む
樹脂の固化物をわずかに含む
に片・黄褐色 (10YR4/3) の塊状土塊が土料理土下位に混じる



SK 29



0 (1:20) 1m



0 (1:3) 10cm

第118図 土坑28・29号と出土遺物

土坑31号（第121図）

検出状況

SK31は、C・D・8区のVI層で検出された。長軸は0.76m、短軸0.30+ α m、深さ46cm、掘り込みの平面形は長楕円である。遺物は上層から中層にかけて土器、石器が出土した。

分類：タイプIV

埋土

埋土は、暗褐色土単層で、池田降下鉄石・橙色バミス・赤色バミスや炭化物を含むやや軟質の砂質土である。

土坑32号（第122図）

検出状況

SK32は、E・8区のⅤb層で検出された。長軸は0.75m、短軸0.65m、深さ17cm、推定面積は0.38m²を測る。平面形は楕円率0.87の円形である。

分類：タイプIII

埋土

埋土は2枚である。Ⅳ層土とⅤb層土が混ざる層とⅤb層土の薩摩火山灰土塊が混ざる層である。

出土遺物

S34・345は深鉢の破片で、344は頭部で345は下脚部である。頭部が緩やかにくびれ、脚部がやや丸みをもつと推測される。345には指頭による文様が薄く描かれる。Vb類と考えられ、胎土が類似することから同一個体の可能性がある。外面を貝殻条痕によって調整される。

S111～S113は磨・敲石類である。S111・S113は安山岩B類製で、I類である。S111には煤が付着する。S112は石英製で、Va類である。上面・下面ともによく使用される。

土坑33号（第123図）

検出状況

SK33は、E・8区のⅣb層で検出された。長軸は1.28m、短軸0.84m、深さ15cm、推定面積は0.87m²を測る。平面形は楕円率0.66の楕円である。遺物は底面から土器、石器が出土した。

分類：タイプII

埋土

埋土は、黒褐色土単層である。黄バミス粒や微粒の炭化物を含む。細かい粒子の軟質の粘質土である。

出土遺物

346は深鉢の口縁部片で、外傾しながら開く。口縁端部はわずかに外反する。口縁部の直下に斜位の短い凹線を連続させ、その下に沈線を巡らせる。脚部上位には平行沈線による四線文が描かれる。Vb類と考えられる。胎土に金色の雲母を多く含む。

S114は、安山岩B類製の磨・敲石I類である。半分程

が残存する。被熱が確認できる。正面・裏面に磨面があり、周縁で敲打を行っている。磨面はII類ほど明瞭には形成せず自然擦の丸みを残す。破損後に破断面の角を敲打具として使用する。

土坑34号（第124図）

検出状況

SK34は、E・8区のVI層で検出された。長軸は1.35m、短軸1.02m、深さ19cm、推定面積は0.98m²を測る。楕円率0.76の楕円である。南側をトレンチによって削平する。北東隅から花崗岩製の石皿が出土した。

分類：タイプII

埋土

埋土は、暗褐色土・褐色土の2枚である。微粒の黄バミスと白バミスを含む粒子の細かい軟質土である。

出土遺物

S115は砂岩製の磨・敲石Va類で、下面を大きく欠損する。欠損後に右側面に残った角を敲打に使用する。S116は花崗岩製の石皿Ia類である。右側面を一部欠く。隅に少し角を残す亜円形の形状である。中央に摩耗痕である凹みを形成し、真下に搔き出し口を作る。

土坑35号（第125・126図）

検出状況

SK35は、B-9区のIVb層で検出された。南側はトレンチにより削平され、北側の半分が残る。長軸は0.75m、短軸0.55+ α m、深さ19cmを測り、平面形状は歪な楕円形状と推測される。花崗岩製の石皿片が数点、掘り込みの東側からまとまって出土した。周辺からは立石遺構が検出されているため、関連する遺構の可能性もある。

分類：タイプIV

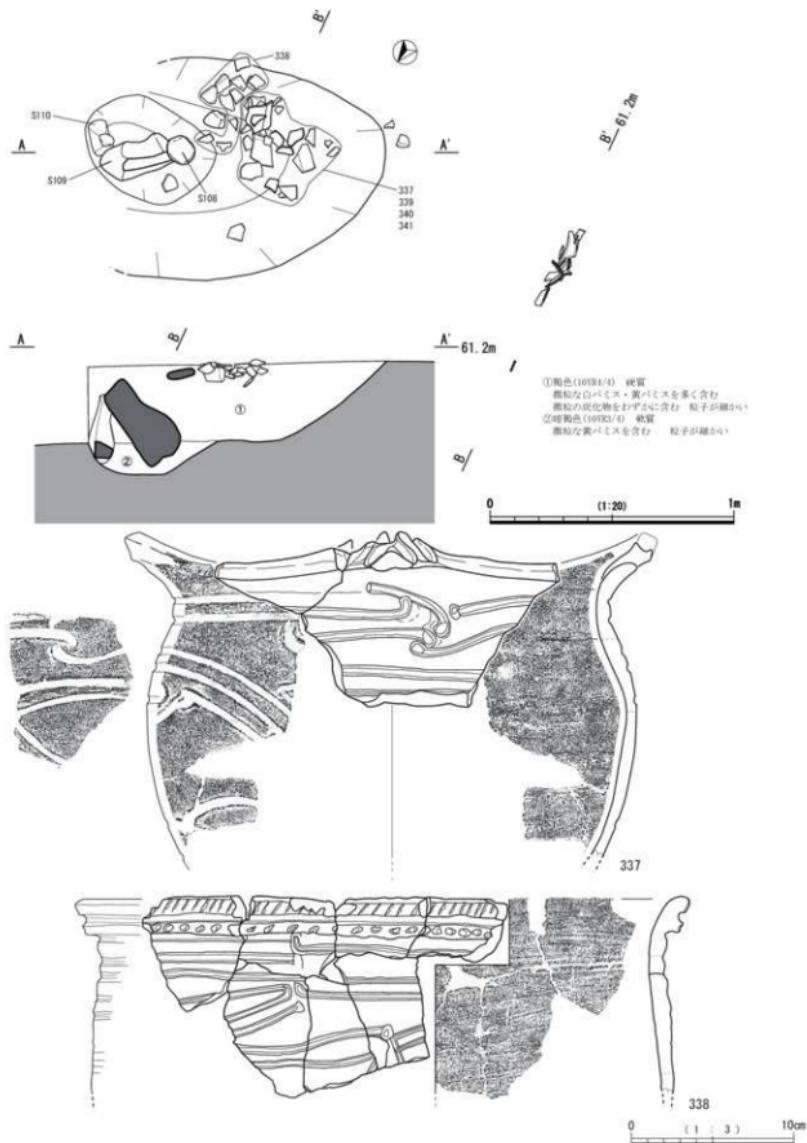
埋土

埋土は、暗褐色土単層である。黄バミスの細粒・微粒の白バミスや微粒の炭化物を含む。細かい粒子のやや軟質土である。

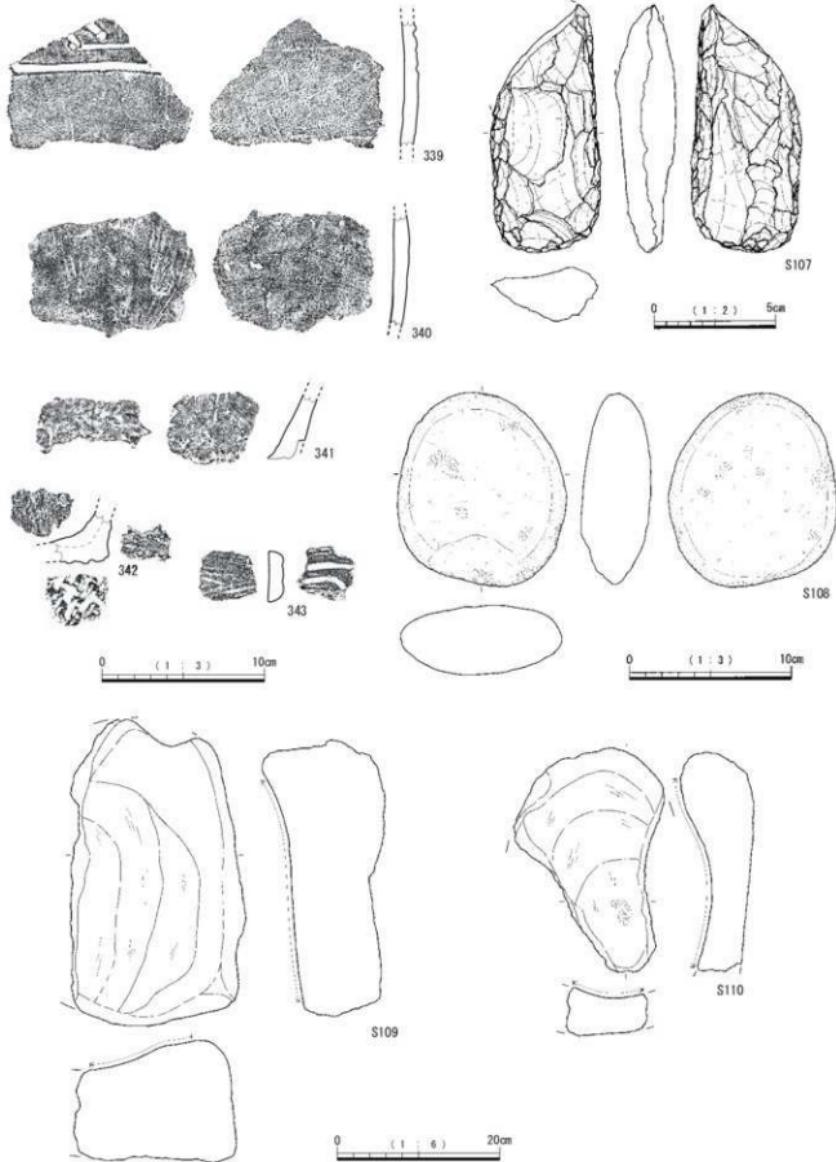
出土遺物

347は深鉢の波頂部を含む口縁部片で、頭部で緩やかに外反しながら開く。波頂部には棒状工具による4個の刻目を施す。脚部の文様の特徴からⅤb類と考えられる。348は脚部片で、外面には平行沈線文が脚部下位に及ぶ。Ⅴb類と考えられる。

S117～S119は花崗岩製の石皿と石皿片である。S117はIa類で、上面左側を欠く。中央に凹みを形成し、真下に搔き出し口をつくる。S119はVI類である。上半が残存する。中央に凹みを形成し、凹みの中央には敲打痕が残る。I類もしくはII類の可能性がある。S118は右上の1/4程が残存する。表裏両側ともよく使用され、明瞭な凹みを形成する。表面は被熱が著しい。I類もしくは

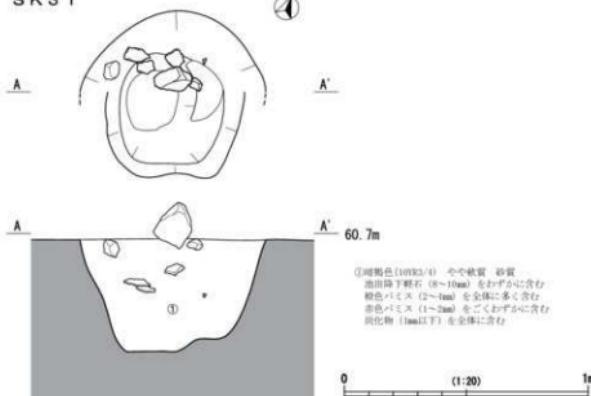


第119図 土坑30号と出土遺物（1）



第120図 土坑30号出土遺物（2）

SK31



第121図 土坑31号

II類の可能性がある。

土坑36号（第127図）

検出状況

SK36は、D-9区のV層で検出された。長軸は1.23m、短軸0.66m、深さ30cm、推定面積は0.66m²を測る。平面形は楕円率0.54の楕円形である。中央部分が一段深く掘り込まれる。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は、黒褐色土1枚である。黄色バミスをわずかに含む細かい粒子の軟質の粘質土である。

出土遺物

349は胸部を用いた円盤状土製加工品である。

土坑37号（第127図）

検出状況

SK37は、D-9区のV層で検出された。長軸は0.74m、短軸0.72m、深さ26cm、推定面積は0.42m²を測る。楕円率0.97の円形である。掘り込みの断面形状はレンズ状である。

分類：タイプⅢ

埋土

埋土は、暗褐色土単層である。池田降下軽石、黄色・白色バミスや炭化物を含むやや軟質のやや粘質土である

土坑38号（第127図）

検出状況

SK38は、C-10区のIVb層で検出された。長軸は0.28m、短軸0.20+am、深さ17cm、推定面積は0.04m²を測る。平面形は梢円と考えられる。南側をトレンチによって削平される。花崗岩製の石皿片が出土したが、國化には至らなかった。詳細な形態や、被熱の痕跡等は不明である。石皿片の集積の可能性がある。また、検出地点の周囲の状況や、石皿の石材から立石遺構と関連する遺構の可能性も捨て切れない。

分類：タイプⅣ

埋土

埋土は、にぶい黄褐色土1枚である。微粒の黄バミスと白バミスを含むが周囲のVI層よりもバミス類の入りが少ない。

土坑39号（第128図）

検出状況

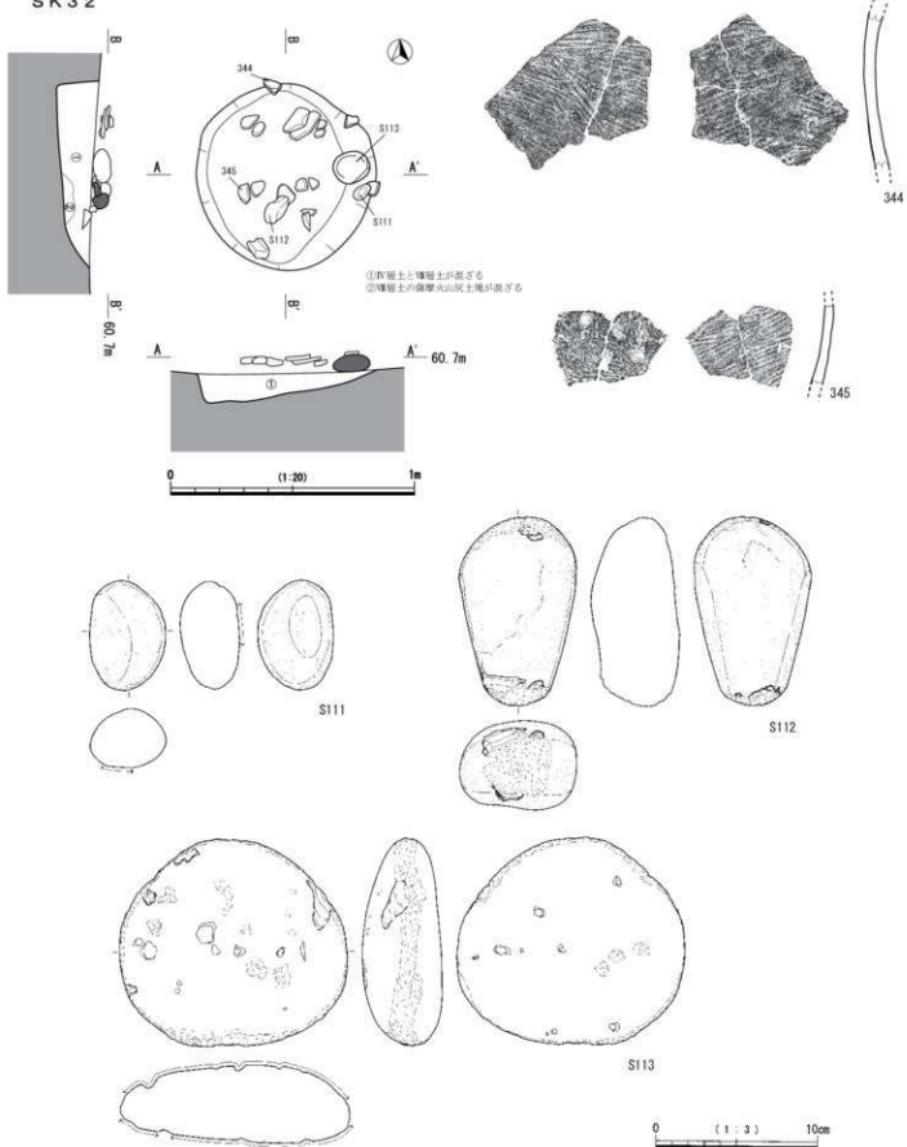
SK39は、D-10区のⅤ層で検出された。長軸は1.75m、短軸1.53m、深さ40cm、推定面積は2.01m²を測る。平面形は楕円率0.87の円形である。中央部分が明瞭な段を形成して落ち込み、土坑本体とは別の埋土が入るため、中央の落ち込み部分が古手の別遺構の可能性も残る。

分類：タイプⅢ

埋土

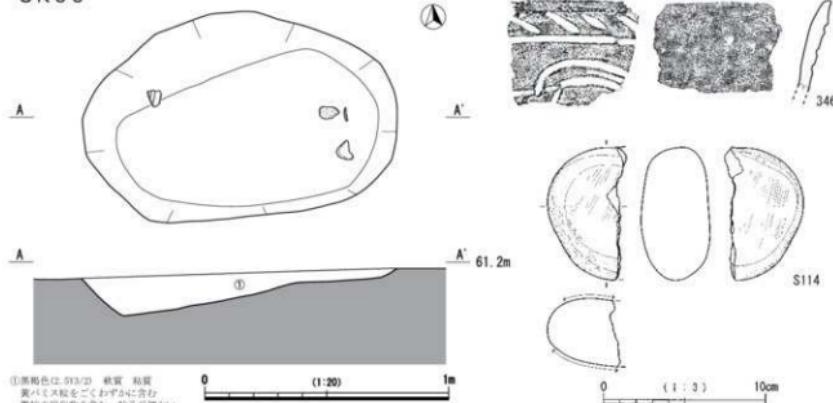
埋土は、にぶい黄褐色土・暗褐色土の2枚である。池田降下軽石・石粒や炭化物を含み、やや硬質である。

SK 32



第122図 土坑32号と出土遺物

SK33



第123図 土坑33号と出土遺物

出土遺物

350は底部で、接地面近くが外側に小さく張り出す。やや上げ底氣味である。裏に白色付着物がみられる。底面中央部は網代をナデ消す。

土坑40号（第128図）

検出状況

SK40は、F-10区のⅦ層で検出された。長軸は0.55m、短軸0.45m、深さ12cm、推定面積は0.16m²を測る。楕円率0.82の円形である。西側はトレンチによって削平される。圓化はしていないが、石皿片が数点まとめて出土した。形態、石材、被熟の有無等の特徴は不明である。石皿片の集積の可能性が残る。

分類：タイプⅢ

埋土

埋土は、黒褐色土單層である。

土坑41号（第129図）

検出状況

SK41は、C-11区のV層で検出された。長軸は1.18m、短軸0.66m、深さ21cm、推定面積は0.64m²を測る。平面形は楕円率0.56の楕円である。長軸はほぼ南北方向に沿う。埋土から石皿片が北側に1点、南側に数点が分散する形で出土した。南側の大きな破片2点（S120、S121）は立った状態で出土している。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は、暗褐色土單層である。微粒の黄色バミスと白色バミスと炭化物を含むやや軟質の砂質土である。

出土遺物

S120～S122は花崗岩製の石皿片である。全体的な形状が不明なためⅥ類とした。S120・S121は上半分の大部分が残存する。S120は中央部分が凹み、磨面のカーブがやや深い。Ⅰ類もしくはⅡ類の可能性がある。S120は残存デンブン粒分析によって磨面以外の部分から四角形のデンブン粒を検出し、球根類の可能性が示唆される。S121は中央付近が明瞭に凹み、凹みの中央部分には敲打痕がみられる。Ⅰ類もしくはⅡ類の可能性がある。S122は中央付近に浅い凹みをつくり、Ⅰ類もしくはⅡ類の可能性がある。S121とS122とは同一個体の可能性もあるが、風化による剥落が著しいため接合点が不明瞭で、断定はできなかった。出土地点や、石皿の石材および検査状況から石皿立石遺構に関連する遺構の可能性もある。

土坑42号（第130図）

検出状況

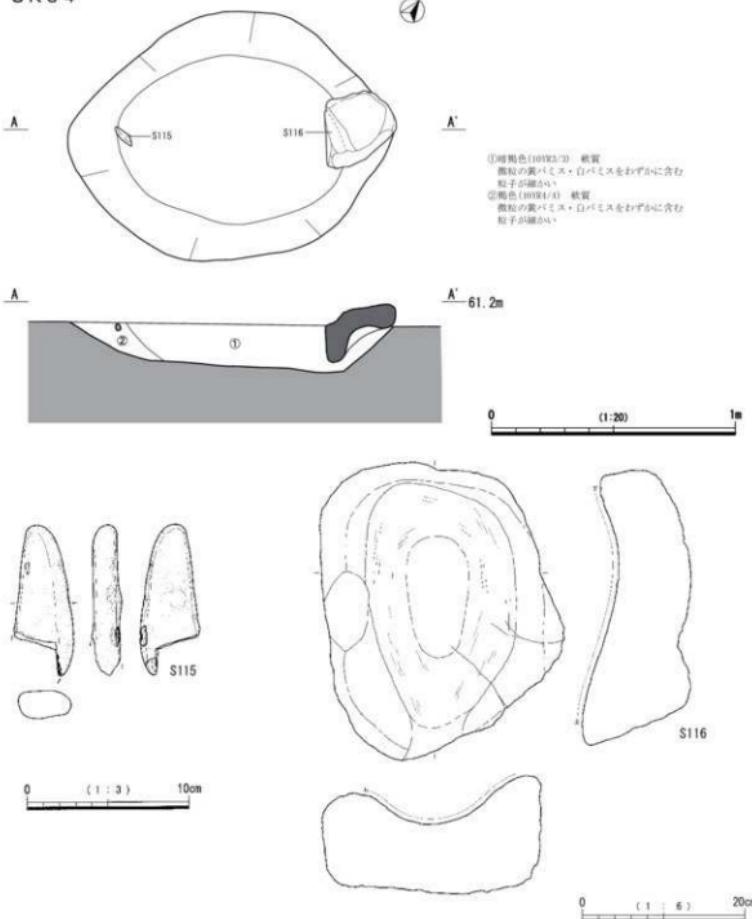
SK42は、E-11区のⅣa層で検出された。長軸は0.67m、短軸0.54m、深さ32cm、推定面積は0.28m²を測る。平面形は楕円率0.81の円形で、底面は平坦である。底面からの立ち上がりは明瞭で、壁面はほぼ垂直に掘り込まれる。

分類：タイプⅢ

埋土

埋土は、にぶい黄褐色土單層である。白色バミスの細

SK34



第124図 土坑34号と出土遺物

粒を含むやや軟質土である。炭化物の出土はない。

出土遺物

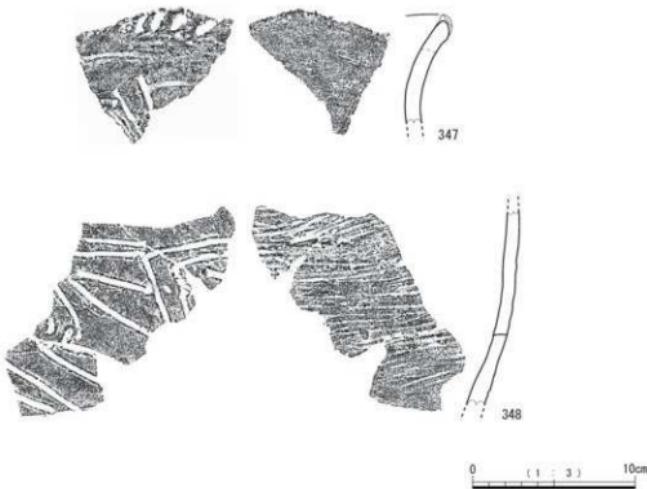
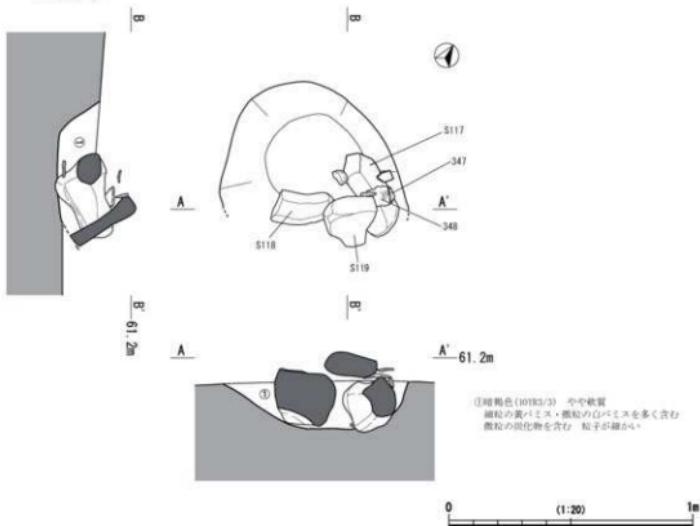
S123は安山岩B類製の磨・敲石片で、VI類である。磨り面は判然とせず、所々を敲打に使用する。

土坑43号（第130図）

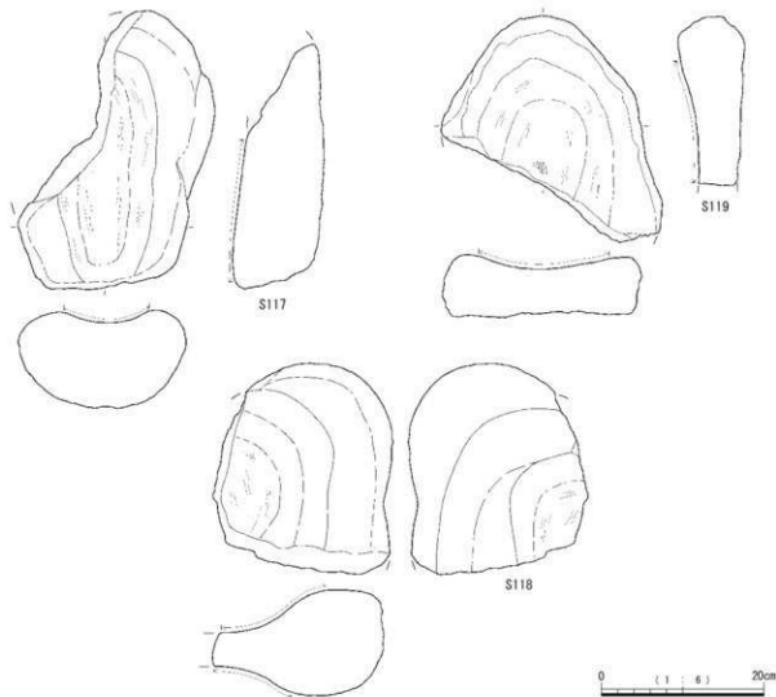
検出状況

SK43は、B-12区のIVb層で検出された。長軸は1.52m、短軸0.86+ α m、深さ40cmを測る。南側半分は調査区外にある。古墳時代の土器集中2の掘り込みに切られてい る。

SK 35



第125図 土坑35号と出土遺物（1）



第126図 土坑35号出土遺物（2）

分類：タイプIV

埋土

埋土は、にぶい黄褐色・褐色の2枚である。池田降下軽石、橙色バミスの微粒、アカホヤ火山灰土塊や微粒の炭化物を含むやや粗い粒子のやや粘質土である。

土坑44号（第130図）

検出状況

SK44は、F-12区のⅢ層で検出された。長軸は0.84m、短軸0.79m、深さ7cm、推定面積は0.50m²を測る。平面形は梢円率0.94の円形である。掘り込みの形態は、ごく浅いレンズ状である。石皿が1点正面を上に向けて、床面からやや浮いた状態で出土した。

分類：タイプIII

埋土

埋土は、黒褐色土單層で、白バミス、黄バミスや微粒

の炭化物を含む粒子の粗い硬質の火山灰質土である。

出土遺物

S124は花崗岩製の石皿IV類（台石）で、方形を呈すると推測され、板状の形態である。磨面は凹みをつくらず面状に抜ける。中央部分に敲打痕がわずかに残る。被熱による列痕がみられる。

土坑45号（第131図）

検出状況

SK45は、B-13区のⅣb層で検出された。長軸は0.92m、短軸0.63m、深さ23cm、推定面積は0.45m²を測る。平面形は梢円率0.68の梢円形である。

分類：タイプII

埋土

埋土は、暗褐色・褐色の2枚で、白色・黄色バミスの細粒を含み、アカホヤ火山灰が混じるやや粘質土である。

出土遺物

351・352は深鉢の口縁部片である。351の口縁部は緩く外反しながら開き、口縁部外面最上位に肥厚帯を形成する。肥厚帯外面には平行沈線を巡らせ平行沈線間に連続刺突を施す。口縁端部を欠損する。胴部上位には指頭による短い凹線を縦位に連続して巡らせる。すぐ下に平行な凹線文を曲線的に施し、沈線間に連続刺突を施した部分もみられる。Ⅴa類と考えられる。352は口縁部の両端を突出させ、口唇部に明瞭な平坦面を形成し、貝殻腹縁刺突文をハの字状に施す。口唇部の文様帶はわずかに外傾する。胴部は無文で貝殻条痕により調整される。Ⅸb類と考えられる。

土坑46号（第131図）

検出状況

SK46は、C-14区のIVb層で検出された。長軸は0.72m、短軸0.48m、深さ16cm、推定面積は0.27m²を測る。平面形は楕円率0.67の楕円形である。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は、にぶい黄褐色土單層である。橙色バミス、白色バミスや炭化物を含む軟質の砂質土である。

出土遺物

353は上胴部片である。口縁部はややすぱりながら立ち上がり、端部で小さく外反する。口唇部に凹線を持つ。横位の平行沈線を基調とした文様を描くと推測され、残存部下端に何らかのモチーフの端が残存する。胎土に金色の雲母を多く含む。

S125は砂岩製の使用痕剥片である。母岩から1回の打撃により薄く剥ぎ、自然の形状を活かし、主に右側縁部に簡単な加工を施してバチ状の形態に成形する。主に下面側を使用したと考えられるが、使用の痕跡は薄い。

土坑47号（第132図）

検出状況

SK47は、C-15区のIVa層で検出された。長軸は0.82m、短軸0.51m、深さ25cm、推定面積は0.35m²を測る。平面形は楕円率0.62の楕円である。遺物は上層から中層にかけて土器の小片、石器が散在する。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は、黒褐色土2枚・暗褐色土2枚・褐色土の計5枚である。橙色・白色バミス細粒や炭化物を含む土である。

出土遺物

354は波状口縁を呈し、口縁部は端部近くで外反する。波頂部を指頭によって円形に凹ませ、口唇部には凹線を巡らせる。外面屈曲部以上に棒状工具による沈線と連続

刺突による文様帶を有し、屈曲部あたりにも平行沈線を巡らせ、沈線間に連続刺突を施す。波頂部直下に多重の菱形状のモチーフを描く。Ⅷa類としたが、施文法としてはⅧb類の特徴も併せもつ。355は胴部片で四線の間に縦位の貝殻腹縁刺突を等間隔に施していると推測される。貝殻腹縁刺突文の下には器面を調整する際につけた貝殻条痕をナデ消さず残す。Ⅷb類と考えられる。356・357は底部で、356は底面に網代痕が残る小片である。357は接地面近くが外側に張り出す形態で、胴部に向かって直線的に開くと推測される。底面は丁寧なナデ調整で平坦に仕上げられる。

土坑48号（第133図）

検出状況

SK48は、C-D-15区のIVb層で検出された。長軸は1.58m、短軸0.90m、深さ15cm、推定面積は1.11m²を測る。平面形は楕円率0.57の楕円である。底面は北側に向かってやや下るがほぼ平坦である。長軸がほぼ南北に沿う。遺物は上層から中層にかけて土器の小片、石器が散在する。

分類：タイプⅡ

埋土

埋土は、暗褐色土1枚である。池田降下輕石の細粒・微粒の白色バミスと炭化物を含む硬質のやや火山灰質土である。

出土遺物

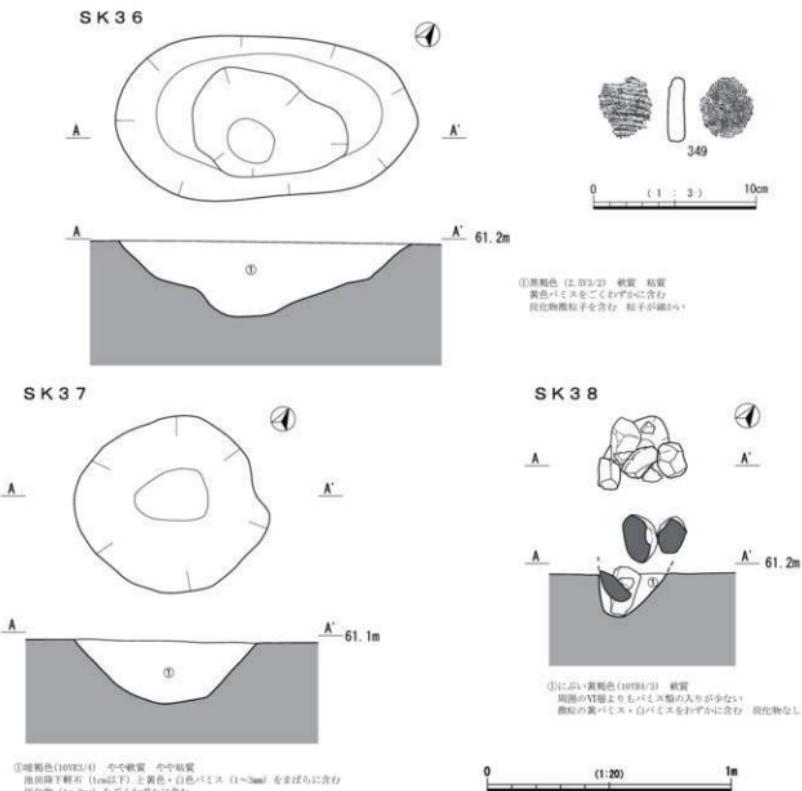
358は口縁部片で、器壁はわずかに外傾しながら直線的に立ち上がる。口縁部内面最上位に沈線と半月状の連続刺突による文様帶を巡らせると推測される。胎土には金色の雲母が多量に混入する。Ⅹa類と推測される。359・360・362は胴部片である。文様を描く線の太さや始点・終点の描き方、想定される文様のパターンから359はⅥ類、360はⅧb類、362はⅨ類に該当すると推測する。361は底面の破片で割り裂き材を使った網代の痕跡が残る。363は厚みのある底部で、底面のほぼ全体が残存する。ごく低い高台を有する上げ底であるといえる。底面は網代の痕をナデ消し、白色付着物がみられる。種子様の圧痕が残るが植物の種類は不明である。364は胴部を用いた円盤状土製加工品で、内外面に平行沈線の一部が確認できる。Ⅸ類と考えられる。

S126はホルンフェルス製の石錐Ⅰa類である。両極打撃によって組がかりの抉りを作り出した後で角を潰している。

土坑49号（第134図）

検出状況

SK49は、D-15区のIVb層で検出された。長軸は1.70m、短軸1.20m、深さ42cm、推定面積は1.60m²を測る。平面



第127図 土坑36~38号と土坑36号出土遺物

形は楕円率0.70の楕円である。長軸はほぼ南北に沿い、北側がピット状に落ち込む。遺物は主に底面から出土した。

分類：タイプII

埋土

埋土は、暗褐色土1枚である。池田降下鉄石の細粒・白色バミスや微粒の炭化物を含む、硬質のやや火山灰質土である。

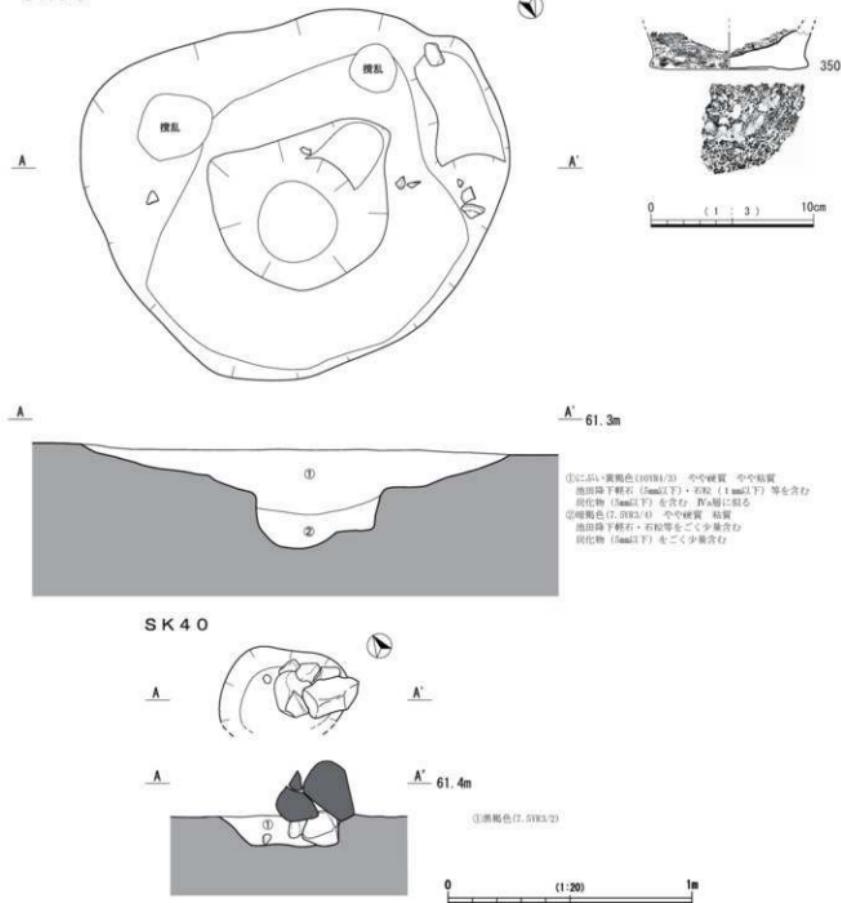
出土遺物

S35・366は深鉢の口縁部で、ともにやや内湾する。施文具や文様を描く線の太さ、文様パターンの特徴からS35はVib類、366はVic類に該当すると判断した。367は

脛部で平行な凹線の間に繩文を回転させて施文する。Vla類と考えられる。368は底部片で、底面の網代痕をナデ消す。369は脛部片を使用した円盤状土製品加工で、Vlb類と考えられる。

S127はホルンフェルス製の剥片で、主に上面と下面に階段状の剥離がみられる。正面は研磨されたため、磨製石斧の破片を楔型石器として転用したと推測される。楔としては主に上面を上にして使用したことが窺える。S128は頁岩製の使用痕剥片である。下辺に使用による微細剝離がみられ摩耗する。

SK39



第128図 土坑39・40号と土坑39号出土遺物

土坑50号（第135～137図）**検出状況**

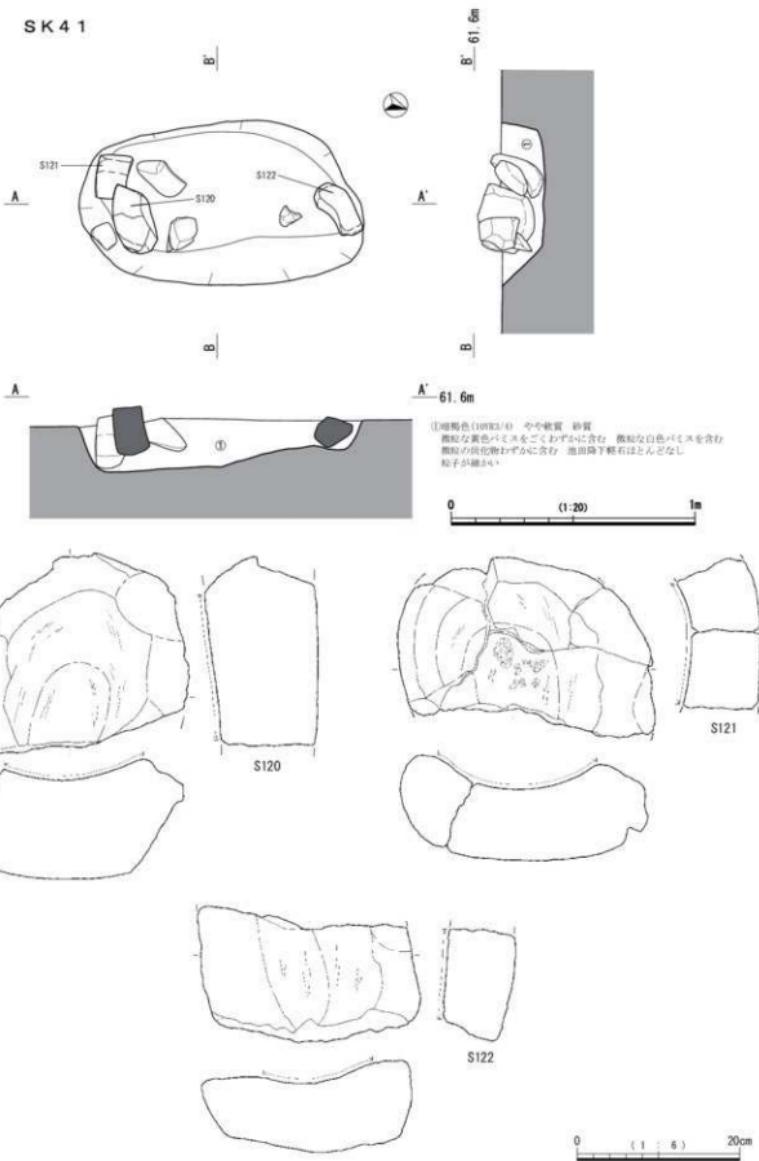
SK50は、B-16区のIVb層で検出された。長軸は1.51m、短軸1.45m、深さ55cm、推定面積は1.81m²を測る。平面形は梢円率0.96の円形である。遺物は上層から中層にかけ土器片や円盤状土製加工品が出土する。埋土の下層はややブロック状に堆積し、埋土のそれぞれの特徴も様々

である。人為的に埋め戻された可能性も考えられる。

分類：タイプIII**埋土**

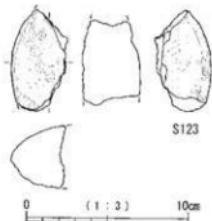
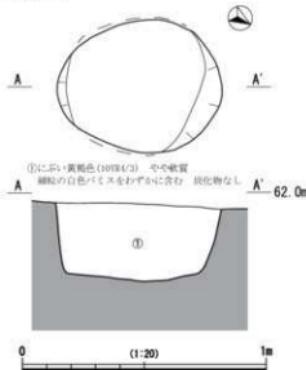
埋土は、暗褐色土6枚・黄褐色土2枚・褐色土2枚・灰黄褐色土の計11枚である。池田降下軽石・白色バミス・アカホヤ火山灰や炭化物などを含むが、IVb層土を主体とする。

SK41

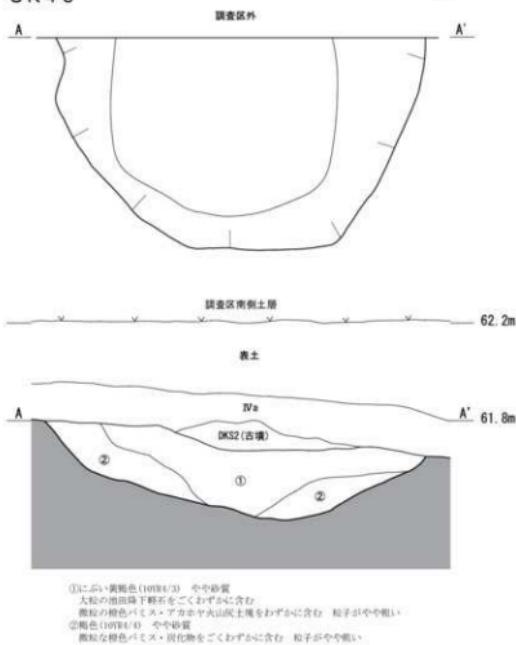


第129図 土坑41号と出土遺物

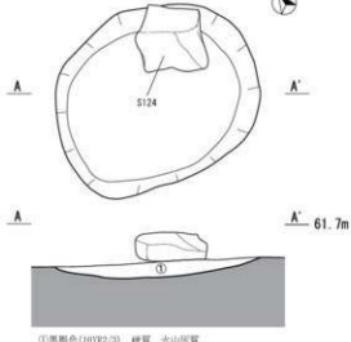
SK 42



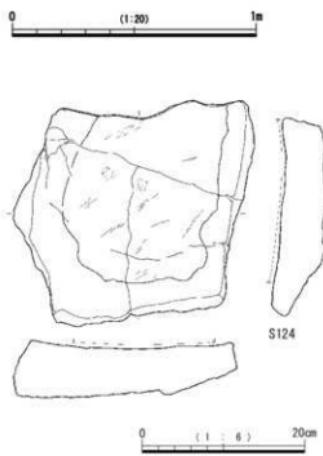
SK 43



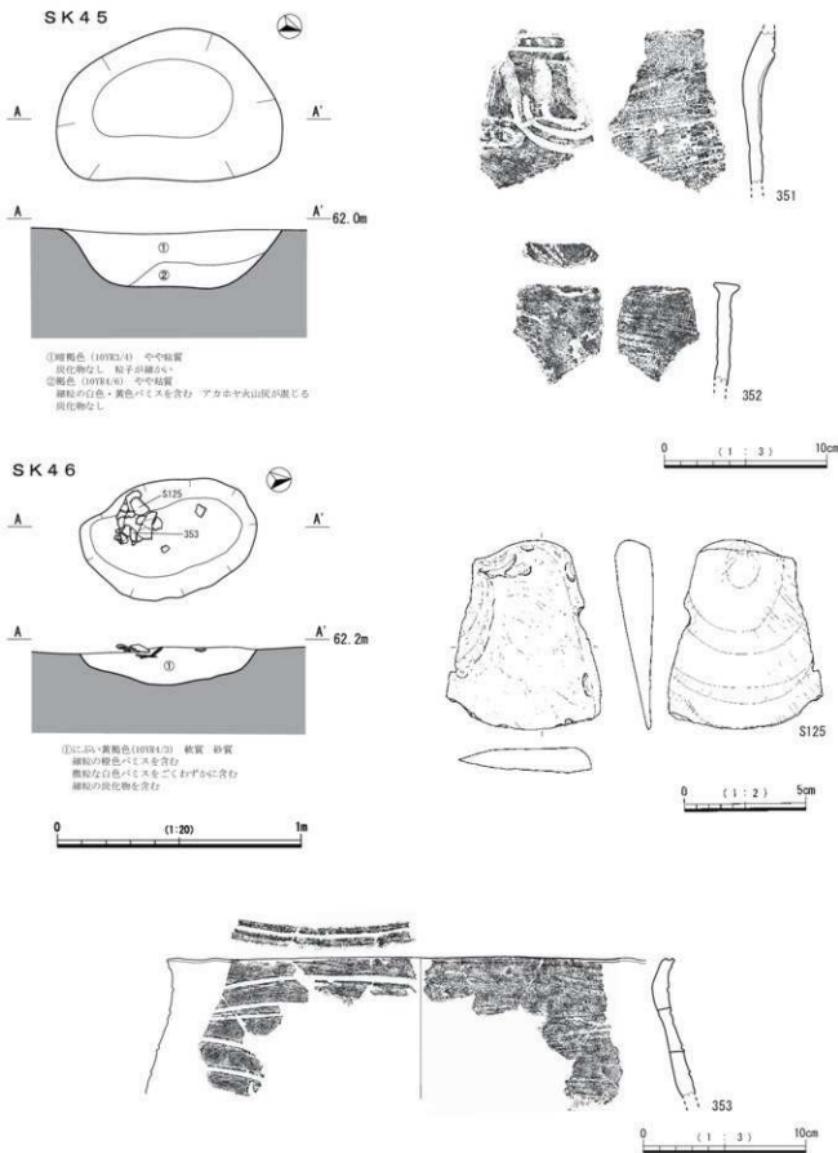
SK 44



①黒褐色(10YR 2/3) 硫質 大山灰質
細粒な白バーミス・黄バーミスを多く含む
黄バーミスをわずかに含む
細粒の硫化物をごくわずかに含む 粒子が粗い

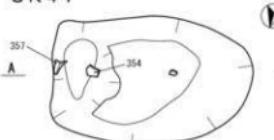


第130図 土坑42~44号と土坑42・44号出土遺物



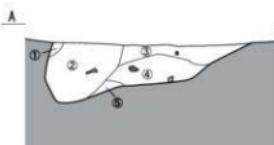
第131図 土坑45・46号と出土遺物

SK 47



○

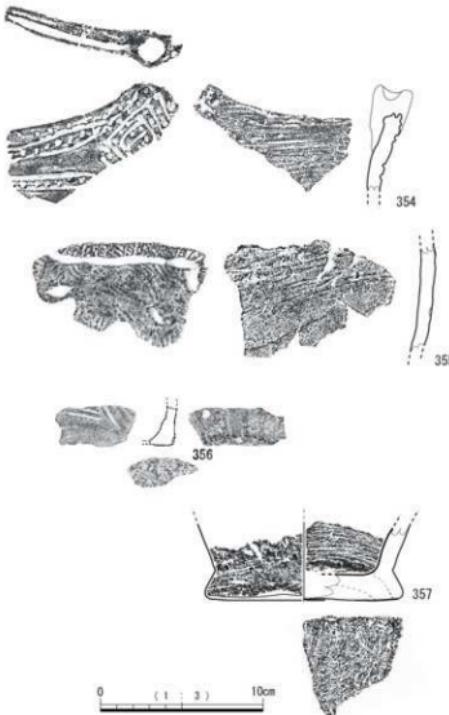
A'



A' 62.9m

- ① 黒褐色(10R2/2) やや粘質
炭化物なし。粘性が弱い。
② 黒褐色(10R2/3) やや粘質
細胞の褐色バニスをわずかに含む
炭化物少額を含む
③ 白色(10Y1/1)
細胞の褐色バニスをわずかに含む
炭化物少量含む
④ 黑褐色(10R2/3) 粘質
細胞の褐色バニスを含む
炭化物少額を含む
⑤ 黑褐色(10R2/4) 粘質
細胞の褐色バニスをわずかに含む
炭化物なし

0 (1 : 20) 1m



第132図 土坑47号と出土遺物

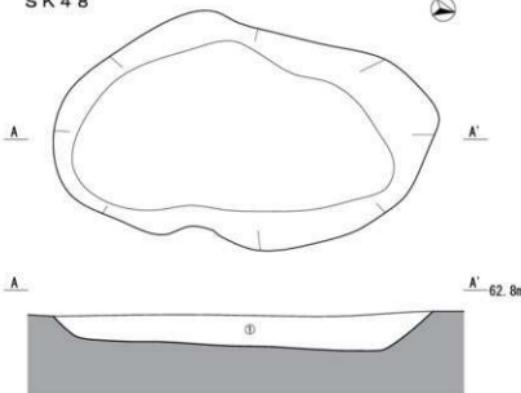
出土遺物

370～374は口縁部片である。370は平坦口縁で、胴部の器壁は直線的に立ち上がり、口縁端部でわずかに内湾する。口縁部外面上位に粘土繊を貼り付けて肥厚帯を形成し、その上に大きな円形の刺突を連続させる。施文具は貝殻の背面である可能性もある。胴部内外面は無文である。VI類の範疇と考えられる。372は口縁端部を断面三角形状に肥厚させ、肥厚帯外面に細い沈線を巡らせる。頭部屈曲部に指頭によって綫長の梢円形の刺突文を連続させると推測され、その下にも横位の沈線を施す。373は口縁部外面を明瞭に肥厚させて口縁部をやや内傾させる。口縁端部の稜は丸みを帯びる。374は外反しながら大きく開き、口縁部最上位の外面を肥厚させて肥厚帯に平行沈線文を巡らせる。372～374はVIIc類の範疇と考えられる。371は頭部に鎖様のモチーフを横位に連続

させ、線の連結部分を入り組ませる。口唇部には平坦面を形成し四線を巡らせる。VIIc類と考えられる。375・376は口縁部を「く」の字状に外反させて口唇部平坦面を形成し、平坦面に平行沈線や連点文による文様帶を形成する。375は波状口縁を呈し、口唇部文様帶の幅が広い。波頂部外面には成形時の粘土の接合痕が残る。376は平坦口縁で、口縁端部の外側にも平坦面を作り、貝殻腹縁による刻目を連続させる。胴部上位に3本単位の平行沈線文による文様帶を有し、文様の一部に円形のモチーフを描く。ともにIXa類と考えられる。

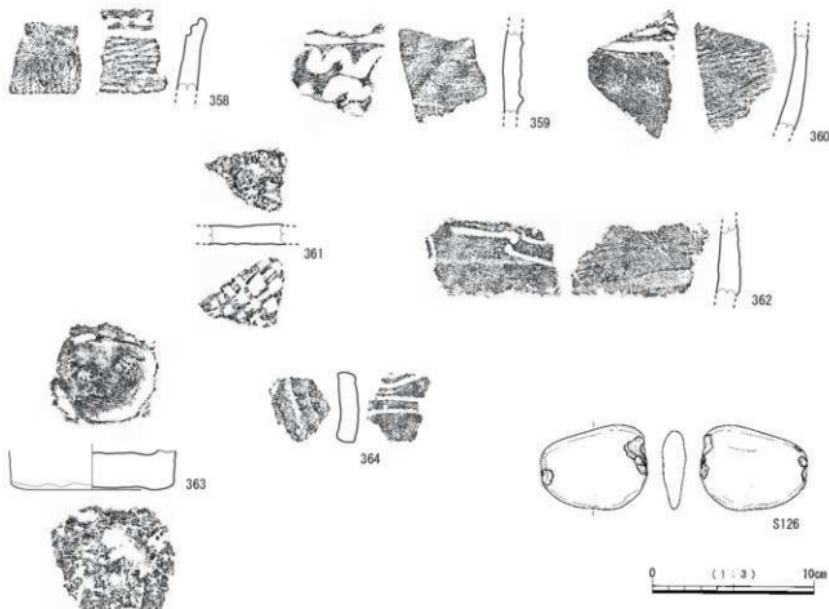
377～380は胴部片である。文様の特徴から377はVIIb類で、378はVI類またはVII類と考えられる。380は下脇部まで残存し、胴部があまり張り出さず、底部に向かって緩やかにすぼまる器形で、内外面ともに丁寧にナデて仕上げられる。胴部内面に種子様の圧痕が確認される。

SK 48



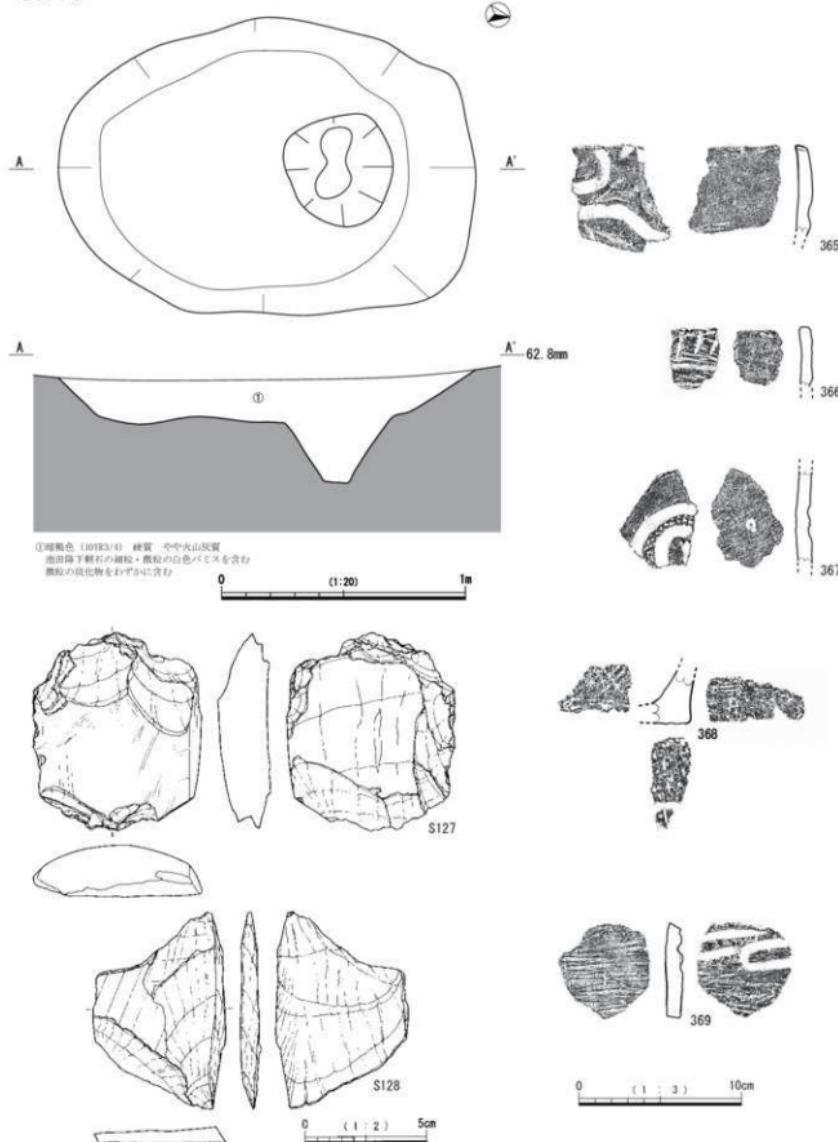
①暗褐色 (HTR1/4) 硬質、やや火山灰質
細粒の地出物下解石、微細な白色バースを含む
微細な炭化物をわずかに含む。

0 (1:20) 1m

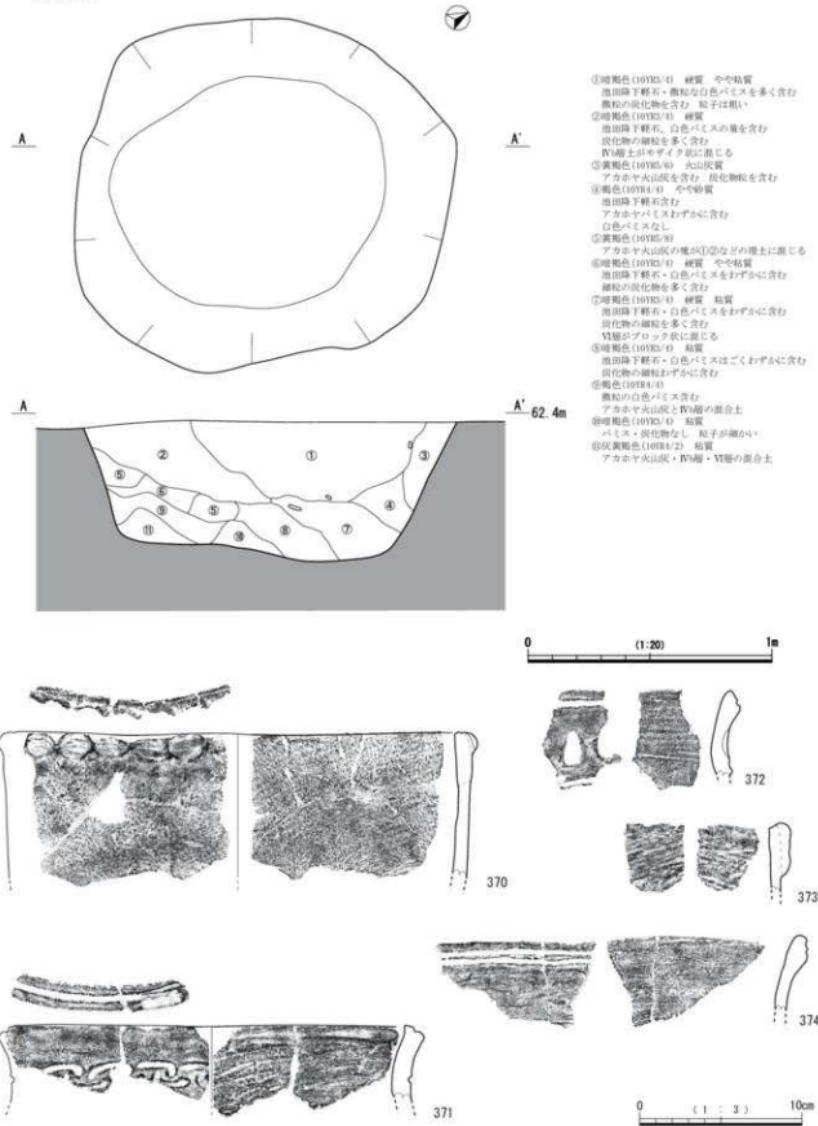


第133図 土坑48号と出土物

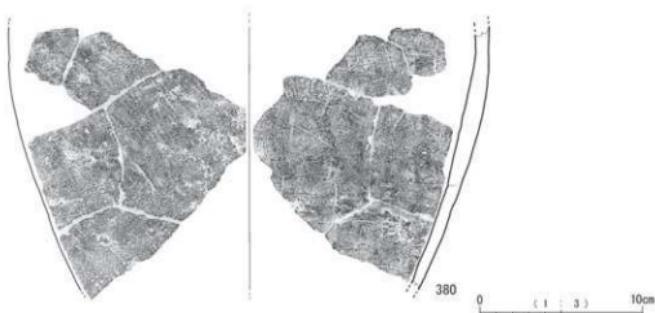
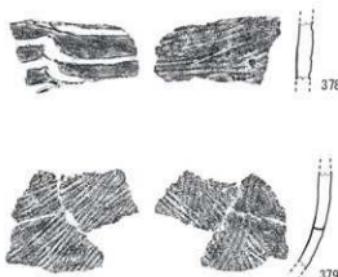
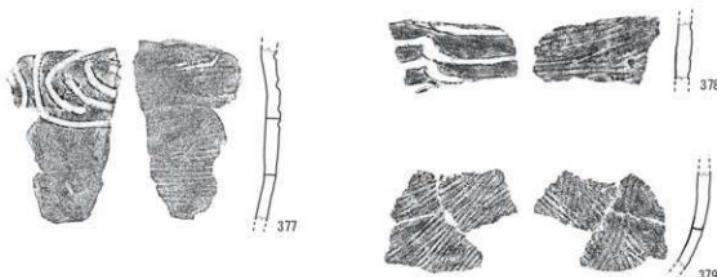
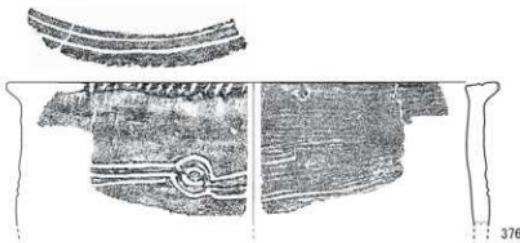
SK 49



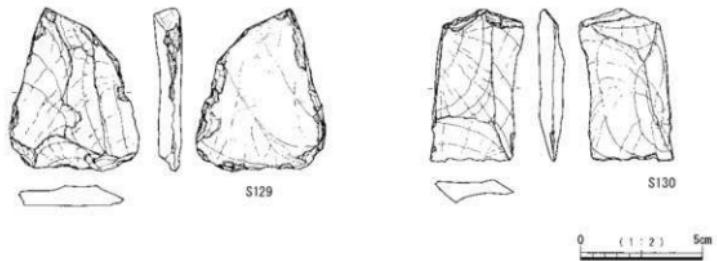
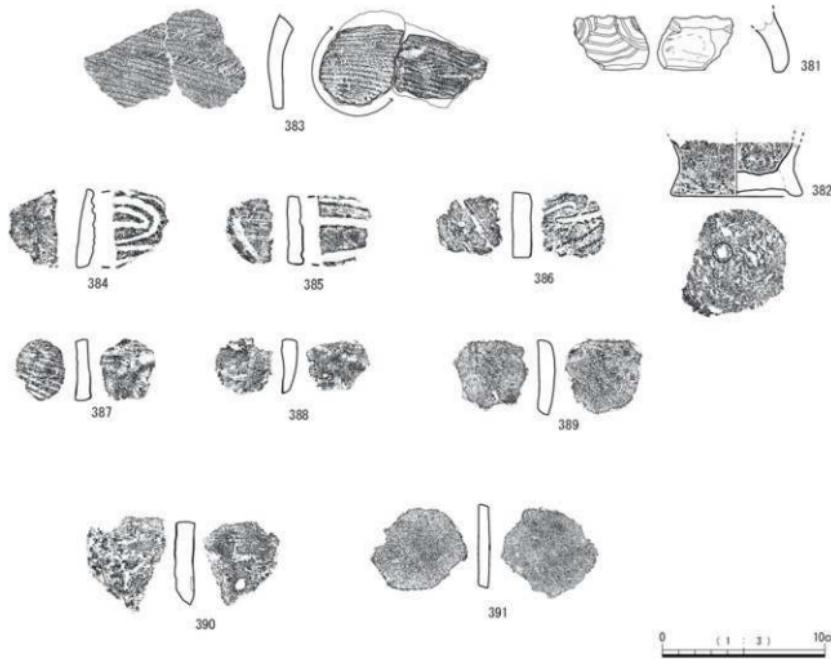
第134図 土坑49号と出土遺物



第135図 土坑50号と出土遺物（1）



第136図 土坑50号出土遺物（2）



第137図 土坑50号出土遺物（3）

383～391は胴部を用いた円盤状土製加工品である。383は2点の接合資料で、無文の頭部片から割り取った土器片の一部を加工した資料である。有文の384・385には凹線・沈線による文様が描かれるが小片のため詳細は不明である。VI類ないしはⅦ類の時期のものと判断される。390の外面には種子様の圧痕がみられる。381は外面に細沈線による多重の曲線文を描いた脚片である。文様の特徴からⅦ類と推測する。382は低い高台をもつ底部で、接地面近くでくびれを形成する。底面は網代痕をナデ消し、種子様の圧痕がみられる。

S129は頁岩B類製の打製石斧IV類を欠損後に二次的に加工・使用したと推測されるものである。裏面には打製石斧としての使用の際につけたと考えられる擦痕が観察でき、表面の稜線には摩耗がみられる。着装や使用によるものと考える。S130は頁岩B類製の使用痕剥片である。上面には階段状の剥離がみられ、下面に微細な剥離痕が確認される。楔として使用された可能性もある。

土坑51号（第138図）

検出状況

SK51は、C-22区のV層で検出された。長軸は1.10m、短軸1.08m、深さ40cm、推定面積は0.96m²を測る。平面形は楕円率0.98の円形である。

分類：タイプIII

埋土

埋土は、黒褐色土1枚である。池田降下軽石の細粒・白色・橙色パミスや炭化物を含み、粒子がやや粗い。

土坑52号（第138図）

検出状況

SK52は、B-24区のV層で検出された。長軸は0.47+ α m、短軸0.57m、深さ63cmを測る。西側のSK53を削平する。SK52・53の南半分は調査区区外であり遺構の全体形は不明である。

分類：タイプIV

埋土

埋土は、暗褐色土・黒褐色土の2枚である。池田降下軽石・白色パミスと炭化物を含む。やや硬質の粘質土である。

土坑53号（第138図）

検出状況

SK53は、B-24区のV層で検出された。長軸は0.70+ α m、短軸0.22+ α m、深さ45cmを測る。東部をSK52によつて切られる。

分類：タイプIV

埋土

埋土は、暗褐色土单層である。池田降下軽石と炭化物

を含む土である。

土坑54号（第139図）

検出状況

SK54は、F-25区のIVb層で検出された。長軸は1.62m、短軸1.07m、深さ36cm、推定面積は1.43m²を測る。平面形は楕円率0.66の楕円形である。

分類：タイプII

埋土

埋土は、暗褐色土2枚である。池田降下軽石、橙色パミスや炭化物を含む硬質の粘質土である。

出土遺物

S131は頁岩製の石鎚II類で二等辺三角形鎌である。体部はやや縱長の形態で、右脚部を欠損する。左右両側縁の刃部は直線的に成形され、そのほぼ中央に小さな突起が作出され、側縁に角を持つロケット状の形態の五角形鎌の可能性もある。

土坑55号（第139図）

検出状況

SK55は、D-26区のIVb層で検出された。長軸は0.74m、短軸0.34+ α m、深さ24cmを測る。西側をトレンチによって削平される。

分類：タイプIV

埋土

埋土は、暗褐色土单層である。池田降下軽石、黄色パミスや炭化物を含む硬質のやや粘質土である。

土坑56号（第139図）

検出状況

SK56は、C-27区のIVb層で検出された。長軸は1.00m、短軸0.70m、深さ29cm、推定面積は0.53m²を測る。平面形は楕円率0.70の楕円形で、掘り込みはレンズ状の形態である。土坑の中央部分は後世の搅乱を受ける。

分類：タイプII

埋土

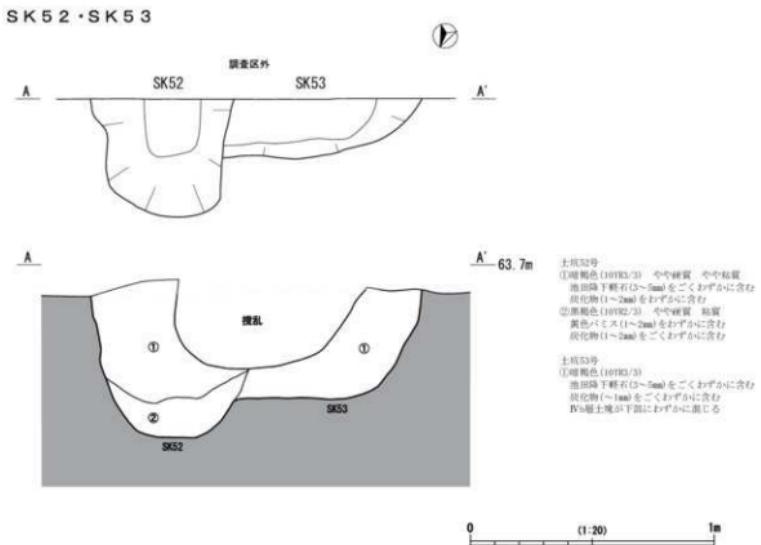
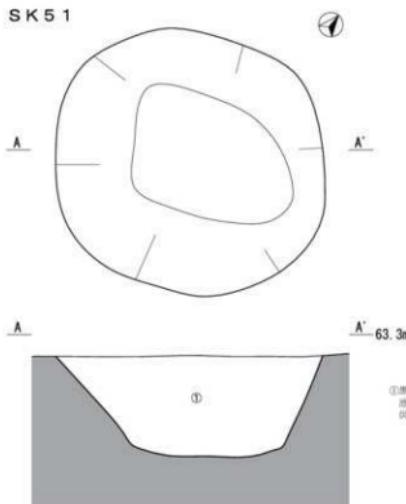
埋土は、暗褐色土1枚である。池田降下軽石、白色パミス・黄色パミスと炭化物を含む。IVb層土が混じるやや硬質の粘質土である。

土坑57号（第140図）

検出状況

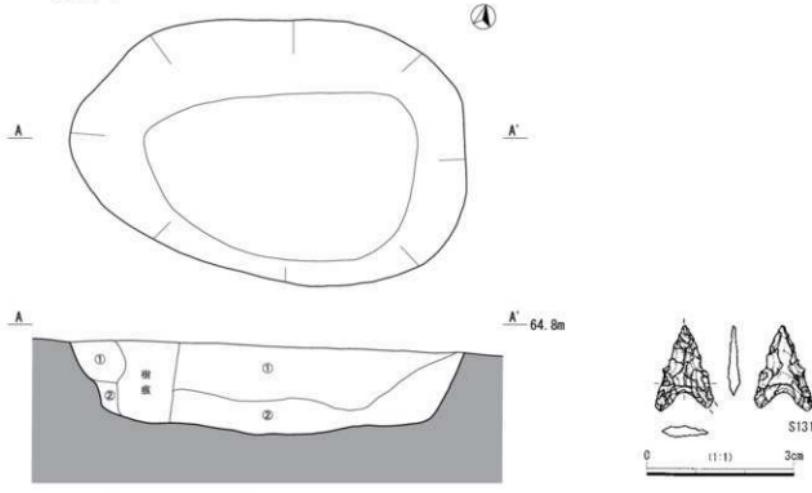
SK57は、D-27区のIVb層で検出された。長軸は0.97m、短軸0.57m、深さ15cm、推定面積は0.43m²を測る。平面形は楕円率0.59の楕円形で、掘り込みは浅く、レンズ状の形態である。

分類：タイプII



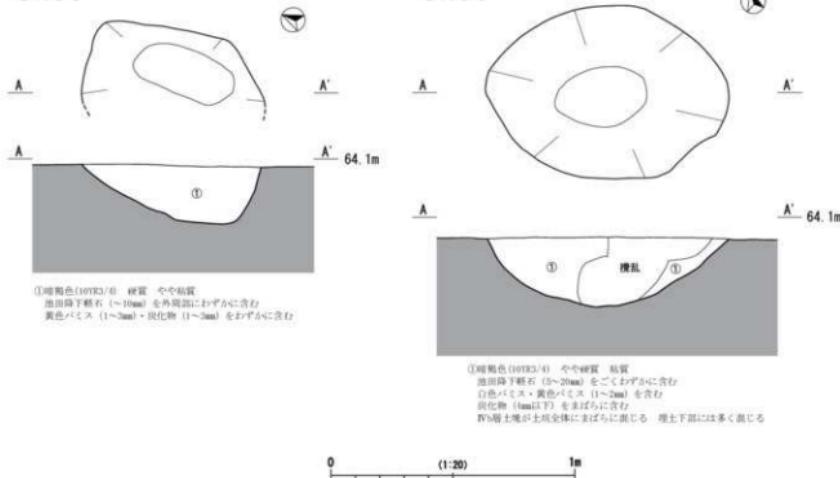
第138図 土坑51~53号

SK 54



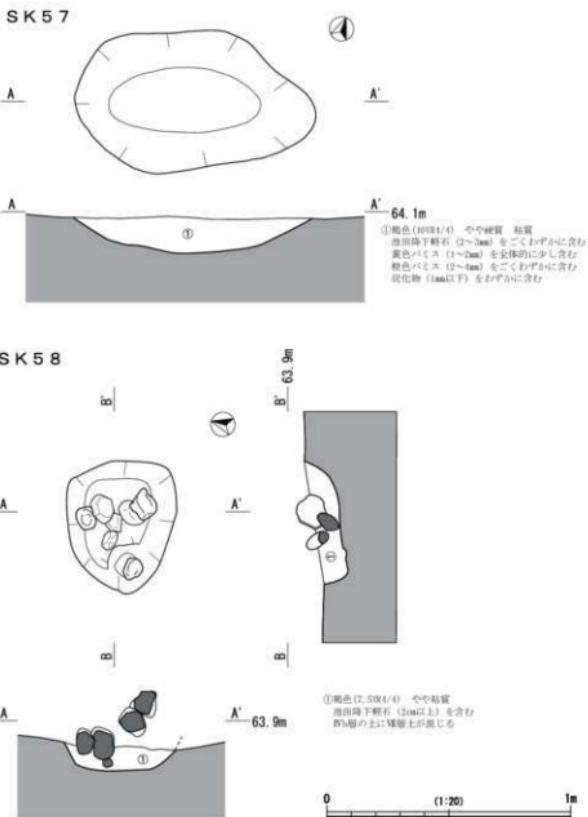
- ① 布地褐色(10YR3/4) やや硬質 やや結晶
泥炭層下砾石(5~30mm)・白色バミス(1~5mm)をわずかに含む
炭化物(1~2mm)をわずかに含む
② 布地褐色(10YR3/4) 硬質 結晶質
泥炭層下砾石(1~3mm)をわずかに含む 炭化物(0~3mm)を少し含む
IVb層土壤が多量に混じる

SK 55



- ① 布地褐色(10YR3/4) 硬質 やや結晶質
泥炭層下砾石(5~10mm)を外観面にわずかに含む
黄色バミス(1~2mm)・炭化物(1~2mm)をわずかに含む
IVb層土壤が土壌全体にまばらに混じる 墓下部には多く混じる

第139図 土坑54~56号と土坑54号出土遺物



第140図 土坑57・58号と出土遺物

埋土

埋土は、褐色1枚である。池田降下軽石、黄色・橙色バミスと炭化物を含むやや硬質の粘質土である。

土坑58号（第140図）

検出状況

SK58は、D-E-28区の層で検出された。長軸は0.55m、短軸0.45m、深さ10cm、推定面積は0.19m²を測る。平面形は梢円率0.81の円形である。砾が数点出土したが、石材や被熱の有無については不明である。

分類：タイプIII

埋土

埋土は、褐色土の単層である。池田降下軽石を含む。IVb層土とⅦ層土が混じる。

(3) 集石（第141～178図）

縄文時代後期前半の集石は、69基が検出された。地点によっては層堆積が不明瞭なため、遺構内遺物により帰属時期を決定している。掘り込みの有無や砾の検出状況によってタイプ別に分類すると、タイプI…17基、タイプII…15基、タイプIII…32基、タイプIV…5基であった。なお分類基準については、第1分冊P31を参照いただき

たい。

集石5号（第141図）

分類：タイプIII

検出状況

SS5は、B-3・4区のIVb層で検出された。まとまりがあり、掘り込みがある。

規 模

構成礫数は21個で、1個平均の重さが67g、総量1,401gであった。礫は、長軸0.32m、短軸0.31mの範囲に広がる。掘り込みの深さは、検出面から深さ14cmである。石材は、安山岩、砂岩、凝灰岩、頁岩、花崗岩、ホルンフェルス、軽石等である。埋土は暗褐色でIV層に似るが、より軟質でしまりがない。底面はIVb層に達する。

出土遺物

392は口縁部片で外面に平行沈線を施す。VIIb類と考えられる。

SL32は安山岩B類製の磨・敲石VI類で、1/6程度の破片である。使用の痕跡は薄く、被熱による赤色化が認められる。

集石6号（第141図）

分類：タイプI

検出状況

SS6は、D-3区のIVb層で検出された。

規 模

構成礫数は30個であった。礫は、長軸1.74m、短軸0.41mの範囲に広がる。散礫状態で掘り込みはない。石材は頁岩、安山岩、砂岩、凝灰岩、ホルンフェルスである。

出土遺物

393は深鉢の胴部を用いた円盤状土製加工品で、外面に沈線が施される。VII類と考えられる。胎土に金色の雲母を多量に含む。

SL33は、砂岩製の磨・敲石VI類である。使用の頻度は低く、被熱による変色が認められる。

集石7号（第141図）

分類：タイプIII

検出状況

SS7は、D-3区のIVb層で検出された。

規 模

構成礫数は30個である。礫は、長軸0.70m、短軸0.62mの範囲に広がる。掘り込みの深さは、検出面から深さ9cmで、ごく浅いレンズ状の形狀である。安山岩、砂岩、凝灰岩、ホルンフェルスの大型の亜円礫が掘り込みを充填するように出土しており、約半数に被熱の痕跡が認められた。埋土は少量のため観察できなかった。床面には被熱痕がみられるが炭化物は検出されなかつた。

出土遺物

394は凹線文を描いた深鉢の口縁部片でVIIb類と考えられる。395・396は胴部を用いた円盤状土製加工品である。

集石8号（第142図）

分類：タイプI

検出状況

SS8は、C-5・6区のIVb層で検出された。

規 模

構成礫数は10個である。礫は、長軸1.31m、短軸0.93mの範囲に広がる。石材は、安山岩、凝灰岩、ホルンフェルスが混在し、約半数の礫が被熱していた。掘り込みは確認されていない。

出土遺物

397~400は口縁部小片である。口縁部の形態と文様の特徴から、397・400はVIIb類、398はVIIa類、399はVIIc類と考えられる。

集石9号（第142図）

分類：タイプI

検出状況

SS9はD-5区のIVb層で検出された。

規 模

構成礫数は11個で、1個平均の重さが660g、総量が7,257gであった。礫は、長軸1.07m、短軸0.32mの範囲に広がる。石材は、安山岩、頁岩、花崗岩、軽石、ホルンフェルスが混在し、数点の礫が被熱していた。炭化物は検出されず、掘り込みも確認されなかつた。

集石10号（第142図）

分類：タイプII

検出状況

SS10は、E-5区のIVb層で検出された。

規 模

構成礫数は7個で、1個平均の重さが1,475g、総量10,325gであった。礫は、長軸0.53m、短軸0.29mの範囲に広がる。石材は、安山岩、頁岩が混在し、構成礫に被熱はない。炭化物はみられず、掘り込みも確認されなかつた。

集石11号（第143図）

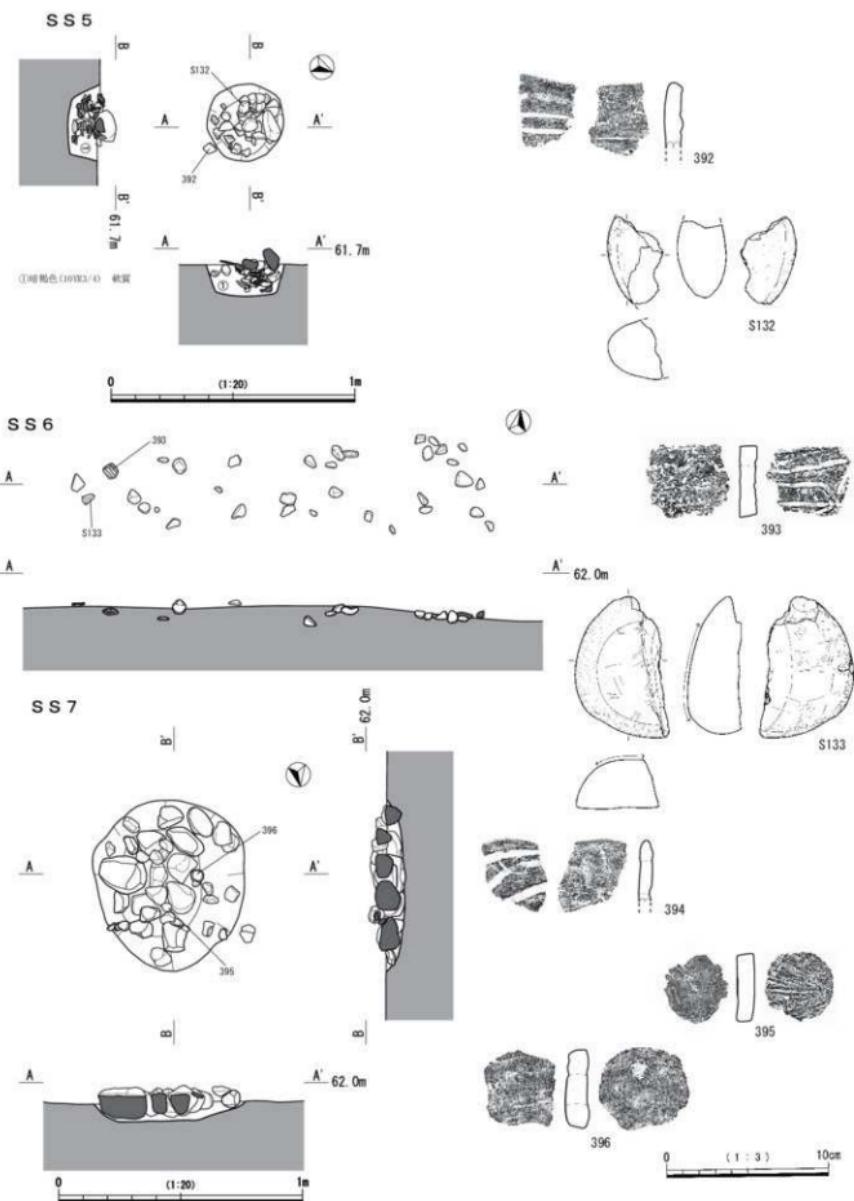
分類：タイプIII

検出状況

SS11は、E-5区のIVb層で検出された。

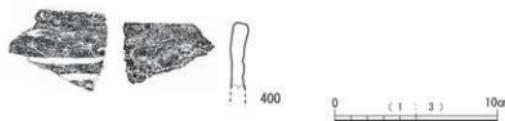
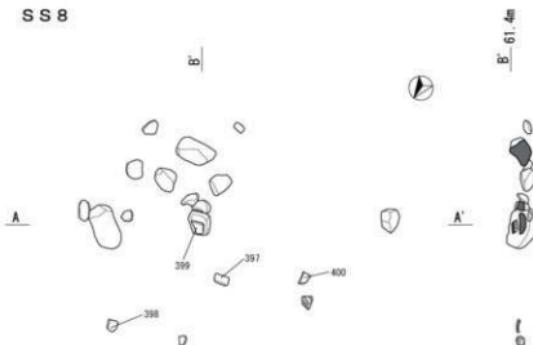
規 模

構成礫数は25個であった。礫は、長軸0.65m、短軸0.59mの範囲に広がる。掘り込みの深さはごく浅く、検出面から6cmの浅いレンズ状の形狀である。石材は、安山岩、

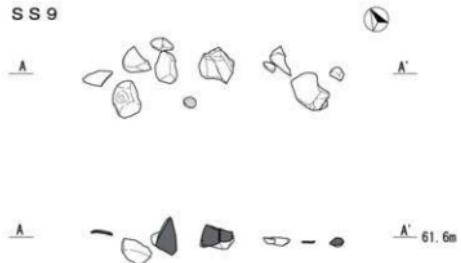


第141図 集石5～7号と出土遺物

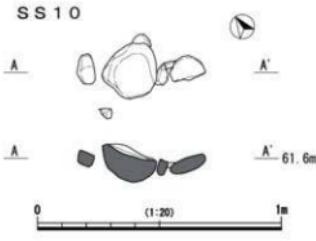
SS 8



SS 9

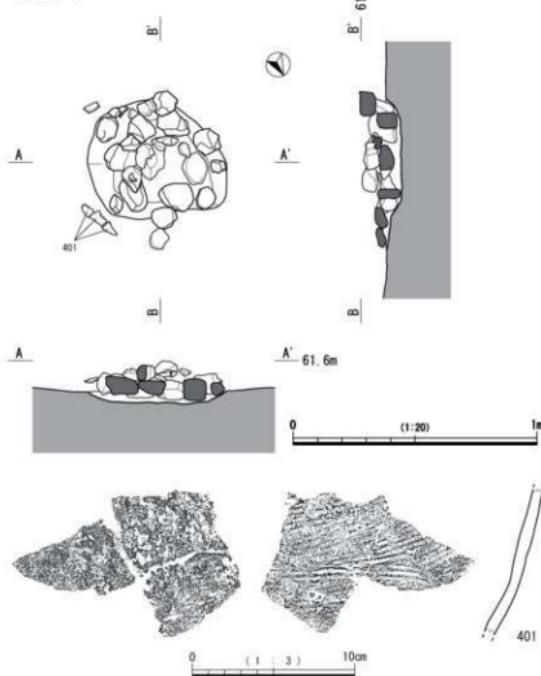


SS 10

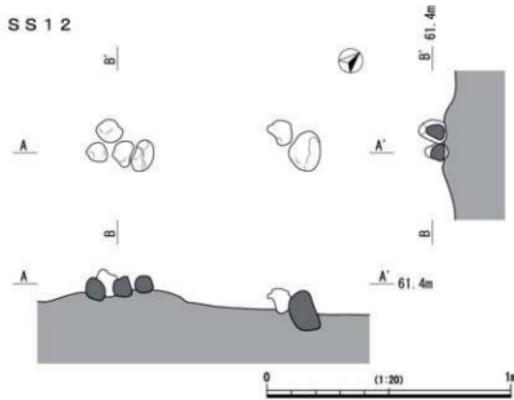


第142図 集石8~10号と集石8号出土遺物

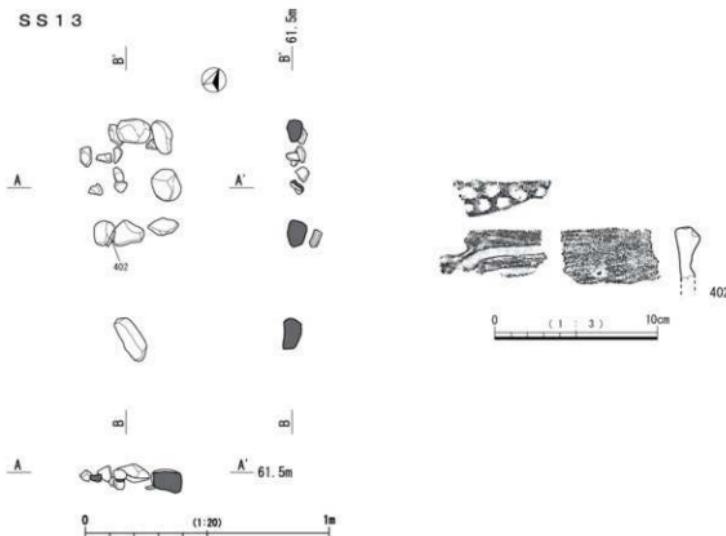
SS 11



SS 12



第143図 集石11・12号と集石11号出土遺物



第144図 集石13号と出土遺物

砂岩、凝灰岩、花崗岩、ホルンフェルスの大型の亜円礫が掘り込みを充填するように出土した。埋土は少量のため観察することができず、底面の被熱痕跡の確認はできなかった。

出土遺物

401は底部に向かって急にすばまる下腹部片で、内面に横位の貝殻条痕を残す。

集石12号（第143図）

分類：タイプI

検出状況

SS12は、E-5・6区のIVb層で検出された。

規 模

構成礫数は6個である。礫は、長軸0.96m、短軸0.22mの範囲に広がり、南側に4個、西側に2個散在する。石材は安山岩、砂岩が混在していた。掘り込みは確認されず、南側4個の下が掘り込みからわずかにはみ出す。

集石13号（第144図）

分類：タイプII

検出状況

SS13は、F-5区のIVb層で検出された。

規 模

構成礫数は13個であった。礫は、長軸0.99m、短軸0.42mの範囲に広がる。礫は方形に組んだように出土し、中央部分が空くため配石炉の可能性がある。石材は安山岩、砂岩、凝灰岩、ホルンフェルスが混在し、大半の礫が被熱していた。土器片が出土した。掘り込みは確認されなかった。

出土遺物

402は口縁部片で、ごく緩い波状口縁と推測される。口縁部外面をやや肥厚させ上面に連点文を施す。外面上位には凹線文を描く。Vlb類と考えられる。

集石14号（第145図）

分類：タイプII

検出状況

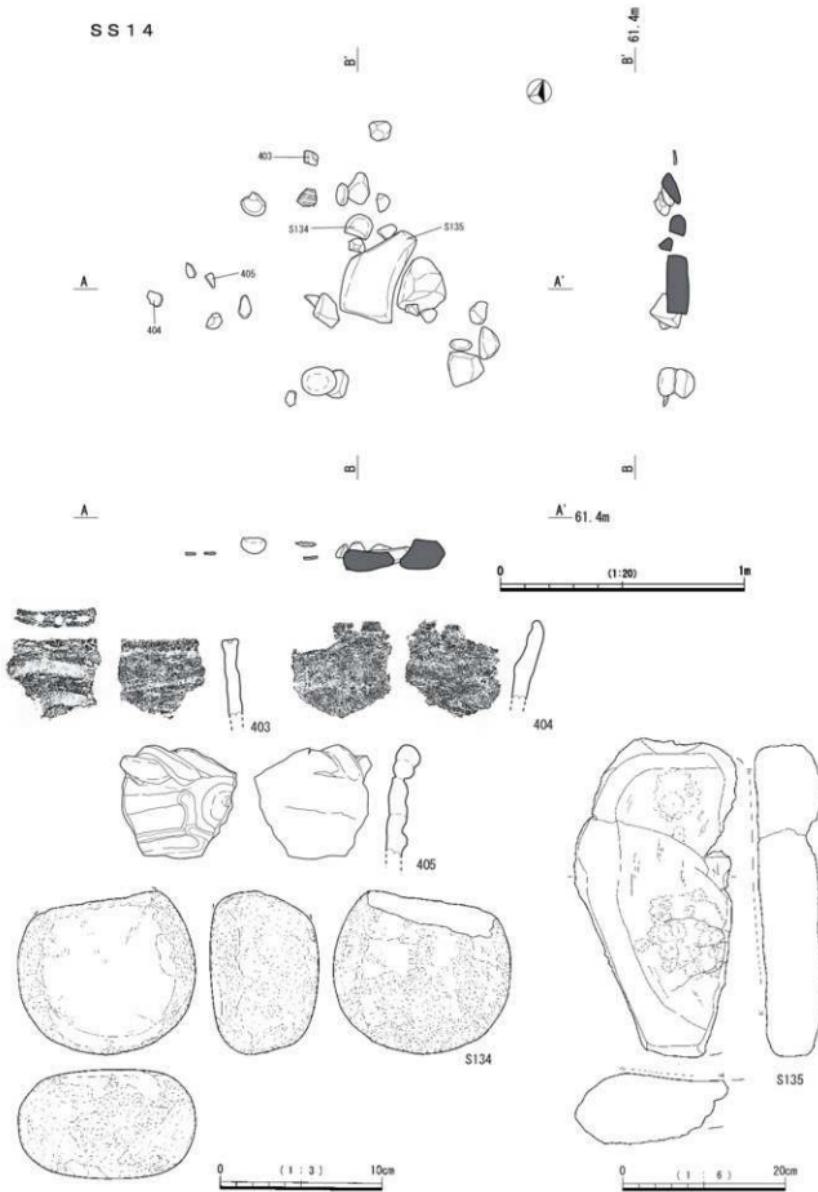
SS14は、C-6区のIVb層で検出された。石皿と磨・敲石が検出されている。

礫の検出状況から石皿配石の可能性がある。

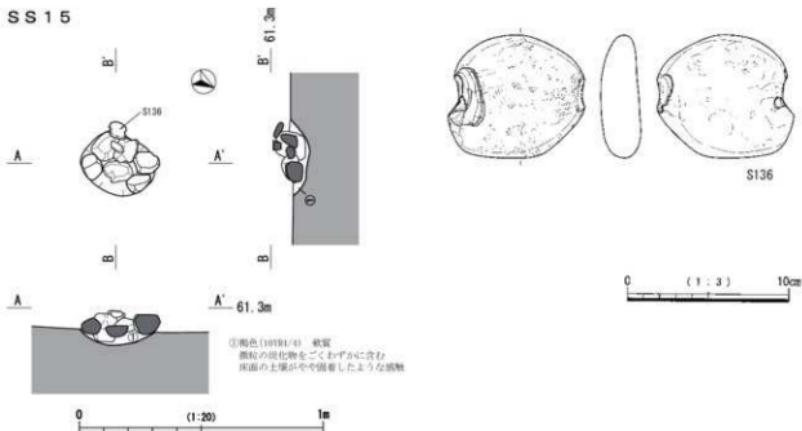
規 模

構成礫数は22個であった。礫は、長軸1.44m、短軸1.17mの範囲に広がる。石材は、凝灰岩、頁岩、花崗岩、砂岩が混在した。掘り込みは確認されなかった。

SS14



第145図 集石14号と出土遺物



第146図 集石15号と出土遺物

出土遺物

404・405は口縁部小片である。405は口唇部に粘土紐をねじり合わせた装飾を貼り付ける。脣部上位に凹線文を描き、口唇部装飾の下に円形のモチーフを描く。403は直線的に立ち上がり、平坦に形成した口唇部には円形の刺突を施す。脣部上位には指頭によって曲線文を描く。404は口縁部内面を明瞭に屈曲させる。細い粘土紐を口唇部にナデ付けて延らせる。これらはVb類と考えられる。

S134は、花崗岩製の磨・敲石II類である。上面を欠損する。被熱の痕跡が窺える。風化が著しい。S135は花崗岩製の石皿IV類（台石）である。右側を欠く。中央附近に浅い凹みを形成する。凹みの内側の広範囲に敲打痕がみられる。

集石15号（第146図）

分類：タイプIII

検出状況

SS15は、C-6区のIVb層で検出された。

規模

構成繅数は8個であった。繩は、長軸0.33m、短軸0.29mの範囲に広がる。掘り込みの深さは、検出面から深さ5cmの浅いレンズ状の形状である。凝灰岩、頁岩、安山岩の大型の亜円繩が掘り込みを充填する。埋土は褐色で微粒炭化物を含む軟質土である。

出土遺物

S136は、砂岩製の石錘である。長軸に両極打撃を加えて抉りを作り、敲打によって角を潰す。正裏面の左右端

に薄い擦痕がみられ、粗擦れの痕跡である可能性も考えられる。

集石16号（第147図）

分類：タイプI

検出状況

SS16は、C-6区のIVb層で検出された。

規模

構成繩数は6個で、1個平均の重さが1,102g、総量で6,611gであった。繩は、長軸0.44m、短軸0.40mの範囲に広がる。石材は、安山岩、凝灰岩、頁岩、花崗岩、ホルンフェルスが混在し、掘り込みは確認されなかった。微粒炭化物は認められるが、散見される程度であり、集石に伴うものかは不明である。

集石17号（第147図）

分類：タイプI

検出状況

SS17は、C-6区のIVb層で検出された。

規模

構成繩数は5個で、1個平均の重さが915g、総量が4,574gであった。繩は、長軸0.40m、短軸0.21mの範囲に広がる。石材は、凝灰岩、頁岩が混在しどんどに被熱の痕跡がみられた。掘り込みは確認されなかった。

集石18号（第147図）

分類：タイプIII

検出状況

SS18は、C・D-6区のIVb層で検出された。
礫の検出状況から石皿配石の可能性がある。

規 模

構成礫数は21個で、1個平均の重さが1,782 g、総量が37,432 gであった。礫は、長軸0.68m、短軸0.59mの範囲に広がる。掘り込みの深さは、検出面から9cmの浅い皿状の形状である。安山岩、凝灰岩、頁岩の大型の角礫が掘り込みを充填する。石皿片を含む。埋土は褐色で微粒炭化物をごくわずかに含む軟質の砂質土である。バミス等は含まれない。出土した石皿片（掲載番号S181：下側2個）が、SS70の石皿片（上側）と接合している。

出土遺物

S137は、花崗岩製の石皿Ⅲ類である。上面側・左側を欠く。方形を呈すると推測される。表裏両面が著しく被熱する。

集石21号（第148回）

分 類：タイプⅡ

検出状況

SS19は、D-6区のIVb層で検出された。

規 模

構成礫数は17個で、1個平均の重さが293 g、総量が4,976 gであった。礫は、長軸0.56m、短軸0.49mの範囲に広がる。中心が空き、円形を組んだように石が配置されているため配石炉の可能性がある。石材は安山岩、頁岩、花崗岩が混在し、数点の礫が被熱していた。礫下の土壤に被熱痕跡は確認できなかった。

集石20号（第148回）

分 類：タイプⅡ

検出状況

SS20は、D-6区のIVb層で検出された。

規 模

構成礫数は6個で、1個平均の重さが589 g、総量が3,536 gであった。礫は、長軸0.35m、短軸0.17mの範囲に広がる。石材は安山岩で、数点の礫が被熱していた。掘り込みや炭化物は確認されなかった。

集石21号（第148回）

分 類：タイプⅢ

検出状況

SS21は、D-6区のIVb層で検出された。

礫の検出状況から石皿配石の可能性がある。

規 模

構成礫数は17個であった。風化が著しい取り上げ不能1個を除くと1個平均の重さが1,482 g、総量が23,717 gであった。礫は、長軸0.66m、短軸0.64mの範囲に広

がる。掘り込みの深さは、検出面から8cmの浅いレンズ状である。石材は、安山岩、凝灰岩、頁岩、花崗岩が床面からやや浮いた状態で重層的に出土する。埋土は暗褐色で、微粒な白バミス・微粒炭化物を含む軟質の粒子の細かい土である。

集石22号（第148回）

分 類：タイプⅡ

検出状況

SS22は、E-6区のIVa層で検出された。

規 模

構成礫数は28個で、1個平均の重さが346 g、総量が9,698 gであった。礫は、長軸1.11m、短軸0.95mの範囲に散在状に広がる。石材は、安山岩、砂岩、頁岩、ホルンフェルスが混在する。掘込みはないと判断した。炭化物は出土していない。

出土遺物

406・407は深鉢の底部片で、裏面はナデ調整によって仕上げられ、白色付着物がみられる。406は外面には横位のケズリ調整を行う。407は底部の器壁が薄いことが想定され、器壁は胴部に向かって大きく開く。

集石23号（第149回）

分 類：タイプⅢ

検出状況

SS23は、E-6・7区のIV層で検出された。

規 模

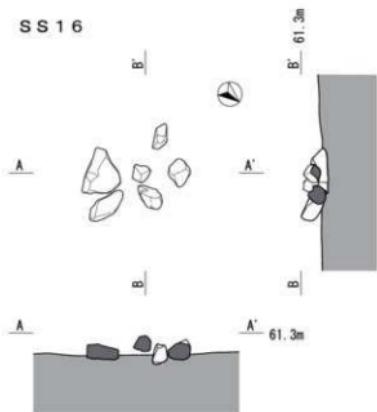
構成礫数は21個であった。礫は、長軸0.95m、短軸0.95mの範囲に広がる。掘り込みの深さは、検出面から深さ45cmと深い。掘り込みの中央部分の上層で大型の礫が数個まとまって出土し、その周りや土坑の埋土の中へ上位に土器片が少數散在する。土坑の廃絶後にできた凹みに礫や土器等の遺物が溜まった可能性もある。石材は、凝灰岩、花崗岩、軽石が出土する。埋土は単層で、特徴は不明である。

出土遺物

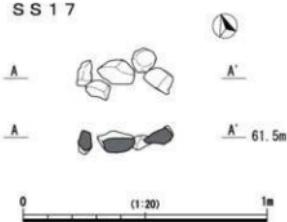
408は深鉢の口縁部片で、わずかに内溝する。口縁部直下とその下に凹線によって区画された単節繩文を回転させる。Ⅳa類と考えられる。409・410は無文の胴部片で器壁は直線的に立ち上がる。409は金色の雲母を多く含む。411はモジリ編み痕が残る底部で裏に白色付着物がみられる。胎土に金色の雲母を多く含む。

S138は、ホルンフェルス製の磨製石斧II類である。全面が風化によって磨耗する。両側面は明瞭に面取りされて成形された定角式である。基部欠損後、両極石器に転用されている。被熱による変色が確認される。

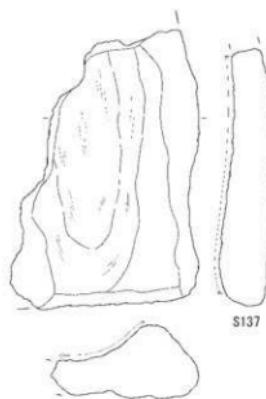
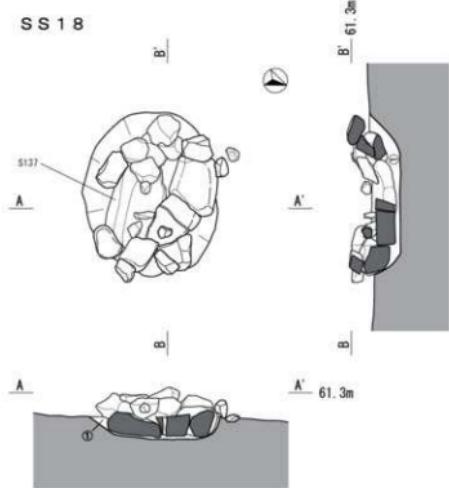
SS 16



SS 17



SS 18

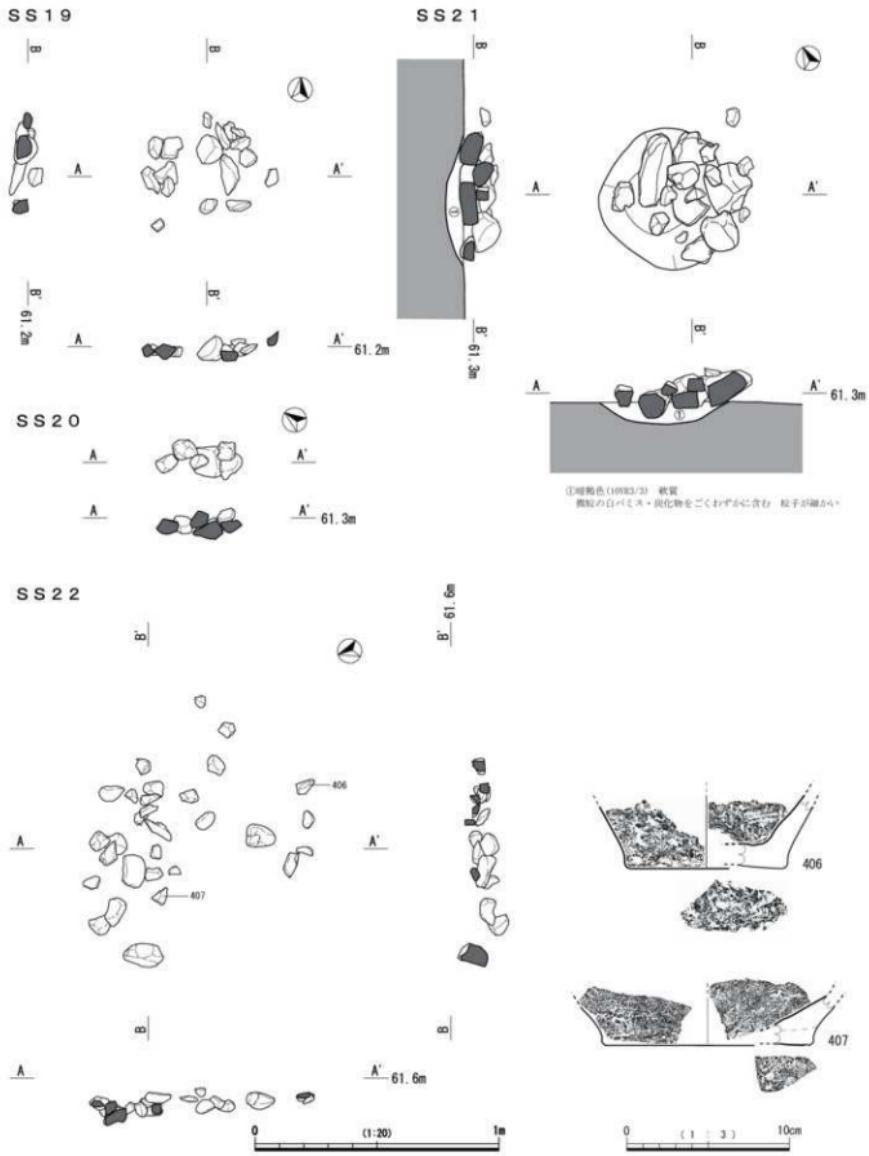


①褐色(10YR4/4) 粗面 砂質
黒褐色の溶化物をごくわずかに含む バミス等は含まれない

0 (1:20) 1m

0 (1:6) 20cm

第147図 集石16~18号と集石18号出土遺物



第148図 集石19~22号と集石22号出土遺物

集石24号（第150図）

分類：タイプⅢ

検出状況

SS24は、E-6区のIVb層で検出された。

規模

構成礫数は50個であった。礫は、長軸1.65m、短軸1.28mの範囲に広がる。掘り込みは、検出面から深さ10cmの浅いレンズ状の形態で、大型の角礫・円礫が、掘り込みの底面よりやや浮いた位置で、重層的にまとまって検出された。石材は、安山岩、凝灰岩、砂岩、頁岩、花崗岩である。埋土は暗褐色で微粒炭化物をわずかに含む硬質土である。バミス類を含まない。

出土遺物

S139は、ホルンフェルス製の礫器である。母岩から剥いた剥片の下辺と左側縁部を主に正面側から粗く打ち欠いて刃部を形成する。

集石25号（第150図）

分類：タイプⅢ

検出状況

SS25は、E-6区のIVb層で検出された。

規模

構成礫数は11個であった。礫は、長軸0.45m、短軸0.44mの範囲に広がる。掘り込みは、検出面から深さ7cmの浅いレンズ状の形態である。安山岩、凝灰岩、花崗岩製の大型の礫や石器類が充填する。埋土の特徴は不明である。

出土遺物

S140は、花崗岩製の磨・敲石IIa類である。石顔形を呈する。正面・裏面のほかに、周縁部も全面的によく磨られる。被熱による赤色化が認められる。

集石26号（第151図）

分類：タイプⅣ

検出状況

SS26は、E-6・7区のIVb層で検出された。

規模

構成礫数は14個で、1個平均の重さが943g、総量が13,206gであった。長軸1.14m、短軸0.77mの範囲にやや大型の角礫が広がる。南側に検出面から深さ10cmの小さな皿状の掘り込みを有し、礫は掘り込みのやや上層に放射状に広がる。石材は安山岩、凝灰岩、頁岩、花崗岩が出土する。埋土は、黒褐色微粒炭化物を含む軟質土である。

集石27号（第151図）

分類：タイプⅢ

検出状況

SS27は、B-7区のIVb層で検出された。

規模

構成礫数は24個であった。礫は、長軸0.62m、短軸0.50mの範囲に広がる。掘り込みの深さは、検出面から22cmである。安山岩、砂岩、ホルンフェルスが出土する。埋土は褐色2枚・暗褐色の計3枚である。橙色・黄色・白色のバミスや軽石・アカホヤの塊を含む軟質のやや粘質土である。礫は長軸方向を上にした状態で検出されているものもみられ、埋土の堆積状況からも、意図は不明だが、柱穴痕の窪みに人為的に礫を集積させた可能性も考えられる。

出土遺物

412は深鉢の口縁部片で、Vlc類と考えられる。413は口縁部が外反しながら開く深鉢の上胴部片で平坦口縁と推測する。口縁部が強く外反し、胴部が張り出す器形であると推測される。口縁部直下は無文で、頭部以下にやや太めの凹線によって横位の弧状の曲線を多重に描く。線の始点と終点を強く押圧する。文様帶は胴部下位に及ぶと推測される。器壁は薄く、内外面および断面は黒色を呈する。器面の調整も丁寧で、黒色磨研土器の雰囲気がある。混和材の種類が少ない。搬入品の可能性も考えられる。

S141は、砂岩製の磨・敲石Va類である。主に下面が敲打に多用される。自然礫の形態を活かしたハンマーである。

集石28号（第152図）

分類：タイプⅢ

検出状況

SS28は、C-7区のIVb層で検出された。石皿や磨・敲石が検出されている。

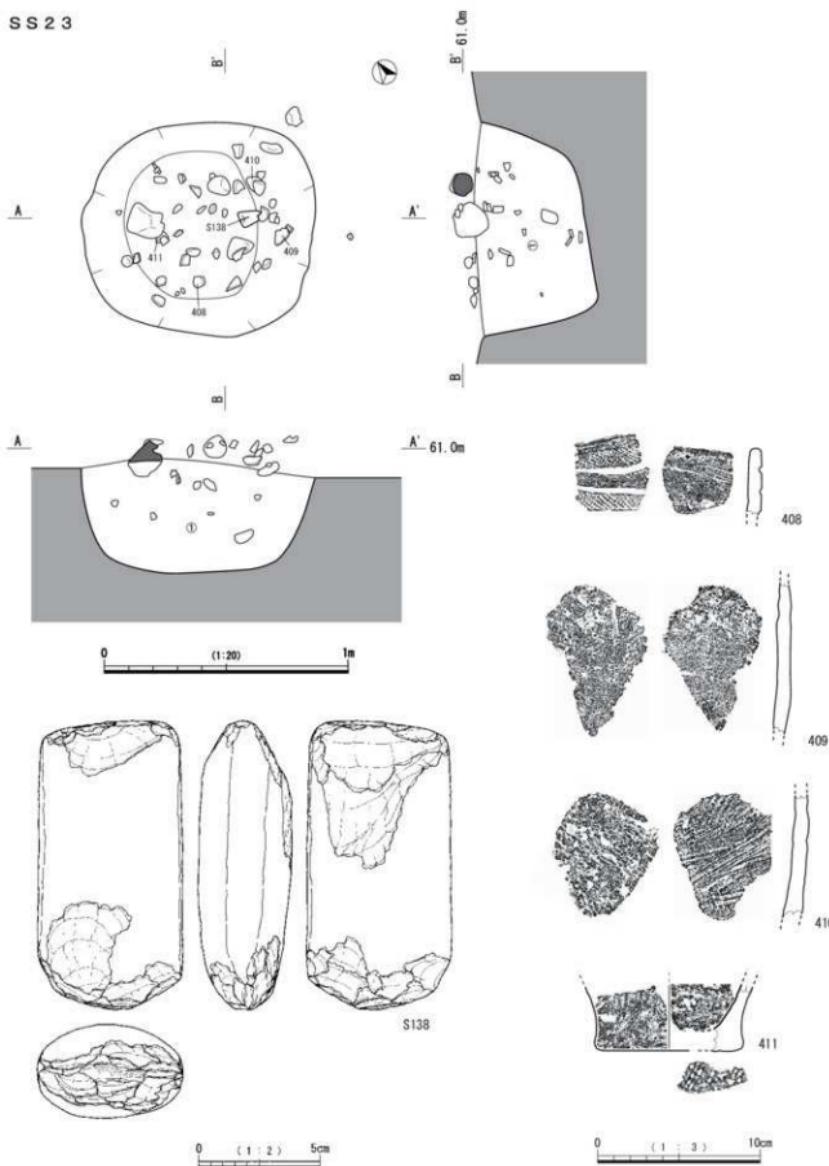
遺物と礫の検出状況から石皿配石の可能性がある。

規模

構成礫数は10個で、1個平均の重さが2,056g、総量が20,559gであった。礫は、長軸0.74m、短軸0.52mの範囲に広がる。掘り込みは小さく、その深さは検出面から7cmで、ごく浅い。石材は、安山岩、凝灰岩、頁岩、花崗岩で、数点に被熱の痕跡がみられた。埋土はごく少量で特徴は不明である。周辺に炭化物は出土していない。石皿は主な使用面を上に、掘り込みにほぼはまるような状態で出土しており、花崗岩製立石遺構と関連のある遺構である可能性もある。

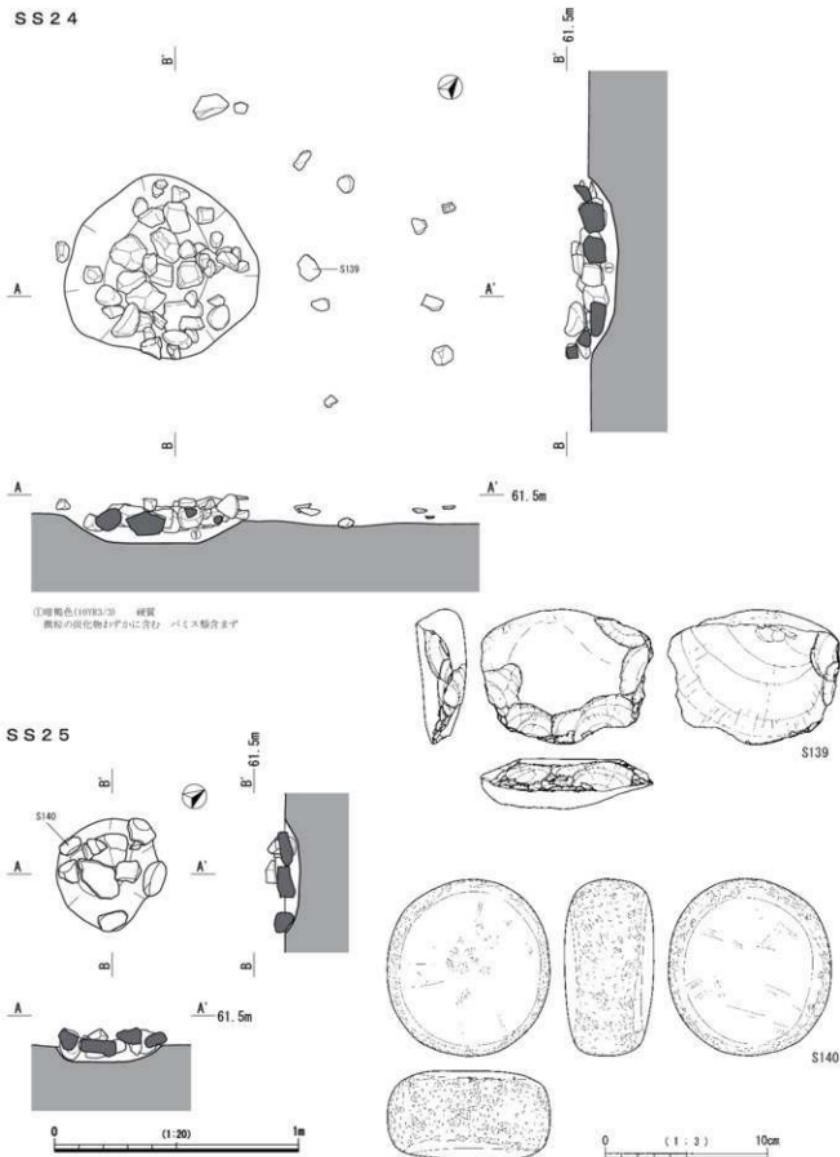
出土遺物

S142は、花崗岩製の磨・敲石IIa類である。被熱の痕跡が窺え、風化が著しい。S143は、花崗岩製の石皿Ib類である。上半を欠く。中央に凹みを形成し、真下及び左下の2方向に搔き出し口を作る。著しく被熱する。



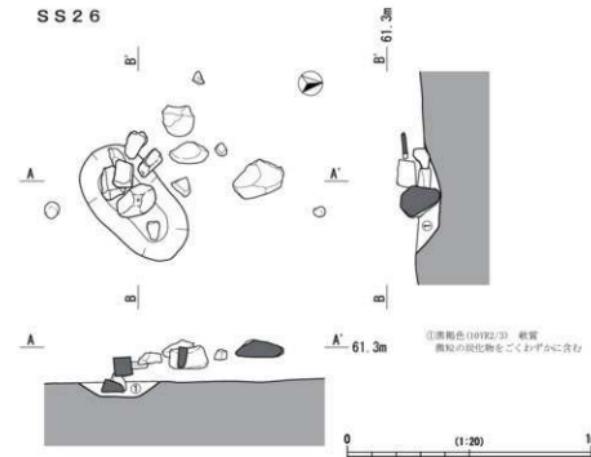
第149図 集石23号と出土遺物

SS 24

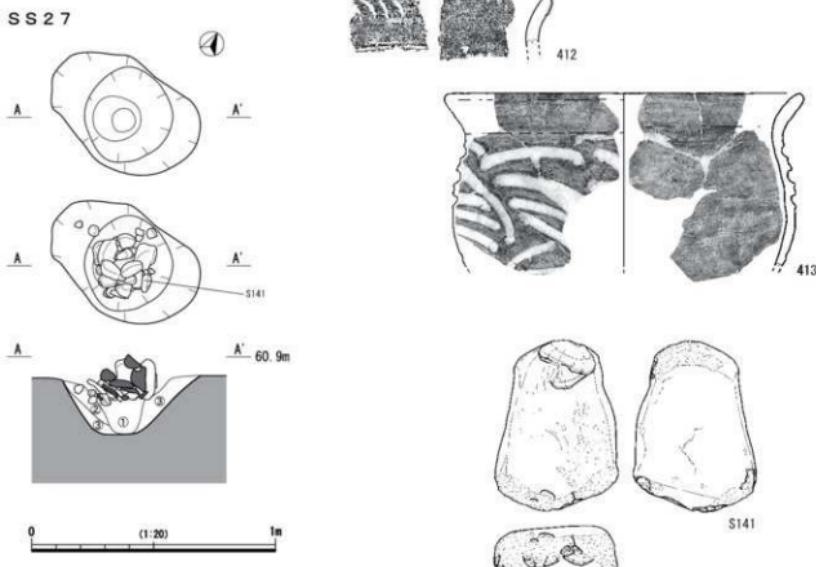


第150図 集石24・25号と出土遺物

SS 26



SS 27



① 黑褐色(7.5YR3/4) 硬質 小や松質
黒色バニズや輕石を含む。黒や明赤褐色の点がひだ間に見られる。
② カキナ内側灰の複合。褐色の土がまだらに混じる。IV層に亘る。
③ 黄褐色(10YR4/4) 硬質 小や松質
黄色・白色のバニズを含む。

第151図 集石26・27号と集石27号出土遺物

集石29号（第152図）

分類：タイプI

検出状況

SS29は、C-7区のIVb層で検出された。

規模

構成礫数は7個であった。礫は、長軸0.51m、短軸0.30mの範囲に広がる。石材は、安山岩、凝灰岩、花崗岩、ホルンフェルスが混在し、数点が被熱していた。掘り込みは確認されなかった。

出土遺物

414は深鉢の口縁部片で、平坦口縁と推測される。外傾しながら開き、口縁端部はわずかに外反する。口唇部には平坦面を形成する。口縁部直下に二条の凹線を巡らせ、その直下に渦巻き状の四角のモチーフを横位に展開させると推測される。VIb類と考えられる。胎土には3~5mmの大の中疊が混じる。

集石30号（第152図）

分類：タイプII

検出状況

SS30は、C-7区のIVb層で検出された。

規模

構成礫数は8個で、1個平均の重さが753g、総量が6,025gであった。やや大型の礫が、長軸0.34m、短軸0.31mの範囲にまとまって出土した。石材は、凝灰岩、花崗岩が混在し、掘り込みや炭化物は確認されなかった。

出土遺物

S144は、花崗岩製の磨・敲石IIa類である。縁辺に敲打痕や磨面がみられる。

集石31号（第153図）

分類：タイプIII

検出状況

SS31は、C-7区のIVb層で検出された。

遺物や礫の検出状況から石皿配石の可能性がある。

規模

構成礫数は33個であった。礫は、掘り込みの中央部分に長軸0.72m、短軸0.63mの範囲で広がる。掘り込みの深さは、検出面から23cmである。石材は、安山岩、凝灰岩、頁岩、花崗岩、ホルンフェルスで、約半数に被熱の痕跡がみられた。埋土は褐色で黄バニスや微粒炭化物を含む軟質の砂質土である。

出土遺物

415は胴部を用いた円盤状土製加工品で、一部が欠損する。

S145は凝灰岩製の石皿VI類である。下半分を欠く。中央に凹みを形成する。

集石32号（第153図）

分類：タイプIII

検出状況

SS32は、D-7・8区のIVb層で検出された。

規模

構成礫数は18個であった。礫は、長軸0.37m、短軸0.36mの範囲に広がる。掘り込みの深さは、検出面から深さ8cmで皿状の形態である。構成礫は円礫を主体とし、掘り込みを充填し重層的に検出される。石材は、安山岩である。埋土は暗褐色で黄バニスを含む粒子がやや粗い軟質土である。

集石33号（第153図）

分類：タイプIII

検出状況

SS33は、D-7区のVI層で検出された。

規模

構成礫数は6個で、1個平均の重さが693g、総量が2,771gであった。礫は、長軸0.35m、短軸0.33mの範囲に広がる。掘り込みはごく浅いレンズ状の形状である。検出面からの深さは4cmである。石材は、凝灰岩、頁岩である。埋土の特徴は不明で、炭化物は出土しなかった。

集石34号（第154図）

分類：タイプIII

検出状況

SS34は、F-7区のVIb層で検出された。

規模

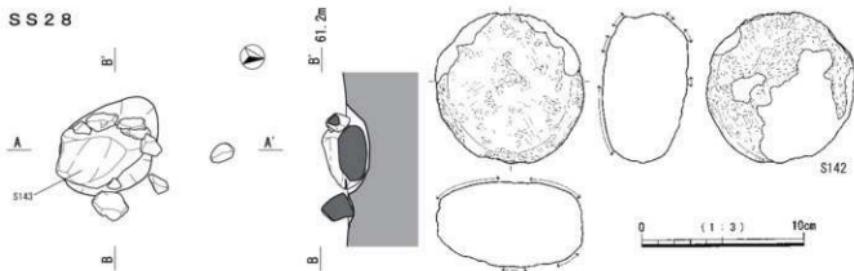
構成礫数は6個であった。礫は、長軸0.74m、短軸0.50mの範囲に広がる。掘り込みの深さは、検出面から20cmで、土坑の東側が一段深く落ち込む。石材は、安山岩、頁岩、花崗岩、軽石である。埋土は暗褐色で粒子が細かく、周囲のVI層より軟質土である。炭化物は出土しなかった。

出土遺物

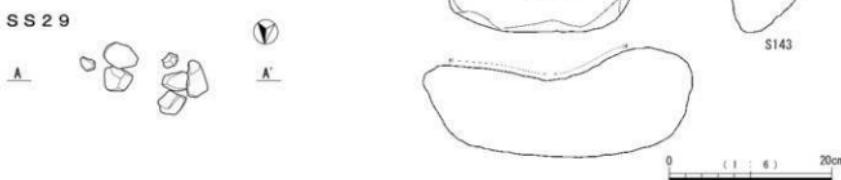
416は深鉢の胴部片で、底部に向かって丸みを帯びながらすぼまる。胎土は灰色がかった桃色で、角閃石・石英を多く含む。薄手で焼成は硬質である。南薩地方に特徴的な胎土ある可能性があり、本遺跡で類例が出土したVb類の範疇であると判断した。

S146は軽石製品で、正裏画面に擦痕がみられる。S147は、砂岩製の石皿IV類（台石）である。全面に被熱による赤化がみられる。白抜けた部分は被熱によるものとみられる。平坦な使用面に発達した磨面、裏面には棟上の一部に敲打痕がみられる。S147は、残存デンブン粒子の分析により磨面から円形のデンブン粒子を検出し、堅果類の可能性が示唆された。

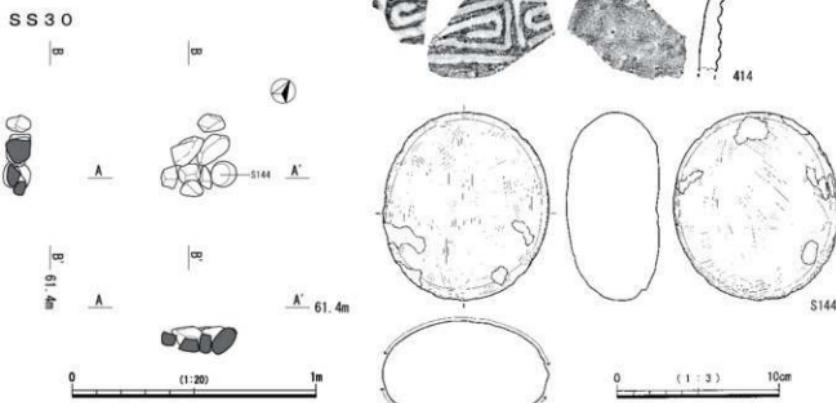
SS 28



SS 29

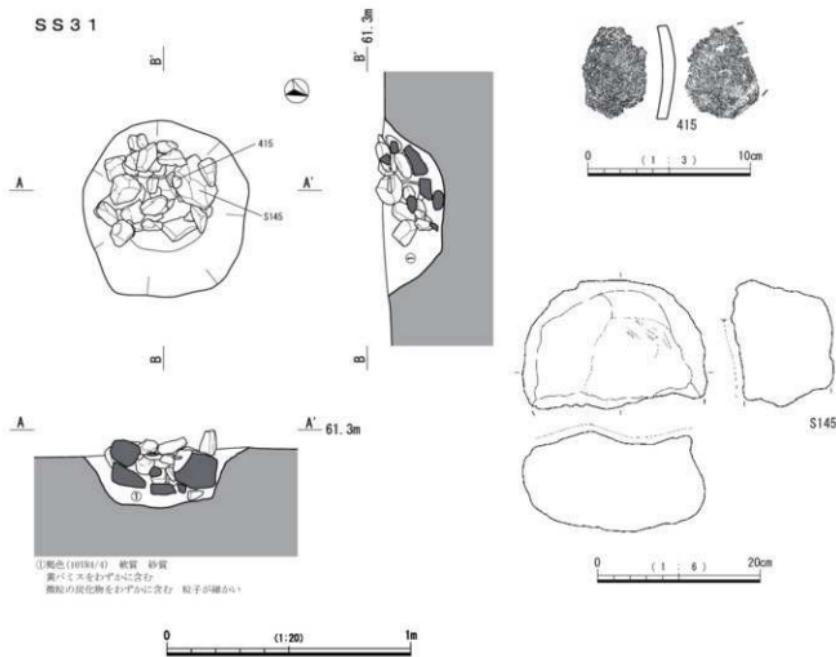


SS 30

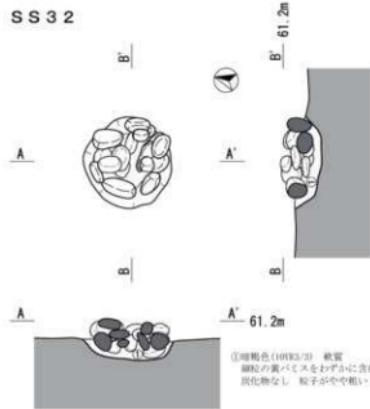


第152図 集石28~30号と集石28・30号出土遺物

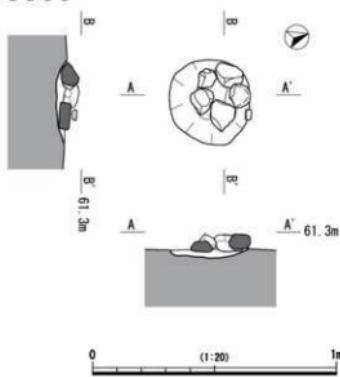
SS 31



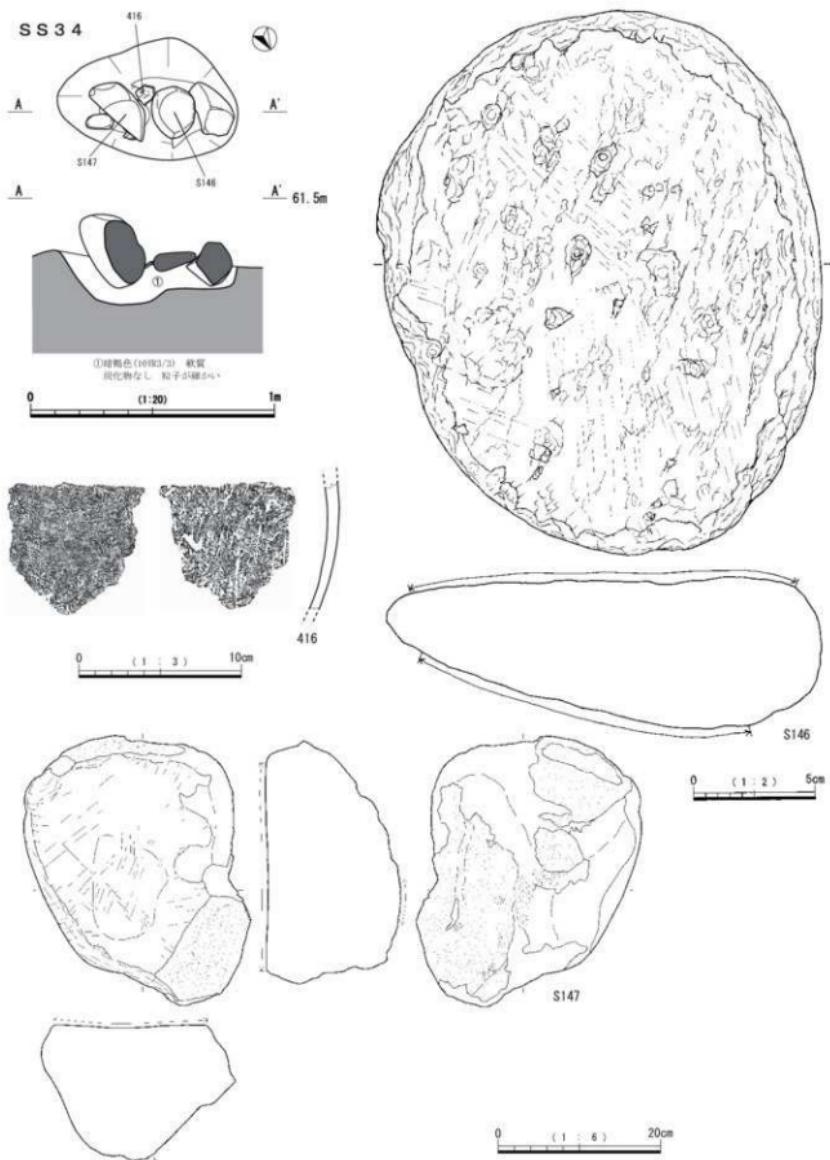
SS 32



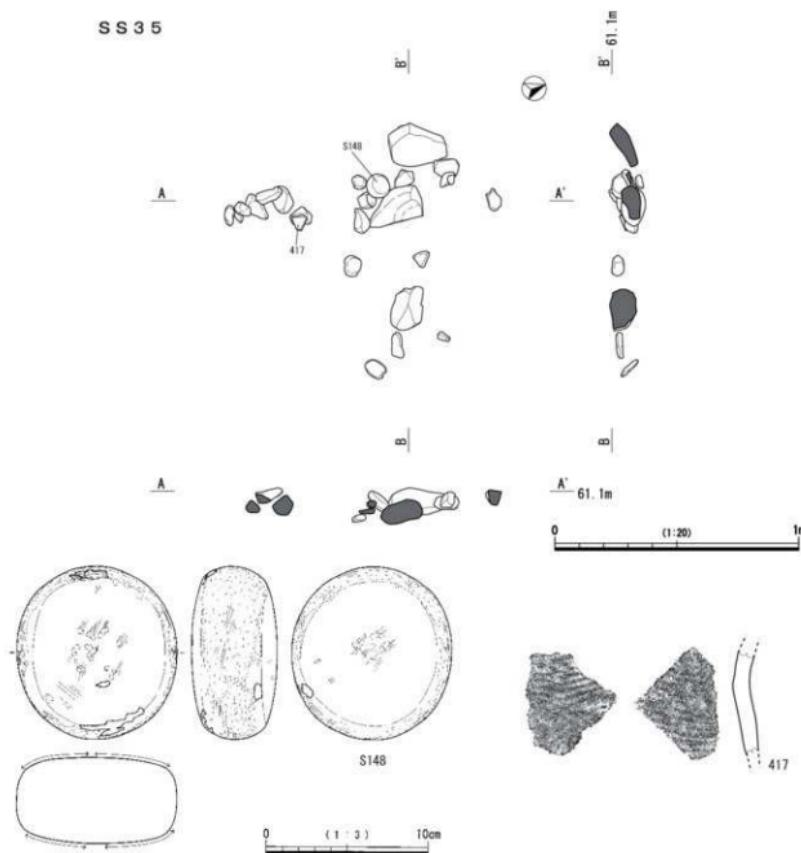
SS 33



第153図 集石31~33号と集石31号出土遺物



第154図 集石34号と出土遺物



第155図 集石35号と出土遺物

集石35号（第155図）

分類：タイプI

検出状況

SS35は、B-8区のIVb層で検出された。

規模

構成礫数は24個であった。礫は長軸1.14m、短軸1.05mの範囲に広がる。小形の礫が多い。石材は、安山岩、砂岩、頁岩、花崗岩、ホルンフェルスが混在し、数点が被熱していた。掘り込みは確認されなかった。

出土遺物

417は深鉢の頭部片である。器面を貝殻条痕により調整する。

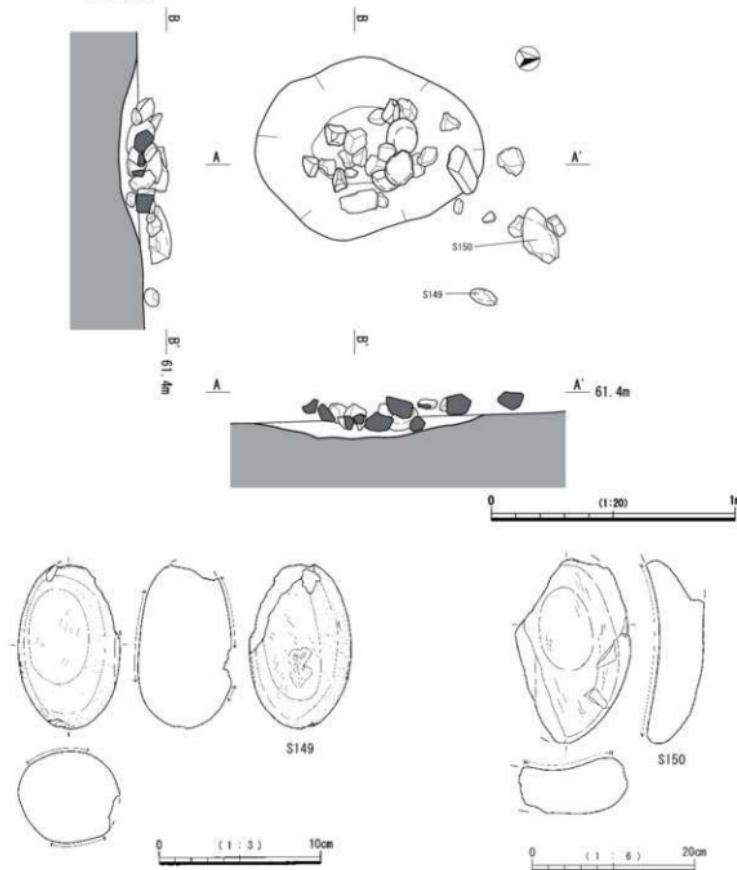
S148は、砂岩製の磨・敲石IIa類である。表裏両面に顯著な磨面を形成し、周縁に敲打と擦痕が観察できる。

集石36号（第156図）

分類：タイプIII

検出状況

SS36は、C-8区のIVa層で検出された。石皿と磨・敲



第156図 集石36号と出土遺物

石とが一緒に検出されている。

規 模

構成礫数は30個で、礫は、長軸1.28m、短軸1.03mの範囲にやや散疊状に広がる。掘り込みの深さは、検出面から10cmである。石材は、砂岩、頁岩、凝灰岩、花崗岩である。埋土の特徴については不明である。

出土遺物

S149は、安山岩B類製の磨・敲石I類である。右側上

部が欠損する。正面裏面に弱い磨面がある。下面是敲打によく使用されている。被熱による変色が認められる。S150は、砂岩製の石皿II類である。左側上・下を欠く。中央にやや広く、浅い凹みを形成する。

集石37号 (第157図)

分 類：タイプIV

検出状況

SS37は、C-8区のIVb層で検出された。

規 模

構成礫数は16個で、1個平均の重さが599g、総量が9,586gであった。礫は、長軸0.68m、短軸0.62mの範囲に広がる。掘り込みの平面形状は正円に近く、深さは、検出面から25cmである。多くは掘り込み中央の上層に中間を空けた状態で検出され、下層からも数個検出されている。石材は安山岩、頁岩で、数点が被熱する。埋土は暗褐色で白パミスや炭化物を含む粒子の細かい硬質土である。

集石38号（第157図）

分 類：タイプⅢ

検出状況

SS38は、C-8区のIVb層で検出された。

規 模

構成礫数は16個であった。浅いレンズ状の掘り込みを有し、礫は掘り込みを充填する状況で、長軸0.69m、短軸0.52mの範囲にまとまって重層的に検出された。石材は砂岩、凝灰岩、頁岩で周辺からは土器片も出土した。埋土の特徴は不明である。

出土遺物

418は深鉢の口縁部片で波頭部に指頭による押圧を4個施し、胴部にはやや太めの平行沈線文を描き、線の始点と終点を刺突する。VIIb類と考えられる。掘り込みの両側のやや離れた位置で出土しているため、SS37とは時期差がある可能性も考えられる。419は低い高台をもつ底部である。

集石39号（第158図）

分 類：タイプⅠ

検出状況

SS39は、C-8区のIVb層で検出された。

規 模

構成礫数は11個で、1個平均の重さが790g、総量が8,685gであった。礫は、長軸1.44m、短軸0.46mの範囲に、西側と東側に分かれて検出される。東側のまとまりは、方形に組んで配置された配石炉の可能性がある。礫は、安山岩、頁岩、軽石が混在し、掘り込みは確認されなかった。

集石40号（第158図）

分 類：タイプⅣ

検出状況

SS40は、C-8区のIVb層で検出された。

礫の検出状況から、立石遺構に該当する可能性もある。

規 模

構成礫数は14個で、1個平均の重さが1,059g、総量が14,819gであった。礫は、長軸1.18m、短軸0.50mの範囲に広がる。掘り込みが2か所確認されたが、切り合の状況を捉えることはできなかった。時期差のある遺構の可能性も捨てきれない。西側の掘り込みは長軸0.42m、短軸0.37mの橢円形を呈し、検出面からの深さは推定で25cm程度である。大型の角礫を充填する。東側の掘り込みは0.27m×0.27mの円形を呈し、検出面から7cmのレンズ状の形状である。角礫のほかに磨・敲石を含む礫が充填する。石材は、凝灰岩、花崗岩、頁岩、砂岩である。埋土は褐色で周辺のV層よりやや黒く炭化物をわずかに含む。

出土遺物

S151は、砂岩製の磨・敲石IIa類である。完形で石鍬型を呈する。被熱の痕跡がみられ煤が付着する。

集石41号（第159・160図）

分 類：タイプⅠ

検出状況

S41は、D-E-8区のVI層で検出された。

石皿の検出状況から石皿配石の可能性がある。

規 模

構成礫数は28個であった。礫は長軸3.09m、短軸2.50mの範囲に散礫状に広がる。小礫のほかに、石皿片が目立つ。石材は安山岩、花崗岩、頁岩で、土器片も出土した。掘り込みは確認できなかった。

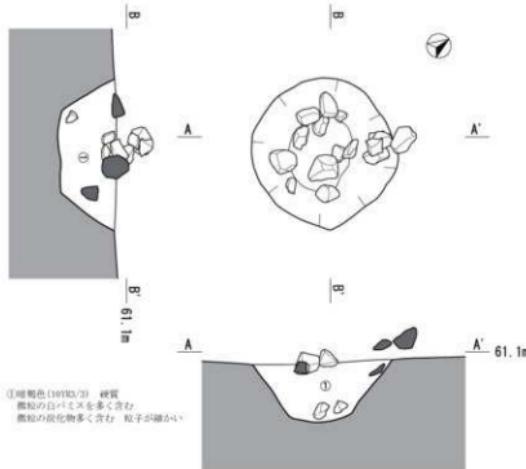
出土遺物

420・421は深鉢の底部片で、底面に網代痕が残る。

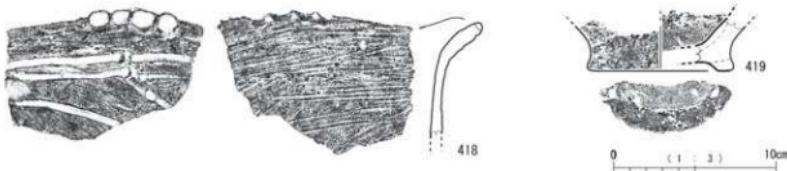
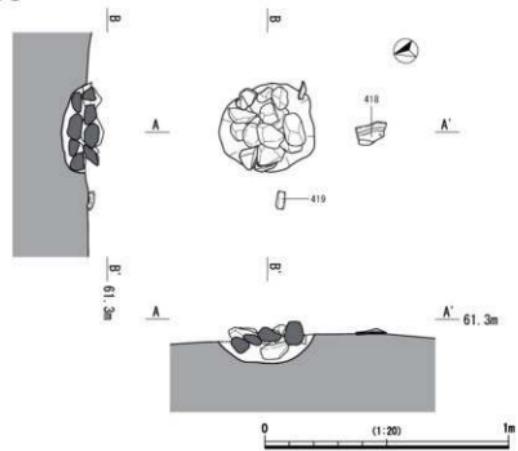
S152は、外面の擦痕から、磨製石斧VI類の体部から刃部の破片で、主に裏面側から加工されたものである。硬質な砂岩製である。右側縁は正面側からも微細な剥離を施して凸状の刃部を形成する。円形のスクレイパーとして再使用した可能性も考えられる。また両側縁は敲打にも多用され、稜が潰れる。S153は、安山岩B類製の石鍬I類である。S154～S157は花崗岩製の石皿である。S154は石皿Ib類である。右上を欠く。中央の凹みが顕著である。真下と左下の二方向に搔き出し口を形成する。S154は残存デンブン粒子の分析によって磨面2か所から、円・橢円などの形状のデンブン粒子が22個検出され、球根類や堅果類の可能性を示唆する。S155は石皿III類である。上面・下面を欠く。中央付近にやや浅い凹みを形成する。風化が著しい。

S156は石皿のIII類である。方形に成型していると判断し、III類としている。中央に明瞭な凹みを形成する。S157は石皿VI類である。上部を欠く。中央は浅く凹み、磨面の境目には明瞭な稜を形成する。I類もしくはII類の可能性がある。

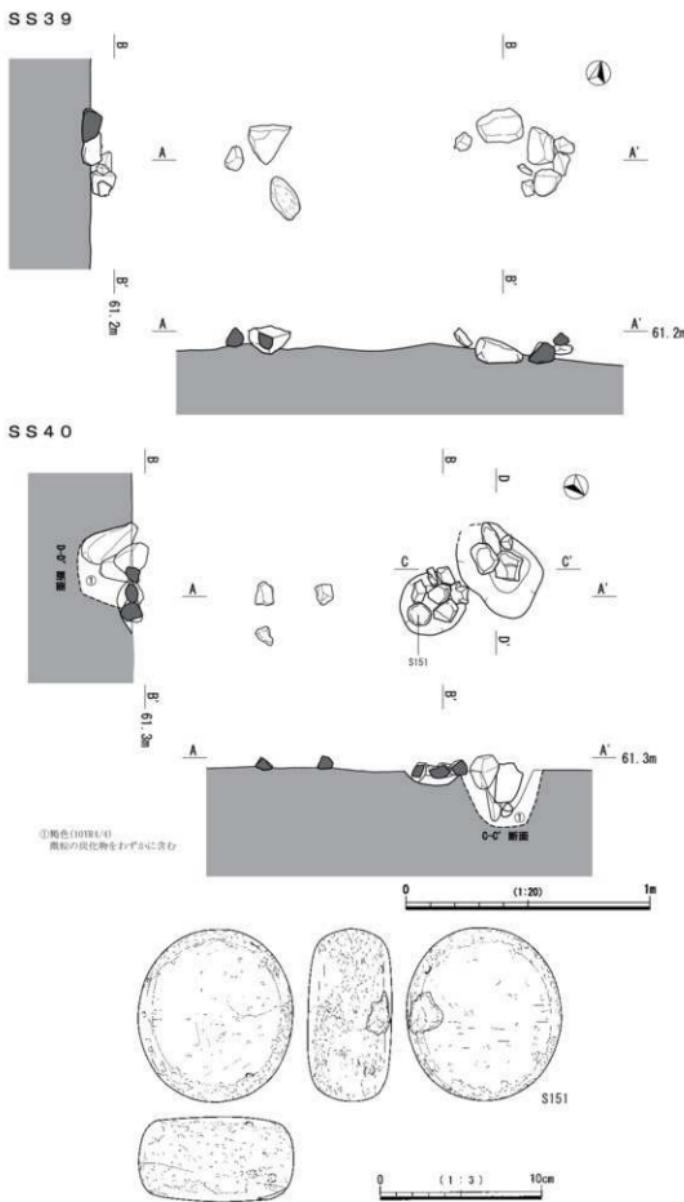
SS37



SS38



第157図 集石37・38号と集石38号出土遺物



第158図 集石39・40号と集石40号出土遺物

集石42号（第161図）

分類：タイプIV

検出状況

SS42は、E-8区のIVb層で検出された。

規模

構成繩数は9個で、1個平均の重さが2,019g、総量が18,168gであった。繩は、長軸0.96m、短軸0.60mの範囲に広がる。大型の亜円繩を主体とする。南側の小さな掘り込みの深さは、検出面から15cmである。石材は安山岩、凝灰岩、頁岩、花崗岩、ホルンフェルスである。掘り込みの埋土は暗褐色で黄色バニス、炭化物を含む軟質のやや粘質土である。

出土遺物

S158は花崗岩製の磨・敲石IIa類である。石鍛形を呈する。風化が著しい。

集石43号（第161図）

分類：タイプI

検出状況

SS43は、E-8区のIVb層で検出された。

規模

構成繩数は11個であった。繩は、長軸1.17m、短軸1.17mの範囲に散繩状に広がる。石材は、安山岩、砂岩、頁岩、花崗岩である。掘り込みは確認されなかった。

出土遺物

422は口縁部肥厚帯がほぼ横向きに形成され、口唇部は平坦に面取りされる。IXb類と考えられる深鉢の口縁部小片である。423は平行沈線文間に単節繩文を回転させて施したVIIa類の胴部片である。424は外側が反り返ることから、深鉢の頭部片を使用した円盤状土製加工品である。

S159・S160は安山岩B類製の磨・敲石I類である。S160には煤が付着する。

集石44号（第162図）

分類：タイプIII

検出状況

SS44は、E-8区のIVa層で検出された。

石皿や繩などの検出状況から、石皿配石の可能性がある。

規模

構成繩数は11個で、1個平均の重さが3,885g、総量が42,737gであった。やや大型の角繩を中心とした構成繩が、掘り込みの上層にまとまって、長軸0.50m、短軸0.49mの範囲に検出された。掘り込みの深さは、検出面から27cmである。石材は、安山岩、凝灰岩、花崗岩で、土器片も出土したが形態は不明で、炭化物には至らなかつた。石皿片も含む。埋土は暗褐色で黄バニスや炭化物を

含む粒子のやや粗い硬質土である。

出土遺物

S161は、花崗岩製の石皿Ib類である。上半を欠く。中央に浅い凹みを形成し、凹みの中央には敲打痕がみられる。真下及び左下の2方向に掻き出し口を形成する。

集石45号（第163図）

分類：タイプIII

検出状況

SS45は、B-C-9区のIVb層で検出された。

石皿や繩などの検出状況から、石皿配石の可能性がある。

規模

構成繩数は11個で、1個平均の重さが2,119g、総量が23,310gであった。繩は掘り込みの中央に長軸0.59m、短軸0.55mの範囲にまとまる。繩は床面からはわずかに浮く。掘り込みの東側からは、石皿片が出土した。掘り込みの深さは検出面から12cmで皿状の形状である。石材は、頁岩、凝灰岩である。埋土は褐色で粒子のやや細かなやや軟質土である。

出土遺物

425は口縁部が屈曲し、短く外反する。文様はやや太めの沈線により描かれ、胴部最大径のあたりにアーチ状のモチーフを多重に描き、線の始点と終点を一部入り組ませる。VIIb類と考えられる。内外面は丁寧なナデ仕上げで、器壁が薄く精緻な作りである。

S162は砂岩製の磨・敲石Va類である。正面・裏面を研磨する。断面形は直角三角形である。上面には平坦面を有し、下面側は敲き潰れる。S163は花崗岩製の石皿Ia類である。上半を欠く。やや縦長の形態であると推測され、中央に浅い凹みを形成し、その真下に掻き出し口をつくる。

集石46号（第164図）

分類：タイプI

検出状況

SS46は、E-9区のIVb層で検出された。

規模

構成繩数は7個であった。繩は、長軸0.57m、短軸0.25mの範囲に散繩状に広がる。構成繩は凝灰岩、安山岩、砂岩、頁岩、ホルンフェルスである。数点が被熱している。掘り込みは確認されなかった。埋土の特徴については不明である。

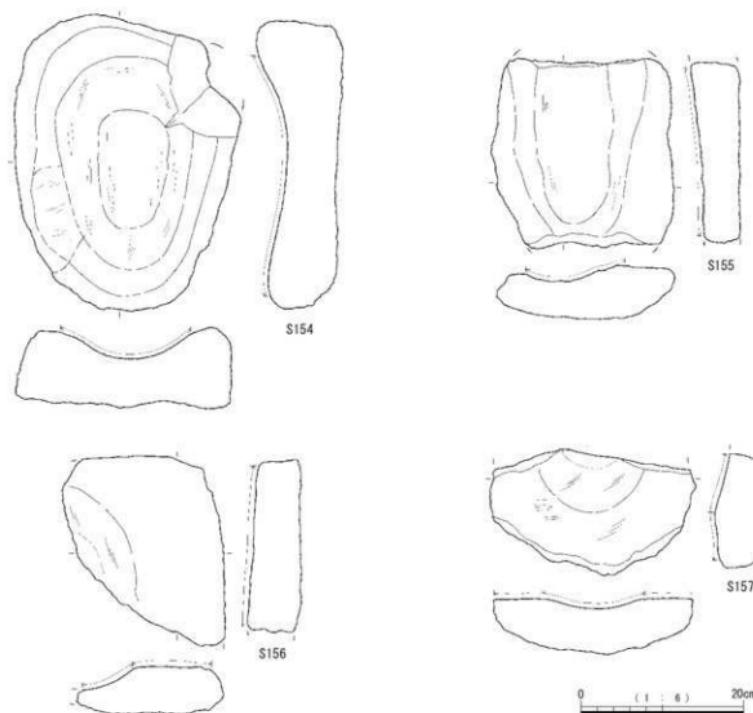
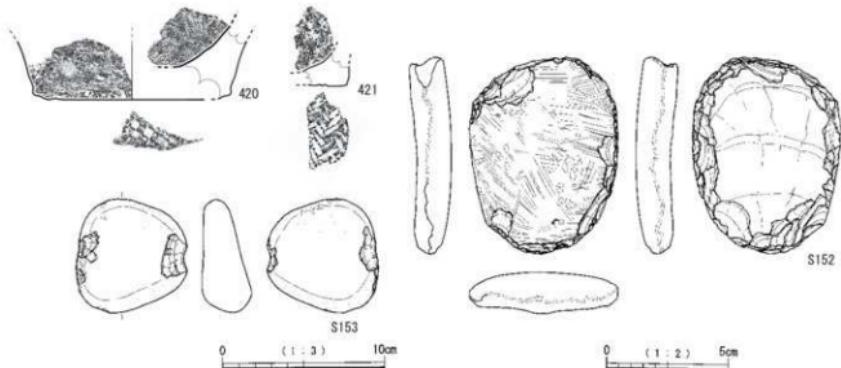
出土遺物

426は深鉢の口縁部で外面最上位に貝殻腹縁刺突を巡らせ、胴部に沈線文を施す。VIIc類と考えられる。

S S 4 1



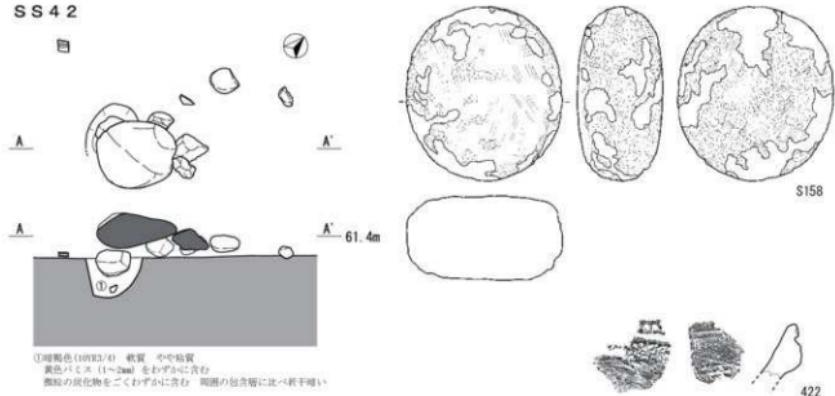
第159図 集石41号



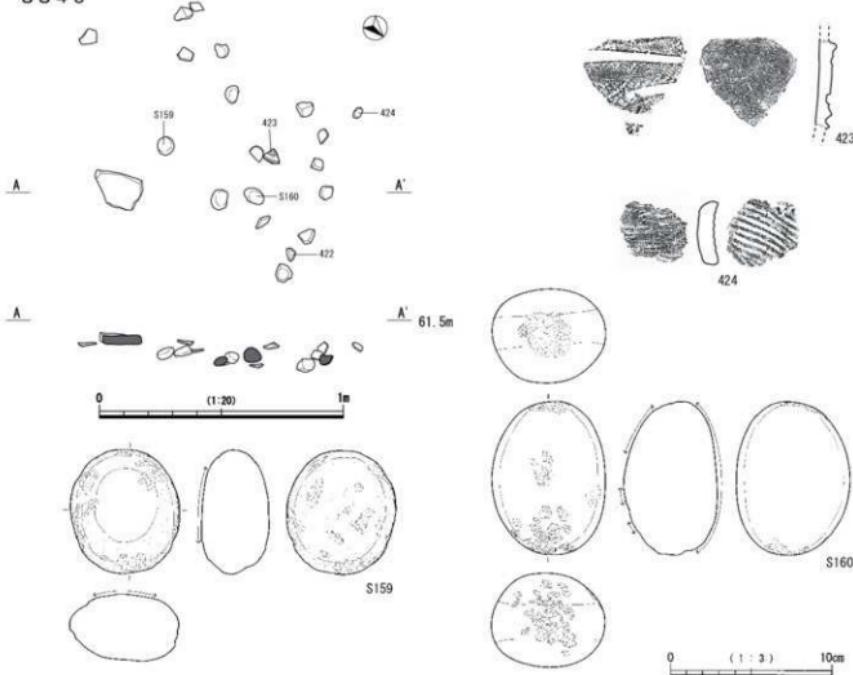
第160図 集石41号出土遺物

SS 42

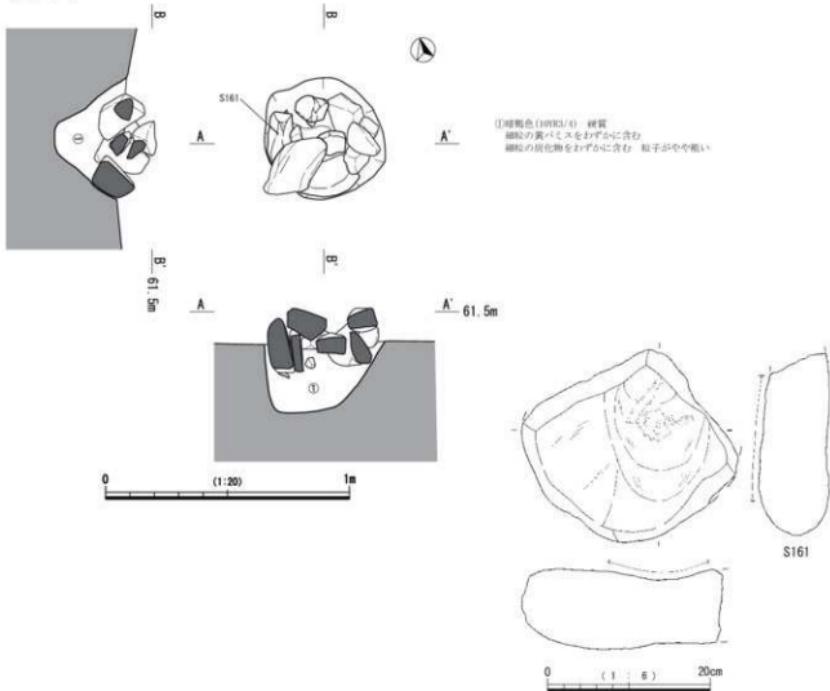
図



SS 43



第161図 集石42・43号と出土遺物



第162図 集石44号と出土遺物

集石47号（第164図）

分類：タイプIII

検出状況

SS47は、F-9区のIVa層で検出された。

規模

構成礫数は31個であった。やや大型の亜円礫や角礫が、掘り込みをほぼ充填する状態で、長軸0.80m、短軸0.67mの範囲にまとまって検出された。礫の断面形状からは石皿片等の石器類を含む可能性も考えられる。掘り込みの深さは、検出面から10cmで、浅い皿状の形状である。石材は、安山岩、砂岩、凝灰岩、頁岩、花崗岩である。数点の礫が被熱していた。埋土の特徴については不明である。

集石48号（第165・166図）

分類：タイプIV

検出状況

SS48は、B-10区のIVb層で検出された。

石皿や礫の検出状況から石皿配石の可能性がある。

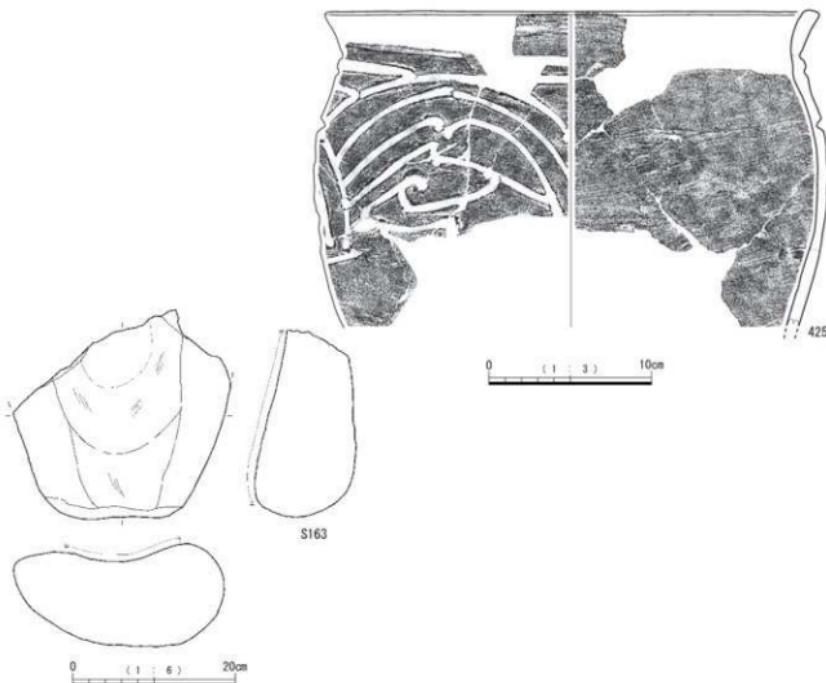
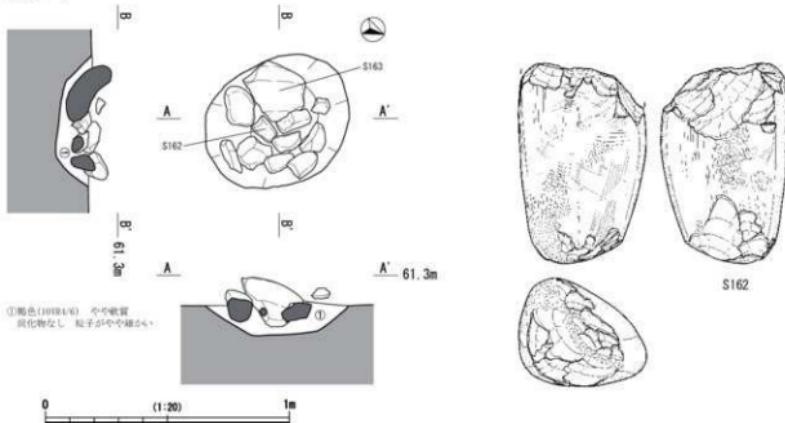
規模

構成礫数は23個で、1個平均の重さが1,942g、総量が44,668gであった。礫は、長軸2.00m、短軸1.29mの範囲に広がる。北東に、検出面からの深さが15cm程の不定型な円形状の掘り込みが検出された。石皿片などが充填される。掘り込みの西側と南側にも散礫状に広がって検出された状況である。礫は安山岩、凝灰岩、頁岩、砂岩、花崗岩が出土する。埋土は暗褐色で炭化物を含む粒子の細かい軟質土である。バミス類は含まれない。

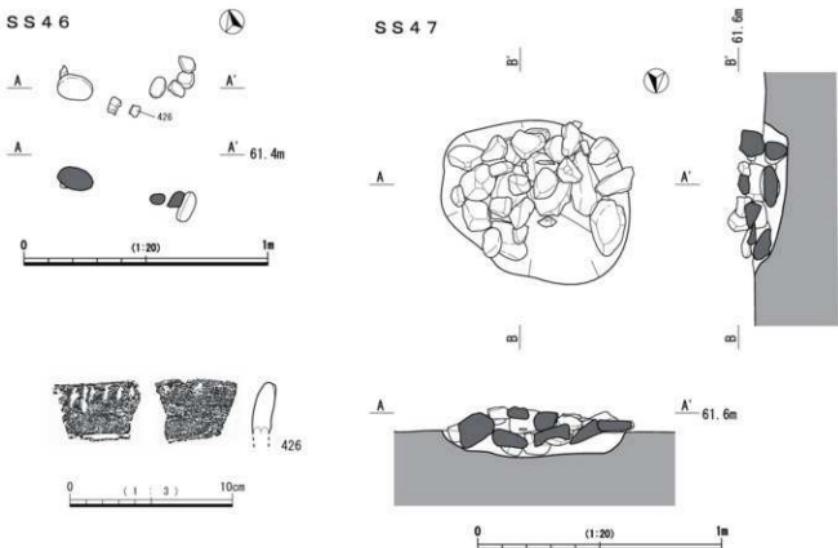
出土遺物

427・428は胎土や調整の特徴から同一個体の深鉢片であると判断した。胴部～口縁部が直線的な印象のプロポーションであると推測される。平坦口縁で、やや内傾

SS 45



第163図 集石45号と出土遺物



第164図 集石46・47号と集石46号出土遺物

する口唇部平坦面に、沈線を貝殻腹縫刺突による文様帯を有する。口縫端部の稜は緩い。胴部の内外面を貝殻条痕によって調整する。IXa類と考えられる。

S164は、砂岩製の磨・敲石IIa類である。表裏面および周縁部にに顕著な擦痕が確認されよく使用される。S165は花崗岩製の石皿Ia類である。上部を欠く。中央に浅い凹みを形成する。

集石49号（第167図）

分類：タイプIII

検出状況

SS49は、B-10区のIVb層で検出された。

規模

構成礫数は13個であった。大型の角礫を中心とした礫が、掘り込みの中部分の長軸0.56m、短軸0.50mの範囲にまとまって検出された。掘り込みの深さは、検出面から8cmでレンズ状の形状である。石材は、安山岩、凝灰岩、頁岩で、土器も出土した。埋土は暗褐色で炭化物を含む粒子の細かい軟質土である。

出土遺物

429は底部片で底面の網代痕をナデ消す。白色付着物がみられる。

集石50号（第167図）

分類：タイプII

検出状況

SS50は、B-10区のIVb層で検出された。

規模

構成礫数は10個であった。大型の礫が長軸0.58m、短軸0.25mの範囲で、ほぼ南北の軸に沿い、縱長にまとめて検出された。SS50の北側が深く落ち込む。石材は、安山岩、凝灰岩、頁岩で、土器片も出土した。数点に被熱の跡痕が見える。掘り込みや炭化物は確認されなかった。

出土遺物

430は網代痕が残る底部片である。断面にも煤が付着する。

集石51号（第167図）

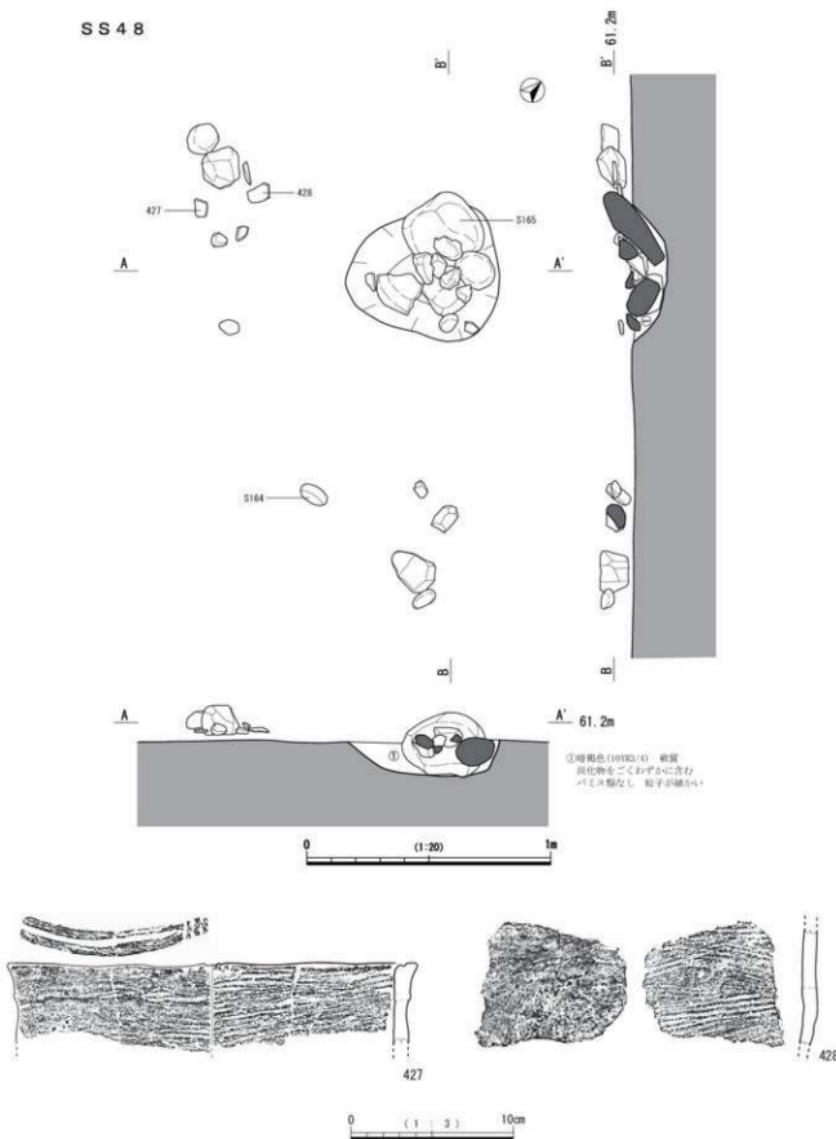
分類：タイプI

検出状況

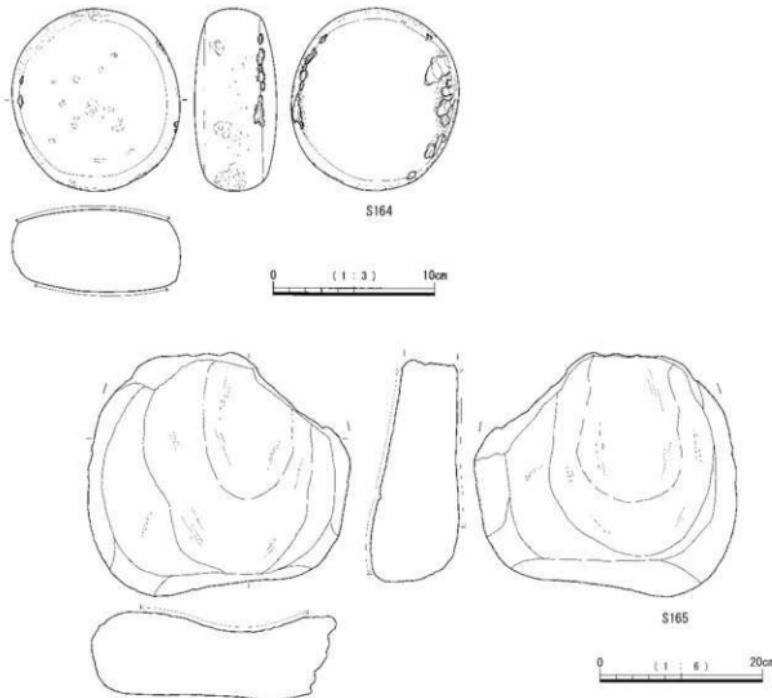
SS51は、C-10区のIVb層で検出された。

規模

構成礫数は4個で、1個平均の重さが399g、総量が1,594gであった。礫は、長軸0.34m、短軸0.18mの範



第165図 集石48号と出土遺物（1）



第166図 集石48号出土遺物（2）

間にまとめて検出された。石材は、安山岩、頁岩で、数点に被熱の痕跡が認められた。土器が混在する。掘り込みや炭化物は確認されなかった。

集石52号（第167図）

分類：タイプⅢ

検出状況

SS52は、C-10区のIVb層で検出された。

規模

構成要素数は15個であった。砾は、長軸0.67m、短軸0.57mの範囲で掘り込みの北側の上層に偏って検出された。中央部から検出された最も大型の砾は底面着である。掘り込みの深さは検出面から8cmで、浅い皿状の形状である。石材は、頁岩、安山岩、凝灰岩、ホルンフェルスで、数点に被熱の痕跡が覗えた。土器片も含まれる。埋土は暗褐色で白バミスや炭化物を含む粒子のやや細かい砂質

土である。

出土遺物

431は深鉢の胴部を用いた円盤状土製加工品である。

集石53号（第168図）

分類：タイプⅡ

検出状況

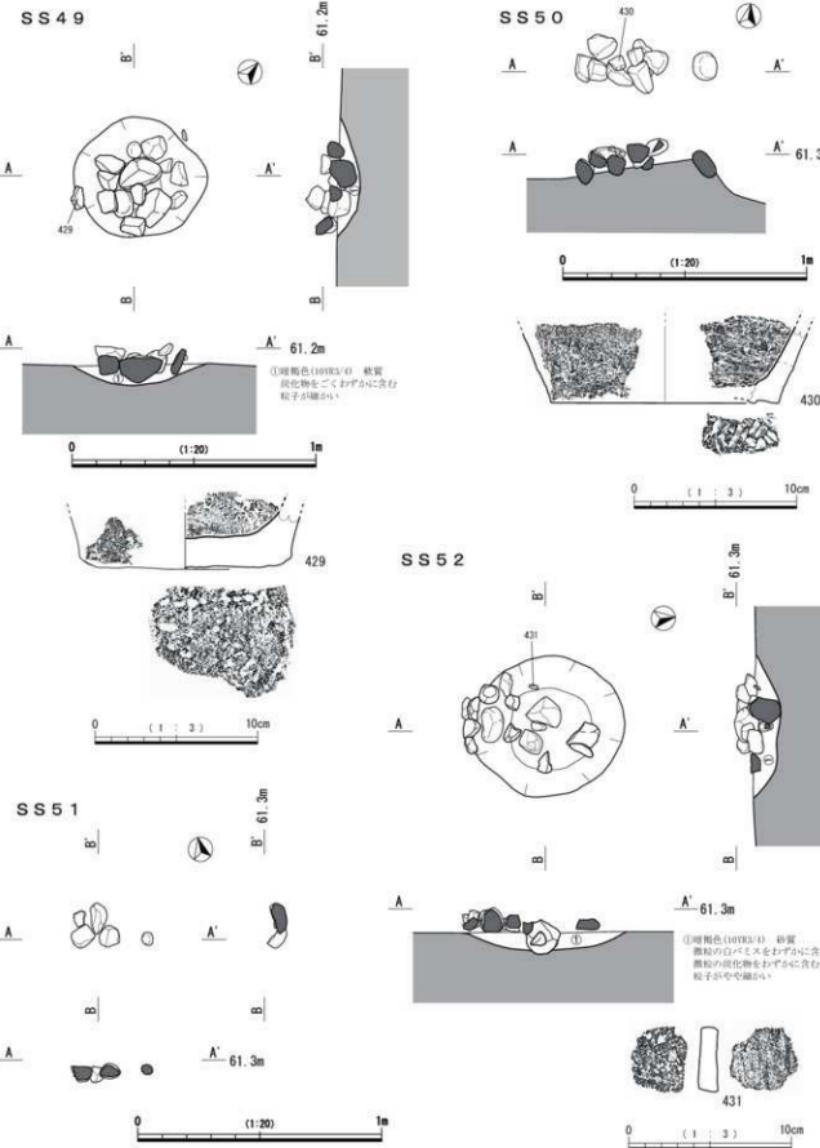
SS53は、C-10区のIVa層で検出された。

規模

構成要素数は5個で、1個平均の重さが347g、総量が1,736gであった。砾は、長軸0.25m、短軸0.17mの範囲にまとまり検出された。石材は、安山岩、砂岩、ホルンフェルスが混在し、掘り込みは確認されなかった。

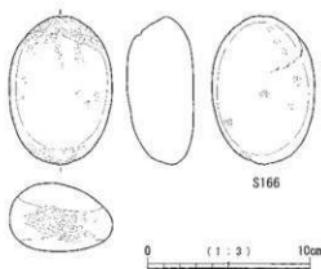
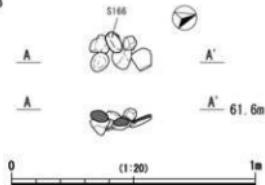
出土遺物

S166は安山岩B類製の磨・敲石I類である。主に正面の上部と下面を敲打に使用する。

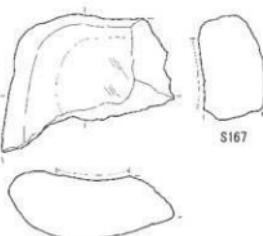
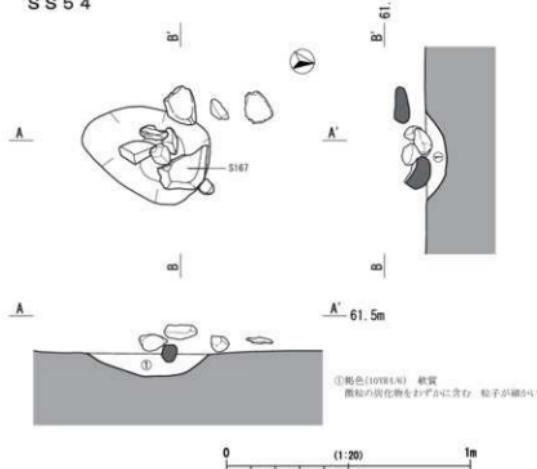


第167図 集石49~52号と集石49・50・52号出土遺物

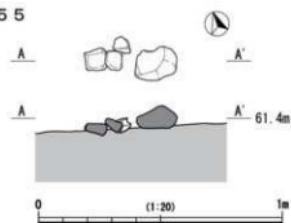
SS 53



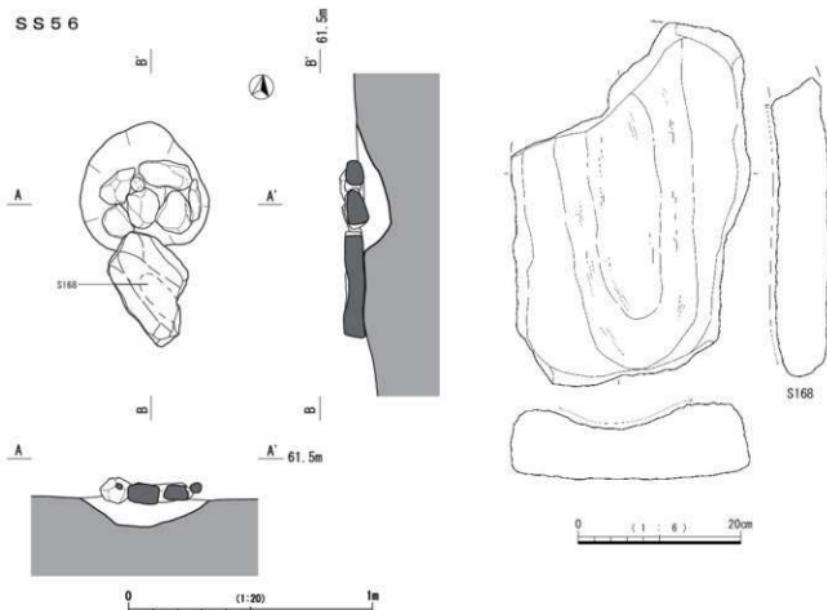
SS 54



SS 55



第168図 集石53~55号と集石53・54号出土遺物



第169図 集石56号と出土遺物

集石54号（第168図）

分類：タイプIII

検出状況

SS54は、C-10区のIVb層で検出された。

規模

構成礫数は9個であった。礫は、長軸0.79m、短軸0.48mの範囲に広がる。掘り込みの埋土上層に石皿片を含む構成礫の多くがまとまって検出された。掘り込みの深さは、検出面から深さ8cmである。石材は、凝灰岩、花崗岩が出土する。埋土は褐色で炭化物を含む粒子の細かい軟質土である。

出土遺物

S167は、凝灰岩製の石皿のVI類である。下面と右側を欠く。中央付近に浅い凹みを有すると推測される。残存部が少なくVI類としたが上面右側の残存状況から形態はIII類のように方形を呈した可能性もある。

集石55号（第168図）

分類：タイプI

検出状況

SS55は、C-10区のIVb層で検出された。

規模

構成礫数は4個で、1個平均の重さが866g、総量が3,464gであった。礫は、長軸0.37m、短軸0.18mの範囲に広がる。石材は、安山岩、花崗岩が混在し、掘り込みは確認されなかった。

集石56号（第169図）

分類：タイプIII

検出状況

SS56は、C-10区のIVb層で検出された。

石皿や礫の検出状況から石皿配石の可能性がある。

規模

構成礫数は7個であった。礫は、長軸0.93m、短軸0.52mの範囲に広がる。掘り込みの深さは、検出面から深さ13cmである。礫は掘り込み中央部分の埋土上層にまとまって検出された。また、掘り込みの南側に大きさはみ出す状況。且つ使用面を上に向かた倒位の状況で石皿が

出土した。石材は、安山岩、頁岩、凝灰岩、花崗岩である。埋土の特徴については不明である。

出土遺物

S168は、花崗岩製の石皿Ⅲ類である。左上を欠き、板状に薄い形態で、方形を呈すると推測される。中央に浅い凹みを形成する。

集石57号（第170図）

分類：タイプII

検出状況

SS57は、C-10区のIVb層で検出された。

規 模

構成疊数は7個で、1個平均の重さが372g、総量が2,601gであった。疊は、長軸0.29m、短軸0.24mの範囲にまとまって検出された。掘り込みは確認されなかつた。中心が空き、疊がサークル状に組まれた配石炉の可能性も考えられる。石材は、凝灰岩、頁岩、花崗岩が混在し、数点にわざかな被熱の痕跡が覗えた。周辺で微粒炭化物が確認されたが、集石に伴うものかは不明である。

集石58号（第170図）

分類：タイプII

検出状況

SS58は、C-10区のIVb層で検出された。

規 模

構成疊数は5個であった。疊は、長軸0.25m、短軸0.24mの範囲にまとまって検出された。石材は、花崗岩、頁岩が混在し、約半数の疊に被熱の痕跡が覗えた。掘り込みは確認されなかつた。

集石59号（第170図）

分類：タイプI

検出状況

SS59は、C-10区のIVb層で検出された。

規 模

構成疊数は9個で、1個平均の重さが1,448g、総量が13,028gであった。疊は、長軸0.85m、短軸0.68mの範囲に散疊状に広がる。石材は、安山岩、ホルンフェルス、砂岩、凝灰岩、頁岩、花崗岩が混在し、掘り込みや炭化物は確認されなかつた。

出土遺物

432は口縁部で緩い波状を呈すると推測される。口縁部形態と文様の特徴から疊a類と考えられる。

S169は、砂岩製の磨・敲石IIb類である。扁平な大型の疊を使用し、主に正面中央と下面を敲打に使用する。裏面に弱い磨面を形成する。被熱による赤色化が顕著である。検出面に対し、直立して出土した。配置された可能性も考えられる。

集石60号（第171図）

分類：タイプIII

検出状況

SS60は、D-10区のIVb層で検出された。

石皿や疊などの検出状況から石皿配石の可能性がある。

規 模

構成疊数は34個で、1個平均の重さが1,142g、総量が38,828gであった。構成疊は石器を含む大型のものを主体とし掘り込みを充填する状況で、長軸0.88m、短軸0.88mの範囲にまとまって検出された。掘り込みの深さは、検出面から17cmの浅い皿状の形態である。石材は、砂岩、頁岩、凝灰岩、花崗岩、軽石が出土しており、数点が被熱していた。ほかに土器片も含まれたが小片のため固形には至らなかった。埋土は暗褐色で黄・白バミズや炭化物を含むやや粒子の粗い軟質土である。

出土遺物

S170は、花崗岩製の石皿Ia類である。上半分程度を欠く。中央に浅い凹みを形成し、その真下に搔き出し口を有する。S171は、大型の軽石加工品である。掘り込み中央の底面から裏面を上に向けた倒位の状態で出土した。正面は面取りによる平坦面を形成し深く凹ませ、裏面にも浅い凹みを形成する。3片に割れ、割れ口にも擦られた痕跡が覗える。裏面に赤色顔料が付着する可能性がある。正面・裏面の凹みは滑らかではなく、磨面あるいは砥面として使用されたものか、その他の用途のために形成されたものかは不明である。

集石61号（第172図）

分類：タイプII

検出状況

SS61は、E-10区のIVb層で検出された。

規 模

構成疊数は13個で、1個平均の重さが171g、総量が2,219gであった。構成疊は小形の角疊を主体とし、長軸0.43m、短軸0.37mの範囲にまとめて検出された。石材は、砂岩、頁岩、凝灰岩、花崗岩、軽石が混在し、掘り込みは確認されなかつた。

集石62号（第172図）

分類：タイプIII

検出状況

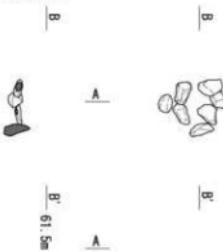
SS62は、C-11区のIV層で検出された。

石皿や疊などの検出状況から、石皿片を再利用した配石炉の可能性がある。

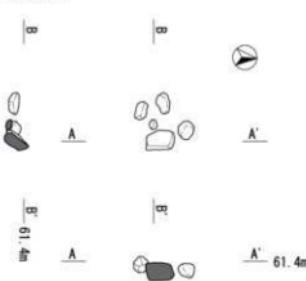
規 模

構成疊数は25個で、1個平均の重さが1,187g、総量が29,684gであった。疊は掘り込みを充填する状況で、長軸0.64m、短軸0.55mの範囲に広がる。大形の疊を床

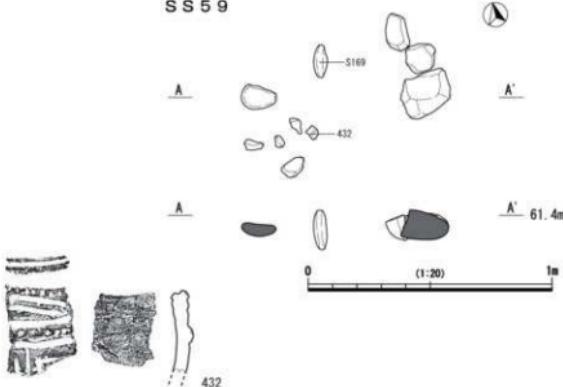
SS 57



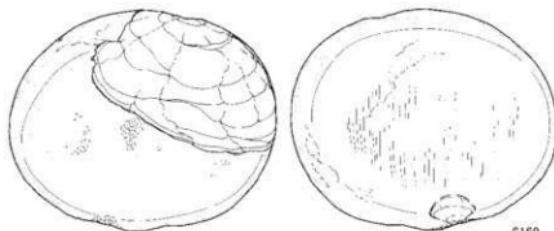
SS 58



SS 59

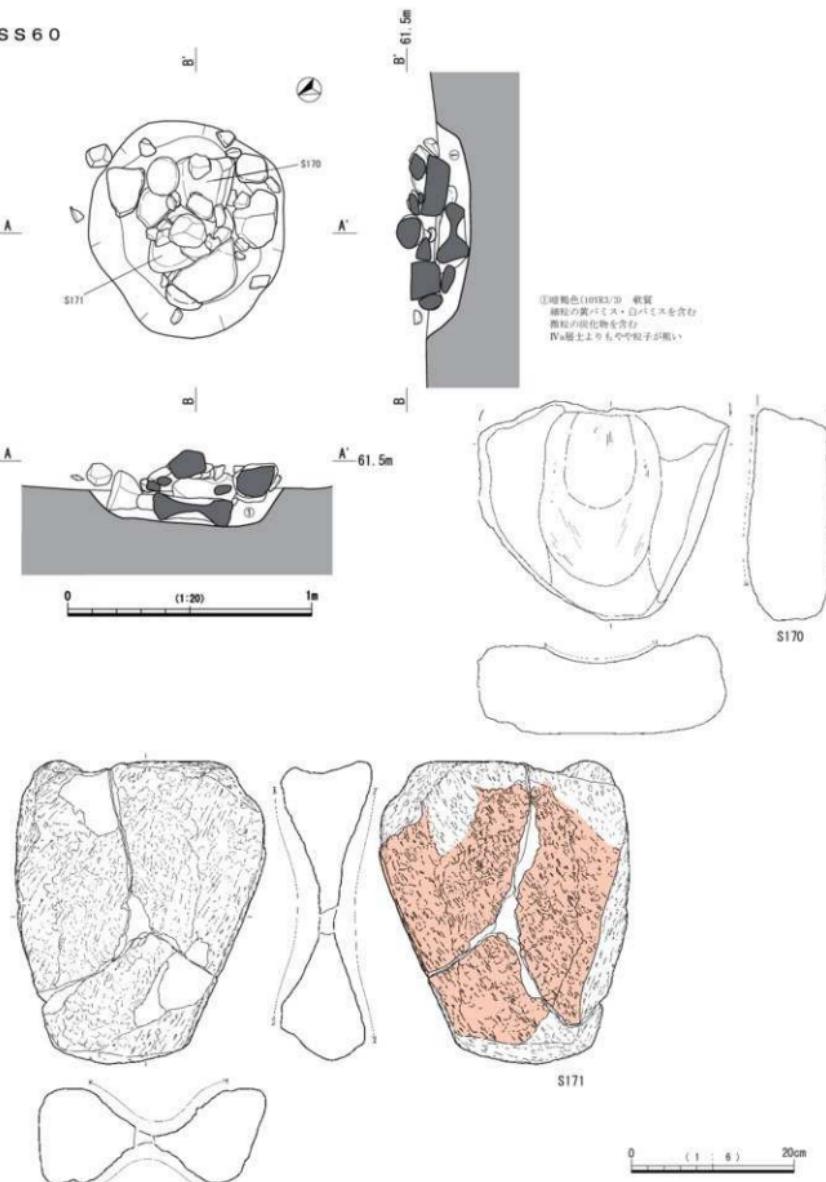


0 (1:20) 1m



0 (1:3) 10cm

第170図 集石57~59号と集石59号出土遺物



第171図 集石60号と出土遺物

に敷き詰めたような状態であった。掘り込みの深さは検出面から10cmで、レンズ状の形状である。石材は、頁岩、凝灰岩、安山岩、砂岩、ホルンフェルスである。埋土は黒褐色で、炭化物を含む軟質の火山灰質土である。黄・白バミスが周囲の包含層より少ない。

出土遺物

S172は、砂岩製の石皿IV類（台石）である。正面の平坦な使用面に発達した磨面をもつ。全面が被熱により赤色化する。上面・右面・裏面の破断面は被熱によるものと推測される。

集石63号（第172図）

分類：タイプⅢ

検出状況

SS63は、C-11区のVI層で検出された。

規 模

構成礫数は6個で、1個平均の重さが2,192g、総量が13,149gであった。構成礫は大型のものを主体とし、掘り込みの立ち上がり面に放射状に沿わせた状態で、長軸0.55m、短軸0.54mの範囲にまとまって検出された。掘り込みの深さは、検出面から12cmで浅い皿状の形状である。中心に隙間があり、配石炉の可能性がある。石材は、花崗岩、安山岩、凝灰岩である。埋土の特徴については不明である。

石皿や礫などの検出状況から、石皿片を再利用した配石炉の可能性がある。

出土遺物

S173は凝灰岩製の石皿II類で、右半分を欠く。中央に浅い凹みを形成し、凹みの中央に敲打痕が確認できる。

集石64号（第173図）

分類：タイプⅢ

検出状況

SS64は、C-11区のVI層で検出された。

石皿や礫などの検出状況から、石皿片を再利用した配石炉の可能性がある。

規 模

構成礫数は10個で、1個平均の重さが412g、総量が4,119gであった。礫の検出状況はSS63と類似する。長軸0.80m、短軸0.65mの掘り込みの範囲内にまとめて検出された。掘り込みの深さは、検出面から10cmの浅い皿状の形態で、配石炉の可能性がある。石材は、安山岩、ホルンフェルス、頁岩である。埋土の特徴については不明である。

出土遺物

S174は、砂岩製の砥石である。方形で、六面全面に砥面を有する。裏面の剥離面には敲打痕や擦痕がみられる。石皿片を破損後も再利用したものである可能性も考えら

れる。S175は、安山岩B類製の石皿片で、残存部が少なく形状が判断できないことから、VI類とした。正面に皿状、裏面に緩い凸面状の使用面がある。正面には敲打により整形した痕跡がみられる。

集石65号（第174図）

分類：タイプⅢ

検出状況

SS65は、C-11区のVI層で検出された。

規 模

構成礫数は33個で、1個平均の重さが786g、総量が25,939gであった。礫は掘り込みの中に、長軸0.66m、短軸0.59mの範囲にまとまって検出された。掘り込みの深さは、検出面から14cmのレンズ状の形状である。石材は、安山岩、砂岩、頁岩、凝灰岩、ホルンフェルスである。礫は掘り込みの底面からはわずかに浮いた状況で出土している。埋土は黒褐色で炭化物を含む軟質の砂質土である。周辺のⅦ層に比べてバミス類をほとんど含まない。石皿や礫などの検出状況から、石皿片を再利用した配石炉の可能性がある。

出土遺物

S176は砂岩製の磨・敲石Ⅱa類である。完形で石鎧形を呈する。煤がわずかに付着し、被熱による変色も確認される。S177は、砂岩製の砥石である。砥面は正面は全面的に浅く凹み、裏面には幅6cm程の「U」の字状の深い溝状に形成され、いずれも自然面との境界の稜が明瞭である。磨製斧刃を磨いた痕跡である可能性も考えられる。被熱による赤色化が顕著に認められる。S178は、凝灰岩製の石皿II類である。表面の中央部分が磨耗面で、ごく浅く凹む。裏面は緩い凸面状で、擦痕や敲打痕がみられる。

集石66号（第175図）

分類：タイプⅢ

検出状況

SS66は、D-11区のVI層で検出された。

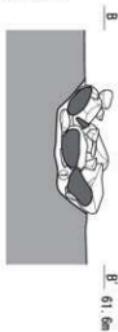
規 模

構成礫数は10個で、1個平均の重さが1,326g、総量が13,264gであった。礫は、長軸0.62m、短軸0.53mの範囲に広がり、殆どが掘り込みの上面からまとまって検出された。掘り込みの北側にも数個が流れたような状況である。掘り込みの深さは、検出面から深さ8cmで、浅い皿状の形態である。石材は、安山岩、砂岩、花崗岩である。SS63やSS64と構成礫の特徴や検出状況が共通し、配石炉の可能性がある。埋土は黒褐色で白・黄バミスを含む粒子細かい軟質土である。

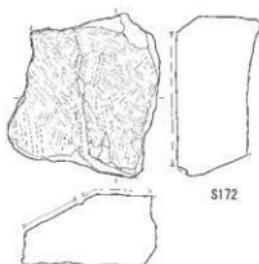
SS 61



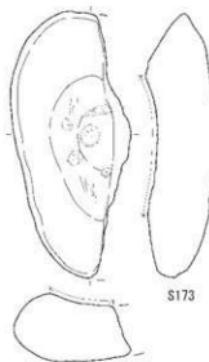
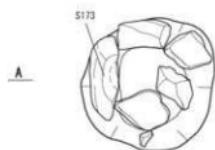
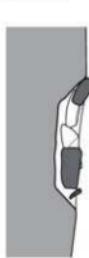
SS 62



①黒褐色(7.5YR1/2) 枯葉 火山灰質
黒短の炭化物わずかに含む
黄バニス・白バニスが鉄の包合層より多い



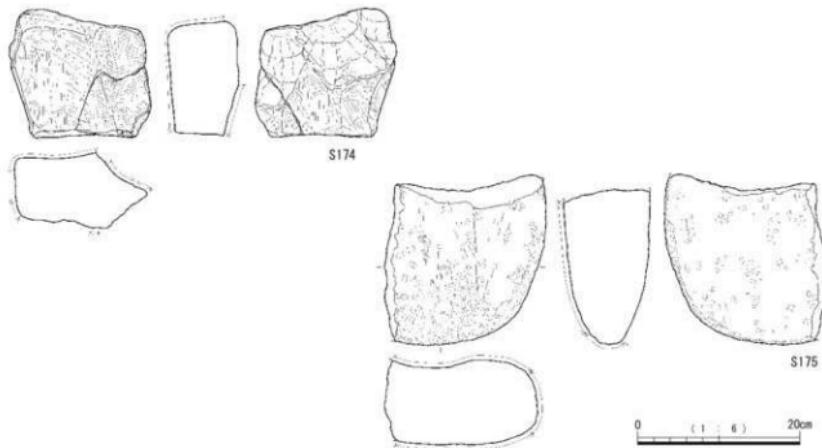
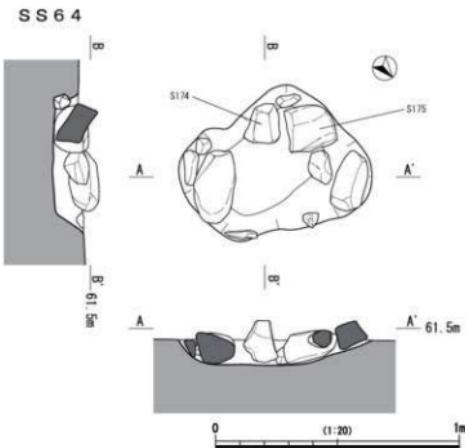
SS 63



0 (1:20) 1m

0 (1:6) 20cm

第172図 集石61~63号と集石62・63号出土遺物



第173図 集石64号と出土遺物

集石67号（第175図）

分類：タイプII

検出状況

SS67は、B-12区のIVa層で検出された。

規 模

構成砾数は9個で、1個平均の重さが980g、総量が8,820gであった。砾は、長軸0.55m、短軸0.38mの範

間にまとまって検出された。石材は、安山岩、砂岩、頁岩である。掘り込みは確認されなかった。

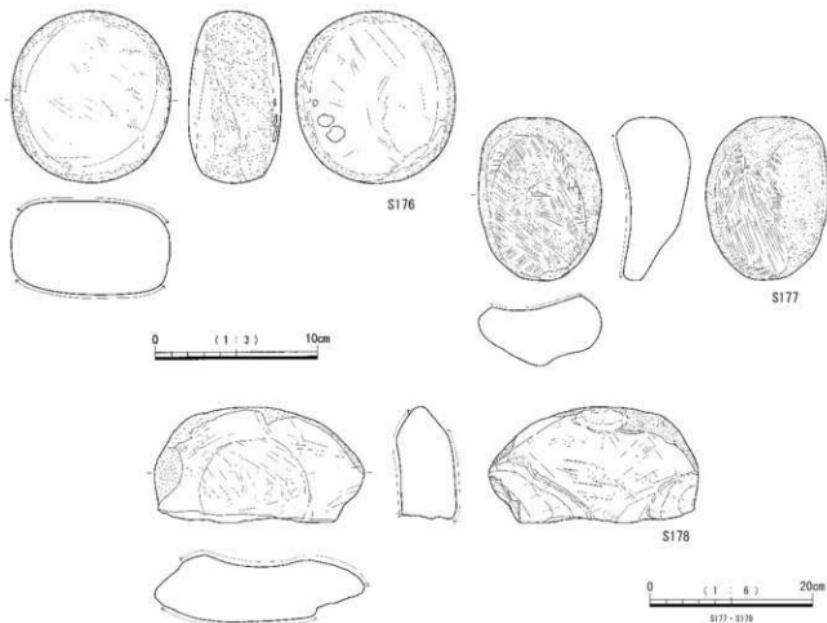
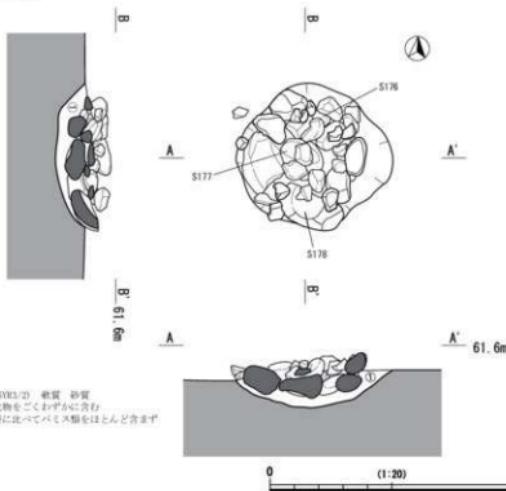
集石68号（第175図）

分類：タイプII

検出状況

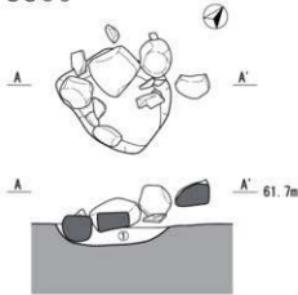
SS68は、C-12区のIVa層で検出された。

S S 65



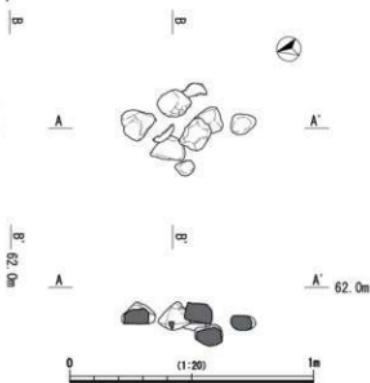
第174図 集石65号と出土遺物

SS 66

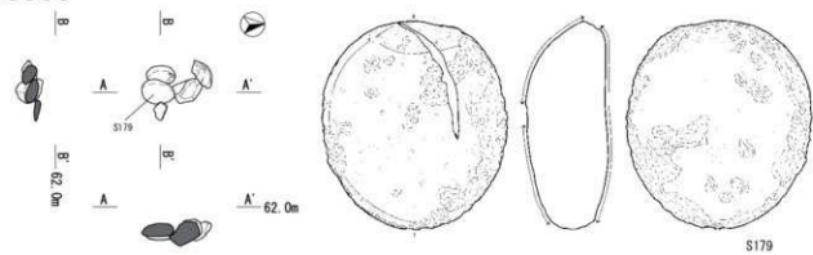


①黒褐色(7.5YR3/2) 粘質
細粒の白バニスをこくわづかに含む
細粒の黄バニスを含む。手が滑らか。

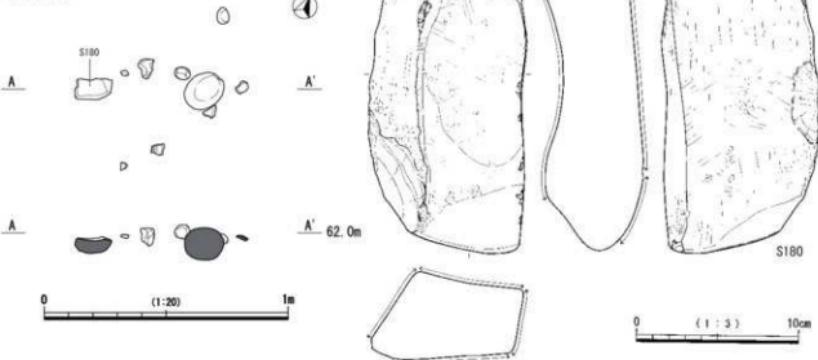
SS 67



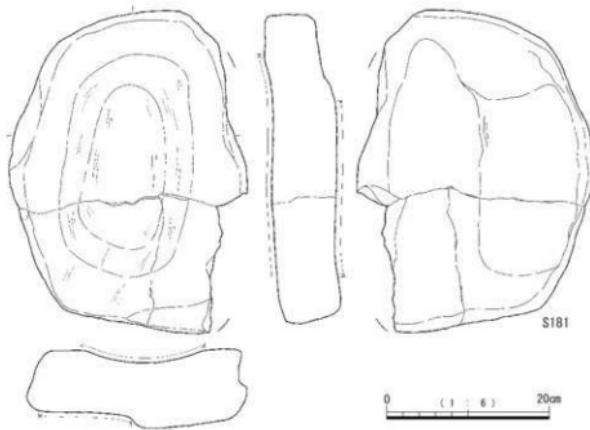
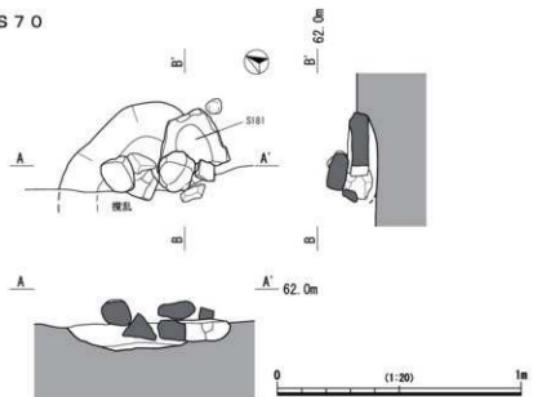
SS 68



SS 69



第175図 集石66~69号と集石68・69号出土遺物



第176図 集石70号と出土遺物

規 模

構成礫数は5個で、1個平均の重さが816g、総量が4,080gであった。礫は、長軸0.30m、短軸0.25mの範囲にまとまって検出された。石材は、安山岩、砂岩、頁岩、花崗岩、ホルンフェルスが混在し、掘り込みは確認されなかった。

出土遺物

S179は、花崗岩製の磨・敲石Ⅲa類である。周縁を中心には打痕がみられ、裏面には凹状に浅い凹みを形成し、よく使用されている。被熱の痕跡が認められる。

集石69号（第175図）

分 類：タイプI

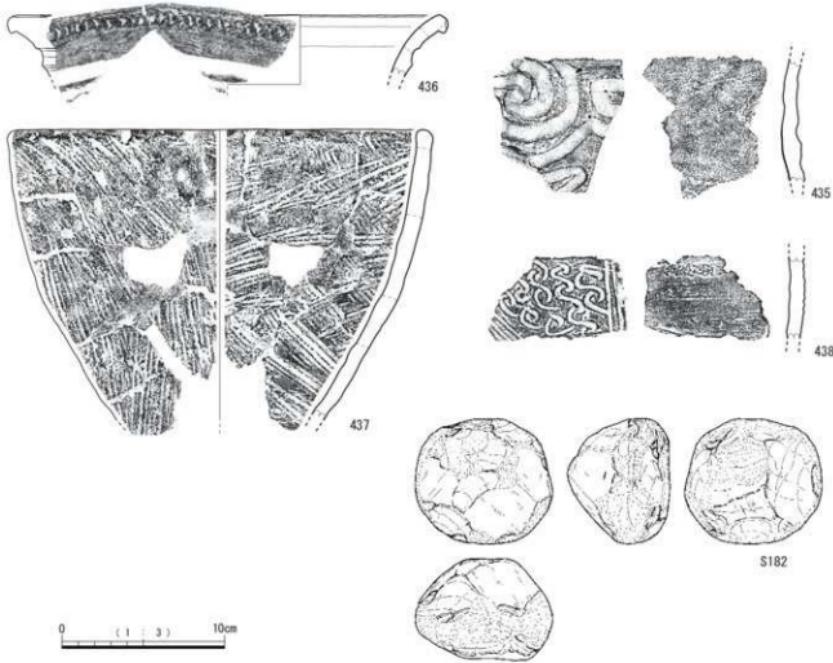
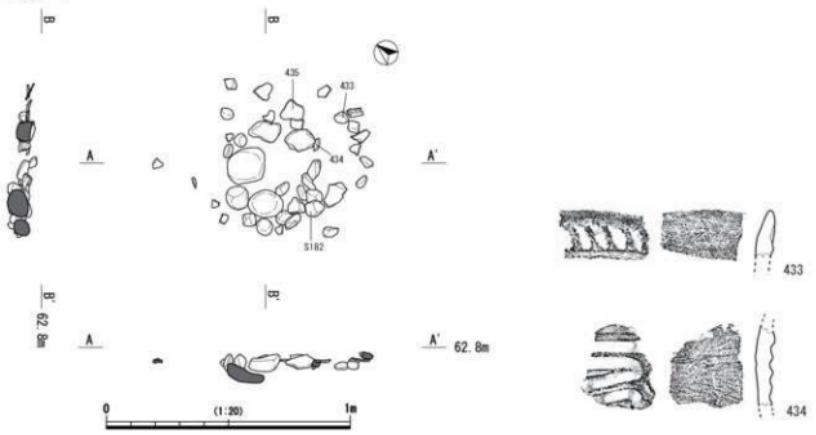
検出状況

SS69は、C-12区のIVa層で検出された。

規 模

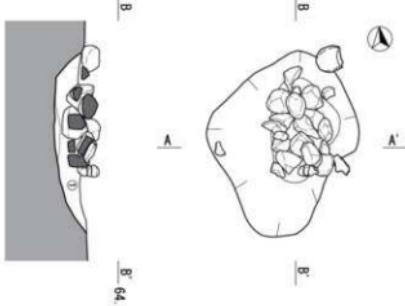
構成礫数は6個で、1個平均の重さが1,213g、総量が7,280gであった。礫は、長軸0.71m、短軸0.67mの範囲に散在状で広がる。石材は安山岩、砂岩、凝灰岩、花崗岩で、少數に被熱の痕跡が認められた。掘り込みは確認されなかった。

SS71



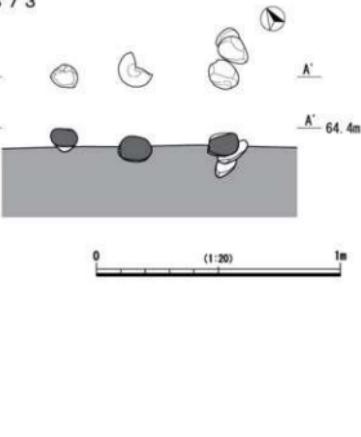
第177図 集石71号と出土遺物

SS72



①明褐色 (7.0fB5.0)
基本的にはV層 (アカヤマ火成)
周辺よりも若干赤みが強い。
焼化物なし。

SS73



第178図 集石72・73号

出土遺物

S180は、砂岩製の砥石である。被熱の痕跡が顕著に認められる。上面は破断後にも使用される。

集石70号（第176図）

分類：タイプIII

検出状況

SS70は、D-12区のIVb層で検出された。

規模

構成礫数は8個で、1個平均の重さが2,360g、総量が18,876gであった。礫は掘り込みの東側の長軸0.70m、短軸0.43mの範囲にまとまる。掘り込みの深さは、検出面から10cmである。南西側を搅乱によって削平される。石材は、安山岩、花崗岩、ホルンフェルスが出土しており、大半が被熱していた。埋土は2枚であるが、いずれも特徴は不明である。

石皿や礫の出土状況から石皿片を再利用した配石炉の可能性がある。

出土遺物

S181は、安山岩B類製の石皿IV類（台石）である。右側をわずかに欠く。正面中央に浅い凹みを形成し、裏面にも小さな磨面が形成される。なお、SS70から出土した上半分の破片と集石18号から出土した下半分2個の破片が接合し、接合した状態で図化している。

集石71号（第177図）

分類：タイプII

検出状況

SS71は、C-14区のIVb層で検出された。

規模

構成礫数は29個で、1個平均の重さが93g、総量が2,687gであった。礫は、長軸0.90m、短軸0.64mの範囲にサークル状に広がる。石材は、安山岩、砂岩、凝灰岩、頁岩、花崗岩が混在し、数点が被熱していた。また同じ範囲から、土器片も多数出土した。掘り込みは確認されなかった。

出土遺物

433~435は胎土、文様、調整の特徴から同一個体と判断した。口縁部はごくわずかに外反し、外面最上位に貝殻腹縁刺突文を連続させる。胴部外面には指頭による曲線文を描き、渦巻き状のモチーフが確認できる。内外面はナデ調整である。Vlc類としたが、Va類の範疇である可能性も考えられる。436は大きく開く形態の口縁部で、平坦口縁と推測される。口縁部は丸く成形される。口縁部最上位にやや下垂する細い突帯を貼り付け、突帯上には貝殻腹縁刺突による刻目を巡らせる。口縁部直下に太い四線文を施す。Vlc類と考えられる。437は平坦口縁で、底部に向かって急にすぼまる砕弾状のプロボーションである。内外面に粗い条痕を施す。胎土の特徴から繩文時代後期前半の土器と判断したが、それよりもやや古い形

態である可能性もある。438は胴部片で、細い沈線によって「S」字状のモチーフを斜位に連続させる。線の始点と終点を入り組ませる。**Va**類に多くみられる意匠である。

S182は、砂岩製の磨・敲石**IIIb**類である。自然縁の形状を活かして磨敲に多用し、多面体を呈する。傷状の敲打痕が隨所に確認され、石器の製作に使用された可能性も考えられる。

集石72号（第178図）

分類：タイプⅢ

検出状況

SS72は、E-21区のIVb層で検出された。まとまりがあり、掘り込みを有する。

規模

構成要素数は29個で、1個平均の重さが325g、総量が9,430gであった。礫は、掘り込みの最深部上層の長軸0.79m、短軸0.62mの範囲にまとまって検出された。掘り込みの深さは、検出面から12cmである。石材は、安山岩、砂岩、凝灰岩、頁岩で、約半数が被熱していた。埋土は明褐色で基本層はV層のアカホヤ火山灰である。周辺よりも若干赤みが強い。炭化物はみられなかった。

集石73号（第178図）

分類：タイプⅠ

検出状況

SS73は、D・E-28区のIVb層で検出された。

規模

構成要素数は5個である。礫は、長軸0.81m、短軸0.25mの範囲に散り南側に3個が重層的に検出される。石材は、安山岩、凝灰岩が出土した。掘り込みは確認されなかつた。

出土遺物

磨石5点が出土したが、固化に至らなかつた。磨石を集積した可能性もある。

（4）土器集中及び埋設土器（第179～206図）

織文時代後期前半の土器集中は17か所、埋設土器が3か所検出された。土器集中1号～10号と埋設土器1号、3号は、調査区西端の崖際近くに位置し、このエリアからは堅穴建物跡などの遺構が集中して検出されている。土器集中13号～17号と埋設土器2号は15区～17区の調査区中央に位置し、このエリアからは堅穴建物跡2基と土坑が数基散見される。包含層から出土した土器とも分布域が重なる（第39～44図）。

繰り返し述べるが、後世の攪乱により層堆積の状況が不安定な箇所もあるため、遺構内遺物により帰属時期を推定している。土器集中及び埋設土器については、分類を行っていない。

土器集中1号（第179図）

検出状況

DKS1は、B-3区のIVb層で検出された。

規模

土器は長軸0.80cm、短軸0.56cmの範囲にまとまって出土した。土器集中の西側に440の底部が出土しており、さらに東側にかけて440の胴部の破片が散乱した状態で検出された。ただし別個体の破片も混じる。

出土遺物

439は深鉢の口縁部片である。器壁は薄手で内渦気味に立ち上がる。口縁部上位に細沈線による矩形の文様を粗く描き、横位に連続させる。焼成は硬質で、内面を調整する横位の貝殻条痕のストロークは長い。**Vb**類と考えられる。440は中型の深鉢で、ほぼ完形に復元できた。胴部はあまり張らず、底部に向かってすぼまる器形である。口縁部は内渦気味に立ち上がり、「く」の字状に明瞭に屈曲させて、平坦な口唇部を形成する。口縁部上面には平行沈線文を巡らせ波頂部上面に多条の沈線を縱位に施す。口唇部の4か所を対角線状に外側に大きく張り出させる。口唇部はやや内傾し、口縁端部に平坦面を形成し、貝殻腹縁による刻目を施す。胴部上位に指頭による不規則的な曲線文を薄く描く。平底で、底面は網代痕をナデ消す。**Ika**類と考えられる。441は胴部で、縦位の平行沈線文の一部が確認できる。442は底部片で接地面近くに明瞭なくびれを形成する。割り裂き材を使用した網代底の痕跡が明瞭に残る。

土器集中2号（第180・181図）

検出状況

DKS2は、C-3区のIVb層で検出された。

規模

土器は長軸1.45cm、短軸1.17cmの範囲に広がる。

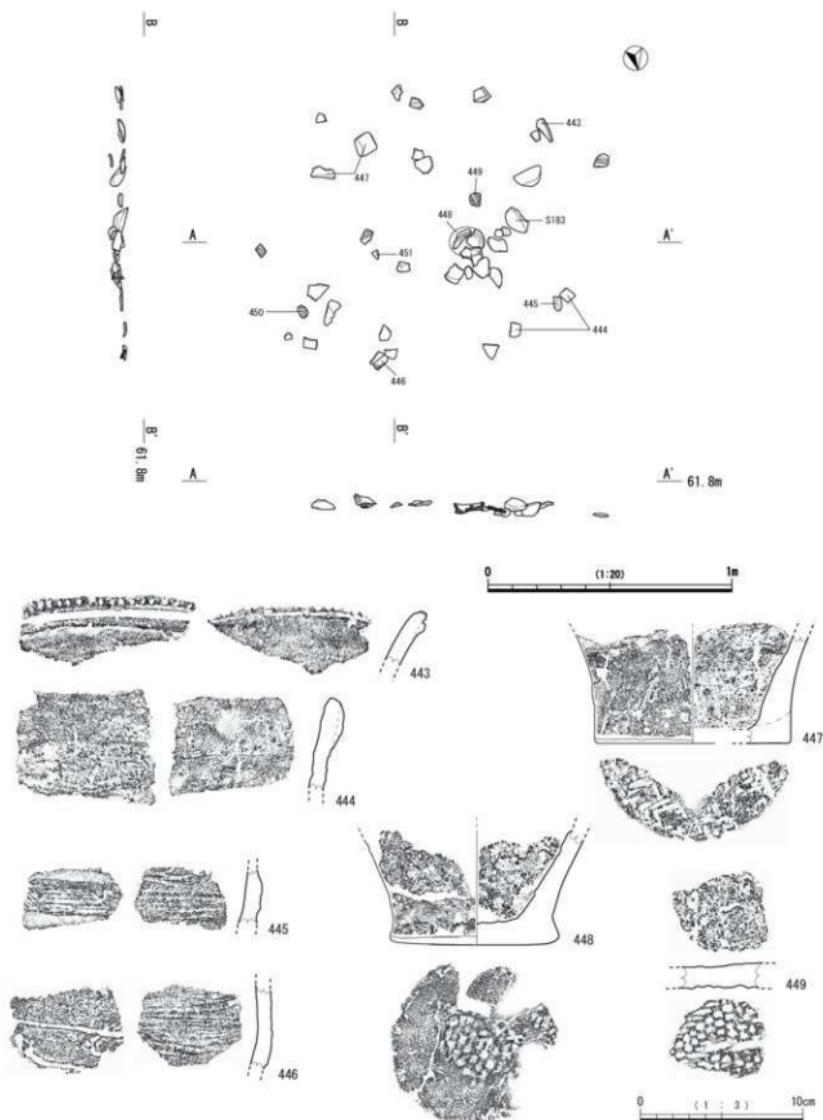
出土遺物

443・444は口縁部片で、口縁部の外面に肥厚帯を形成する。443は肥厚帯に凹線を巡らせ口唇部に棒状工具による連続刺突を施し、口縁端部内側のやや下がった位置に沈線を巡らせる。ともに**Va**類と考えられる。445・446は胴部片で、445は指頭による凹線が描かれ外面に条痕を残す。**Vb**類と考えられる。446は棒状工具による細い沈線文が描かれ、線の始点を深く刺突する。**Vn**類と考えられる。447・448は底面に網代痕が残る底部である。447は半分が残存し、底面中央の粘土が剥落する。448は接地面近くでくびれを形成する。底面の外周をナデて網代を消し、底面には円形状に網代痕を残す。447・448は輪状に設置させたバーツを作り、胴部の粘土を積み上げ、その後面を調整し、後から丸い板状のバーツを充填した製作の工程がわかる資料である。449は底面中央が剥落したもので、底面に網代痕を残す。450・451は胴部片

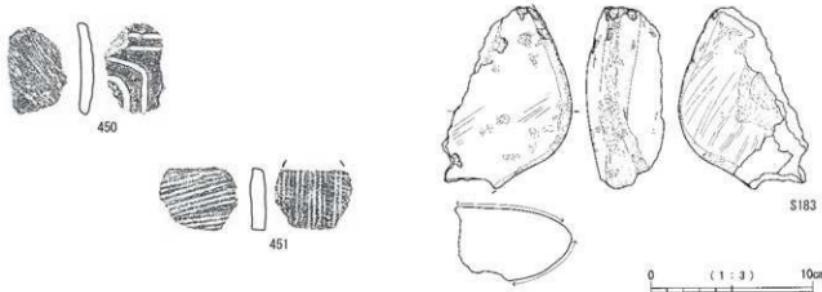
DKS 1



第179図 土器集中 1号と出土遺物



第180図 土器集中2号と出土遺物（1）



第181図 土器集中2号出土遺物（2）

を使用した円盤状土製加工品である。450は梢円状の形態で、縞類の特徴をもつ平行沈線文を描き、451は円形で、内外面に貝殻条痕を残す。

S183は安山岩B類製の磨・敲石I類である。側面と裏面中央が敲打に多用され、裏面中央部に浅いくぼみを有する。被熱が確認される。上部を欠き、破面の角も敲打に使用される。

土器集中3号（第182・183図）

検出状況

DKS 2は、D-3区のIVb層で検出された。

規 模

土器は長軸2.52m、短軸1.95mの範囲に広がる。数箇所にまとまりを持った状況で出土した。

出土遺物

452・453は深鉢片で、文様・胎土の特徴から同一個体と判断した。口唇部平坦面をやや内傾させ、細い沈線を巡らせる。口縁部直下と脣部には間隔の狭い平行沈線間に貝殻腹縁刺突文を連続させた文様帶を数条巡らせるとして推測される。454は口縁部がすさまりながら立ち上がり、口縁端部を小さく外反させる。脣曲部には連点文を巡らせる。外面には平行凹線による文様を描く。縞a類と考えられる。455・457は平坦口縁を呈し、口縁部外面を肥厚させる。口縁部・口唇部・脣部上位を施文するタイプで、縞a類と考えられる。455・456は形態や文様の特徴が共通する。復元径や、胎土の違いから別個体と判断した。大小の規格で同時期につくられた遺物の可能性もある。457は455・456より細い工具により施文される。斜位の平行沈線文を大胆に描き主体として文様を展開させると推測される。458は波状口縁を呈する。口唇部を肥厚させて波頂部上面に凹凸をつくり装飾する。口縁部文様帶下部を薄い突帯により区画する。脣部には矩形と曲線状のモチーフの一部が確認できる。波頂部裏にも施文

される。縞a類と考えられる。459・460は文様の特徴から縞類土器の脣部片と考えられ、ともに大型であることが推測される。461・462は底部片である。462は低い高台を有し、高台前面の付け根を指頭によって強くナデ付ける。463は縞類の深鉢の口縁部に装飾された橋把手である。外面にはV字状の文様を連続させ、いちばん上位に逆「C」の字状のモチーフを描く。文様の沈線間に赤色顔料が微量付着する。

土器集中4号（第185図）

検出状況

DKS 4は、D-3区のIVb層で検出された。

規 模

土器は長軸0.90m、短軸0.58mの範囲にまとまりをもって出土した。まとまりの中央部分に隙間がある。

出土遺物

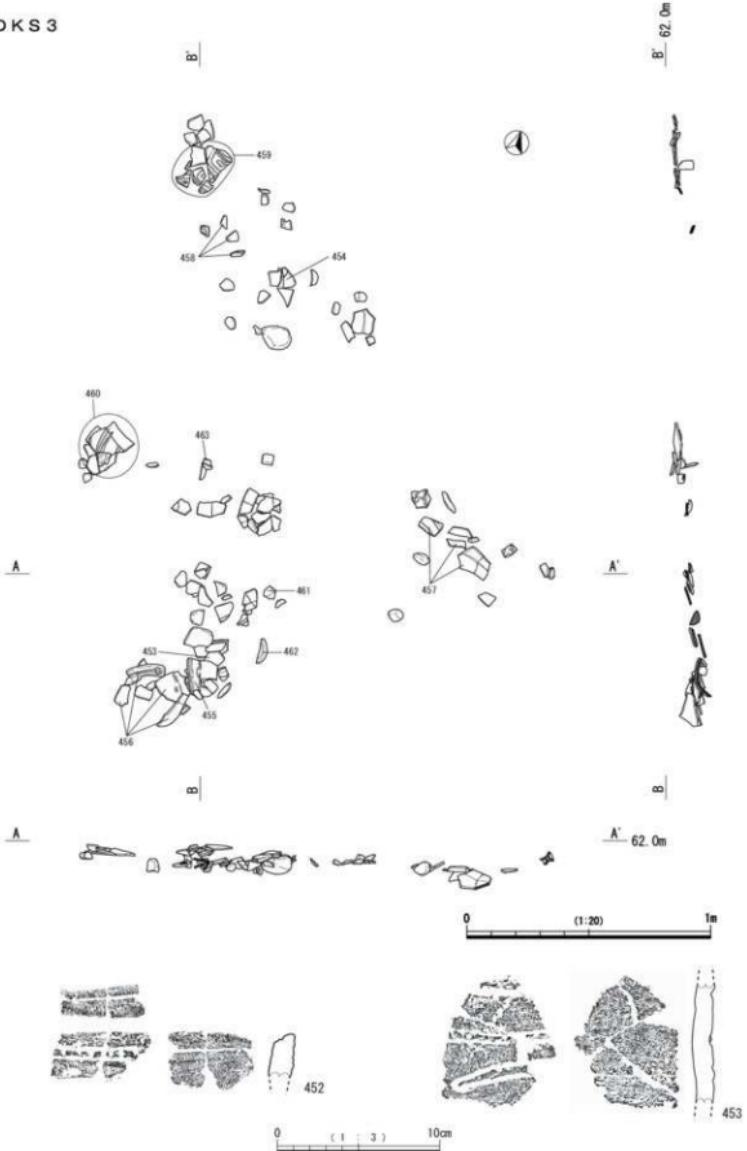
464は口縁部を含む上脣部片で、平坦口縁と推測され、頭部で大きく開く。やや丸みを帯びた脣部に、間隔の狭い横位の平行沈線文を数条施す。線の始点ないし終点を直線でつなぐ。頭部脣曲部に渦巻き状のモチーフの一部が残存し、渦巻きの直下に多条の縦位の沈線が脣部下位まで描かれることが推測される。縞a類と推測される。内面上部に種子圧痕が残る。465は緩い波状口縁を呈する。口縁部を大きく外反させ、その内側に凹線・貝殻腹縁刺突・棒状工具による円形刺突を組み合わせた幅広い文様帶を形成する。波頂部を外側に大きく張り出させる。脣部は無文で、緩く張り出す丸みを帯びた器形である。縞a類と考えられる。466は脣部片を使用した円盤状土製加工品である。

土器集中5号（第186図）

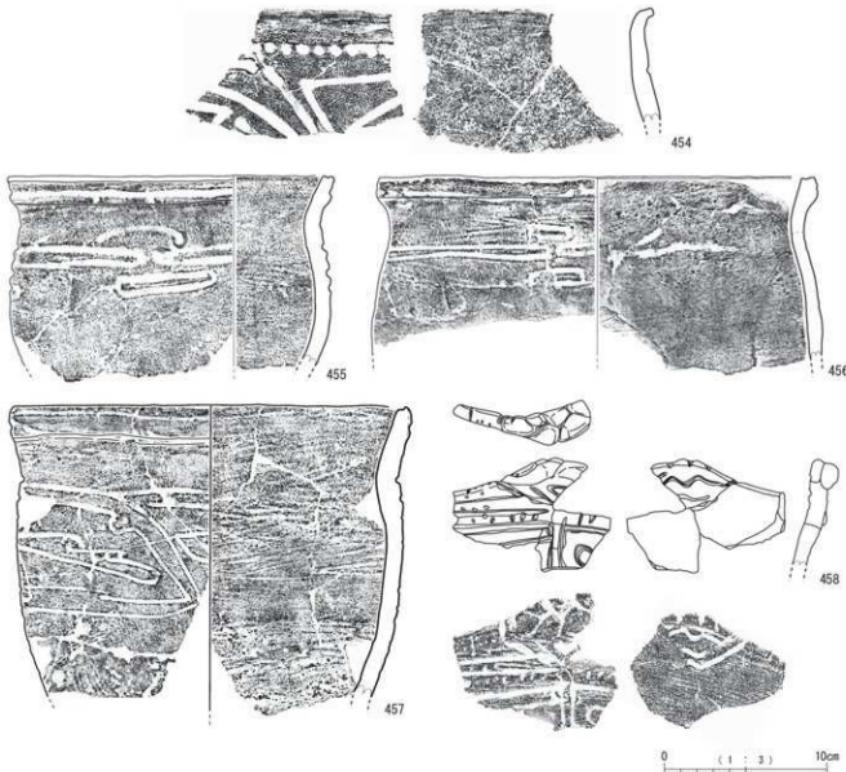
検出状況

DKS 5は、D-3区のIVb層で検出された。

D K S 3



第182図 土器集中3号と出土遺物（1）



第183図 土器集中3号出土遺物（2）

規 模

土器は長軸0.62m、短軸0.43mの範囲に、一個体（467）がまとまって出土し、やや離れてS184が出土した。

出土遺物

467は大型の深鉢で、平坦口縁である。口縁部はわずかに外反し、口縁端部は少し内側に張り出す。口唇部に装飾の痕跡がある。胴部～底部にかけて直線的にすぼまる器形である。胴部上位には、凹線間に斜位の貝殻腹縁刺突文を施した平行沈線による幾何学文を横位に連続させると推測される。凹線の一部を結節させる。底面には網代痕が残る。内外面に貝殻条痕を残す。VIIb類と考えられる。胎土の色調はやや灰色がかって青みがあり焼成は比較的に硬質である。胎土に金色の雲母を含まないことから搬入品の可能性もある。

S184は安山岩B類製の磨・敲石I類である。全面的に少量の煤が付着する。

土器集中6号（第187図）

検出状況

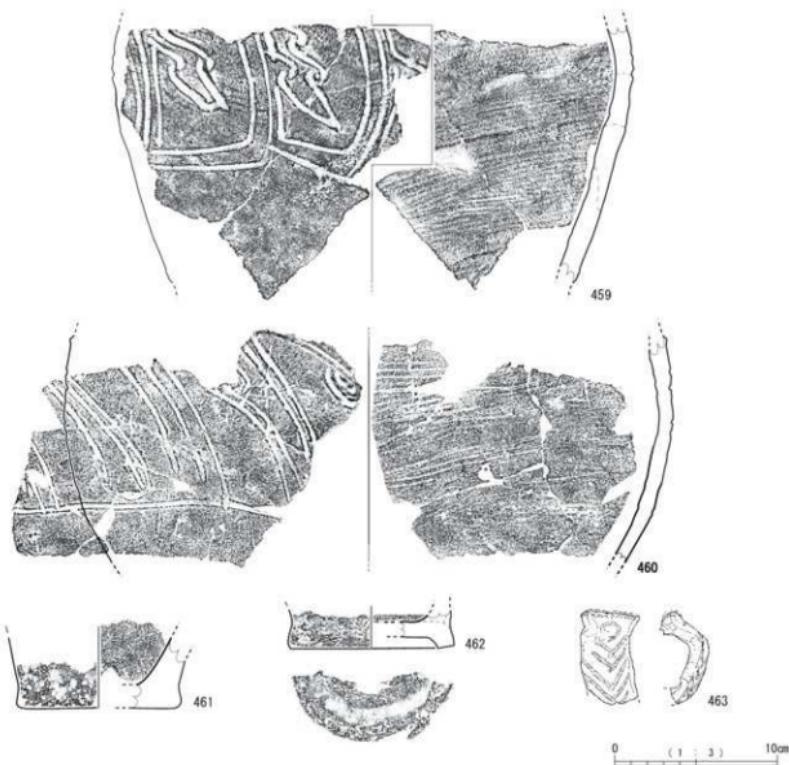
DKS 6は、D-3区のIVb層で検出された。

規 模

土器は長軸0.25m、短軸0.21mの範囲に、ほぼ1個体が固まって検出された。

出土遺物

468・469は器面の調整や胎土の特徴から同一個体の可能性をもつ深鉢である。口縁部は直線的に立ち上がる。胴部は張り出さず、底部に向かい直線的にすぼまる。口縁部外面に横位の4条の凹線が施され、内外面に貝殻条



第184図 土器集中3号出土遺物（3）

痕により調整する。Vlb類と考えられる。

土器集中7号（第187図）

検出状況

DKS 7は、C-4区のIVb層で検出された。

規 模

土器は長軸0.34m、短軸0.29mの範囲にほぼ1個体の破片が検出された。

出土遺物

470は口縁部を含む深鉢の胴部片である。平坦口縁で、やや長脣気味の形態であると推測される。文様は口縁上端に指頭による押圧を、その下に指頭による縦位の刺突を、更にその下にフリル状の窪みと蛇行する沈線を巡らせる。内外面を貝殻条痕により調整する。Via類と考えられる。

470の付着炭化物の放射性炭素年代測定は、3911±27yrBP、曆年校正で2473-2334calBC（確率89.6%）という結果が出ている。

土器集中8号（第188図）

検出状況

DKS 8は、D-4区のIVb層で検出された。

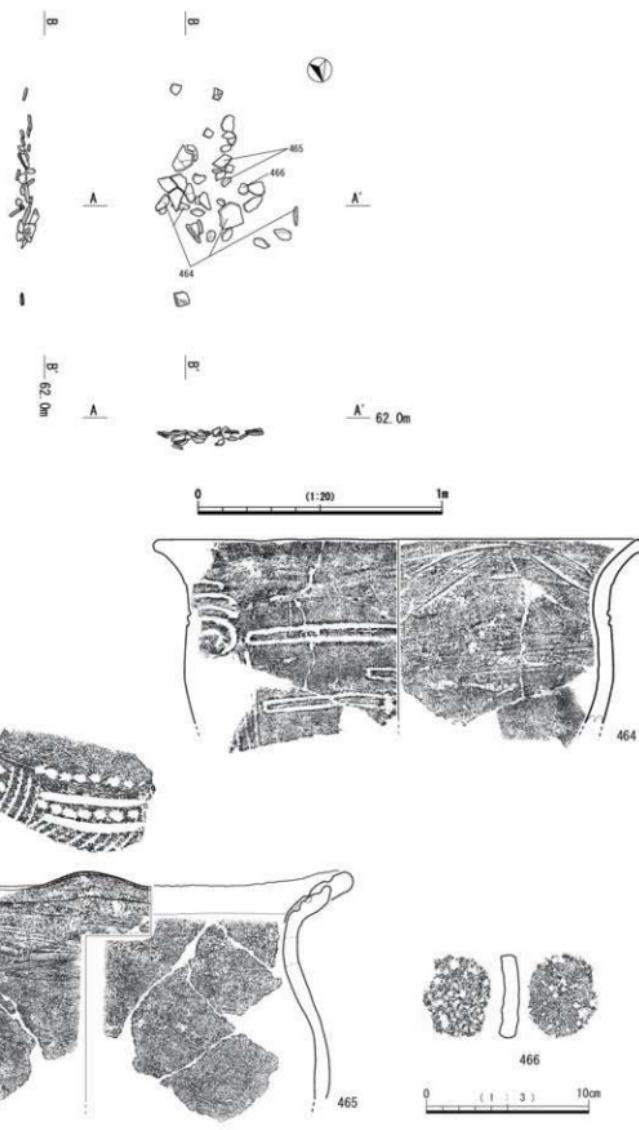
規 模

土器は長軸1.90m、短軸0.30mの範囲に4か所にまとまって検出される。

出土遺物

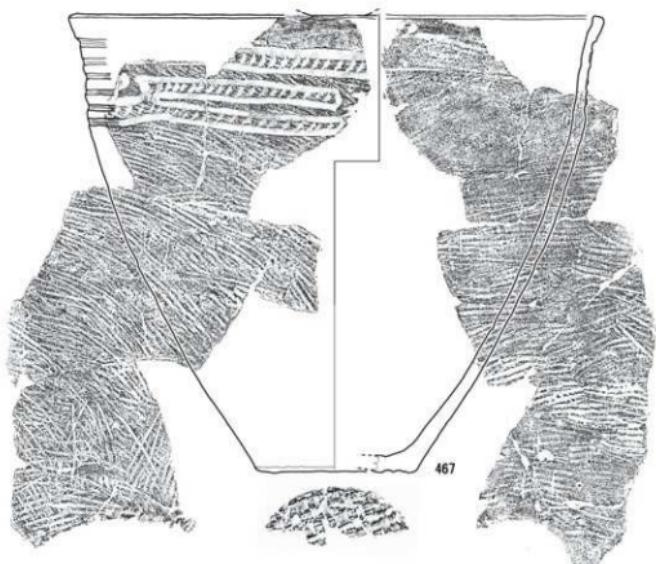
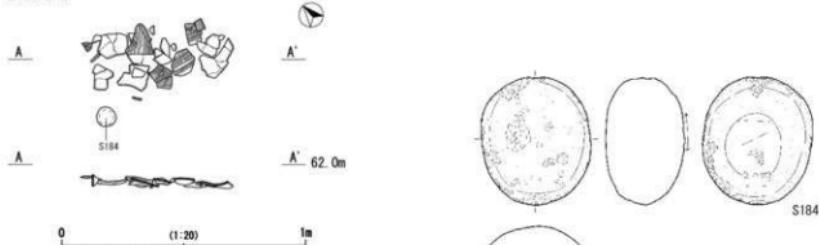
472-474は口縁部を含む上胴部片である。3点とも口縁部が内湾気味に立ち上がり、底部に向かってやや急な

D K S 4



第185図 土器集中4号と出土遺物

DKS 5



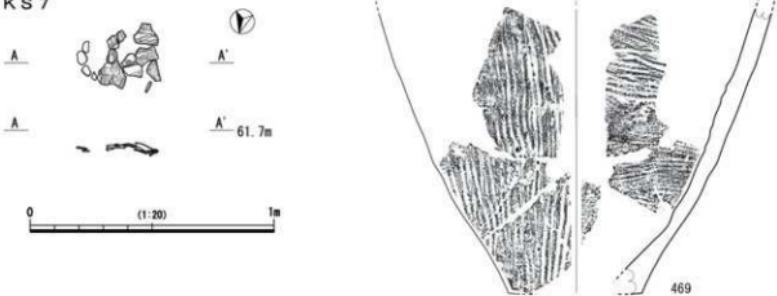
0 (1:3) 10cm

第186図 土器集中5号と出土遺物

D K S 6



D K S 7

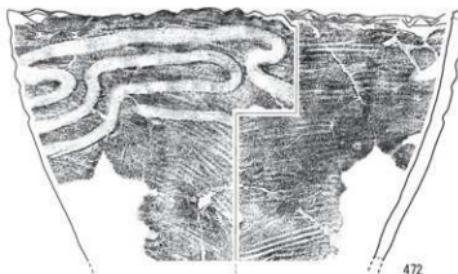
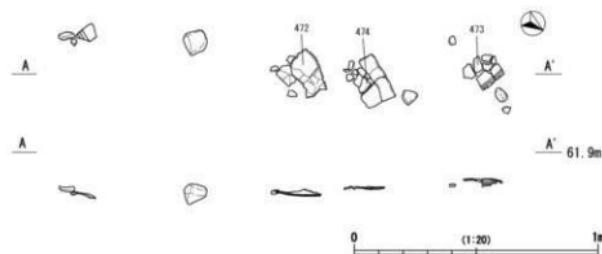


年代測定 2473-2334 cal BC

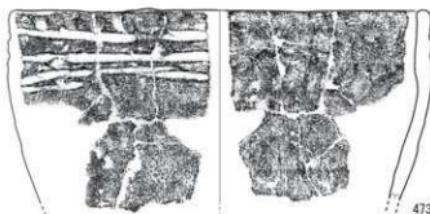


第187図 土器集中6・7号と出土遺物

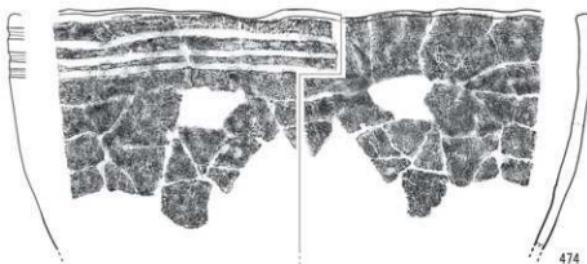
D K S 8



472



473



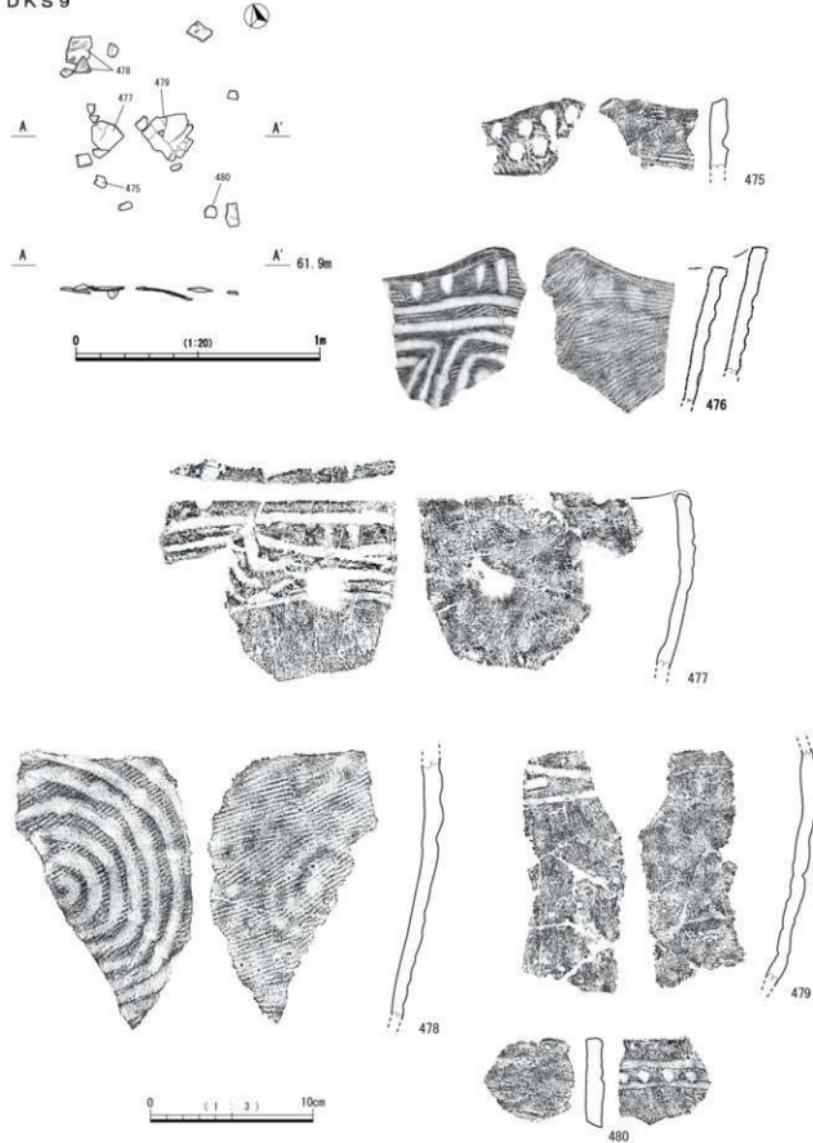
474

年代測定 2461-2296 cal BC

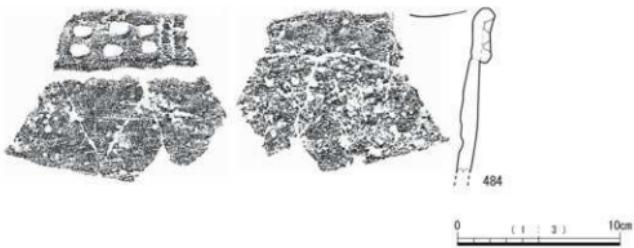
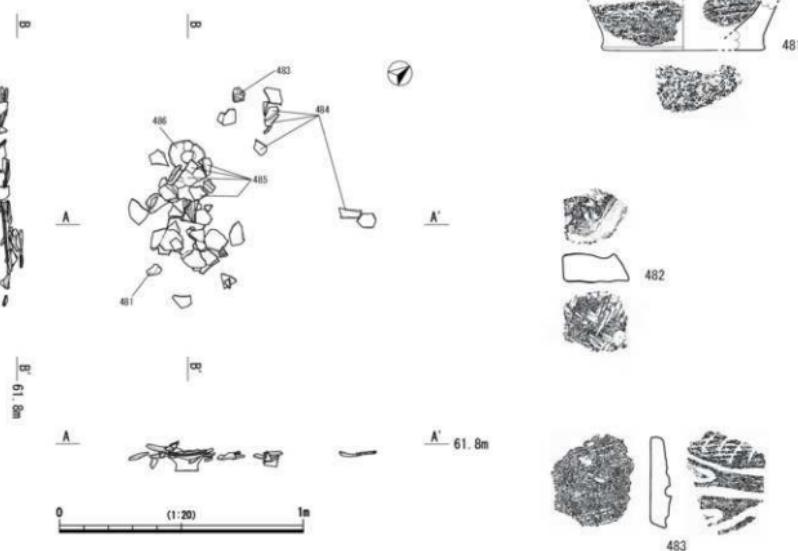


第188図 土器集中8号と出土遺物

D K S 9



第189図 土器集中9号と出土遺物



第190図 土器集中10号と出土遺物（1）

角度ではまる。472は口唇部を指頭によって強く押圧するため、波状を呈する。胸部上位に太い凹線文を描く。内外面を具殻条痕によって調整する。473・474は472と比較するとやや丸みを帯びた形態である。ともに平坦口縁で、胸部上位に凹線を数条巡らせる。内外面はナデ調整である。473は口縁直下にも縱位の凹線を指頭によつて薄く描いて巡らせる。473はVla類、472・474はVlb類と考えられる。474の付着炭化物の放射性炭化物年代測定は 3888 ± 22 yrBP、曆年較正で2461-2296calBC（確率

95.45%）という結果が出ている。

土器集中9号（第189図）

検出状況

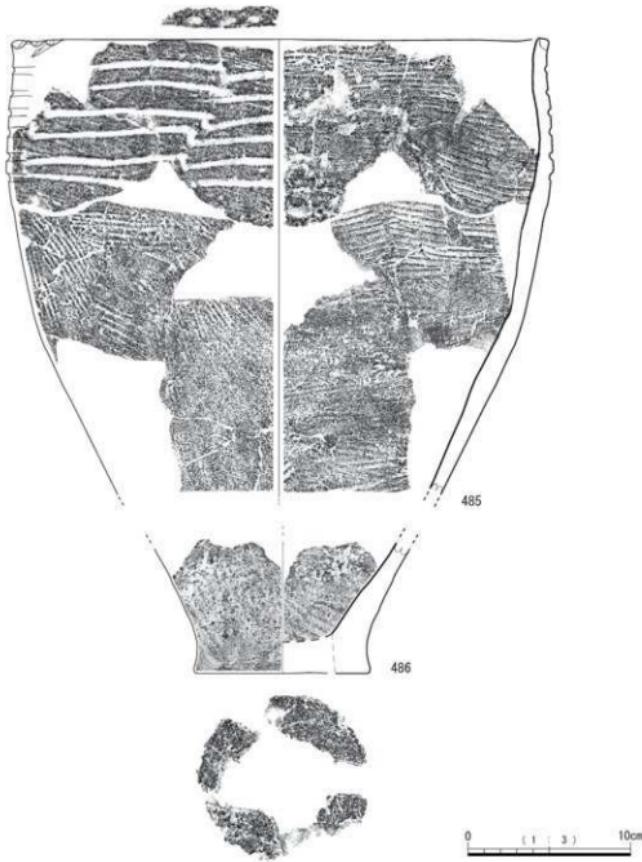
DKS 9は、D-5区のIVb層で検出された。

規 模

土器は長軸0.85m、短軸0.80mの範囲に広がる。

出土遺物

475-477は口縁部片である。475・476は口縁部は外傾

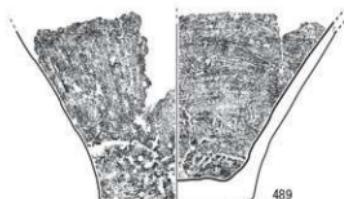
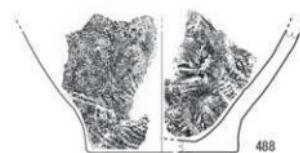
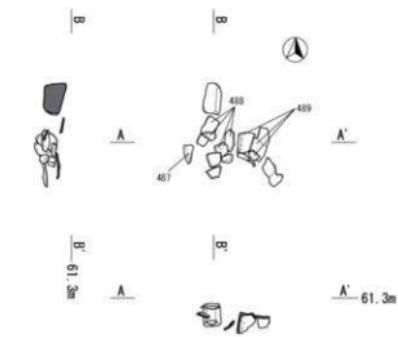


第191図 土器集中10号出土遺物（2）

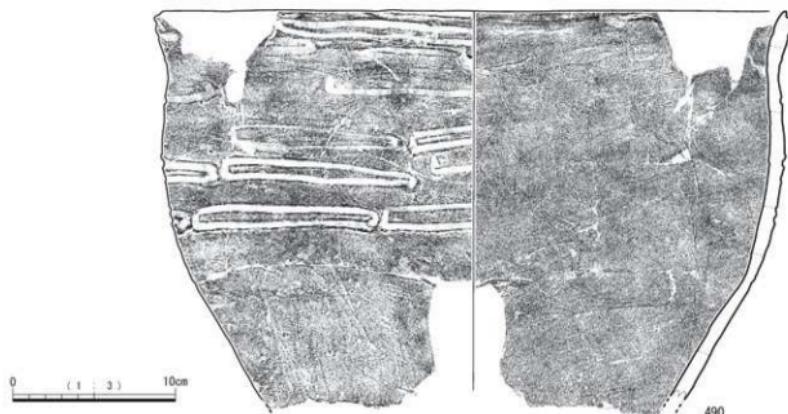
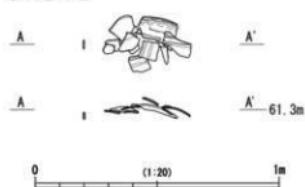
しながら直線的に開く。ともに口縁部直下に棒状工具による円形あるいは継位の刺突を這らせ、内外面に貝殻条痕を残す。Vla類と考えられる。476は赤みが強く角閃石を多く含む胎土である。口縁端部の角も明瞭で焼成も良い。精緻なつくりであったことが窺える。477は丸みをもつ形態で、口縁部上位に多条の凹線を波状に描く。口唇部の一部に棒状工具による押圧がみられる。文様帯の上位に継位の凹線を浅く連続させる。Vla類の範疇と捉えた。478・479は脣部下半の破片である。478は指頭に

よる渦巻き状のモチーフを大胆に描いており、文様は裏面にも浮き出る。内外面に貝殻条痕を残す。Vb類と考えられる。479は内外面ともにナテ調整である。輪積みの痕跡を残した凹凸のみられる断面である。文様の凹線の特徴からVI類の範疇と捉えた。480は円盤状土製加工品で、VII類の胸部片を使用した可能性がある。

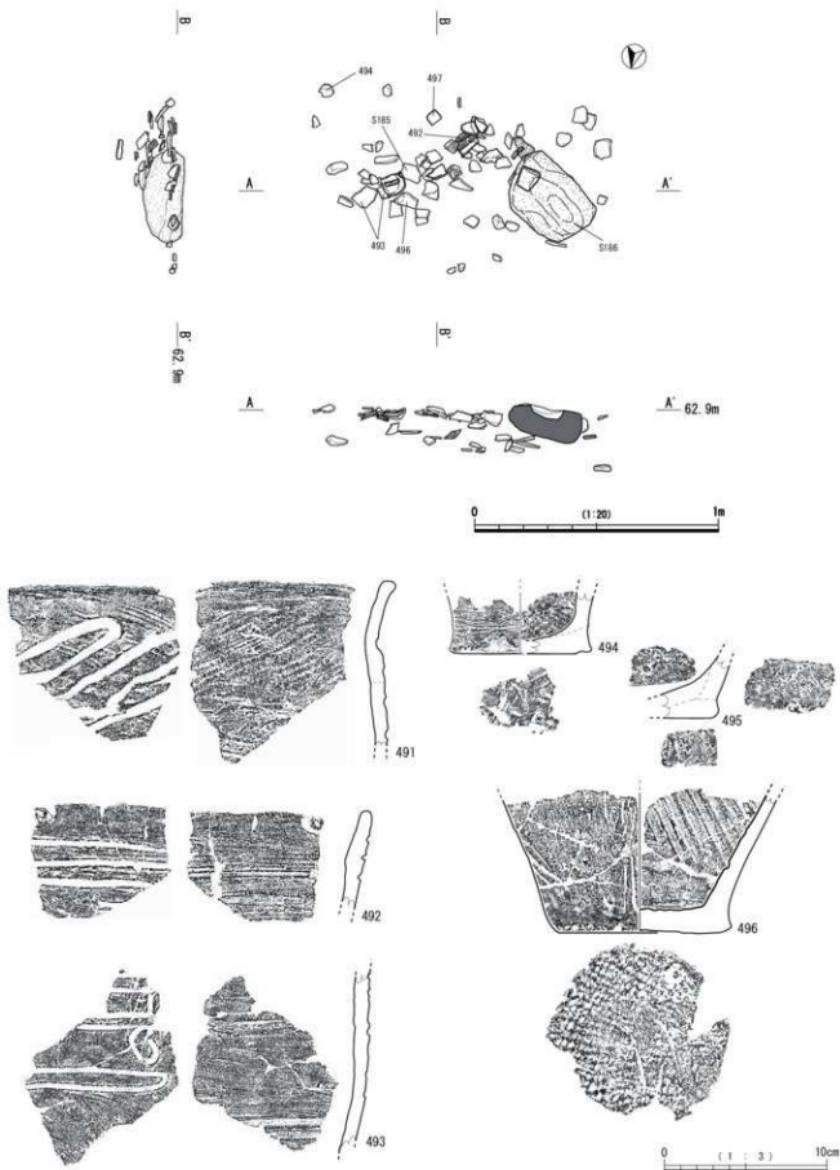
DKS 11



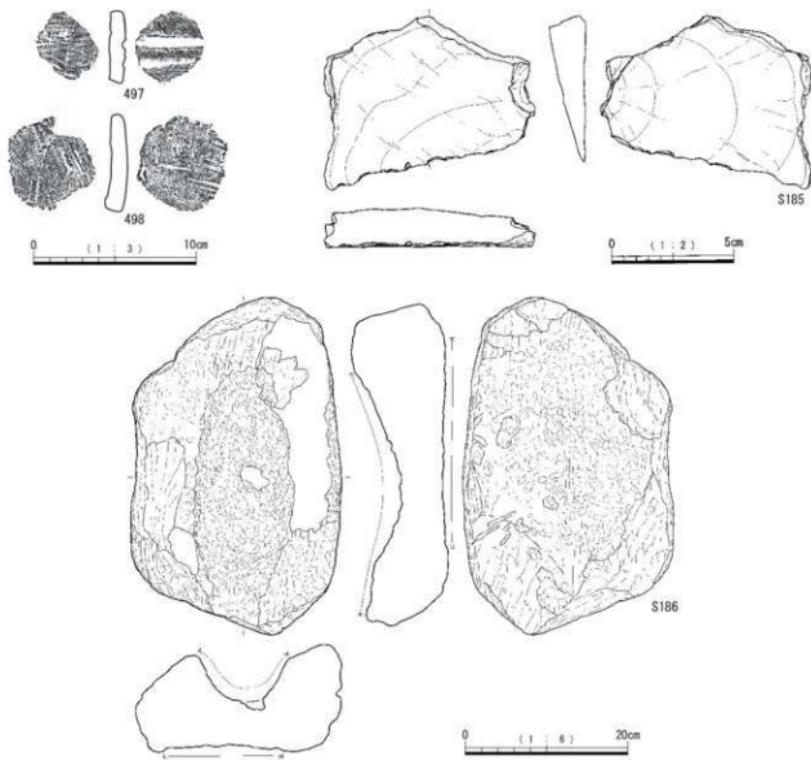
DKS 12



第192図 土器集中11・12号と出土遺物



第193図 土器集中13号と出土遺物（1）



第194図 土器集中13号出土遺物（2）

土器集中10号（第190・191図）

検出状況

IKS10は、E-5区のIVb層で検出された。

規 模

土器は長軸1.02m、短軸0.89mの範囲に広がり、485を中心とした多数の土器片がまとまりをもって検出された。

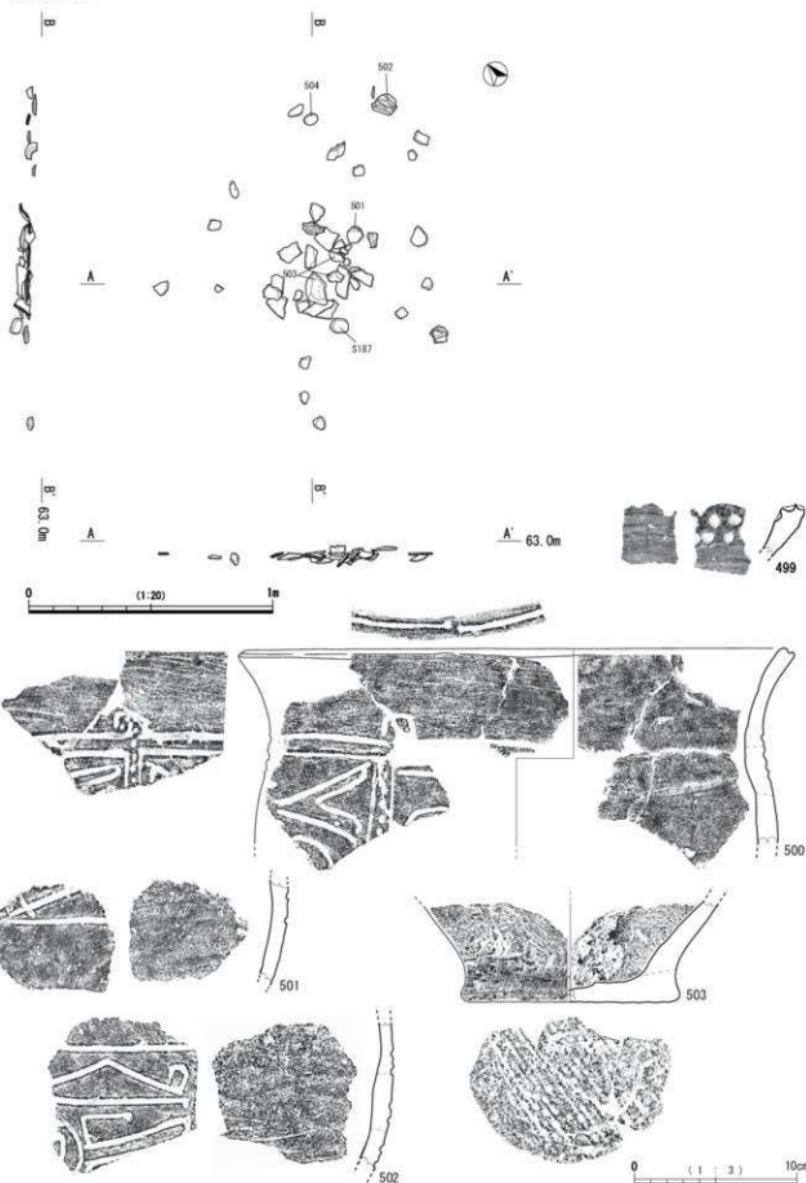
出土遺物

484は深鉢の口縁部片で、口縁部外面に扁平な肥厚帯を巡らせる。肥厚帯には棒状工具による2段の連点文と縦位の貝殻腹縁刺突文を施す。外面はナデ調整である。Vib類の範疇と考えられる。481は底部で、底面に白色付着物がみられる。

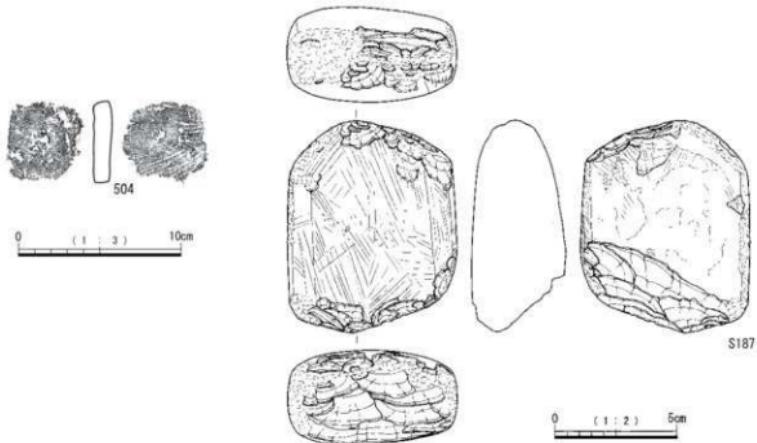
482は網代痕が残る底部を用いた円盤状土製加工品と

考えられ、底面には白色物質が付着する。483は円盤状土製加工品で、Vic類土器の口縁部近くの破片を使用して製作される。

485、486は胴部と底部は接合しないが、形態・胎土の特徴から同一個体と判断した大型の深鉢である。残存率が高い。口縁部はわずかに外反する。胴部はあまり張らず、底部に向かって直線的にすぼまるやや縱長のプロポーションである。平坦口縁で、口唇部を平坦に形成する。口唇部の外面側に箒状工具によって切目状の刻目を巡らせるが、その間隔はランダムである。胴部上位に多条の平行な凹線文を階段状に描く。底部は輪状に残存し、底面中央に充填した粘土塊が剥落している。Vib類と考えられる。外面に貝殻条痕を明瞭に残す。胎土には金色の雲母が多量に混入する。



第195図 土器集中14号と出土遺物（1）



第196図 土器集中14号出土遺物（2）

土器集中11号（第192図）

検出状況

DKS11は、D-6区のIVb層で検出された。

規 模

土器は長軸0.46m、短軸0.41mの範囲にまとめて検出された。

出土遺物

487は深鉢の口縁部片で、口唇部を肥厚させて平坦面を形成し、そこに2条の沈線と刺突による文様帶を施す。口唇部はやや内傾し、IXa類と考えられる。488・489は底部でともに底付きのよい平底である。488は胴部に丸みを帯び、489はやや外反気味に大きく開く。488は網代痕を明瞭に残し、489は網代痕を指と貝殻によりなで消す。

土器集中12号（第192図）

検出状況

DKS12は、C・D-7区のIVb層で検出された。

規 模

土器は長軸0.44m、短軸0.24mの範囲に、490の破片がまとめて検出された。

出土遺物

490は深鉢の口縁部から胴部で、平坦口縁である。口縁部は小さく外反し、口縁部最上位をわずかに肥厚させて凹線文を平行に描く。口唇部には沈線が巡る。頸部直下を鉤の手状の凹線で区画し、さらにその直下に細い棒状のモチーフを横位に3段連続させる。DKS3から出土

した455・456と形態や文様の特徴が類似しVIIa類と考えられる。底部に向かって急な角度ですばると推測される。内外面はナデ調整である。

土器集中13号（第193・194図）

検出状況

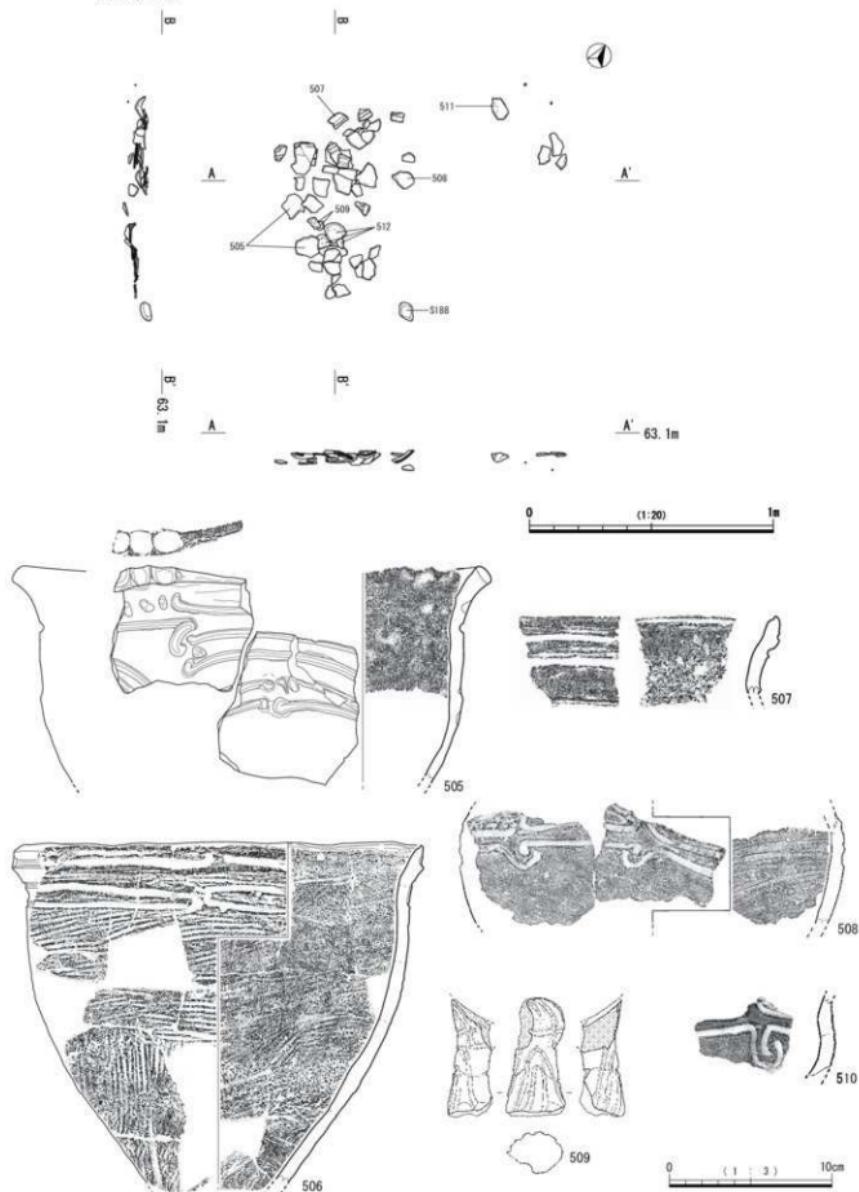
DKS13は、C-15区のIVa層で検出された。

規 模

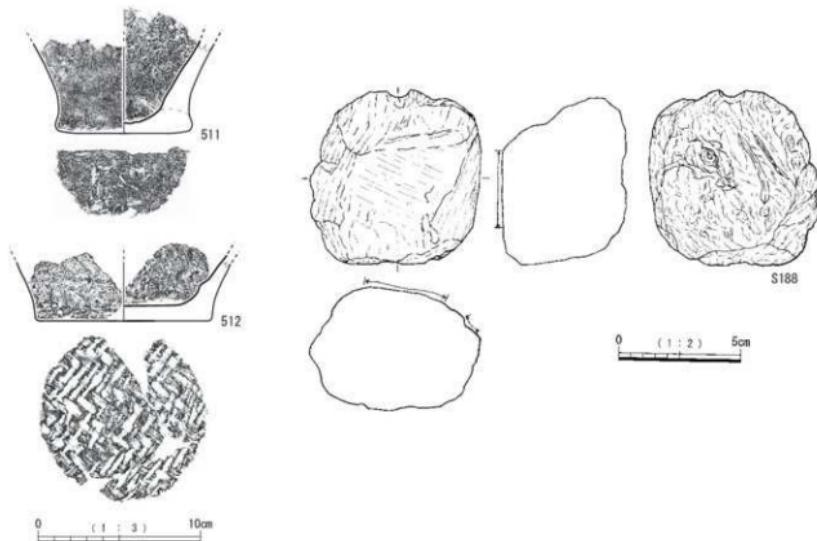
土器は長軸1.25m、短軸0.86mの範囲に広がる。土器の小破片、円盤状土製加工品が検出され、接合・復元を試みたが、僅かな破片を除いて接合できるものはなかった。そのほかに大型の輕石加工品が出土した。

出土遺物

491・492は口縁部片で、493は胴部片である。492・493は胎土の特徴から同一個体と判断した。491は緩く外反しながら開く口縁部片で、曲線文（大波文）を横位に展開させると推測される。器面には貝殻条痕を残す。VIIb類と判断される。492・493は直線的に開く口縁部で、口縁端部を丸くおさめる。口縁部内面に小さな段を形成する。口縁部よりやや下がる位置に3本の平行沈線を巡らせ、胴部にも横位の平行沈線文を主体とした文様帶を有する。胴部と口縁部の内外面に円形のモチーフを描く。内面にはやや幅の広い貝殻条痕を長いストロークで施す。VIIb類と考えられる。494-496は底部および底部片である。接地面近くにくびれを形成する。496は493と同様の条痕を内面に施し、胎土の特徴から492・493の底部である可



第197図 土器集中15号と出土遺物（1）



第198図 土器集中15号出土遺物（2）

能性が高い。496の底面にはモジリ編みの痕が残る。

497, 498は円盤状土製加工品である。

S185は、安山岩C類製の使用痕の残る剥片で、下辺に微細剝離痕及び摩耗痕が確認される。S186は軽石加工品である。正面・裏面を平坦に形成した後、正面に深い皿状、裏面に浅い皿状の凹みを形成する。裏面にはうっすらと赤味を帯びた箇所が肉眼で確認され、赤色顔料が付着している可能性もある。

土器集中14号（第195・196図）

検出状況

DKS14は、C-16区のIVb層で検出された。

規 模

土器は長軸1.41cm、短軸1.14cmの範囲に広がり、そのうち多数の破片が中央に集まる。その集積部の中心がやや空く。

出土遺物

499は口縁部が大きく倒れる器形で、口縁部内面の上位に径約7mmの棒状工具によるとと思われる2列の連続刺突文を施す。内外面は工具による丁寧なナデ調整を横位に施す。台付皿に類似する浅い杯型の特殊な器種の可能性もある。500は上胴部の多くが残存している。口縁部は緩く外反しながら開く。口縁部には太めの沈線が巡ら

され、線の始点と終点を深く刺突する。胴部文様帶は口縁部と同じ棒状の工具により描かれる。残存部の状況から、鉤手状の文様の真下に連点を連続させた綫位の平行沈線を5か所割り付けて、その周りに平行沈線による幾何学文を描いたと推測される。Ⅵc類に該当する。501と502は丸みを帯びた胴部片で、文様や調整、胎土は500と類似するが、施文具が違うことが推測されることと、線の始点・終点の描き方に違いがみられることから別個体と判断した。503は底部で接地面近くでくびれ、胴部に向かって大きく開く。底面には網代痕が残り、胴部器壁と中央の円盤状のバーツとの接合痕が観察できる。504は無文の深鉢の胴部を使用した円盤状土製加工品である。

S187は、ホルンフェルス製の磨製石斧II類の刃部片を敲石に転用している。左右両面をよく擦って面取りしており、定角式の磨製石斧の可能性が高い。敲打具としてもよく使用される。

土器集中15号（第197・198図）

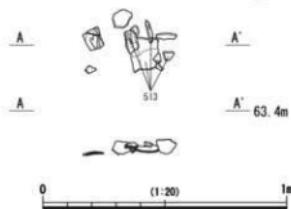
検出状況

DKS15は、D-16区のIVb層で検出された。

規 模

土器は長軸1.20m、短軸0.81mの範囲に広がる。

DKS 16



第199図 土器集中16号と出土遺物

出土遺物

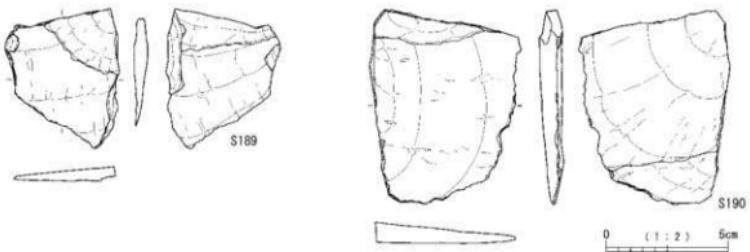
505・506は深鉢の口縁部から胴部下位である。505は波状口縁で、波頂部上面を指頭によって数箇所円形に押圧する。文様帶はやや太めの平行な凹線によってアーチ状のモチーフを横位に展開させ、線の始点と終点を入り組ませる。底部に向かって丸みを帯びながら急な角度ですぼまる。内外面の調整は丁寧なナデ調整で、色調は黒色を呈する。VIIb類と考えられる。506は泡弾状にすぼまる器形である。口縁部外面を肥厚させ、口縁部肥厚帯に凹線を巡らせる。内面の口縁端部より少し下がった位置に細い沈線を巡らせる。胴部上位に棒状の凹線文を横位に描く。VIIa類と考えられる。DKS 3とDKS 12に口縁部の形態や文様が類似するものが出土している。外面に粗い貝殻条痕を残す。507は肥厚させた口縁部片で肥厚帯とその直下に凹線を巡らせ、内面の口縁端部より少し下

がった位置に細い沈線を巡らせる。508は胴部は丸みを帯び、底部に向かいやや急な角度ですぼまるところから、浅い鉢型と判断した。最大径のあたりに巡らせた平行沈線から鉤手文を垂下させ、鉤手の向きは右向きのものと左向きのものが向き合うと推測される。VIIb類の範疇である可能性もある。510は507と同類の鉢の胴部片である。上位が外反することから口縁部に近いと考えられる。508と比較すると文様は整った線で描かれ、器面の仕上げも丁寧であり、胎土の特徴も異なるため別個体と判断した。509は脚で底部の一部と底面の器壁との剥離面が観察できる。底面の角度とミガキ様のナデ調整から、台付皿等の特殊な器種と推測される。平行沈線による曲線文が描かれる。下面は磨耗が著しく、接地するか別のバーツと接合するかは不明である。511・512は底部である。511は網代を丁寧にナデ消す。白色付着物がみられる。

DKS 17



第200図 土器集中17号と出土遺物（1）



第201図 土器集中17号出土遺物（2）

S12は底面に矢羽根編みの網代痕が明瞭に残る。

S188は、用途不明の軽石製品である。正面には明瞭な平坦面が形成され、砥石として使用された可能性がある。裏面には浅い孔と線状の溝を2本施す。

土器集中16号（第199図）

検出状況

DKS16は、D-16区のIVb層で検出された。

規 模

土器は長軸0.38m、短軸0.26mの範囲にほぼ1個体がまとまって出土した。

出土遺物

S13は深鉢の胴部片で、波状口縁を呈する。波頂部は、2つの頂点の間隔から対角線上に4箇所存在したと考える。波頂部の下の頂点からわずかにずれた位置に深さ約8mmほどの孔を施す。口縁部外面を幅広く肥厚させ、肥厚帯の上下を棒状工具による連点により装飾し、中央に深い凹線を巡らせる。凹線の始点と終点を強く刺突している。胴部には左上がりの斜位の平行沈線を基調とした文様帶が胴部下位に及ぶ。口唇部は、波頂部上面で内外側間に肥厚し、凹線を巡らせる。胴部は鈎の手と蛇行する沈線の組み合わせで施文される。VIIa類と考えられる。

S14はDKS5と重なる地点で出土した深鉢の口縁部片である。粗い平行沈線文が不規則に描かれる。平坦口縁の一部を丘状に隆起させており、見た目は波状口縁に近い。頂部上面に棒状工具による継位の刺突を3個刻む。器壁は特に厚い。VIIb類と考えられる。

土器集中17号（第200・201図）

検出状況

DKS17は、D-16区のIVb層で検出された。

規 模

土器は長軸1.26m、短軸0.83mの範囲に広がる。520

については口縁部が真西に向き、破砕後に並べて置かれたように、整然と並んだ状態で検出されている。

出土遺物

S15～S19は口縁部小片で、文様や形態の特徴から516はVIIb類、515はVIIb類、518と519はVIIa類と考えられる。517口縁部の器壁は直線的で少し外傾しながら立ち上がる。口縁端部は内面側がナデられ先細る。外面にはナデ調整の後で貝殻腹縁による条痕で斜格子状ないし三角形状の文様が描かれる。内面には横位の貝殻条痕が施され、上位に文様を有する可能性があるが残存部分が少なく判然としなかった。縄文時代後期前半の土器と判断しVI類とする。520はごく緩い波状口縁を呈し、胴部には同心状のアーモンド形のモチーフを主体とした文様帶を幅広く形成する。波頂部には指頭による押圧を2個施す。VIIb類と考えられる。521～524は胴部片ではほとんどがVII類の範疇と推測されるが、522は内外側ともに摩滅が著しく分類が難しかった。525は円盤状土製加工品である。

S189・S190は安山岩C類製の使用痕剥片である。ともに周縁部に微細な剥離が確認できる。S189の正面上面は円形に剥離している可能性があり、母岩が被熱によってはじけた可能性もある。

埋設土器1号（第202～204図）

検出状況

埋設土器1号は、B-3区のIVb層で検出された。526・527の2個体がほぼ完形で出土した。526を上位に、入れ子の状態で埋納された可能性をもつ。底部は土坑北側の床面から重なった状態で検出され、胴部土器片の検出状況からやや倒位に置かれたことが推測される。

規 模

土器は長軸0.65m、短軸0.60mの範囲に広がる。土坑の中で、二個体の土器が重なった状態で検出された。また、埋土上層～下層に数個の砾も出土するが、使用的痕

跡があるかは不明である。

埋土

掘り込みの上層と下層で埋土の違いがみられたが、その境は不明瞭であった。図中には上層を①、下層を②として示す。

出土遺物

526は大型の深鉢で波状口縁を呈する。頭部を明瞭に屈曲させ口縁部は急な角度で立ち上がる。胴部が大きく張り出し、底部に向かってすぼまる器形である。頭部をやや細めの平行沈線により区画し、胴部上位に「M」字を横にしたようなモチーフを横位に連続させ、その直下にも平行沈線を巡らせる。また、波頭部外面には6条単位の縦位の沈線を施す。底面には矢羽根編みの網代痕がみられ、その中央部をなで消す。使用時の煤が上胴部に水平に付着する。胴部下半には527を重ねたために付いたと考えられる。下方からの浅い抉りがほぼ水平に数箇所確認できる。526はVIIc類に該当すると考えられる。

527は小ぶりの鉢で、円錐状の形態である。口唇部に広い平坦面をつくり、棒状工具によって平行沈線と縦位の刺突を組み合わせた文様帶を有する。平坦口縁で口唇部のラインは大きくゆがむ。内外面は丁寧なナデ調整で仕上げる。底面はやや丸みを帯びて形成され、外周に4か所の剥離痕が確認される。本遺跡の包含層からはドーナツ状の台座の上に棒状の支脚が付いた土器片（第2分冊第2-73図 470・471）が出土しており、そのような脚台を有すると推測される。口縁部はやや外傾しIXb類の特徴をもつ。ただし、口縁端部の後は丸みを帯び、本遺跡出土の他のIXb類と比較しても緩い。526と同時期に存在した可能性が高いことや、罐類土器を出土土器の構成の主体とする中原遺跡（志布志市）に類似する形態の鉢（底部は平底である）が報告されることなどを鑑みてVIIc類の時期の鉢型土器（VIIc類）と判断したい。

528・529は底部片で530・531は円盤状土製加工品である。531は棒状工具を刺突することにより施文される。

埋設土器2号（第205図）

検出状況

埋設土器2号は、D-3区のVI層で検出された。

規 模

土器は土坑内で長軸0.25m、短軸0.22mの範囲に広がる。埋土の上層から532が横倒した状態で出土した。

出土遺物

532は小形の深鉢ではほぼ完形に復元できた。バケツ状の形態で、器壁は厚い。口縁部はやや内湾する。底付の良い平底で、底面の中央部分を欠く。無文で、外面は貝殻条痕後にナデ調整を施す。内面は、胴部下半が条痕後ナデである。底面には網代痕が残り、白色物質が付着する。胎土に金色の雲母を多く含む。形態はややイレギュ

ラーだといえるが、主に胎土の特徴から縄文時代後期前半の遺物と判断した。

埋設土器3号（第206図）

検出状況

埋設土器3号は、C-15区のVI層で検出された。

規 模

土器は長軸0.33m、短軸0.30mの範囲に広がる。埋土の上層から533が逆位で出土した。土坑は南側に後世の擾乱を受ける。平面形状は円形で、533の径とほぼ同じ大きさである。

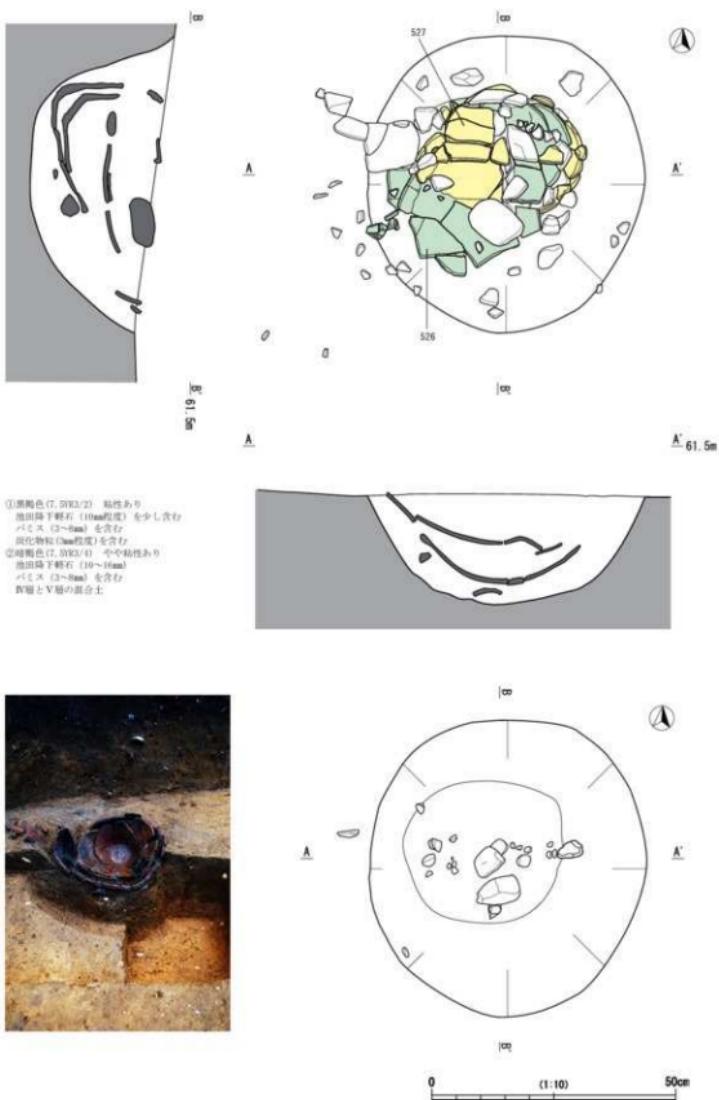
埋土

埋土は単層であったが、その特徴については不明である。

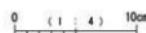
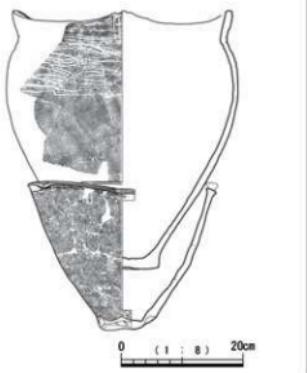
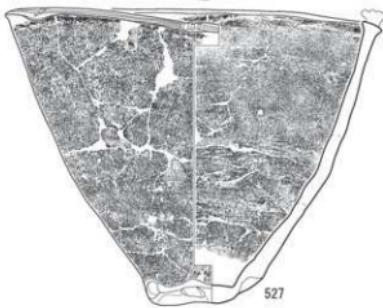
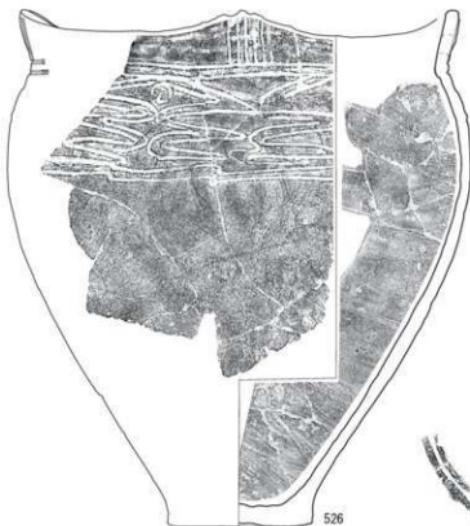
出土遺物

533は深鉢の上胴部片である。口縁部は緩く外反し、口縁端部を面取りにより平坦に形成する。胴部はやや丸みを帯びた形態である。外面は貝殻条痕による調整後、棒状工具によって曲線文を2段、横位に連続させる。やや灰色がかった色調で、器壁は薄く硬質である。VIIb類と考えられる。

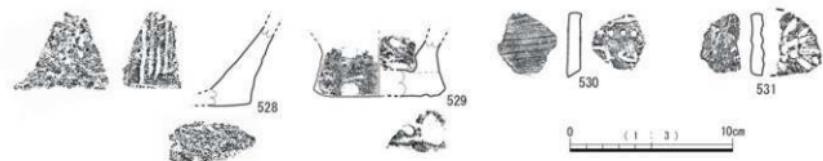
埋設 1



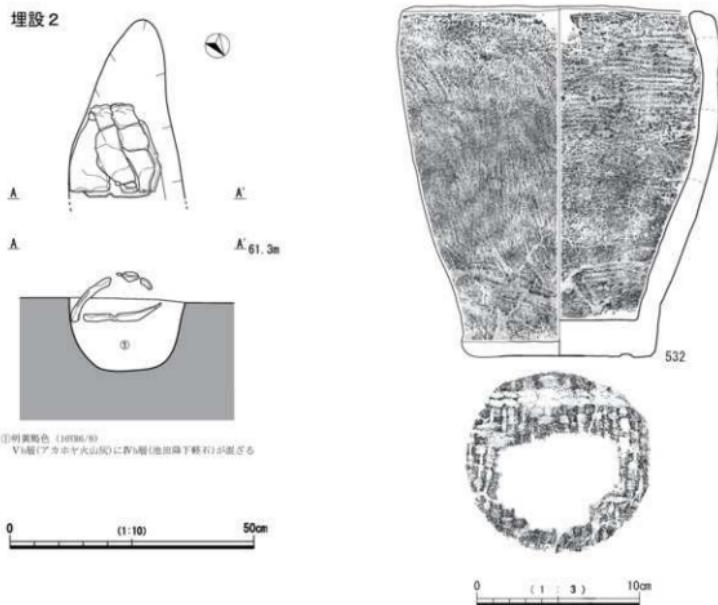
第202図 埋設土器 1号



第203図 埋設土器 1号出土遺物 (1)

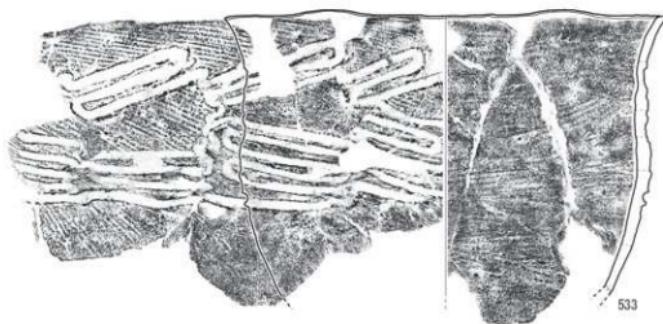
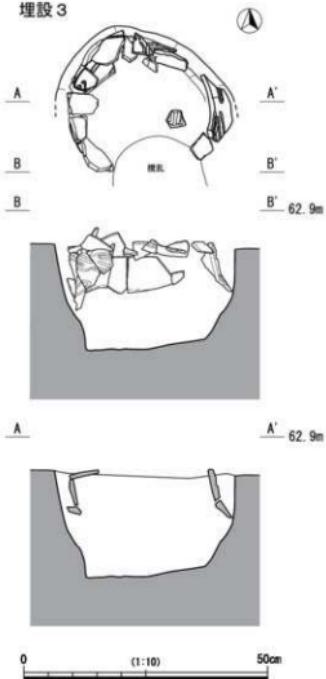


第204図 埋設土器 1号出土遺物（2）



第205図 埋設土器 2号と出土遺物

埋設3



第206図 埋設土器3号と出土遺物

(5) 立石遺構

本報告書では、石皿・台石など、大型の石が立った状態で検出されたもの、立っていた可能性のあるもので、集石のように疊が集中しておらず大型の石1個ないし2個など数個程度の石で構成されて検出されたものを立石遺構とした。立石遺構は、32基が検出された。

本報告書では、立石に伴う掘り込みがあるもの、立石としている石皿等の検出状況等で分類を行った。立石遺構の詳細を下記のような名称を示して掲載した。

立石遺構32基中、掘り込みがあるI類が21基、掘り込みがないII類が11基であった。また立石遺構32基中、中心となる石皿等が立っていた状態のものであるa類が20基、置かれたような状態のものであるb類が12基であった。上記を念頭に立石遺構32基を分類すると、Ia類が17基、Ib類が4基、IIa類が3基、IIb類が8基であった。

なお、本遺構を造った時点では、石が露出していたかどうかについては明確ではないところであるが、検出状況を重視して「立石遺構」と呼称することとした。

長 軸：検出面で、掘り込み面のほぼ中心を通り、遺構の立石を含む端から端までの最大幅の長さのこと。または、掘り込みの端から端までの長さ。

短 軸：長軸に対して直角に交わり、立石を含む端から端までの最小幅の長さのこと。または、長軸に直交する掘り込みの端から端までの長さ。

また、立石遺構の掘り込みの有無から、下記のように細分した。

タイプIa：立石に伴う可能性のある掘り込みがあり、立石としている石皿等が立った状態で検出されたもの。

タイプIb：立石に伴う可能性のある掘り込みがあり、立石としている石皿等が置かれたような状態で検出されたもの。

タイプIIa：立石に伴う掘り込みがなく、立石としている石皿等が立った状態で検出されたもの。

タイプIIb：立石に伴う掘り込みがなく、立石としている石皿等が置かれたような状態で検出されたもの。

立石遺構1号（第207図）

検出状況

立石遺構1号は、F-3区のV層で検出された。調査区の西側にあり、立石遺構では最北部に位置する。掘り込みの形状は、長軸49cm、短軸41cm、深さ10cmを測る。埋土は、褐色で黄バニスを含むやや粗い軟質の火山灰質土である。炭化物は含まれない。花崗岩製の石皿片、磨

石が出土した。石皿片は立石遺構の石皿の中では小片のため図化には至っていない。

分類：タイプIa

立石遺構2号（第207図）

検出状況

立石遺構2号は、C-5区のIVb層で検出された。掘り込みの形状は、長軸24cm、短軸14+cm、深さ6cmを測る。埋土は暗褐色でバニス類が周囲より少なく粒子の細かいやや軟質土である。花崗岩製の石皿片が出土したが、石皿の中では小片のため図化には至っていない。

分類：タイプIa

立石遺構3号（第207図）

検出状況

立石遺構3号は、C-6区のIVb層で検出された。掘り込みの形状は、長軸35cm、短軸27+cm、深さ25cmを測る。花崗岩製の石皿が直立して出土した。埋土は暗褐色で黄バニス・白バニスを含む粒子細かい土である。炭化物は含まれない。

分類：タイプIa

出土遺物

S191は花崗岩製の石皿Ib類である。上・右を欠く。中央付近に摩耗面である凹みがある。真下と左下に搔き出しがある。

立石遺構4号（第208図）

検出状況

立石遺構4号は、C-6区のIVb層で検出された。掘り込みの形状は、長軸40+cm、短軸40cm、深さ7cmを測る。埋土は褐色でバニス類をほぼ含まない粒子細かい軟質土である。炭化物は含まれない。花崗岩製の石皿片が出土したが、小片のため図化には至っていない。

分類：タイプIb

立石遺構5号（第208図）

検出状況

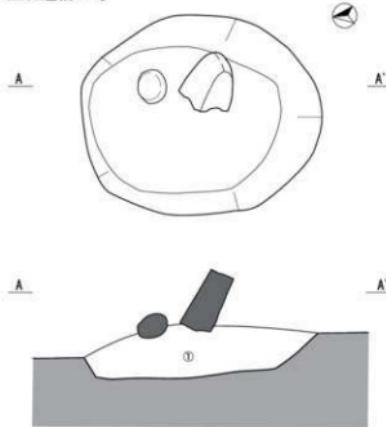
立石遺構5号は、C-6区のIVb層で検出された。掘り込みの形状は、長軸51cm、短軸28+cm、深さ10cmを測る。埋土は、褐色で白バニス・黄バニスや炭化物をわずかに含む。IVa層土に似ている粒子細かい軟質土である。立石遺構の分布域中央部の西端に位置する。

分類：タイプIa

出土遺物

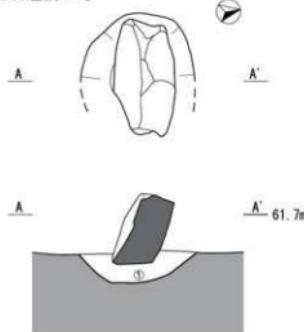
S192は花崗岩製の石皿Ia類である。上を欠く。中央付近に摩耗面である凹みがあり。敲打痕がみられる。真下に搔き出しがある。

立石遺構 1号



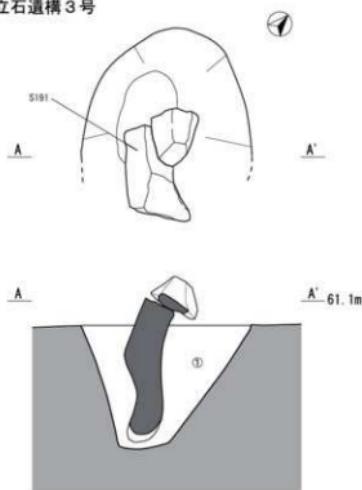
①褐色(10YR3/0) 桃葉 火山灰質
細粒の黄褐色を多く含む
炭化物を含まない やや粗い。

立石遺構 2号



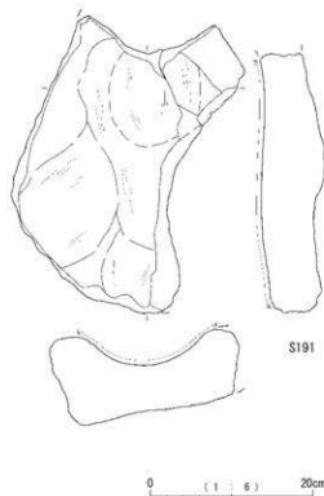
①褐色(10YR3/2) やや軟質
火成岩の表面より少々多い。
粒子が細かい。

立石遺構 3号

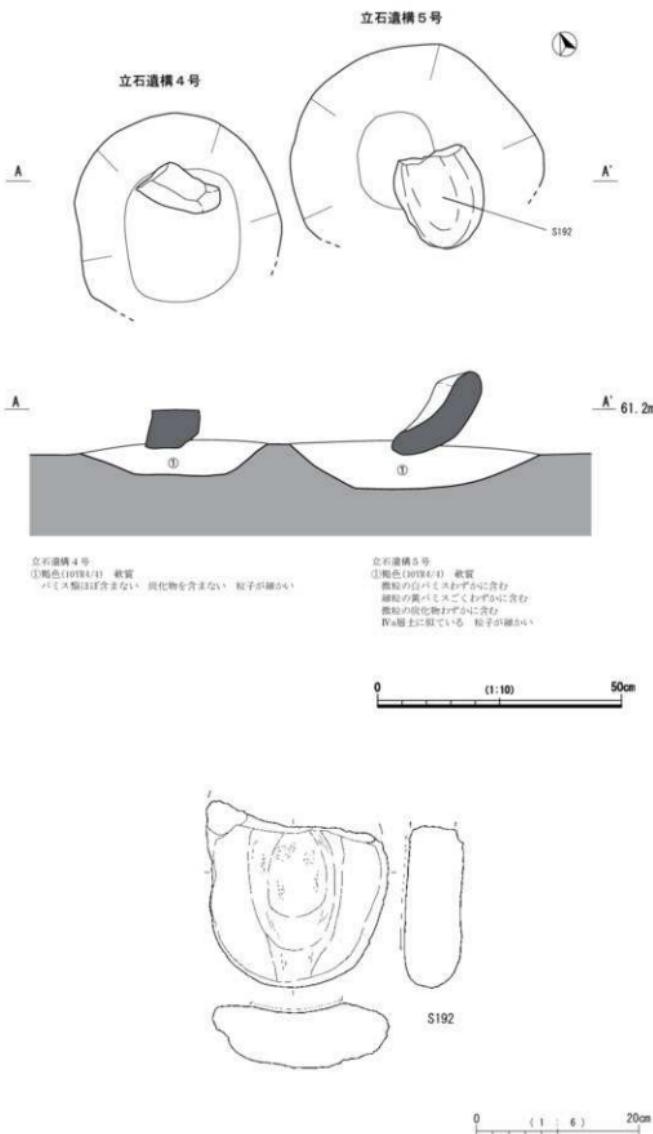


①褐色(10YR3/0)
桃葉の黄褐色と白灰色を含む
炭化物を含まない 粒子が細かい。

0 (1:10) 50cm



第207図 立石遺構 1～3号と立石遺構 3号出土遺物



第208図 立石遺構4・5号と立石遺構5号出土遺物

立石遺構6号（第209図）

検出状況

立石遺構6号は、B-7・8区のIVb層で検出された。調査区の西側にあり、立石遺構の中で最南部に位置する。さらに、立石遺構の分布域中央部の南端に位置する。掘り込みの形状は、長軸40cm、短軸25+acm、深さ10cmを測る。埋土は、黒褐色である。

分類：タイプIa

出土遺物

S193は花崗岩製の石皿III類である。右を欠く。方形を呈する。両面に摩耗面である凹みが顕著にみられる。表面の凹みが5cmと深く、裏面の凹みも1.8cmありよく使用した可能性が高い。

立石遺構7号（第209図）

検出状況

立石遺構7号は、C-7区のIVb層で検出された。規模は、長軸20cm、短軸10cmを測る。花崗岩製の石皿が直立した状態で出土した。掘り込みは確認できなかつたが、石皿が直立していたことから、掘り込みがあった可能性も残る。

分類：タイプIa

出土遺物

S194は花崗岩製の石皿VI類である。中央部に摩耗面である凹みがある。左・下を欠損している。全体の1/4以下と考えられる。表面の凹みが4.7cmと深く、よく使用した可能性が高い。I類もしくはII類の可能性がある。

立石遺構8号（第210図）

検出状況

立石遺構8号は、C-7区のIVb層で検出された。掘り込みの形状は、長軸25cm、短軸15+acm、深さ7cmを測る。埋土は、暗褐色で白バニスや炭化物を含む。周囲のV層より色調がやや黒色で濃い、周辺よりバニス類が少なく粒子の細かい土である。石皿は、傾いて出土しているが、掘り込みがあるため、立っていた可能性がある。

分類：タイプIa

出土遺物

S195は花崗岩製の石皿IV類（台石）である。上下を欠く。上方・下方に凹みがある。敲打痕がみられる。

立石遺構9号（第210図）

検出状況

立石遺構9号は、D-7区のIVb層で検出された。掘り込みの形状は、長軸59cm、短軸47cm、深さ13cmを測る。埋土は暗褐色土で、周辺よりバニス類が少なく、IVb層よりやや暗い色調の粒子細かい軟質土である。花崗岩製の石皿片、磨・敲石片が出土した。石皿は、置かれた状

態で検出しているが、掘り込みがあるため、立っていた可能性もある。

分類：タイプIb

立石遺構10号（第211図）

検出状況

立石遺構10号は、D-7区のIVb層で検出された。掘り込みの形状は、長軸106cm、短軸96cm、深さ23cmを測る。埋土は、ぶい黄褐色で黄バニス・白バニスや炭化物を含む粒子や粗い軟質土である。周囲のIVb～V層よりも土壤化している。石皿は、置かれた状態で出土しているが、掘り込みがあるため、立っていた可能性もある。

分類：タイプIb

出土遺物

S34は深鉢の口縁部で、棒状工具により斜格子文を描くVb類と考えられる。S35は波状の口縁部を含む上胴部で頂部に棒状工具による3個の刻目を施す。口縁部外面に肥厚帯を形成し、肥厚帯と胴部に沈線による文様帶を有する。VIIa類と考えられる。S35は付着している炭化物の分析を行った結果、放射性炭化物年代は暦年較正で $3,613 \pm 22\text{yrBP}$ 、 $2,031 - 1,897\text{calBC}$ （確率95.45%）という結果が出ている。

S196は花崗岩製の石皿VI類である。右半・下半を欠く。中央付近に摩耗面である凹みがある。凹みが4cmと深く、よく使用した可能性が高い。I類もしくはII類の可能性がある。S197は軽石加工品である。正面にU字状の溝状砥面があり、裏面に凹みがある。表面は砥石的に使用した可能性がある。表面右側に赤色の付着物がある。

立石遺構11号（第213図）

検出状況

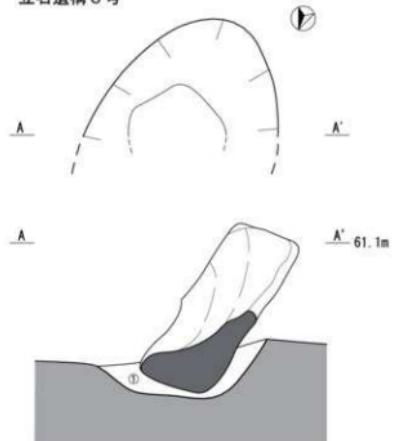
立石遺構11号は、D-7区のIVb層で検出された。規模は、長軸50cm、短軸40cmを測る。S199は石皿の摩耗面を下に向け、伏せるような状態で出土している。用途的に対をなす石皿と磨・敲石が一緒に出土している。

分類：タイプIIb

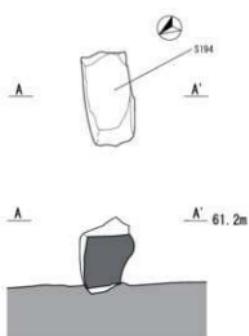
出土遺物

S198は、砂岩製の磨・敲石IIb類である。風化が激しく、被熱が確認された。特に左側面中央でよく敲打している。S199は安山岩製の石皿Ia類である。中央付近に摩耗面がある凹みが0.7cmと浅く、使用初期段階の可能性が高い。敲打痕もみられる。真下から右方向に搔き出しがある。S199はデンブン分析において摩耗面でない部分から残存デンブン粒の形態の原形が円形を呈し、コナラ属の可能性があるデンブンが検出された結果が出ている。

立石遺構 6号

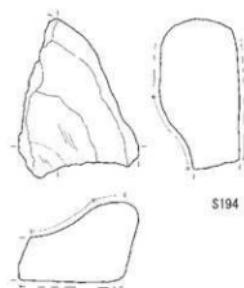
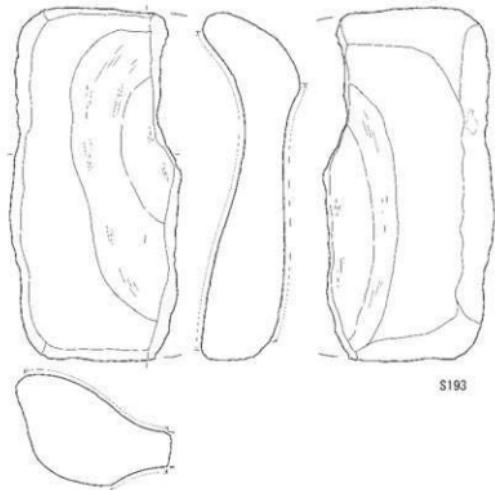


立石遺構 7号



①黒褐色 (T. S193/2)

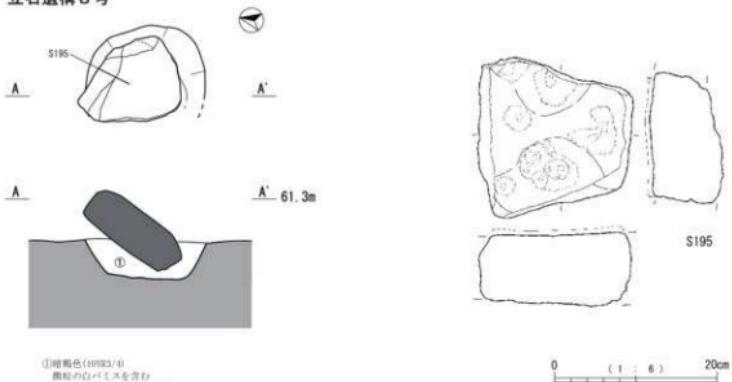
0 (1-10) 50cm



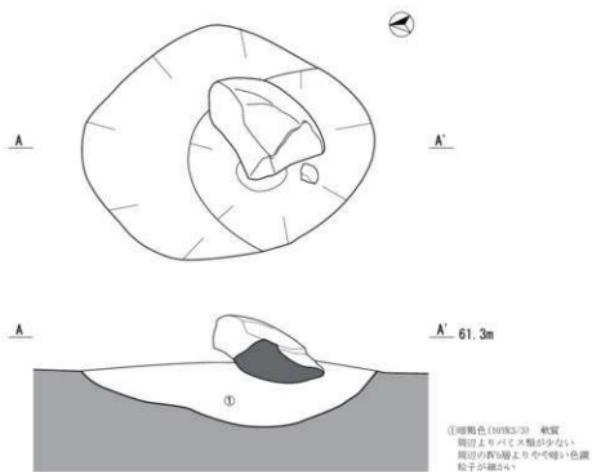
0 (1-6) 20cm

第209図 立石遺構 6・7号と出土遺物

立石遺構 8号

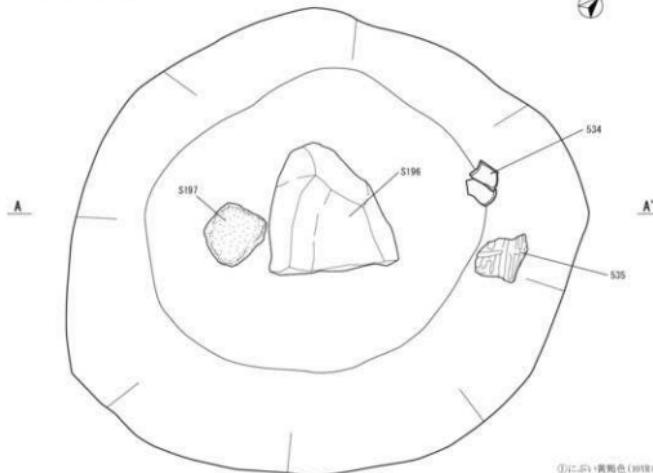


立石遺構 9号

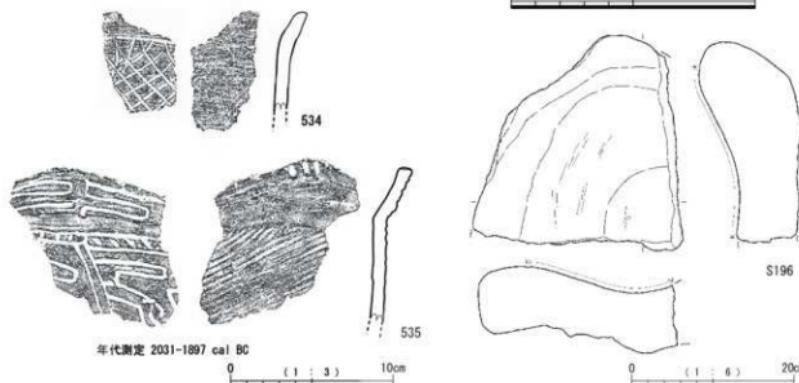
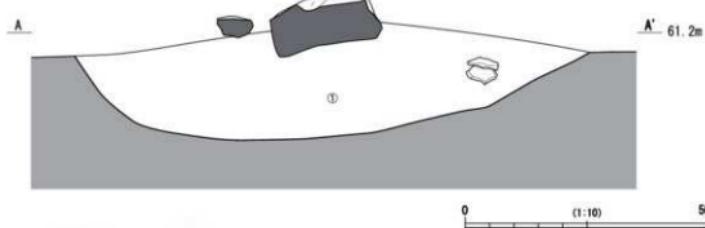


第210図 立石遺構8・9号と立石遺構8号出土遺物

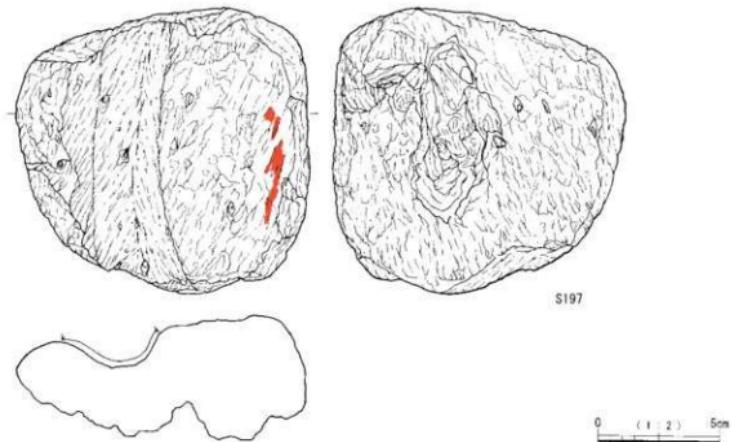
立石遺構10号



①に示す黄褐色(893R/3) 材質
裏面にスレーブの印記を含む
圓錐形の石器をもとめに設け
周囲のV字～U字よりも土量化している
粒子がやや粗い。



第211図 立石遺構10号と出土遺物（1）



第212図 立石遺構10号出土遺物（2）

立石遺構12号（第214図）

検出状況

立石遺構12号は、D-7区のIVb層で検出された。規模は、長軸30cm、短軸25cmを測る。

分類：タイプ IIa

出土遺物

S200は花崗岩製の石皿IV類（台石）である。上下を欠くが、方形を呈していたと考えられる。長軸方向に擦痕がある。

立石遺構13号（第214図）

検出状況

立石遺構13号は、E-7区のIVb層で検出された。掘り込みの形状は、長軸34+αcm、短軸34cm、深さ19cmを測る。花崗岩製で完形の石皿が直立した状態で出土した。埋土は、暗褐色で黄バミスや炭化物を含む。やや軟質土である。

分類：タイプ Ia

出土遺物

S201は花崗岩製の石皿のI b類である。中央に摩耗面である凹みがある。真下と左下に焼き出し口がある。

立石遺構14号（第215図）

検出状況

立石遺構14号は、E-7区のIVb層で検出された。掘り込みの形状は、長軸38cm、短軸22+αcm、深さ30cmを測る。埋土は、暗褐色で黄バミス・白バミスや炭化物を含む。

粒子細かいやや軟質土である。

分類：タイプ Ia

出土遺物

S202は花崗岩製の石皿 I a類である。完形で中央に摩耗面である凹みが0.7cmと浅く、使用初期段階の可能性が高い。側面の風化が顕著である。

立石遺構15号（第215図）

検出状況

立石遺構15号は、E-7区のVI層で検出された。規模は、長軸45cm、短軸35cmを測る。S203は石皿の摩耗面を下に向け、伏せた状態で出土している。

分類：タイプ IIb

出土遺物

S203は花崗岩製の石皿 I a類である。上下を欠く。中央に摩耗面である凹みがある。断面の両側に平坦面を残している。

立石遺構16号（第215図）

検出状況

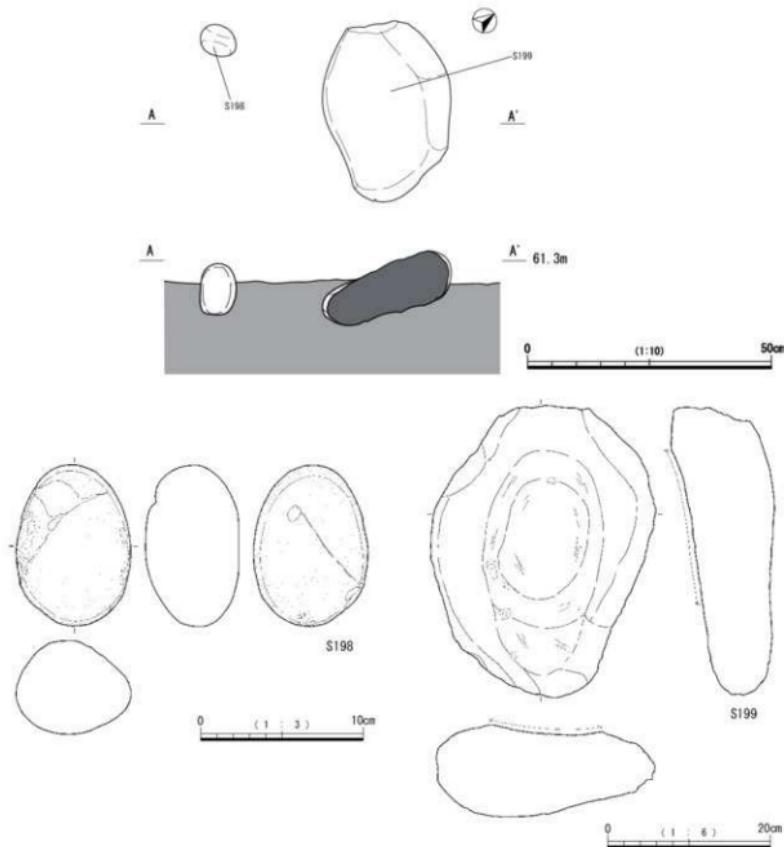
立石遺構16号は、F-7区のIVb層で検出された。規模は、長軸24cm、短軸20cmを測る。

分類：タイプ IIb

出土遺物

S204は花崗岩製の石皿VI類である。左・右・下を欠く。中央付近に摩耗面である凹みがある。敲打痕がみられる。I類もしくはII類の可能性もある。

立石遺構11号



第213図 立石遺構11号と出土遺物

立石遺構17号（第216図）

検出状況

立石遺構17号は、B-8区のIVb層で検出された。掘り込みの形状は、長軸98cm、短軸34+acm、深さ66cmを測る。埋土は、灰黄褐色でIV層にアカホヤ火山灰が混ざる砂質土である。埋土に完全に埋まった形で石皿が出土している。図面上部のS205は、石皿の摩耗面を下に向けて被せるように置かれていた。中央の石は石皿であったが、風化が著しく脆弱で取り上げることができなかった。図面

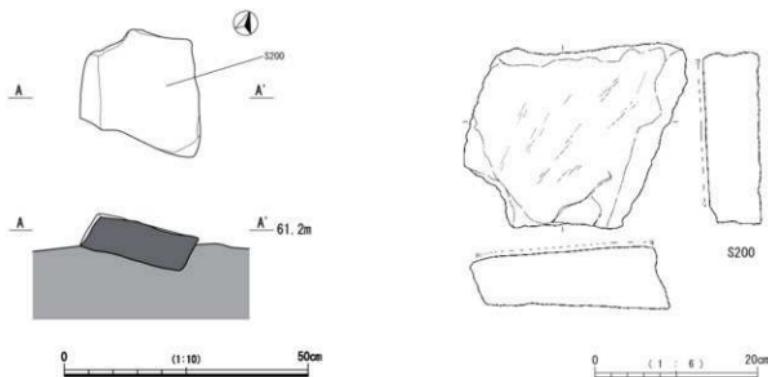
下の石は、中央の石を固定する役割があった可能性もある。

分類：タイプ I a

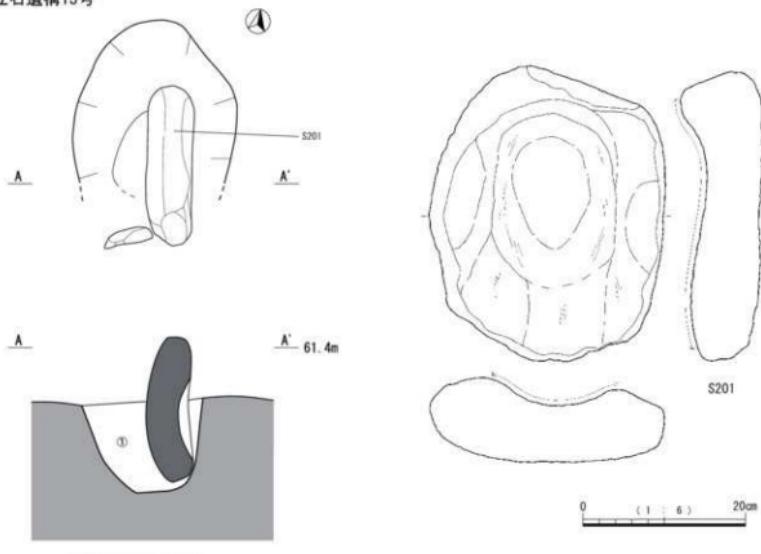
出土遺物

S205は安山岩B類似の石皿VI類である。上・左を欠く。全体の1/4以下と思われる。中央付近に摩耗面である凹みがある。搔き出し口が下部にみられるためI類の可能性も残る。

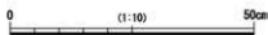
立石遺構12号



立石遺構13号

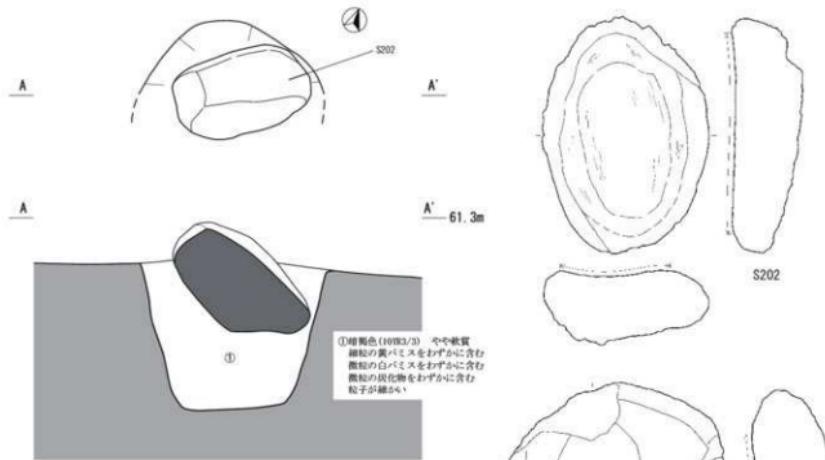


①暗褐色(10YR3/4) やや軟質
微細な黄褐色を含む
周辺のIV層よりマニス類は少ない
無鉻の炭化物を多く含む

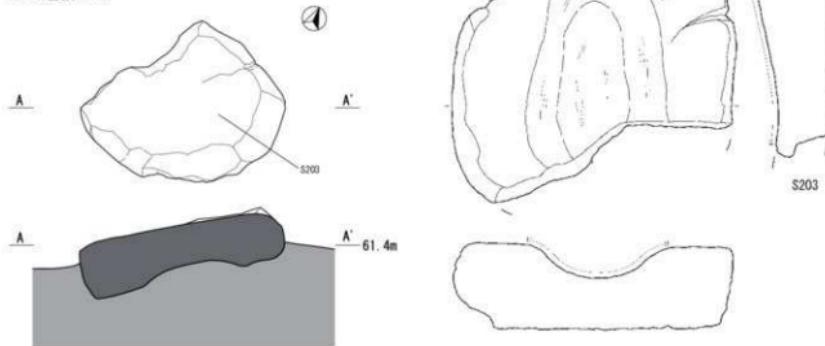


第214図 立石遺構12・13号と出土遺物

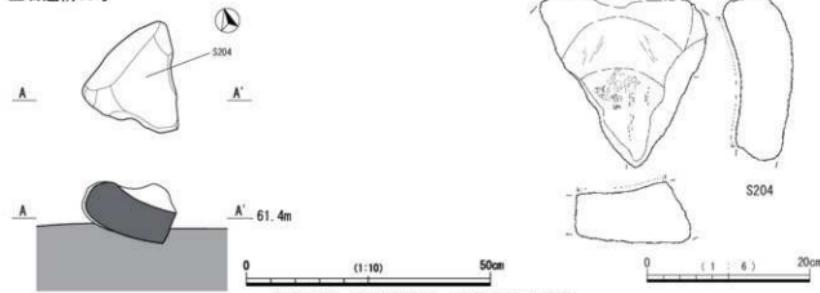
立石遺構14号



立石遺構15号

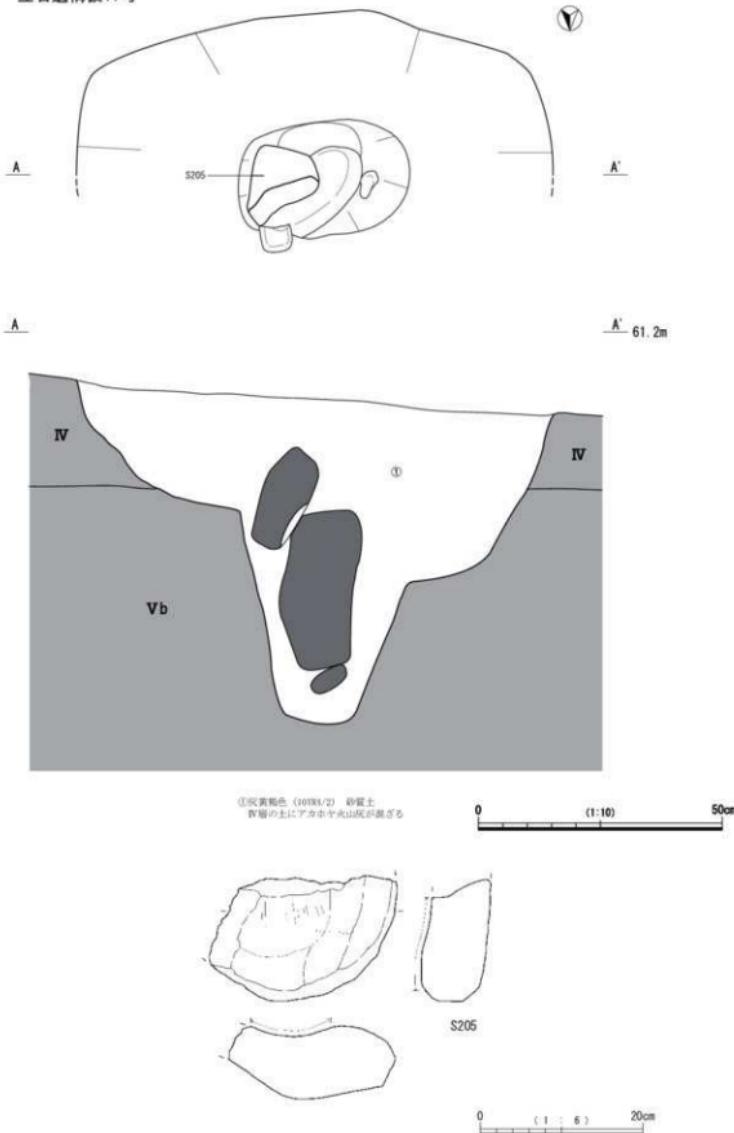


立石遺構16号



第215図 立石遺構14~16号と出土遺物

立石遺構17号



第216図 立石遺構17号と出土遺物

立石遺構18号（第217図）

検出状況

立石遺構18号は、C-8区のIVb層で検出された。規模の形状は、長軸26cm、短軸20cmを測る。花崗岩製の石皿が直立して出土した。

分類：タイプIIa

出土遺物

S206は花崗岩製の石皿VI類である。中央にわずかに摩耗面である凹みがある。I類もしくはII類の可能性もある。

立石遺構19号（第217図）

検出状況

立石遺構19号は、C-8区のIVb層で検出された。掘り込みの形状は、長軸38cm、短軸35cm、深さ20cmを測る。埋土は、暗褐色で周辺より黄バミス・白バミスが少なく、粒子の細かいやや軟質土である。遺物は安山岩製の石皿と花崗岩製の石皿片などが出土した。立石遺構の分布域中央部のほぼ中心に位置する。

分類：タイプIa

出土遺物

S207は安山岩B類製の石皿III類である。左半・下を欠くが、方形を呈するようである。中央付近に摩耗面である凹みがある。敲打痕がみられる。

立石遺構20号（第218図）

検出状況

立石遺構20号は、D-8区のIVb層で検出された。規模は、長軸30cm、短軸20cmを測る。

分類：タイプIIb

出土遺物

S208は花崗岩製の石皿VI類である。右・下を欠く。正面及び裏面も中央付近に摩耗面である凹みがある。敲打痕がみられる。I類もしくはII類の可能性もある。

立石遺構21号（第218図）

検出状況

立石遺構21号は、E-8区のIVb層で検出された。掘り込みの形状は、長軸52cm、短軸39+αcm、深さ15cmを測る。花崗岩製の石皿が直立して出土した。埋土は黒褐色で白バミスを含み、周辺とほぼ同じ色調・性質の硬質土である。炭化物は含まれない。石皿の上部を割った上で埋設したような状態で出土している。

分類：タイプIa

出土遺物

S206は底部片で、底面に矢羽根網みの網代底が残る。S37は円盤状土製加工品である。残存部分は少ないが、凹線と貝殻腹縁刺突の連続が確認できるため、Vb類の

深鉢の口縁部直下の破片を使用したと判断される。536・537とともに胎土に金色の雲母を含む。

S209は、花崗岩製の石皿II類である。上を欠く。中央付近の摩耗面である凹みが5.9cmと顕著である。敲打痕がみられる。被熱が顕著である。I類の可能性もあり。

立石遺構22号（第219図）

検出状況

立石遺構22号は、E-8区のIVb層で検出された。掘り込みの形状は、長軸34cm、短軸27+αcm、深さ20cmを測る。埋土は、黒褐色で白バミスを含むやや硬質の砂質土である。花崗岩製の石皿が直立して出土した。石皿を半分に割った上で埋設されたように出土している。立石遺構の分布域の中央部の北端に位置する。

分類：タイプIa

出土遺物

S210は花崗岩製の石皿Ia類である。左を欠く。中央付近に摩耗面である凹みがある。凹みが3cmと深くなっている。下側にわずかに掻き出し口がある。

立石遺構23号（第219図）

検出状況

立石遺構23号は、F-8区のIVb層で検出された。規模は、長軸60cm、短軸30cmを測る。用途的に対をなす石皿と磨・敲石と一緒に出土している。

分類：タイプIIb

出土遺物

S211は安山岩B類製の磨・敲石IIb類である。上半部が欠損する。表裏両面で敲打しているが、右側面上部には破断面の角でも敲打している。S212は花崗岩製の石皿IV類（台石）である。中央付近に摩耗面である凹みがわずかにみられる。敲打痕がみられる。周辺を欠いている。

立石遺構24号（第220図）

検出状況

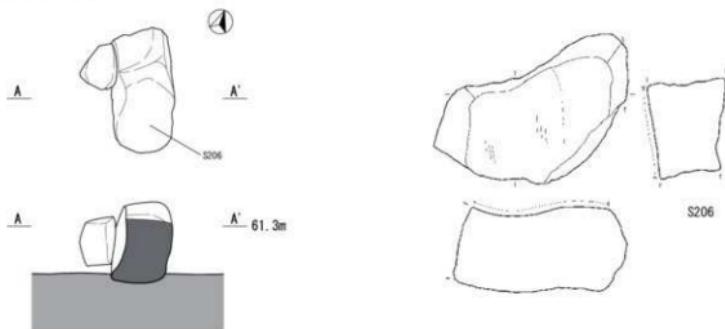
立石遺構24号は、F-8区のIVb層で検出された。規模は、長軸25cm、短軸22cmを測る。石皿とともに縄文時代後期土器の底部も出土したが、摩耗しており形式は不明である。土器は、掘り込みがないため石皿に伴う遺物かどうかの判断が難しい。

分類：タイプIIb

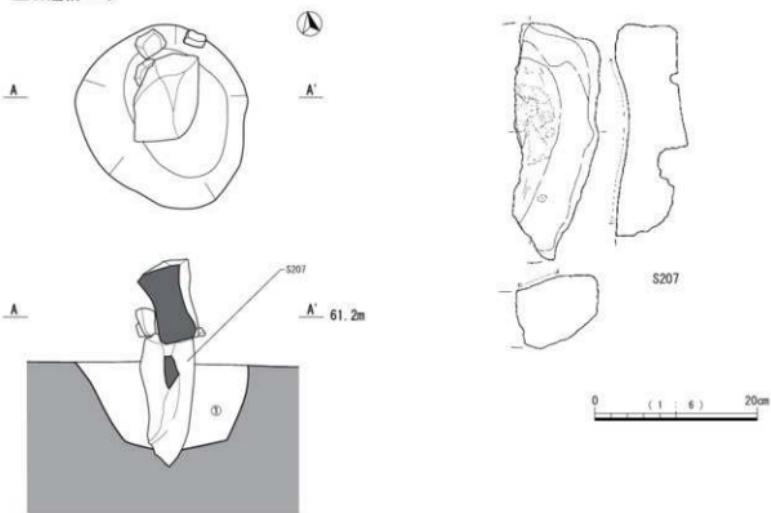
出土遺物

S213は花崗岩製の石皿III類である。右を欠くが、方形を呈するようである。中央付近に摩耗面である凹みがある。敲打痕がみられる。

立石遺構18号



立石遺構19号

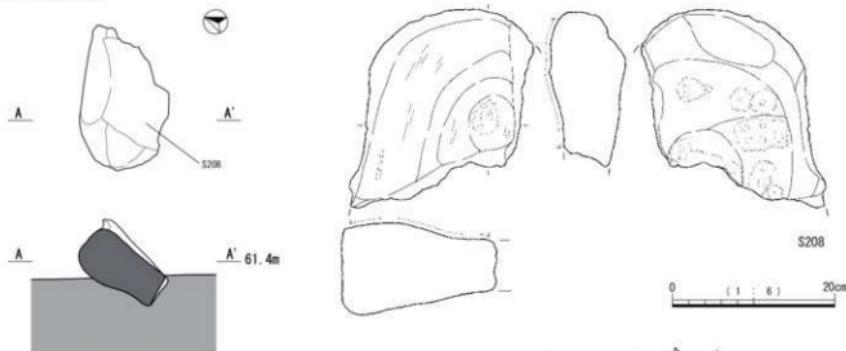


①透明白(1083/4) 小や軟質
周辺より黄褐色・白褐色が少ない
炭化物を含まない 粒子が細かい

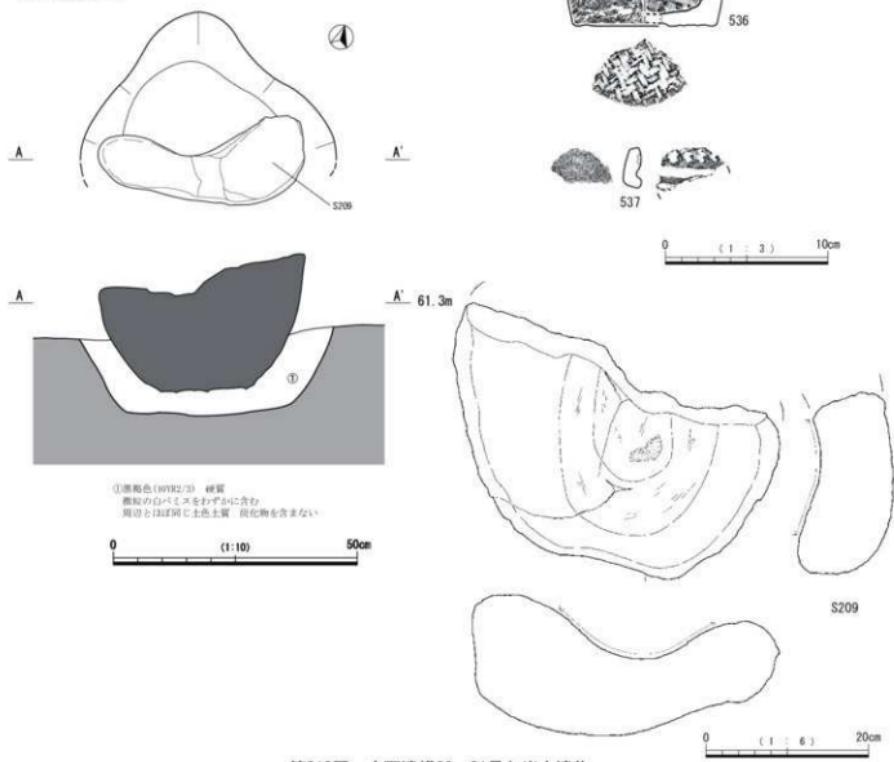
0 (1:10) 50cm

第217図 立石遺構18・19号と出土遺物

立石遺構20号

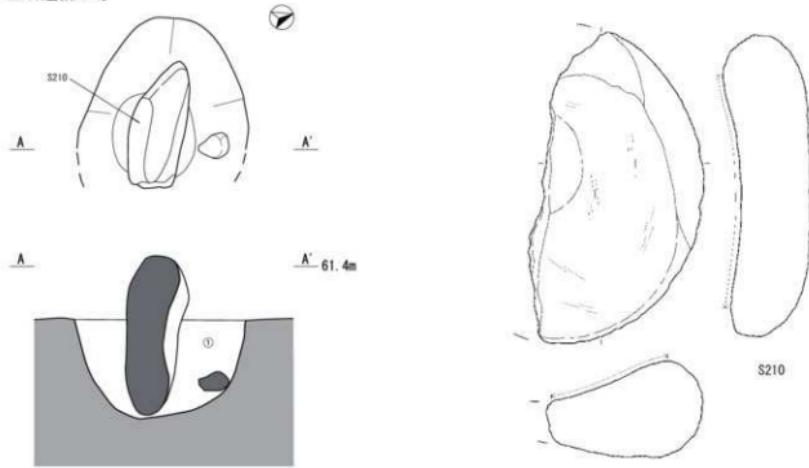


立石遺構21号



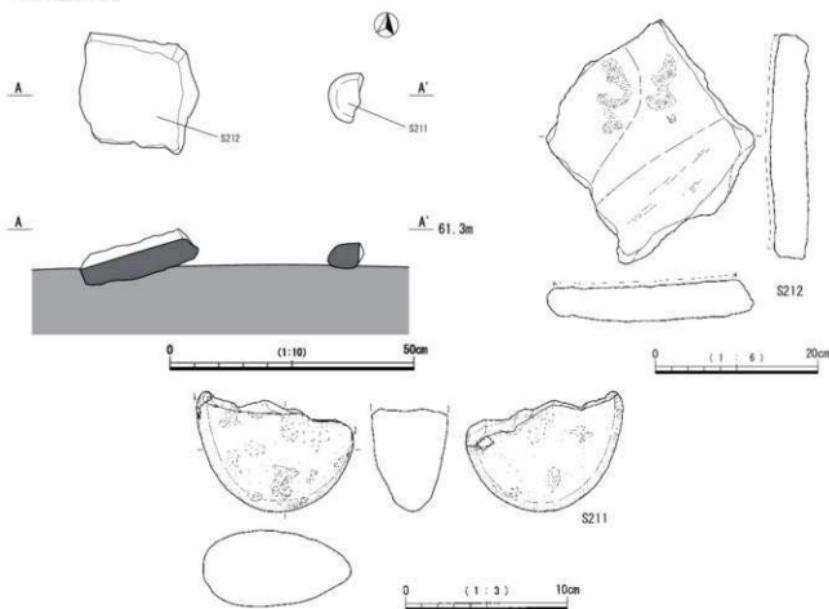
第218図 立石遺構20・21号と出土遺物

立石遺構22号



①黒褐色(10R2/3) やや硬質 やや砂質
微細の白バニスをごくわずかに含む

立石遺構23号



第219図 立石遺構22・23号と出土遺物

立石遺構25号（第220図）

検出状況

立石遺構25号は、F-8区のIVb層で検出された。掘り込みの形状は、長軸40cm、短軸36+acm、深さ20cmを測る。埋土は黒褐色で白バミスや炭化物を含む。石皿の検出面では、掘り込みの確認ができる。石皿は、傾いて出土しているが、石皿検出面付近から掘り込みがあつたとするならば、立っていた可能性も考えられる。

分類：タイプIb

出土遺物

S214は花崗岩製の石皿IV類（台石）である。凹みは明瞭ではない。中央付近に敲打痕がみられる。

立石遺構26号（第221図）

検出状況

立石遺構26号は、B-9区のIVb層で検出された。規模は、長軸35cm、短軸30cmを測る。掘り込みの確認はできなかつたが、石皿が下向きに検出され、その下に用途的に対をなす磨・敲石が出土している。

分類：タイプIIb

出土遺物

S215は、砂岩製の磨・敲石IIb類である。表裏両面に磨面がある。どちらも光沢を帯びた磨面でよく使用している。正面中央に弱い敲打がみられ、周縁では敲打していない。S216は花崗岩の石皿III類である。上・右下を欠くが、方形を呈するようである。全体の1/2程度と思われる。中央付近に摩耗面である凹みがある。小牧遺跡の石皿のほとんどが花崗岩が国見山系の可能性があるが、S216は鉱物の粒子を比較すると粒子が細かいため、高隈山系の花崗岩の可能性がある。若干赤化しているため被熱を受けた可能性もある。S216はデンブン分析において磨面の2か所で残存デンブン粒の形態の原形が円・稍円・半円・五角などの様々な形でクリミ属・ウバユリ属・堅果類の可能性のある複数のデンブンを14個検出された結果が出ていている。

立石遺構27号（第222図）

検出状況

立石遺構27号は、B-9区のIVb層で検出された。掘り込みの形状は、長軸45cm、短軸35cm、深さ27cmを測る。埋土は、黒褐色と褐色の2枚である。白バミス・オレンジ色バミスを含む。基本層土がIV層である。

分類：タイプIa

出土遺物

S217は花崗岩製の石皿VI類である。中央部に摩耗面である凹みがある。左側と下を欠く。全体の1/4以下と思われる。I類もしくはII類の可能性もある。

立石遺構28号（第222図）

検出状況

立石遺構28号は、B-9区のIVb層で検出された。掘り込みの形状は、長軸54cm、短軸25+acm、深さ30cmを測る。花崗岩製の石皿で、石皿が直立して上部が抉れたように割れている。割れ面は明瞭でないものの意図的に割られた可能性がある。埋土は、にぶい黄褐色で周辺より黄バミス・白バミスが少ないやや黒みが強い土である。炭化物は含まれない。

分類：タイプIa

出土遺物

剥ぎ取り遺構ごと保存したため、石皿の実測は行っていない。

立石遺構29号（第223図）

検出状況

立石遺構29号は、B-9区のIVb層で検出された。掘り込みの形状は、長軸66cm、短軸48cm、深さ34cmを測る。花崗岩製で完形の石皿が傾きつつも立てられた状態で出土した。埋土は暗褐色で、黄バミス・白色バミスや炭化物を含む粒子の細かい軟質土である。

分類：タイプIa

出土遺物

S218は花崗岩製の石皿Ib類である。完形である。摩耗面の深さが6.5cmと深いことから長く使用した可能性が高い。真下と左下に搔き出し口がある。S218はデンブン分析において磨面で残存デンブン粒の形態の原形が円形のもので球根類の可能性があるデンブンを検出された結果が出ていている。

立石遺構30号（第224図）

検出状況

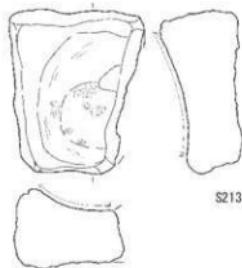
立石遺構30号は、C-9区のIVb層で検出された。掘り込みの形状は、長軸32cm、短軸13+acm、深さ22cmを測る。砂岩製の石皿が直立して出土した。埋土は、暗褐色で黄バミス・白バミスや炭化物を含み、粒子の細かいやや軟質土である。砂岩製の立石遺構は、30号のみである。立石遺構の分布域中央部の東端に位置する。

分類：タイプIa

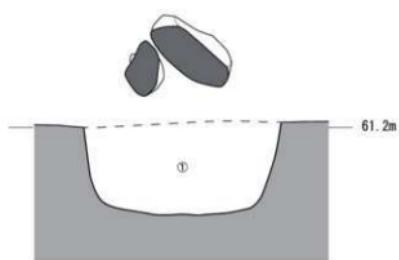
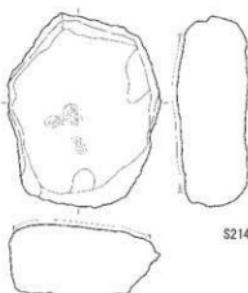
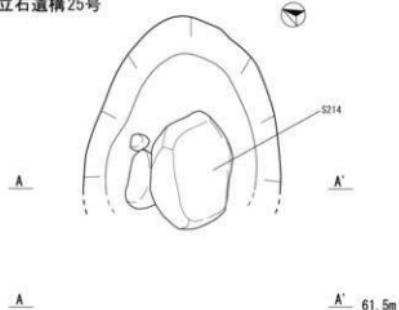
出土遺物

S219は砂岩製の石皿VI類である。石皿の1/3程度の破片である。正面に深い皿状、裏面に緩い凸面状の使用面をもつ。表裏両面の中央付近に敲打痕がみられる。上と下を欠く。I類もしくはII類の可能性もある。S219はデンブン分析において磨面で残存デンブン粒の形態の原形が識別困難なものではあるがデンブンを検出された結果が出ていている。

立石遺構24号



立石遺構25号

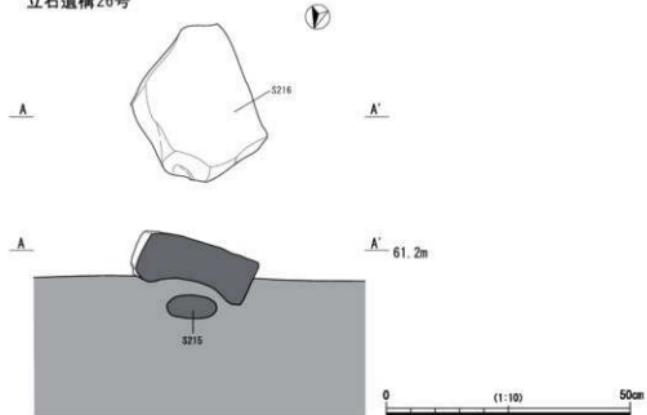


①黒褐色(10R8/3)
微細の白パミスを多く含む
微細の炭化物を多く含む



第220図 立石遺構24・25号と出土遺物

立石遺構26号



第221図 立石遺構26号と出土遺物

立石遺構31号（第225図）

検出状況

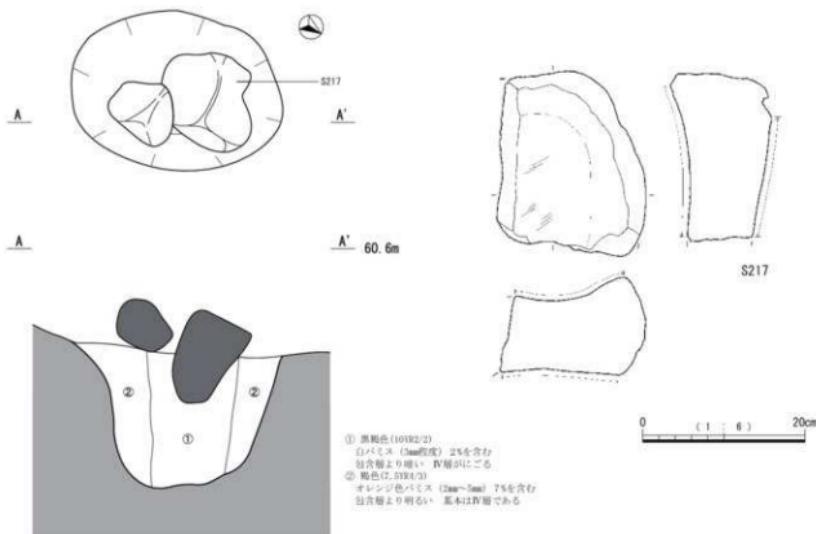
立石遺構31号は、F-9区のIVb層で検出された。掘り込みの形状は、長軸35cm、短軸31cm、深さ2cmを測る。花崗岩製の石皿が直立てして出土した。掘り込み面は、もっと高い位置であった可能性がある。埋土は、黒褐色でオレンジ色のバミスを含む。

分類：タイプIa

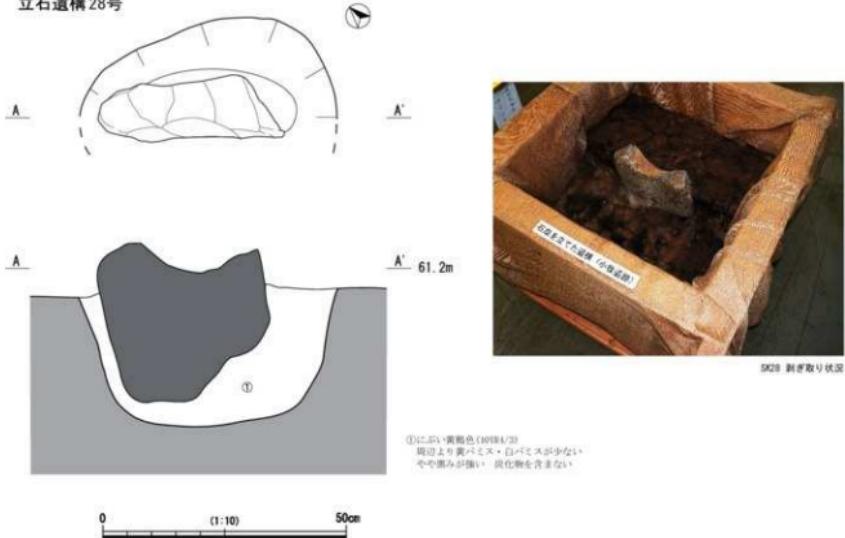
出土遺物

S220は花崗岩製の石皿VI類である。石皿の1/6程度の破片である。中央に摩耗面である凹みがある。I類もしくはII類の可能性もある。

立石遺構27号

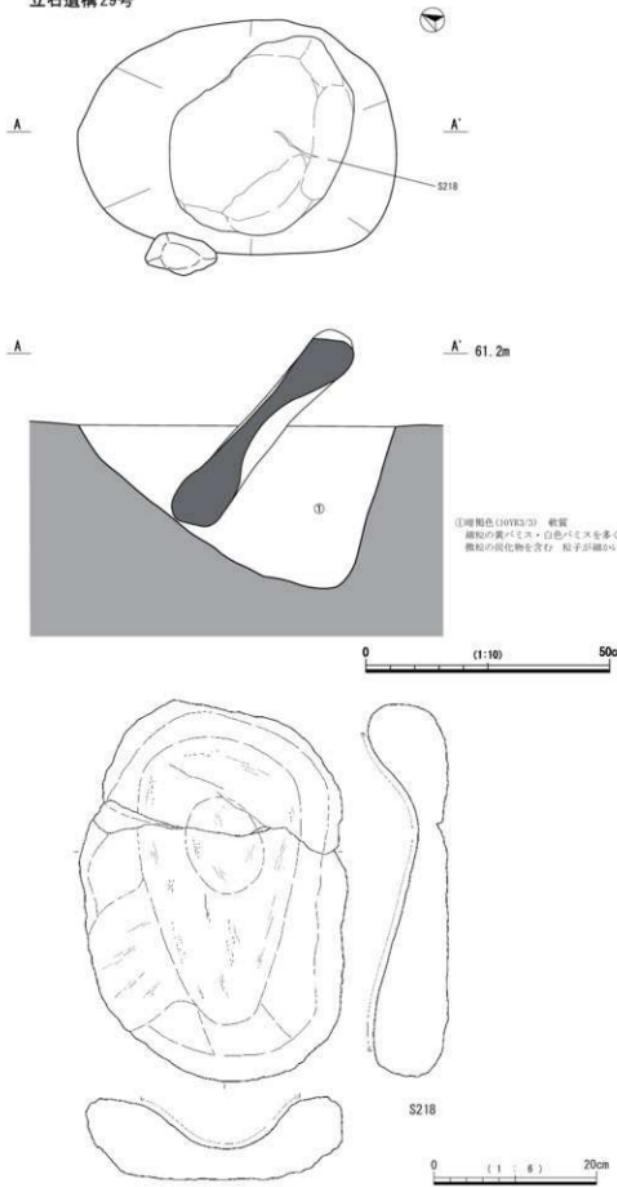


立石遺構28号



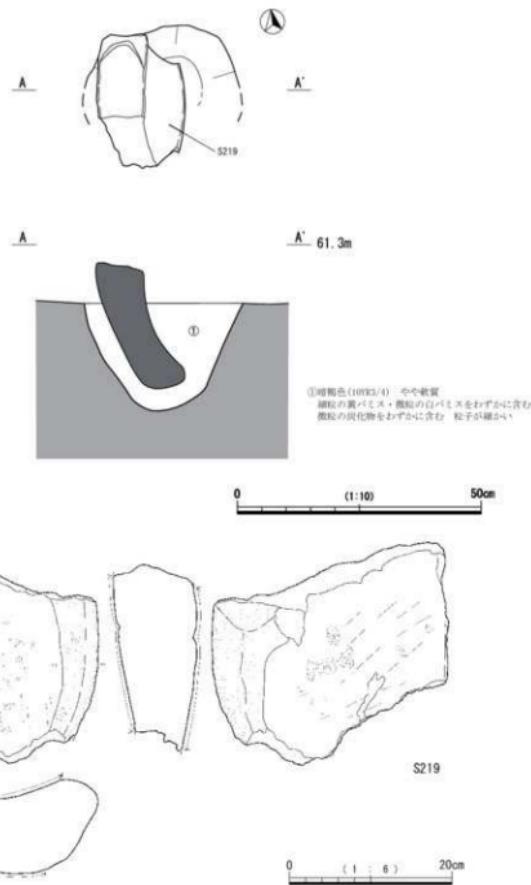
第222図 立石遺構27・28号と出土遺物

立石遺構29号



第223図 立石遺構29号と出土遺物

立石遺構30号



第224図 立石遺構30号と出土遺物

立石遺構32号 (第225図)

検出状況

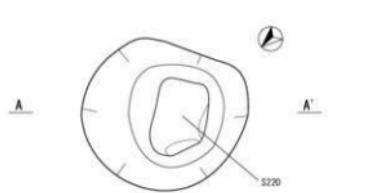
立石遺構32号は、B-16区のIVb層で検出された。規模は長軸57cm、短軸40cmを測る。完形と完形に近い2つの石皿が一緒に出土していることから保管状態のまま検出された可能性がある。調査区の中央より西側であるが、立石遺構の中で最東部に位置する。

分類：タイプIIb

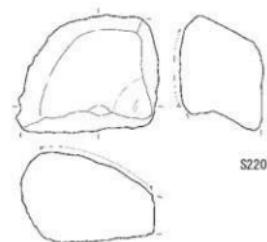
出土遺物

S221は花崗岩製の石皿Ⅲ類である。完形である。中央に摩耗面である凹みがある。凹みが2cmと浅いため使用初期段階の可能性が高い。S222は花崗岩製の石皿Ⅰb類である。上を欠く。中央付近に摩耗面である凹みがある。凹みが3.3cmと深く、よく使用した可能性が高い。敲打痕がみられる。真下と左下に掻き出し口がある。左下の掻き出し口が1.5cmと深い。

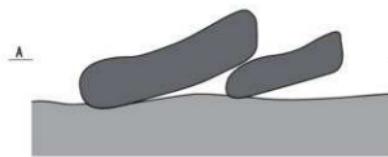
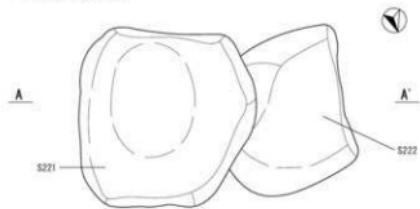
立石遺構31号



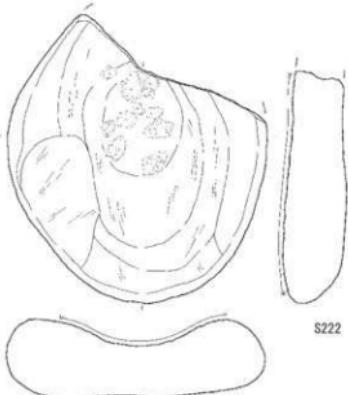
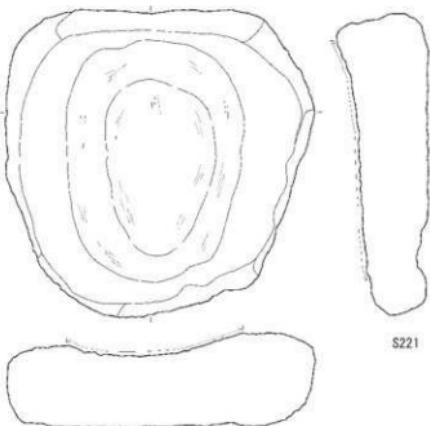
①黒褐色(7.5YR3/2)
オレンジ色のバニス(3mm~2mm大)2%を含む



立石遺構32号



0 (1:10) 50cm



第225図 立石遺構31・32号と出土遺物

第8表 穴穴建物跡一覧表

編図 番号	遺構名	検出区	検出層	平面プラン	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	面積 (nf)	長軸比	備考
45	堅穴建物跡1	C-3・4	Nb	橢円形	3.86	3.4	23	10.63	0.88	年代測定: 78 石組立石 集中
48	堅穴建物跡2	D-3・4	V	橢円形	3.20	3.09	23	8.15	0.97	
50	堅穴建物跡3	E-3	Nb	橢円形	2.45	2.31	23	4.39	0.94	集中
53	堅穴建物跡4	E-3	V	楕丸方形	2.87	2.86	18	6.83	1.00	
55	堅穴建物跡5	E-3・4	V	橢円形	3.28	2.37	27	6.58	0.72	
57	堅穴建物跡6	E・F-3	V	不明	2.96	2.63+α	43	6.30	—	
60	堅穴建物跡7	E・F-3	V	楕丸方形	3.14	2.44	27	6.84	0.78	
63	堅穴建物跡8	F-3	V	楕丸方形	3.72	3.04	24	10.53	0.82	
65	堅穴建物跡9	F-3	V	楕丸方形	4.10+α	3.43	24	15.12	0.83	
67	堅穴建物跡10	E-4	V	橢円形	2.40	1.90	17	3.88	0.79	デンブン分析: S42石組
69	堅穴建物跡11	E-4	V	橢円形	2.49	2.48	18	4.91	1.00	年代測定: 162
71	堅穴建物跡12	E・F-4	V	楕丸長方形	3.80	2.45	32	8.99	0.64	
74	堅穴建物跡13	F-7	V	楕丸方形	2.96	2.82	40	7.18	0.95	年代測定: 180
77	堅穴建物跡14	C-9	Nb	橢円形	4.48	4.15	35	15.38	0.92	集中
81	堅穴建物跡15	D・E-9	V	橢円形	2.74	2.64	19	5.94	0.96	
82	堅穴建物跡16	E-9・10	V	橢円形	4.23	4.04	30	13.39	0.96	年代測定: 204
86	堅穴建物跡17	E-9	V	橢円形	2.65	2.59	23	5.45	0.98	
87	堅穴建物跡18	F-9	V	不明	3.71	1.79+α	30	5.32	—	
88	堅穴建物跡19	C・D-10	V	橢円形	3.7	3.65	22	11.35	0.99	
89	堅穴建物跡20	D-10	Nb	橢円形	2.72	2.63	25	5.87	0.97	
90	堅穴建物跡21	D・E-10	V	橢円形	3.82	2.22+α	9	6.45	—	
91	堅穴建物跡22	D・E-10	Nb	橢円形	2.61	2.28	27	4.92	0.87	
92	堅穴建物跡23	C-15・16	Nb	楕丸方形	3.27	2.73	13	7.20	0.83	石組立石
95	堅穴建物跡24	D・E-16	Nb	橢円形	3.35	2.97	24	7.14	0.89	

第9表 土坑一覧表1

編図 番号	遺構名	検出区	検出層	タイプ	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	面積 (nf)	橢円率	備考
97	土坑7	B-2	Nb	Ⅲ	0.28	0.67	20	0.42	0.86	
98	土坑8	B-3	Nb	Ⅳ	1.20+α	1.12	21	—	—	
100	土坑9	E-3	Nb	Ⅱ	1.43	0.90	15	0.99	0.63	
101	土坑10	E・F-3	V	Ⅲ	0.77	0.70	17	0.44	0.91	
102	土坑11	G-3	V	Ⅱ	1.72	1.12	27	1.55	0.65	石組立石
103	土坑12	C-4	Nb	Ⅲ	1.73	1.54	44	2.14	0.89	
105	土坑13	D・E-4	V	Ⅲ	2.32	1.64	14	2.97	0.71	
107	土坑14	E-4	Nb	Ⅲ	1.19	0.61	43	0.58	0.51	
108	土坑15	E-4	V	Ⅲ	0.85	0.68	14	0.45	0.80	
110	土坑16	B-6	Nb	Ⅳ	0.58	0.43+α	17	—	—	年代測定: 308
111	土坑17	B・C-6	Nb	Ⅲ	1.93	1.09	43	1.64	0.56	
113	土坑18	C-6	Nb	Ⅲ	1.71	1.13	45	1.66	0.66	集中
114	土坑19	D・K-6	V	Ⅲ	0.88	0.82	15	0.56	0.93	
115	土坑20	E-6	V	Ⅲ	1.36	0.72	22	0.74	0.53	
116	土坑21	E-6	V	Ⅲ	0.61	0.42	14	0.19	0.69	
117	土坑22	E-6	V	Ⅲ	0.92	0.58	27	0.41	0.63	
118	土坑23	B-7・8	V	Ⅲ	1.02	0.70	37	0.59	0.69	
119	土坑24	B-7	V	Ⅲ	0.72	0.64	34	0.35	0.89	
120	土坑25	B-7	Nb	Ⅳ	0.64	0.20+α	11	—	—	
121	土坑26	D-7	V	Ⅲ	1.06	0.75	67	0.60	0.71	
122	土坑27	E・F-7	Na	I	1.15	0.52	19	0.42	0.45	
123	土坑28	C-8	Nb	Ⅲ	1.03	0.72	22	0.55	0.70	
124	土坑29	C-8	Nb	Ⅲ	1.28	0.80	17	0.82	0.63	デンブン分析: S109石組 石組立石
125	土坑30	C-8	Nb	Ⅳ	1.22+α	0.92	46	—	—	

第10表 土坑一覧表2

剖面番号	遺構名	検出層X	検出層Y	タイプ	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	面積(m ²)	積円率	備考
121	土坑31	C-D-8	VII	N	0.26	0.30+a	46	-	-	
122	土坑32	E-B	VII	N	0.25	0.65	17	0.38	0.87	
123	土坑33	E-B	Nb	II	1.28	0.84	15	0.87	0.66	
124	土坑34	E-B	VII	II	1.35	1.02	19	0.98	0.76	
125	土坑35	B-9	Nb	N	0.75	0.55+a	19	-	-	
	土坑36	D-9	V	III	1.23	0.66	30	0.66	0.54	
127	土坑37	D-9	V	III	0.74	0.72	26	0.42	0.97	
128	土坑38	C-D-10	Nb	N	0.28	0.20+a	17	-	-	標準中
129	土坑39	D-10	VII	III	1.75	1.53	40	2.01	0.87	
130	土坑40	F-10	VII	III	0.55	0.45	12	0.16	0.82	石組配石
131	土坑41	C-11	V	III	1.18	0.66	21	0.64	0.56	アンサンブル: SI20石組 石組立石
	土坑42	E-11	Na	III	0.67	0.54	32	0.28	0.81	
133	土坑43	B-12	Nb	N	1.52	0.86+a	40	-	-	
134	土坑44	F-12	VII	III	0.84	0.79	7	0.50	0.94	
135	土坑45	B-13	Nb	III	0.92	0.63	23	0.45	0.68	
136	土坑46	C-14	Nb	III	0.72	0.48	16	0.27	0.67	
137	土坑47	C-15	Na	III	0.82	0.51	25	0.35	0.62	
138	土坑48	C-D-15	Nb	III	1.58	0.90	15	1.11	0.37	
139	土坑49	D-15	Nb	III	1.70	1.20	42	1.60	0.70	
140	土坑50	B-16	Nb	III	1.51	1.45	55	1.81	0.96	
	土坑51	C-22	V	III	1.10	1.08	40	0.96	0.98	
141	土坑52	B-24	V	N	0.47+a	0.57	63	-	-	
	土坑53	B-24	V	N	0.75+a	0.22+a	45	-	-	
	土坑54	F-25	V	III	1.62	1.07	36	1.43	0.66	
142	土坑55	D-26	Nb	N	0.74	0.38+a	24	-	-	
	土坑56	C-27	Nb	III	1.00	0.70	29	0.53	0.70	
143	土坑57	D-27	Nb	III	0.97	0.57	15	0.43	0.59	
144	土坑58	D-E-28	VII	III	0.55	0.45	10	0.19	0.81	標準中

第11表 集石一覧表1

剖面番号	遺構名	検出層X	検出層Y	タイプ	長軸(m)	短軸(m)	掘込	構成石の内存量(個)							積合(g)	備考		
								砂 数	安 山 岩	砂 岩	真 岩	花 崗 岩	凝 灰 岩	ホ ル ン ク ラ ス	輕 石	その 他の 石		
141	集石5	B-3-4	Nb	III	0.32	0.31	有	21	1	4	1	7	3	5	67	1,401	標準中	
	集石6	D-3	Nb	I	1.74	0.41	無	30	3	2	16	3	4	1	1	-	-	その他の石英
	集石7	D-3	Nb	III	0.70	0.62	有	30	6	5	-	15	4	-	-	-	-	準配石
142	集石8	C-S-6	Nb	I	1.31	0.93	無	11	1	1	-	2	7	-	-	-	-	標準中
	集石9	B-5	Nb	I	1.07	0.32	無	11	3	-	3	2	2	1	660	7,257		
	集石10	F-5	Nb	I	0.53	0.29	無	7	4	3	-	-	-	-	1,475	10,325		
143	集石11	E-5	Nb	III	0.65	0.59	有	25	3	1	1	10	10	-	-	287	19,680	準配石
	集石12	E-5-6	Nb	I	0.96	0.22	無	6	5	1	-	-	-	-	-	-	-	標準中
144	集石13	F-5	Nb	II	0.99	0.42	無	13	1	3	4	5	-	-	-	-	-	標準中
145	集石14	C-6	Nb	II	1.44	1.17	無	22	6	-	4	12	-	-	-	-	-	石組配石
146	集石15	C-6	Nb	III	0.33	0.29	有	8	2	2	4	-	-	-	-	-	-	標準中
	集石16	C-6	Nb	I	0.44	0.40	無	6	1	3	1	1	-	-	-	1,102	6,611	
147	集石17	C-6	Nb	I	0.40	0.21	無	5	-	1	4	-	-	-	-	915	4,574	
	集石18	C-D-6	Nb	III	0.68	0.59	有	21	6	4	5	5	1	-	-	1,782	37,432	石組配石
	集石19	D-6	Nb	II	0.56	0.49	無	17	5	11	1	-	-	-	-	293	4,976	標準中
148	集石20	D-6	Nb	II	0.35	0.17	無	6	6	-	-	-	-	-	-	589	3,536	
	集石21	D-6	Nb	III	0.66	0.64	有	17	7	2	4	4	-	-	-	1,482	23,717	重量は取り上げ不能分1個を後く 石組配石
	集石22	E-6	Na	II	1.11	0.95	無	28	10	1	12	2	3	-	-	346	9,698	
149	集石23	E-6-7	N	II	0.95	0.95	有	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第12表 集石一覧表2

番号	遺構名	検出日X	検出場	タイプ	長軸 (m)	短軸 (m)	割込	構成率の内数(個)								一枚あたり の重量(g)	総計(g)	備考
								枚 数	安山岩	砂 岩	頁 岩	花崗岩	凝灰岩	ホルンブッシュ	軽 石	その他		
150	集石24	E-6	Nb	I	1.65	1.28	有	50	22	4	17	1	6			-	-	
	集石25	E-6	Nb	III	0.45	0.44	有	11	8			1	1			1	0	準配石
151	集石26	E-6~7	Nb	I	1.14	0.77	有	14	8		2	1	3			943	13,206	雑集中
	集石27	B-7	Nb	III	0.62	0.50	有	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	雑集中
152	集石28	C-7	Nb	I	0.74	0.52	有	19	3		5	1	1			2,056	20,559	石頭配石
	集石29	C-7	Nb	I	0.51	0.30	無	7	2		1	2	2			-	-	
153	集石30	C-7	Nb	III	0.34	0.31	無	8			1	7				753	6,025	雑集中
	集石31	C-7	Nb	III	0.72	0.63	有	33	11	15	1	1	4		1	-	-	石頭配石
153	集石32	D-7~8	Nb	III	0.37	0.36	有	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	雑集中
	集石33	D-7	Nb	III	0.35	0.33	有	6			1	1				693	2,771	雑集中
154	集石34	F-7	V	III	0.74	0.50	有	6	1	1	2	1		1		-		デンブ分析: S147 石頭配石
155	集石35	B-8	Nb	I	1.14	1.05	無	24	9	2	7	3	2	1		-	-	石頭配石
156	集石36	C-B	Nb	III	1.28	1.03	有	30		7	10	2	11			-	-	準配石
157	集石37	C-B	Nb	III	0.68	0.62	有	16	13		3					599	9,586	雑集中
158	集石38	C-B	Nb	III	0.69	0.52	有	16		2	1		13			-	-	雑集中
158	集石39	C-B	Nb	I	1.44	0.46	無	11	5		3	1	1	1		790	8,685	雑集中
159	集石40	C-B	Nb	III	1.18	0.50	有	14		1	3	2	8			1,059	14,819	雑集中
159	集石41	D-E-8	V	I	3.09	2.50	無	28	15	1	6	6				-		デンブ分析: S154 石頭配石
161	集石42	E-8	Nb	V	0.96	0.60	有	9	3	2	0	1	2	1		2,019	18,168	準配石
162	集石43	E-8	Nb	I	1.17	1.17	無	11	1	1	1	4	3	1		-	-	
162	集石44	E-8	Nb	III	0.50	0.49	有	11	1	1		6	2	1		3,885	42,737	石頭配石
163	集石45	B-C-9	Nb	III	0.59	0.55	有	11		1	4	2	4			2,119	23,310	石頭配石
164	集石46	E-9	Nb	I	0.57	0.25	無	7	1	1	1	3	1			-	-	
164	集石47	F-9	Nb	III	0.80	0.67	有	31		6	7	3	15			-	-	石頭配石
165	集石48	B-10	Nb	III	2.00	1.29	有	25	12	1	6	3	1			1,942	44,666	石頭配石
166	集石49	B-10	Nb	III	0.56	0.50	有	13	7		1	5				-	-	雑集中
167	集石50	B-10	Nb	III	0.58	0.25	無	10	5		3	1	1			-	-	雑集中
167	集石51	C-10	Nb	I	0.34	0.18	無	4	3		1					399	1,594	雑集中
168	集石52	C-10	Nb	III	0.67	0.57	有	15	3	3	5	1	3			-	-	雑集中
168	集石53	C-10	Nb	III	0.25	0.17	無	5	3	1			1			347	1,736	雑集中
168	集石54	C-10	Nb	III	0.79	0.48	有	9		2		1	6			-	-	石頭配石
169	集石55	C-10	Nb	I	0.37	0.18	無	4	3			1				866	3,464	雑集中
169	集石56	C-10	Nb	III	0.93	0.52	有	7	1		1	2	3			847	5,927	石頭配石
170	集石57	C-10	Nb	III	0.29	0.24	無	7		1	1	5				372	2,601	雑集中
170	集石58	C-10	Nb	III	0.25	0.24	無	5			1	4				-	-	雑集中
171	集石59	C-10	Nb	III	0.85	0.68	無	9	2	1	1	2	1	2		1,448	13,028	雑集中
171	集石60	D-10	Nb	III	0.88	0.88	有	34		9	1	4	19	1		1,142	38,828	石頭配石
171	集石61	E-10	Nb	III	0.43	0.37	無	13		1	10		2			171	2,219	雑集中
172	集石62	C-11	N	III	0.64	0.55	無	25	4	5	4	5	1	6		1,187	29,684	石頭配石
172	集石63	C-11	V	III	0.55	0.54	有	6	1		4	1				2,192	13,149	石頭配石
173	集石64	C-11	V	III	0.80	0.65	有	10	4	1	1	2		2		412	4,119	石頭配石
174	集石65	C-11	V	III	0.66	0.59	有	33	13	8	6	3	3			786	25,939	石頭配石
175	集石66	D-11	V	III	0.62	0.53	有	10	3	1	2	2	1			1,336	13,264	準配石
175	集石67	B-12	Nb	III	0.55	0.38	無	9		8		1				980	8,820	雑集中
175	集石68	C-12	Nb	III	0.30	0.25	無	5		2		2		1		816	4,080	雑集中
175	集石69	C-12	Nb	I	0.71	0.67	無	6	2	1	1	1	1			1,213	7,280	雑集中
176	集石70	D-12	Nb	III	0.70	0.43	有	8	4		1		3			2,360	18,876	石頭配石
177	集石71	C-14	Nb	III	0.90	0.64	無	29	18	6	2	1	2			93	2,687	準配石
178	集石72	E-21	Nb	III	0.79	0.62	有	29	6	9	2		12			325	9,430	準配石
178	集石73	D-E-28	Nb	I	0.81	0.25	無	5	3			2				-	-	雑集中

第13表 立石遺構一覧表

測定番号	遺構名	検出区	検出場	大きさ(cm)			タイプ	層位	遺物	備考
				長軸	短軸	深さ				
207	立石遺構1号	F-3	V	49	41	10	Ia	有		石組立石
	立石遺構2号	C-5	B' b	24	14+u	6	Ia	有		石組立石
	立石遺構3号	C-6	B' b	35	27+u	25	Ia	有	S191石組	石組立石
208	立石遺構4号	C-6	B' b	40+u	40	7	Ib	有		
	立石遺構5号	C-6	B' b	51	28+u	10	Ia	有	S192石組	石組立石
209	立石遺構6号	B-7・8	B' b	40	25+u	10	Ia	有	S193石組	石組立石
	立石遺構7号	C-7	B' b	20	10	-	IIa	無	S194石組	
210	立石遺構8号	C-7	B' b	25	15+u	7	Ia	有	S195石組	石組立石
	立石遺構9号	D-7	B' b	59	47	13	Ib	有		
211	立石遺構10号	D-7	B' b	106	96	23	Ib	有	S196石組 S197石臼 534・535土器	年代測定: 535
213	立石遺構11号	D-7	B' b	50	40	-	IIb	無	S198骨・鏡石 S199石組	デンブン分析: S199石組
214	立石遺構12号	D-7	B' b	30	25	-	IIa	無	S200石組	
	立石遺構13号	E-7	B' b	34+u	34	19	Ia	有	S201石組	石組立石
215	立石遺構14号	E-7	B' b	38	22+u	30	Ia	有	S202石組	石組立石
	立石遺構15号	E-7	V	45	35	-	IIb	無	S203石組	
	立石遺構16号	F-7	B' b	24	20	-	IIb	無	S204石組	
216	立石遺構17号	B-8	B' b	98	34+u	66	Ia	有	S205石組	石組立石
	立石遺構18号	C-8	B' b	26	20	-	IIa	無	S206石組	
	立石遺構19号	C-8	B' b	38	35	20	Ia	有	S207石組	石組立石
218	立石遺構20号	D-8	B' b	30	20	-	IIb	無	S208石組	
	立石遺構21号	E-8	B' b	52	39+u	15	Ia	有	S209石組 536・537土器	石組立石
219	立石遺構22号	E-8	B' b	34	27+u	20	Ia	有	S210石組	石組立石
	立石遺構23号	F-8	B' b	60	30	-	IIb	無	S211骨・鏡石 S212石組	
220	立石遺構24号	F-8	B' b	25	22	-	IIb	無	S213石組	
	立石遺構25号	F-8	B' b	40	36+u	20	Ib	有	S214石組	石組立石
221	立石遺構26号	B-9	B' b	35	30	-	IIb	無	S215骨・鏡石 S216石組 536・537土器	デンブン分析: S216石組
	立石遺構27号	B-9	B' b	45	35	27	Ia	有	S217石組	石組立石
222	立石遺構28号	B-9	B' b	54	25+u	30	Ia	有		石組立石
	立石遺構29号	B-9	B' b	66	48	34	Ia	有	S218石組	デンブン分析: S218石組 石組立石
224	立石遺構30号	C-9	B' b	32	13+u	22	Ia	有	S219石組	石組立石
225	立石遺構31号	F-9	B' b	35	31	2	Ia	有	S220石組	石組立石
	立石遺構32号	B-16	B' b	57	40	-	IIb	無	S221・222石組	

第14表 穴穴建物跡器觀察表1

※添付欄の円錐状土製加工品はモノと示す。

探査番号	探査年	器種	分類	出土区	層	遺物名	文様・器形調整等				出土	金型(目印)	鉛石	その他の	取上番号	参考	写真回数
							外觀	内觀	外觀	内觀							
46	76	深鉢	Vc	C-4	R/b		ナデ	網底	に深い網	に深い網	○	○	○	○	42035	56	
	77	深鉢	深b	C-3	R/b	貝殻を底→ナデ	貝殻を底→ナデ	に深い網	に深い網	○	○	○	○	42105	56		
	78	深鉢	深b	C-3-4	R/b	ナデ	貝殻を底→ナデ	に深い網	に深い網	○	○	○	○	42056地	年代測定試料	59	
	79	深鉢	深b	C-3-4	R/b	ナデ	貝殻を底→ナデ	に深い網	に深い網	○	○	○	○	42107地	年代測定試料	56	
	80	深鉢	深b	C-4	R/b	ナデ	貝殻を底→ナデ	に深い網	に深い網	○	○	○	○	42061地			
	81	深鉢	-	C-3	R/b	貝殻を底	貝殻を底→ナデ	に深い網	に深い網	○	○	○	○	42232地			
	82	深鉢	-	C-3-4	R/b	貝殻を底	貝殻を底→ナデ	に深い網	に深い網	○	○	○	○	42071地	狂狹檢出	-	
	83	深鉢	-	C-4	R/b	貝殻を底	ナデ	に深い網	灰黃褐色	○	○	○	○	42062地			
	84	深鉢	-	C-4	R/b	貝殻を底	ナデ	に深い網	灰黃褐色	○	○	○	○	42115			
	85	深鉢	-	C-3	R/b	貝殻を底	マメフ	に深い網	青白	○	○	○	○	34445			
48	86	台付鉢	-	C-3	R/b	貝殻を底	マメフ	に深い網	青白	○	○	○	○	-			
	87	深鉢	V-VI	D-3-4	V		ナデ	網底	に深い網	○	○	○	○	-	56		
	88	深鉢	Va	D-4	-		ナデ	網底	青白	○	○	○	○	41696	56		
	89	深鉢	V	D-3-4	V	貝殻を底→ナデ	貝殻を底→ナデ	に深い網	○	○	○	○	-	56			
	90	深鉢	V	D-3-4	V	ナデ	貝殻を底→ナデ	に深い網	灰黃褐色	○	○	○	○	-			
	91	深鉢	Vc	D-3-4	V	ナデ	貝殻を底→ナデ	に深い網	青白	○	○	○	○	-			
	92	深鉢	V	D-4	-	貝殻を底	貝殻を底	に深い網	○	○	○	○	41665	56			
	93	深鉢	-	D-3-4	V	貝殻を底	ナデ	に深い網	青白	○	○	○	○	41672	メンコ未製品	-	
	94	深鉢	-	D-3-4	V	ナデ	ナデ	に深い網	青白	○	○	○	○	-			
	95	深鉢	-	D-4	-	ナデ	ナデ	に深い網	根	○	○	○	○	41675	-		
50	96	メンコ	-	D-4	-	貝殻を底→ナデ	貝殻を底	に深い網	○	○	○	○	-				
	97	深鉢	Wc	E-3	R/b	貝殻を底	貝殻を底→ナデ	に深い網	に深い網	○	○	○	○	38329地			
	98	深鉢	V	E-3	-	貝殻を底	貝殻を底	網底	青白	○	○	○	○	43538			
	99	深鉢	V	E-3	-	貝殻を底	ナデ	に深い網	に深い網	○	○	○	○	38323			
	100	深鉢	Ba	E-3	-	貝殻を底	ナデ	に深い網	明褐色	○	○	○	○	38334	56		
	101	深鉢	Va	E-3	-	貝殻を底	ナデ	に深い網	灰黃褐色	○	○	○	○	38345地	56		
	102	深鉢	V	E-3	-	貝殻を底	ナデ	に深い網	灰黃褐色	○	○	○	○	38910地	-		
	103	深鉢	V	E-3	-	貝殻を底	ナデ	に深い網	灰黃褐色	○	○	○	○	38919	-		
	104	深鉢	V	E-3	-	貝殻を底	ナデ	に深い網	灰黃褐色	○	○	○	○	38319	56		
	105	深鉢	V	E-3	R/b	貝殻を底	貝殻を底	に深い網	○	○	○	○	42249	-			
51	106	深鉢	V	E-3	-	貝殻を底	貝殻を底	に深い網	○	○	○	○	37699地	貝殻が蓮葉	-		
	107	深鉢	V	E-3	R/b	貝殻を底	貝殻を底	に深い網	○	○	○	○	-	56			
	108	深鉢	V	E-3	-	貝殻を底	貝殻を底	に深い網	灰黃褐色	○	○	○	○	38865地	-		
	109	深鉢	V	E-3	-	貝殻を底	ナデ	に深い網	灰黃褐色	○	○	○	○	45335地	-		
	110	メンコ	-	E-3	R/b	貝殻を底	ナデ	灰黃褐色	灰黃褐色	○	○	○	○	-			
	111	メンコ	-	E-3	-	ナデ	ナデ	に深い網	根	○	○	○	○	42250	-		
	112	深鉢	Vb	E-3	-	貝殻を底	貝殻を底	網底	に深い網	○	○	○	○	42256地	56		
	113	深鉢	V	E-3	-	貝殻を底	ナデ	に深い網	根	○	○	○	○	42249	56		
	114	深鉢	-	E-F-3	R/b	貝殻を底	ナデ	に深い網	根	○	○	○	○	27699地	貝殻が蓮葉	-	
	115	深鉢	-	E-3-4	V	ナデ	ナデ	に深い網	根	○	○	○	○	-	56		
55	116	メンコ	-	E-3-4	V	貝殻を底→ナデ	貝殻を底→ナデ	に深い網	灰黃褐色	○	○	○	○	45765地	メンコ未製品	-	
	117	深鉢	-	E-3-4	V	貝殻を底→ナデ	貝殻を底→ナデ	に深い網	灰黃褐色	○	○	○	○	45763地	-		
	118	深鉢	-	E-3-4	V	貝殻を底→ナデ	貝殻を底→ナデ	に深い網	灰黃褐色	○	○	○	○	-			
	119	深鉢	-	E-3-4	V	ナデ	ナデ	に深い網	根	○	○	○	○	-			
	120	深鉢	-	E-3-4	V	ナデ	ナデ	貝殻を底→ナデ	に深い網	灰黃褐色	○	○	○	○	-		
	121	深鉢	Vb	E-F-3	V	ナデ	ナデ	に深い網	灰黃褐色	○	○	○	○	46672地	59		
	122	深鉢	-	E-F-3	V	ナデ	ナデ	灰黃褐色	根	○	○	○	○	46673地	56		
	123	深鉢	-	E-	-	ナデ	ナデ	灰黃褐色	根	○	○	○	○	46675	-		
	124	深鉢	-	E-F-3	V	ナデ	ナデ	灰黃褐色	根	○	○	○	○	46672地	56		
	125	深鉢	-	E-F-3	V	ナデ	ナデ	灰黃褐色	根	○	○	○	○	46671地	56		
56	126	深鉢	-	E-3	-	ナデ	ナデ	灰黃褐色	根	○	○	○	○	46638	-		
	127	深鉢	-	E-F-3	V	ナデ	ナデ	灰黃褐色	根	○	○	○	○	46672地	-		
	128	深鉢	-	E-3	-	ナデ	ナデ	灰黃褐色	根	○	○	○	○	46670地	-		
	129	深鉢	-	E-3	-	ナデ	ナデ	灰黃褐色	根	○	○	○	○	46670地	-		
	130	深鉢	-	E-F-3	V	ナデ	ナデ	灰黃褐色	根	○	○	○	○	46643	-		
	131	深鉢	-	E-F-3	V	ナデ	ナデ	灰黃褐色	根	○	○	○	○	46613地	-		
	132	深鉢	-	E-F-3	V	ナデ	ナデ	根	根	○	○	○	○	-			
	133	深鉢	-	E-3	-	ナデ	ナデ	根	根	○	○	○	○	46616	-		
	134	深鉢	-	E-3	-	ナデ	ナデ	に深い網	根	○	○	○	○	46625	-		
	135	深鉢	Vb	E-3	-	ナデ	ナデ	網底	に深い網	○	○	○	○	45361	57		
57	136	深鉢	Vb	E-F-3	V	貝殻を底	貝殻を底	に深い網	根	○	○	○	○	-			
	137	深鉢	V	E-F-3	V	貝殻を底	貝殻を底	に深い網	根	○	○	○	○	-			
	138	深鉢	Vb	E-3	R/b	貝殻を底	ナデ	に深い網	根	○	○	○	○	27756地	57		
	139	深鉢	V	E-3	-	貝殻を底	ナデ	に深い網	根	○	○	○	○	45407	-		
	140	深鉢	Vb	E-3	-	貝殻を底	ナデ	に深い網	根	○	○	○	○	45375	-		
	141	深鉢	V	E-3	-	貝殻を底	ナデ	に深い網	根	○	○	○	○	45397地	-		
	142	深鉢	-	E-3	-	ナデ	ナデ	に深い網	根	○	○	○	○	45393	-		
	143	深鉢	-	E-3	-	ナデ	ナデ	に深い網	根	○	○	○	○	45916	-		
	144	深鉢	-	E-F-3	V	ナデ	ナデ	貝殻を底	根	○	○	○	○	-			
	145	深鉢	Vb	F-3	V	ナデ	ナデ	網底	灰黃褐色	○	○	○	○	-	57		
63	146	深鉢	Vb	F-3	V	ナデ	ナデ	灰黃褐色	灰黃褐色	○	○	○	○	44977	57		
	147	深鉢	V	F-3	V	ナデ	ナデ	灰黃褐色	灰黃褐色	○	○	○	○	-			
	148	深鉢	-	F-3	V	ナデ	ナデ	灰黃褐色	灰黃褐色	○	○	○	○	-			
	149	深鉢	-	F-3	-	ナデ	ナデ	灰黃褐色	根	○	○	○	○	44971	-		
	150	深鉢	-	F-3	V	ナデ	ナデ	灰黃褐色	根	○	○	○	○	-			
	151	深鉢	-	F-3	V	ナデ	ナデ	灰黃褐色	根	○	○	○	○	44975地	-		
	152	深鉢	Vb	F-3	V	貝殻を底→ナデ	貝殻を底→ナデ	灰黃褐色	灰黃褐色	○	○	○	○	-	57		
	153	深鉢	Vb	F-3	V	ナデ	ナデ	灰黃褐色	灰黃褐色	○	○	○	○	-			
	154	深鉢	Vb	F-3	-	ナデ	ナデ	灰黃褐色	根	○	○	○	○	46477	57		
	155	深鉢	-	F-3	V	ナデ	ナデ	灰黃褐色	根	○	○	○	○	46476地	-		
64	156	深鉢	-	E-4	-	ナデ	ナデ	灰黃褐色	根	○	○	○	○	43429	57		
	157	深鉢	-	E-4	V	ナデ	ナデ	灰黃褐色	明褐色	○	○	○	○	-			
	158	深鉢	-	E-4	-	ナデ	ナデ	灰黃褐色	に深い網	○	○	○	○	43441	-		

第15表 穴穴建物跡器觀察表2

※各欄の内数字は算出加工品はメソと示す。

探査番号	探査番号	器種	分類	出土区	層	遺物名	文様・器形調整等				胎土	金型	目録番号	取上番号	参考			
							外圓	内圓	外圓	内圓	白質	黒質	金型	目録番号				
69	159	深鉢	Vb	E-4	V		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	45626他	57		
	160	深鉢	Vb	E-4	V		目録番号	目録番号→ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	45625他	-		
70	161	深鉢	Vb	E-4	V	空穴建物跡11	目録番号	目録番号→ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	45619他	-		
	162	深鉢	Vb	E-4	V		目録番号	目録番号→ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	45618 年代測定試料	57		
	163	深鉢	Vb	E-4	V		ナデ	工具ナデ	楕	楕	○	○	○	○	45633他	-		
	164	深鉢	Va	E-F-4	V		ナデ	工具ナデ	楕	楕	○	○	○	○	45634他	57		
	165	深鉢	Va	E-F-4	-		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	44839他	57		
71	166	深鉢	Va	E-F-4	V		ナデ	楕	楕	にい・楕	○	○	○	○	-	-		
	167	深鉢	Va	F-4	-		ナデ	ナデ	楕	灰黄楕	○	○	○	○	44540他	-		
	168	深鉢	Va	F-4	-		ナデ	ナデ	楕	灰楕	○	○	○	○	44747	57		
	169	深鉢	Va	C-F-3	Vb	空穴建物跡12	目録番号	目録番号→ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	44541他	-		
	170	深鉢	Va	E-F-4	V		ナデ	目録番号	にい・楕	にい・楕	○	○	○	○	44829他	-		
72	171	深鉢	Va	E-4	-		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	44530他	-		
	172	深鉢	Va	F-4	-		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	44548他	-		
	173	深鉢	Va	F-4	V		ナデ	目録番号	にい・楕	にい・楕	○	○	○	○	-	-		
	174	深鉢	Vc	F-7	V		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	45329他	-		
	175	深鉢	Vb	F-7	V		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	45329他	57		
	176	深鉢	Vb	F-7	V		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	45827他	57		
75	177	深鉢	Vb	F-7	Vb	空穴建物跡13	目録番号	目録番号→ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	-	-		
	178	深鉢	Vb	F-7	V		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	-	-		
	179	深鉢	V	F-7	V		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	-	-		
	180	深鉢	Vb	F-7	-	空穴建物跡13	目録番号	目録番号→ナデ	赤楕	にい・楕	○	○	○	○	45624	57		
	181	深鉢	-	F-7	-		ナデ	ナデ	楕	灰黄楕	○	○	○	○	45633他	-		
	182	深鉢	-	F-7	-		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	45908	-		
	183	深鉢	-	F-7	-		ナデ	目録番号	楕	にい・楕	○	○	○	○	45818他	-		
	184	深鉢	-	F-7	V		ナデ	目録番号	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	45625他	-	
	185	メンコ	Vb	F-7	V		ナデ	ナデ	楕	根	○	○	○	○	メンコ未製品	57		
	186	メンコ	Va	F-7	V		ナデ	ナデ	楕	明赤楕	○	○	○	○	-	-		
	187	深鉢	Va	C-D-9	Va		ナデ	目録番号	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	21208他	58	
78	188	深鉢	Va	C-9	Vb		ナデ	ナデ	楕	灰	○	○	○	○	45670他	58		
	189	深鉢	Va	C-9	-		ナデ	ナデ	楕	明赤楕	根	○	○	○	○	36516	58	
	190	深鉢	Va	C-9	Vb		ナデ	目録番号	ナデ	楕	灰	○	○	○	○	28788他	58	
	191	深鉢	Vb	C-E-9	Vb		ナデ	目録番号	ナデ	楕	灰	○	○	○	○	43095他	-	
79	192	深鉢	Vb	B-H-9	Vb	空穴建物跡14	目録番号	目録番号→ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	20363他	58		
	193	深鉢	Vb	B-H-9	Vb		ナデ	目録番号	ナデ	楕	根	○	○	○	○	28810他	58	
	194	深鉢	Vb	B-H-9	Vb		ナデ	目録番号	目録番号→ナデ	楕	にい・楕	根	○	○	○	○	22741他	58
	195	深鉢	Vb	B-H-9	Vb		ナデ	目録番号	目録番号→ナデ	楕	にい・楕	根	○	○	○	○	28507他	58
80	196	深鉢	Vb	B-H-9	Vb	空穴建物跡14	目録番号	目録番号→ナデ	楕	にい・楕	根	○	○	○	○	37567他	58	
	197	台付付か	Vb	C-9	-		ナデ	目録番号	ナデ	楕	にい・楕	根	○	○	○	○	36357 赤色顔料付着	58
	198	深鉢	-	C-9	-		ナデ	工具ナデ	工具ナデ	楕	にい・楕	根	○	○	○	○	45672	-
	199	深鉢	Vb	D-E-9	V	空穴建物跡15	目録番号	目録番号→ナデ	楕	灰	○	○	○	○	-	-		
81	200	深鉢	Vb	D-E-9	V		ナデ	目録番号	目録番号→ナデ	楕	灰	○	○	○	○	46011他	59	
	201	深鉢	-	D-9	-		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	にい・楕	○	○	○	○	46011他	59	
	202	メンコ	-	D-E-9	V		ナデ	ナデ	楕	根	○	○	○	○	ナデ	-		
	203	深鉢	Va	E-9	V10		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	45630他	59		
	204	深鉢	Va	E-10	-		ナデ	目録番号	目録番号→ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	46111 年代測定試料	59	
	205	深鉢	Va	E-9	-		ナデ	目録番号	目録番号→ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	46393	59	
83	206	深鉢	Va	台付付?	-		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	-	-		
	207	深鉢	Va	E-9	-		ナデ	ナデ	楕	赤楕	○	○	○	○	46394	-		
	208	深鉢	Va	E-9	-		ナデ	ナデ	楕	赤楕	○	○	○	○	46395	-		
	209	合付皿	Va	E-9	-		ナデ	ナデ	楕	赤楕	○	○	○	○	46396	-		
	210	台付付	Va	E-9	-		ナデ	ナデ	楕	赤楕	○	○	○	○	46397	-		
	211	深鉢	-	E-9	-		ナデ	ナデ	楕	赤楕	○	○	○	○	46398	-		
	212	深鉢	-	E-9	-		ナデ	ナデ	楕	赤楕	○	○	○	○	46651	-		
	213	メンコ	Va	E-9	V10	空穴建物跡16	目録番号	目録番号→ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	ナデ	-		
	214	メンコ	Va	E-9	V10		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	46652	-		
	215	メンコ	Va	E-9	V10		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	ナデ	-		
	216	メンコ	Va	E-9	V10		ナデ	ナデ	楕	灰黄楕	○	○	○	○	ナデ	-		
	217	メンコ	Va	E-9	V10		ナデ	ナデ	楕	灰黄楕	○	○	○	○	ナデ	-		
84	218	メンコ	Va	E-10	-		ナデ	ナデ	楕	灰黄楕	○	○	○	○	46110	-		
	219	メンコ	Va	E-9	V10	空穴建物跡16	工具ナデ	工具ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	-	-		
	220	メンコ	Va	E-10	-		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	46386 メンコ未製品	-		
	221	メンコ	Va	E-10	-		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	46108	-		
	222	メンコ	Va	E-9	V10		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	ナデ	-		
	223	深鉢	Vb	E-9	V		ナデ	ナデ	楕	赤	にい・楕	○	○	○	○	59	-	
	224	深鉢	Va	E-9	-		ナデ	ナデ	楕	灰	○	○	○	○	46015	59		
85	225	深鉢	-	E-9	V	空穴建物跡17	目録番号	目録番号→ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	-	-		
	226	メンコ	Va	E-9	-		ナデ	ナデ	楕	灰	にい・楕	○	○	○	○	45320	59	
	227	メンコ	Va	E-9	V		ナデ	ナデ	楕	灰	にい・楕	○	○	○	○	-	-	
	228	メンコ	Va	E-9	-		ナデ	ナデ	楕	灰	にい・楕	○	○	○	○	46016	-	
	229	深鉢	Vb	E-9	V	空穴建物跡18	ナデ	ナデ	楕	灰	にい・楕	○	○	○	○	-	-	
	230	深鉢	Vb	D-10	-		ナデ	ナデ	楕	根	にい・楕	○	○	○	○	46149	59	
89	231	深鉢	-	D-10	Vb	空穴建物跡20	ナデ	ナデ	楕	根	にい・楕	○	○	○	○	-	-	
	232	メンコ	-	D-10	Vb		ナデ	ナデ	楕	根	にい・楕	○	○	○	○	ナデ	-	
90	233	深鉢	Vb	D-E-10	Vb	空穴建物跡21	ナデ	ナデ	楕	根	にい・楕	○	○	○	○	ナデ	-	
	234	深鉢	Vb	C-15-16	無土		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	17082	59		
	235	深鉢	Va	C-15-16	Vb		ナデ	ナデ	楕	灰	明赤楕	○	○	○	○	ナデ	-	
	236	深鉢	Va	C-15-16	Vb		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	ナデ	-		
	237	深鉢	-	C-15-16	Vb		ナデ	工具ナデ	にい・楕	にい・楕	○	○	○	○	ナデ	-		
	238	深鉢	-	C-16	無土	空穴建物跡23	ナデ	ナデ	楕	灰	灰黄楕	○	○	○	○	17338	-	
93	239	深鉢	-	C-15	無土		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	17344	-		
	240	深鉢	-	C-15	無土		ナデ	ナデ	楕	にい・楕	○	○	○	○	17342	-		
	241	深鉢	-	C-15	無土		ナデ	ナデ	楕	灰黄楕	○	○	○	○	18852	-		

第16表 竪穴建物跡土器観察表3

専用機器の内製品と製加工品はインゴと称す。

第17表 土坑土器觀察表 1

第18表 土坑土器觀察表2

※補修の内歴上製加工品は△印と示す。

探査番号	探査年	若林	分類	出土区	層	遺構名	文様・器形調整等		色調		出土		取上番号	参考	写真回数			
							外表面	内面	外表面	内面	白磁	黒磁	金目録	銀目録	緑目録			
219	深鉢	Vb	C-6	-			目録全赤	目録全赤	暗灰赤	に赤い褐色	○	○	○	○	○	46749	61	
330	深鉢	Va	C-6	Nb			ナデ	ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	○	○	46726	61	
321	深鉢	Va	D-6	V			ナデ	ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	○	○	46734	-	
114	322	深鉢	Va	B-S	V	土坑18	ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	○	○	-	61	
323	深鉢	Va	B-7	V			ナデ	ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	○	○	-	61	
324	深鉢	Va	B-7	V			ナデ	ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	○	○	-	61	
115	325	深鉢	Vb	B-7	V	土坑23	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	○	○	-	61
326	深鉢	Va	B-7	V			ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	61	
327	深鉢	Va	B-7	V			ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	61	
328	深鉢	Vb	C-7	Rb			ナデ	ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	○	○	BS25-23	-	
116	329	深鉢	Va	C-7	Rb	土坑25	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	○	○	BS25-24	-
330	深鉢	Va	C-7	Rb			ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	BS25-25	62	
331	深鉢	Va	C-7	Rb			ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	BS25-27	-	
117	332	深鉢	D-7	埋			ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	SK24-10	SK24-10	
333	深鉢	E-F-7	Na				ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	SK24-10	
334	深鉢	Va	C-8				ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	45728	-	
118	335	深鉢	Vb	C-8	Rb	土坑29	ナデ	ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	○	○	-	-	
336	深鉢	Va	C-8	Rb			ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	62	
337	深鉢	Va	C-8	Rb			ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	45902	62	
119	338	深鉢	Va	C-8	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	46449	62	
339	深鉢	Va	C-8	Rb			ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	45902	-	
340	深鉢	Va	C-8	Rb			ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	45902	-	
120	341	深鉢	Va	C-8	Rb	土坑30	ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	45902	-	
342	深鉢	Va	C-8	Rb			ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	-	
343	メンコ	Va	C-8	Rb			ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	-	
122	344	深鉢	Vb	E-8	V	土坑32	ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	BS24-05	BS24-05	
345	345	深鉢	Vb	E-8	V		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	BS24-06	-	
123	346	深鉢	Vb	E-8	-		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	45416	62	
347	347	深鉢	Vb	B-9	-		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	45806	-	
348	348	深鉢	Vb	B-9	Nb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	45724	-	
127	349	メンコ	-	D-9	V		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	-	
128	350	深鉢	Vb	D-10	V	土坑36	ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	62	
351	351	深鉢	Va	B-13	Nb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	62	
131	352	深鉢	Vb	B-13	Nb	土坑45	ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	-	
353	353	深鉢	Va	C-14	埋土	土坑46	ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	15441	63	
354	354	深鉢	Va	C-15	埋土		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	17906	63	
132	355	深鉢	Vb	C-15	Nb	土坑47	ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	20020	63	
356	356	深鉢	-	C-15	Na		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	-	
357	357	深鉢	-	C-15	埋土		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	17907	-	
358	358	深鉢	Va	C-15	埋土		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	17031	63	
359	359	深鉢	Vl	D-15	埋土		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	17033	63	
360	360	深鉢	Vb	D-15	埋土		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	17027	-	
133	361	深鉢	Va	D-15	埋土	土坑48	ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	17028	-	
362	362	深鉢	Va	D-15	埋土		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	17026	-	
363	363	深鉢	Va	D-15	埋土		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	17035	-	
364	364	メンコ	Vd	D-15	埋土		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	17029	メンコ製品	
134	365	深鉢	Vb	D-15	埋土		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	17060	-	
366	366	深鉢	Vc	D-15	埋土		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	17065	63	
367	367	深鉢	Va	D-15	埋土	土坑49	ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	17061	63	
368	368	深鉢	Va	D-15	埋土		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	17096	-	
369	369	メンコ	Vb	D-15	埋土		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	17041	63	
370	370	深鉢	Va	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	63	
371	371	深鉢	Vc	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	63	
372	372	深鉢	Va	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	63	
373	373	深鉢	Va	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	63	
374	374	深鉢	Va	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	63	
375	375	深鉢	Va	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	63	
376	376	深鉢	Va	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	63	
377	377	深鉢	Vb	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	63	
378	378	深鉢	Va	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	63	
379	379	深鉢	Va	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	63	
380	380	深鉢	Va	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	63	
381	381	深鉢	Va	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	63	
382	382	深鉢	Va	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	63	
383	383	メンコ	-	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	メンコ欠損品	
384	384	メンコ	V-16	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	メンコ欠損品	
385	385	メンコ	V-16	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	メンコ欠損品	
137	386	メンコ	-	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	-	
387	387	メンコ	-	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	-	
388	388	メンコ	-	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	-	
389	389	メンコ	V-16	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	-	
390	390	メンコ	-	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	メンコ欠損品	
391	391	メンコ	-	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	-	-	
392	392	深鉢	Vb	E-16	Rb		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	38237	-	
393	393	メンコ	V-16	D-3	Nb	集石6	ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	41519	-	
394	394	深鉢	Vb	D-3	-	集石7	ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	43954	67	
395	395	メンコ	-	D-3	-		ナデ	ナデ	目録全赤→ナデ	目録全赤→ナデ	灰黒	に赤い褐色	○	○	○	43950	-	

第19表 集石器觀察表1

探査番号	若林	分類	出土区	層	遺構名	文様・器形調整等		色調		出土		取上番号	参考	写真
------	----	----	-----	---	-----	----------	--	----	--	----	--	------	----	----

第20表 集石土器觀察表2

※補修の円筒状土器加工品はメソと示す。

種類 番号	器種 番号	分類	治土区	層	遺構名	文様・表面調整等				色調	黏土 性質	輪郭 形状	輪石	その他の 特徴	取上番号	備考	写真 回数			
						外側	内面	外側	内面											
141	396	メンコ	-	B-3	-	集石7	ナデ	貝殻条板→ナデ	灰青褐色	黒灰	○	○	○	○	○	43951	-			
	397	深鉢	Vb	C-5	-		ナデ	貝殻条板→ナデ	に深い緑	青褐色	○	○	○	○	○	38860	-			
142	398	深鉢	Vb	C-6	-	集石8	ナデ	貝殻条板→ナデ	に深い緑	青褐色	○	○	○	○	○	38858	67			
	399	深鉢	Vb	C-5	-		ナデ	貝殻条板→ナデ	に深い緑	青褐色	○	○	○	○	○	38849	67			
	400	深鉢	Vb	C-5	-		ナデ	貝殻条板	貝殻条板	青褐色	○	○	○	○	○	38861	-			
143	401	深鉢	Vb	E-5	-	集石11	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	33457	-			
	402	深鉢	Vb	F-5	-	集石13	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	44615	67			
144	403	深鉢	Vb	C-6	-		ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	29009	67			
145	404	深鉢	Vb	C-6	-	集石14	ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	29014	-			
	405	深鉢	Vb	C-6	-		ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	29016	67			
146	406	深鉢	Vb	E-6	-		ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板→ナデ	に深い緑	○	○	○	○	○	44841	-			
	407	深鉢	Vb	E-6	-	集石22	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	44842	-			
148	408	深鉢	Va	E-6-7	埋		ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	SS118-10	67			
149	409	深鉢	Vb	E-7	埋	集石23	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板→ナデ	明水面	に深い緑	○	○	○	○	○	SS118-23	-		
	410	深鉢	Vb	E-7-7	埋		ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板→ナデ	明水面	に深い緑	○	○	○	○	○	SS118-25	-		
	411	深鉢	Vb	E-7-7	埋		ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板→ナデ	明水面	に深い緑	○	○	○	○	○	SS118-40	-		
151	412	深鉢	Vc	B-7	Vb	集石27	ナデ	ナデ	に深い緑	灰青褐色	○	○	○	○	○	5599-27	67			
152	413	深鉢	Vb	B-7	Vb		ナデ	工具ナシ	暗灰褐色	灰青褐色	○	○	○	○	○	34638他	廻山の茶色	54		
153	414	深鉢	Vb	C-7	Vb	集石29	ナデ	ナデ	灰青褐色	灰青褐色	○	○	○	○	○	29618	-			
154	415	メンコ	-	C-7	Vb	集石31	ナデ	ナデ	に深い緑	灰青褐色	○	○	○	○	○	44285	-			
155	416	深鉢	Vb	F-7	-	集石34	ケズリ	ケズリ	に深い緑	灰青褐色	○	○	○	○	○	46654	67			
156	417	深鉢	Vb	B-8	-	集石35	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板→ナデ	灰青褐色	に深い緑	○	○	○	○	○	45070	-		
157	418	深鉢	Vb	C-8	-	集石38	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板→ナデ	灰青褐色	に深い緑	○	○	○	○	○	28485	67		
159	419	深鉢	-	C-8	-		ナデ	ナデ	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	28575	-			
160	420	深鉢	-	E-8	Vl	集石41	ナデ	ナデ	灰青褐色	灰青褐色	○	○	○	○	○	46380他	-			
161	421	深鉢	-	D-8	Vl		ナデ	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板→ナデ	灰青褐色	に深い緑	○	○	○	○	○	46353	-	
162	422	深鉢	Vb	E-8	Vb		ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板→ナデ	灰青褐色	灰青褐色	○	○	○	○	○	31830	67		
163	423	深鉢	Va	E-8	Nb	集石43	ナデ	工具ナシ	明水面	灰青褐色	○	○	○	○	○	31826	67			
164	424	メンコ	-	E-8	Nb		ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	に深い緑	○	○	○	○	○	31834	-		
165	425	深鉢	Vb	B-C-10	Nb	集石45	ナデ	ナデ	に深い緑	灰青褐色	○	○	○	○	○	27358他	-			
166	426	深鉢	Vc	E-9	-	集石46	ナデ	ナデ	に深い緑	灰青褐色	○	○	○	○	○	39619	-			
167	427	深鉢	Va	B-10	-	集石48	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板	灰青褐色	に深い緑	○	○	○	○	○	45256	67		
168	428	深鉢	Vb	B-10	-		ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板	灰青褐色	に深い緑	○	○	○	○	○	45275	-		
169	429	深鉢	-	B-10	-	集石49	ナデ	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板	灰青褐色	に深い緑	○	○	○	○	○	44330	-	
170	430	深鉢	-	B-10	-	集石50	ナデ	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板	灰青褐色	に深い緑	○	○	○	○	○	44313	-	
171	431	メンコ	-	C-10	-	集石52	ナデ	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板	灰青褐色	に深い緑	○	○	○	○	○	44463	-	
172	432	深鉢	Va	C-10	-	集石59	ナデ	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板	灰青褐色	に深い緑	○	○	○	○	○	45421	67	
173	433	深鉢	Vc	C-14	埋		ナデ	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板	灰青褐色	に深い緑	○	○	○	○	○	16455	67	
174	434	深鉢	Vc	C-14	埋		ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板→ナデ	灰青褐色	に深い緑	○	○	○	○	○	16456	67		
175	435	深鉢	Vc	C-14	埋	集石71	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板→ナデ	灰青褐色	に深い緑	○	○	○	○	○	16459	67		
176	436	深鉢	Vc	C-14	Nb		ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板	明水面	相	○	○	○	○	○	17168他	-		
177	437	深鉢	Va	C-14	Nb		ナデ	貝殻条板	貝殻条板	明水面	相	○	○	○	○	○	8916他	-		
	438	深鉢	Va	C-14	Nb		ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板	明水面	黒褐色	○	○	○	○	○	10006	-		

第21表 土器集中土器觀察表1

種類 番号	器種 番号	分類	治土区	層	遺構名	文様・表面調整等				色調	黏土 性質	輪郭 形状	輪石	その他の 特徴	取上番号	備考	写真 回数		
						外側	内面	外側	内面										
179	429	深鉢	Vb	B-3	Vb		ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	36005他	64		
	440	深鉢	Vb	B-3	Vb		ナデ	ナデ	に深い緑	灰	○	○	○	○	○	36006他	54		
	441	深鉢	-	B-3	Vb	上器集中1	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板→ナデ	に深い緑	○	○	○	○	○	36071	-		
	442	深鉢	-	B-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	36070	底部網代板	-
180	443	深鉢	Va	C-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	37473	64	
	444	深鉢	Va	C-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	37494他	64	
	445	深鉢	Vb	C-3	Vb		ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板→ナデ	灰青褐色	○	○	○	○	○	37691	-		
181	446	深鉢	Vb	C-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	37661	-	
	447	深鉢	Vb	C-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	37467他	底部網代板	-
	448	深鉢	Vb	C-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	37483	64	
	449	深鉢	Vb	C-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	37477	底部網代板	-
182	450	メンコ	Vb	C-3	Vb		ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	37457	メンコ本製品	-	
	451	メンコ	-	C-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	37465	-	
183	452	深鉢	Va	D-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	-	-	
	453	深鉢	Va	D-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	35890	-	
	454	深鉢	Va	D-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	35919	64	
	455	深鉢	Va	D-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板→ナデ	灰青褐色	○	○	○	○	○	35992	64	
184	456	深鉢	Va	D-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板→ナデ	灰青褐色	○	○	○	○	○	35899他	-	
	457	深鉢	Va	D-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板→ナデ	灰青褐色	○	○	○	○	○	35851他	64	
	458	深鉢	Va	D-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	35926他	64	
	459	深鉢	Va	D-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	35934	-	
	460	深鉢	Va	D-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	35909	-	
	461	深鉢	-	D-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	35872	-	
	462	深鉢	-	D-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	35870	-	
	463	深鉢	Va	C-4	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	35869	64	
	464	深鉢	Va	D-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	36972他	64	
	465	深鉢	Va	D-3	Vb	上器集中4	ナデ	ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	27649他	64	
	466	メンコ	-	D-3	Vb		ナデ	ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	38538	-	
185	467	深鉢	Vb	D-3	Vb	上器集中5	ナデ	貝殻条板	貝殻条板	灰青褐色	○	○	○	○	○	34665他	54		
	468	深鉢	Vb	D-3	Vb	上器集中6	ナデ	貝殻条板→ナデ	貝殻条板→ナデ	灰青褐色	○	○	○	○	○	40449	64		
	469	深鉢	Vb	D-3															

第22表 土器集中土器観察表2

※添付欄の円筒状土器加工品はメコと示す。

探査番号	層級	分類	出土区	層	遺構名	文様・表面調整等		色調		出土		取上番号	備考	写真回数			
						外側	内面	外側	内面	石質	焼成	金属性	目立	軽石	その他		
188	473	深鉢	Vla	D-4	R/b			ナデ	ナデ	灰青褐色	灰褐色	○	○	○		25654地	65
	474	深鉢	Vlb	D-4	R/b	上器集中8		ナデ	ナデ	に古い褐色	灰褐色	○	○	○		25654地	65
	475	深鉢	Vla	D-5	R/b			貝殻貝瓶	貝殻貝瓶	灰褐色	に古い褐色	○	○	○		25659地	65
	476	深鉢	Vla	D-5	R/b			貝殻貝瓶	貝殻貝瓶	灰褐色	に古い褐色	○	○	○		25718地	65
189	477	深鉢	Vla	D-5	R/b	上器集中9		ナデ	ナデ	灰褐色	に古い褐色	○	○	○		25663地	65
	478	深鉢	Vb	D-5	R/b			貝殻貝瓶	貝殻貝瓶	に古い褐色	灰褐色	○	○	○		25663地	65
	479	深鉢	V	D-5	R/b			ナデ	ナデ	に古い褐色	灰褐色	○	○	○		25662地	65
	480	メンコ	縦	D-5	R/b			ナデ	ナデ	灰褐色	に古い褐色	○	○	○		25717地	65
	481	深鉢	—	E-5	R/b			ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	に古い褐色	灰褐色	○	○	○		46606地	—
	482	メンコ	—	E-5	R/b			ナデ	ナデ	に古い褐色	灰褐色	○	○	○		—	—
	483	メンコ	Vle	E-5	R/b			貝殻貝瓶+ナデ	ナデ	灰褐色	に古い褐色	○	○	○		46904地	添付あり
	484	深鉢	Vlb	E-5	R/b			ナデ	ナデ	灰褐色	相	○	○	○		46908地	65
	485	深鉢	Vlk	E-5	R/b			貝殻貝瓶+ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	黒褐色	相	○	○	○		46905地	54
	486	深鉢	Vlb	E-5	R/b			ナデ	ナデ	貝殻貝瓶	相	○	○	○		46907地	54
	487	深鉢	Vla	D-6	R/b			貝殻貝瓶	貝殻貝瓶	灰褐色	に古い褐色	○	○	○		44163地	66
192	488	深鉢	—	D-6	R/b	上器集中11		貝殻貝瓶+ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	灰褐色	に古い褐色	○	○	○		44169地	底部網代地
	489	深鉢	—	D-6	R/b			ナデ	ナデ	に古い褐色	灰褐色	○	○	○		2946地	—
	490	深鉢	Vla	C-7	R/b			ナデ	ナデ	に古い褐色	灰褐色	○	○	○		17662地	—
	491	深鉢	Vlb	C-15	R/b			貝殻貝瓶	貝殻貝瓶	灰褐色	明褐色	○	○	○		6322地	66
	492	深鉢	Vlb	C-15	R/b			貝殻貝瓶+ナデ	貝殻貝瓶	灰褐色	赤褐色	○	○	○		6301地	66
	493	深鉢	Vlb	C-15	R/b			貝殻貝瓶+ナデ	貝殻貝瓶	灰褐色	に古い褐色	○	○	○		6312地	—
	494	深鉢	—	C-15	R/b			ナデ	ナデ	貝殻貝瓶	灰褐色	○	○	○		6290地	—
	495	深鉢	—	C-15	N/a			貝殻貝瓶+ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	灰褐色	に古い褐色	○	○	○		6334地	—
	496	深鉢	—	C-15	R/b			貝殻貝瓶+ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	灰褐色	に古い褐色	○	○	○		—	—
194	497	メンコ	—	C-15	R/b			貝殻貝瓶+ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	灰褐色	に古い褐色	○	○	○		14246地	66
	498	メンコ	—	C-15	N/a			ナデ	ナデ	に古い褐色	相	○	○	○		—	—
	499	深鉢	—	C-16	R/b			工具ナデ	ナデ	に古い褐色	相	○	○	○		7133地	55
195	500	深鉢	Vlc	C-16	R/b	上器集中12		ナデ	ナデ	明褐色	明褐色	○	○	○		12627地	—
	501	深鉢	Vlc	C-16	R/b			ナデ	ナデ	に古い褐色	に古い褐色	○	○	○		12602地	66
	502	深鉢	—	C-16	R/b			ナデ	ナデ	に古い褐色	灰褐色	○	○	○		7138地	—
	503	深鉢	—	C-16	R/b			ナデ	ナデ	に古い褐色	相	○	○	○		12607地	—
	504	メンコ	—	C-16	R/b			ナデ	ナデ	に古い褐色	相	○	○	○		20313地	66
	505	深鉢	Vlb	D-16	R/b			ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色	○	○	○		6917地	55
	506	深鉢	Vlc	D-16	R/b			貝殻貝瓶	貝殻貝瓶+ナデ	に古い褐色	に古い褐色	○	○	○		20332地	66
	507	深鉢	Vlb	D-16	R/b			ナデ	ナデ	に古い褐色	相	○	○	○		—	—
	508	鉢	Vlb	D-16	R/b			ナデ	ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	に古い褐色	○	○	○		20321地	66
197	509	付合豆皿	Vlb	D-16	R/b	上器集中13		ナデ	ナデ	研磨灰	研磨灰	○	○	○		20349地	66
	510	鉢	Vlb	D-16	R/b			ナデ	ナデ	工具ナデ	相	○	○	○		9634地	—
	511	深鉢	—	D-16	R/b			ナデ	ナデ	に古い褐色	相	○	○	○		20328地	—
	512	深鉢	—	D-16	R/b			ナデ	ナデ	に古い褐色	に古い褐色	○	○	○		20313地	底部網代地
	513	深鉢	Vla	D-16	R/b			ナデ	ナデ	に古い褐色	相	○	○	○		DK53-04地	DK53-DK53地
	514	深鉢	Vlb	D-16	R/b			ナデ	ナデ	砲灰	砲灰	○	○	○		5638地	66
	515	深鉢	Vla	D-16	R/b			ナデ	ナデ	に古い褐色	相	○	○	○		DK54-12地	—
	516	深鉢	Vlb	D-16	R/b			ナデ	ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	に古い褐色	○	○	○		DK54-21地	66
	517	深鉢	Vlb	D-16	R/b			ナデ	ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	砲灰	○	○	○		DK54-39地	66
	518	深鉢	Vla	D-16	R/b	上器集中17		ナデ	ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	砲灰	○	○	○		DK54-30地	—
	519	深鉢	Vla	D-16	R/b			ナデ	ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	砲灰	○	○	○		DK54-54地	DK54-DK54地
	520	深鉢	Vlb	D-16	R/b			ナデ	ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	砲灰	○	○	○		DK54-37地	66
	521	深鉢	Vlb	D-16	R/b			ナデ	ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	砲灰	○	○	○		DK54-26地	—
	522	深鉢	—	D-16	R/b			ナデ	ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	砲灰	○	○	○		DK54-04地	66
	523	深鉢	—	D-16	R/b			ナデ	ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	砲灰	○	○	○		DK54-03地	—
	524	深鉢	—	D-16	R/b			ナデ	ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	砲灰	○	○	○		DK54-40地	—
	525	メンコ	—	D-16	R/b			ナデ	ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	砲灰	○	○	○		—	—
	526	深鉢	Vlb	C-15-0-3	R/b			ナデ	ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	砲灰	○	○	○		20000地	55

第23表 埋設土器観察表

探査番号	層級	層級	分類	出土区	層	遺構名	文様・表面調整等		色調		出土		取上番号	備考	写真回数			
							外側	内面	外側	内面	石質	焼成	金属性	目立	軽石	その他		
203	526	深鉢	Vlb	B-3	R/b		ナデ	ナデ	明褐色	明褐色	○	○	○	○	○	43604地	陶器小片	55
	527	鉢	Vlc	B-3	R/b		ナデ	ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	白褐色	○	○	○	○	○	周31-04地	陶台を欠損	55
	528	深鉢	Vlb	B-3	R/b		ナデ	ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	に古い褐色	に古い褐色	○	○	○	○	周32-04地	—	—
	529	深鉢	—	B-3	R/b		ナデ	ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	に古い褐色	白褐色	○	○	○	○	周32-02地	—	—
	530	メンコ	—	B-3	R/b		ナデ	ナデ	貝殻貝瓶	灰褐色	○	○	○	○	○	周32-03地	—	—
	531	メンコ	—	B-3	R/b		ナデ	ナデ	貝殻貝瓶	灰褐色	○	○	○	○	○	周32-149地	—	—
	532	深鉢	—	D-3	V		ナデ	ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	灰褐色	灰褐色	○	○	○	○	51962地	55	
	533	深鉢	Vlb	C-15-0-3	R/b		ナデ	ナデ	貝殻貝瓶+ナデ	灰褐色	に古い褐色	○	○	○	○	20000地	55	
211	534	深鉢	Vlb	D-7	R/b	立石遺構10	貝殻貝瓶+ナデ	貝殻貝瓶	灰褐色	灰褐色	○	○	○	○	○	—	67	
	535	深鉢	Vlb	D-7	R/b	立石遺構10	貝殻貝瓶	貝殻貝瓶	灰褐色	灰褐色	○	○	○	○	○	45506地	年代測定試料	67
	536	深鉢	Vlb	E-8	R/b	立石遺構21	ナデ	ナデ	マツメ	灰褐色	相	○	○	○	○	—	—	—
	537	メンコ	Vlb	E-8	R/b	立石遺構21	ナデ	ナデ	貝殻貝瓶	灰褐色	相	○	○	○	○	—	メンコ欠損品	67

第25表 穴穴建物跡石器観察表 1

※右面番号：剖面図の最大深さ位置の縦き出しの深さ（単位：cm）

地図番号	探査番号	遺構名	出土区	層	器種	分類	法面				石材	石材分類	東北番号	発考①(20)	写真
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
47	S002	豔穴建物跡1	C-3	-	スクリーパー	-	7.56	8.30	2.93	137.4	砂岩	-	45450枚	-	
	S003	豔穴建物跡1	C-3	-	両片	-	4.28	3.24	1.90	26.6	石英	-	45452	-	
	S004	豔穴建物跡1	-	-	打削石斧	II	6.63	4.76	1.40	49.9	ホルンフェニクス	-	45453	-	
	S005	豔穴建物跡1	C-4	IVb	打削石斧	II	6.44	3.63	2.46	76.7	ホルンフェニクス	-	45454	-	
	S006	豔穴建物跡1	C-4	IVb	磨・敲石	IIa	7.77	7.66	2.60	203.7	安山岩	安山岩B	42056	-	69
	S007	豔穴建物跡1	-	-	磨・敲石	VII	(5.48)	(4.14)	(3.30)	82.8	安山岩	安山岩B	-	69	
49	S008	豔穴建物跡1	C-4	IVb	磨・敲石	VII	15.80	26.00	11.20	5860.0	花崗岩	-	45448	-	
	S009	豔穴建物跡2	D-4	-	磨・敲石	I	7.44	6.41	4.30	226.2	安山岩	安山岩B	41675	-	
	S010	豔穴建物跡2	D-4	-	磨・敲石	I	10.53	7.37	6.40	730.0	ホルンフェニクス	-	45463	-	
	S011	豔穴建物跡2	D-4	-	磨・敲石	I	6.93	6.97	4.30	214.2	安山岩	安山岩B	41676	-	
	S012	豔穴建物跡2	D-4	-	磨・敲石	I	5.36	5.33	2.00	71.4	安山岩	安山岩B	41629	-	
	S013	豔穴建物跡2	D-4	-	磨・敲石加石品	-	4.07	4.28	2.16	7.1	鈍石	-	41677	-	69
50	S014	豔穴建物跡3	E-3	-	磨・敲石	IIa	(11.76)	(6.34)	(5.04)	425.5	砂岩	-	38340	-	
	S015	豔穴建物跡4	E-3	IV	二次加工調片	V	2.00	1.50	0.50	1.1	黒曜石	黒曜石C	-	-	68
	S016	豔穴建物跡4	E-3	-	磨・敲石	IIa	8.74	(7.88)	(5.26)	441.5	安山岩	安山岩B	42251	-	
	S017	豔穴建物跡5	-	-	磨・敲石	I	7.67	4.49	3.62	174.3	安山岩	安山岩B	-	69	
	S018	豔穴建物跡5	-	-	磨・敲石	I	8.21	5.08	4.30	267.9	安山岩	安山岩B	-	69	
	S019	豔穴建物跡5	E-3	-	磨・敲石	I	5.75	6.74	6.11	278.1	安山岩	安山岩B	43761	-	
62	S020	豔穴建物跡6	E-3	-	磨・敲石	VII	6.77	4.86	1.44	64.0	ホルンフェニクス	-	46635	-	68
	S021	豔穴建物跡7	E-3	-	磨・敲石	I	8.67	7.81	4.29	410.8	安山岩	安山岩B	45307	-	
	S022	豔穴建物跡7	E-3	-	磨・敲石	I	10.77	9.48	3.41	391.0	安山岩	安山岩B	45367	-	69
	S023	豔穴建物跡7	E-3	-	磨・敲石	I	9.61	8.47	8.00	915.0	安山岩	安山岩B	45362	-	
	S024	豔穴建物跡7	E-3	-	石皿	IV	25.84	30.77	6.35	6500.0	安山岩	-	45366	-	
	S025	豔穴建物跡8	-	-	磨・敲石	VII	5.69	4.55	1.80	63.0	ホルンフェニクス	-	-	-	
64	S026	豔穴建物跡8	F-3	-	磨・敲石	VII	6.06	5.42	1.16	40.6	ホルンフェニクス	-	44980	-	
	S027	豔穴建物跡8	F-3	-	磨・敲石	VII	7.77	5.19	2.35	129.5	砂岩	-	44945	-	68
	S028	豔穴建物跡8	F-3	-	磨・敲石	I	13.29	11.16	8.95	1367.0	安山岩	安山岩B	44982	-	69
	S029	豔穴建物跡8	F-3	-	磨・敲石	I	6.74	5.83	4.10	179.5	安山岩	安山岩B	44970	-	
	S030	豔穴建物跡8	F-3	-	磨・敲石	IIa	10.44	8.32	4.00	656.8	ホルンフェニクス	-	44961	-	69
	S031	豔穴建物跡8	F-3	-	磨・敲石	I	11.02	9.24	5.70	809.1	安山岩	安山岩B	44974	-	
65	S032	豔穴建物跡8	-	-	磨・敲石	I	11.60	7.36	2.60	266.3	安山岩	安山岩B	-	69	
	S033	豔穴建物跡8	F-3	-	磨・敲石	I	(6.87)	(4.62)	5.08	181.3	安山岩	安山岩B	44979	赤色顕料付	
	S034	豔穴建物跡8	F-3	-	磨・敲石	I	(6.27)	(5.78)	(4.30)	137.5	安山岩	安山岩B	44968	-	
	S035	豔穴建物跡8	F-3	-	磨・敲石	I	(4.62)	6.93	4.55	175.7	安山岩	安山岩B	44944	-	
	S036	豔穴建物跡9	-	-	磨石	-	4.72	2.70	2.30	36.0	石英	-	-	-	
	S037	豔穴建物跡9	F-3	-	磨・敲石	I	9.39	6.47	2.90	206.2	安山岩	安山岩B	46475	-	
67	S038	豔穴建物跡10	E-4	-	スクリーパー	-	5.47	8.48	3.40	151.1	ホルンフェニクス	-	43439	-	68
	S039	豔穴建物跡10	E-4	-	スクリーパー	-	5.52	9.52	3.31	129.1	ホルンフェニクス	-	43438	-	68
	S040	豔穴建物跡10	E-4	-	磨・敲石	I	6.08	4.16	2.70	87.7	安山岩	安山岩B	43437	-	
	S041	豔穴建物跡10	E-4	-	磨・敲石	I	7.91	6.64	5.20	332.9	安山岩	安山岩B	43435	-	
	S042	豔穴建物跡10	E-4	V	石皿	Ia	34.60	24.90	16.70	19800.0	花崗岩	-	43428	11.2	116
	S043	豔穴建物跡11	E-4	-	磨・敲石	I	5.93	6.24	4.40	189.5	安山岩	安山岩B	43460	-	
73	S044	豔穴建物跡12	F-4	-	打削石斧	II	10.80	4.80	2.27	97.0	ホルンフェニクス	-	44545	-	
	S045	豔穴建物跡12	F-4	-	磨・敲石	II	11.55	9.62	4.74	847.0	砂岩	-	44544	-	69
	S046	豔穴建物跡12	F-4	V	磨・敲石	II	10.05	7.88	3.85	558.0	安山岩	安山岩B	44926	-	69
	S047	豔穴建物跡12	E-4	V	磨・敲石	II	52.40	35.70	11.30	36100.0	花崗岩	-	44837	11.15	116
	S048	豔穴建物跡13	F-7	-	使用痕跡片	-	3.56	7.06	1.00	27.3	安山岩	安山岩C	45936	-	
	S049	豔穴建物跡13	F-7	-	磨・敲石斧	II	6.58	6.06	2.80	136.8	ホルンフェニクス	-	45821	-	68
76	S050	豔穴建物跡13	F-7	-	打削石斧	VII	5.07	4.00	2.90	79.6	ホルンフェニクス	-	45830	-	68
	S051	豔穴建物跡13	F-7	-	磨・敲石	I	7.54	6.20	3.90	212.0	安山岩	安山岩B	-	69	
	S052	豔穴建物跡13	F-7	-	磨・敲石	I	(3.82)	(5.54)	(4.20)	97.4	安山岩	安山岩B	45839	-	
	S053	豔穴建物跡13	F-7	-	磨・敲石	VII	6.14	(6.18)	(4.20)	241.1	安山岩	安山岩B	45823	-	
	S054	豔穴建物跡13	F-7	-	石皿	Ia	4.95	7.35	2.00	96.1	安山岩	安山岩B	45832	-	69
	S055	豔穴建物跡14	C-9	-	使用痕跡片	-	4.20	2.88	0.55	6.2	石英	石英B	45671	-	68
80	S056	豔穴建物跡14	C-9	-	磨・敲石斧	VII	5.52	6.81	2.20	119.2	ホルンフェニクス	-	36003	-	68
	S057	豔穴建物跡14	C-9	-	使用痕跡片	-	9.58	5.50	2.01	110.2	砂岩	-	43112	-	
	S058	豔穴建物跡14	C-9	-	石皿	-	3.02	4.71	3.48	48.9	黒曜石	黒曜石A	43134	-	
	S059	豔穴建物跡14	C-9	IVb	石皿	Ia	29.60	25.90	12.00	10300.0	花崗岩	-	43297	-	
	S060	豔穴建物跡15	D-9	-	スクリーパー	-	3.34	6.03	0.60	10.4	安山岩	安山岩B	-	-	68
	S061	豔穴建物跡16	E-9・10	-	使用痕跡片	-	2.98	7.65	0.80	16.9	石英	石英B	-	-	68
84	S062	豔穴建物跡16	E-9・10	-	使用痕跡片	-	3.70	7.09	1.00	30.1	安山岩	安山岩C	-	-	68
	S063	豔穴建物跡16	E-9・10	-	使用痕跡片	-	5.41	7.53	1.01	12.8	安山岩	安山岩C	-	-	68

第26表 穴穴建物跡石器観察表2

※右欄参考: 墓剖面の最大深さ(±0)の抜き出し口の深さ(±0)の深さ(±0) [単位: cm]

堆積番号	遺構名	出土区	層	器種	分類	計量				石材	石材分類	取上番号	標準(±0.0)	写真回数	
						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)						
84	S064	豊穴建物跡16	-	-	使用痕片	-	4.18	5.94	1.62	33.5	頁岩	頁岩B	-	-	68
	S065	豊穴建物跡16	E-9	-	打削石斧	V	(11.88)	(7.27)	(3.56)	300.8	ホルンフェルス	-	46116	-	
	S066	豊穴建物跡16	-	-	打削石斧	V	7.25	7.45	3.51	232.2	ホルンフェルス	-	-	-	
85	S067	豊穴建物跡16	E-10	-	刮削石斧	V	10.92	5.68	3.08	231.4	ホルンフェルス	-	46103	-	68
	S068	豊穴建物跡16	E-10	-	磨・敲石	V	(6.91)	(7.30)	4.00	238.3	頁岩	豊山岩B	46107	-	
	S069	豊穴建物跡16	-	-	石錐	I	7.07	(4.10)	1.70	70.6	頁岩	豊山岩B	-	-	
86	S070	豊穴建物跡17	E-9	-	使用痕片	-	4.46	2.66	0.46	4.9	頁岩	頁岩B	-	-	68
	S071	豊穴建物跡17	E-9	-	使用痕片	-	2.31	5.56	0.47	5.0	頁岩	頁岩B	-	-	68
87	S072	豊穴建物跡19	C-D-10	-	磨・敲石	V	(10.80)	(6.60)	7.35	719.0	花崗岩	-	-	-	
	S073	豊穴建物跡19	C-D-10	-	磨・敲石	V	(5.45)	(5.87)	(4.10)	141.9	ホルンフェルス	-	-	-	
88	S074	豊穴建物跡22	D-10	輝土	使用痕片	-	4.10	5.98	1.10	24.4	頁岩	豊山岩C	-	-	68
90	S075	豊穴建物跡22	E-10	-	磨・敲石	V	6.72	5.68	2.55	159.9	頁岩	豊山岩B	46190	-	
	S076	豊穴建物跡22	E-10	-	磨・敲石	V	(6.24)	(8.34)	4.40	294.6	頁岩	豊山岩B	46189	-	
	S077	豊穴建物跡23	C-15	輝土	使用痕片	-	4.63	6.49	4.91	72.3	頁岩	頁岩B	17066	-	
	S078	豊穴建物跡23	C-15	-	石核	-	3.97	6.59	4.60	57.4	頁岩	頁岩B	-	-	
91	S079	豊穴建物跡23	C-15	輝土	使用痕片	V	(5.56)	(4.55)	(2.87)	23.4	ホルンフェルス	-	20211	-	
	S080	豊穴建物跡23	C-15	-	使用痕片	-	6.22	4.82	1.65	61.5	ホルンフェルス	-	-	-	
	S081	豊穴建物跡23	C-15	-	擦器	-	9.04	8.90	2.74	282.2	ホルンフェルス	-	17077	-	68
	S082	豊穴建物跡23	C-15	輝土	磨・敲石	V	4.87	4.40	2.00	62.0	頁岩	豊山岩B	17068	-	
94	S083	豊穴建物跡23	C-15	輝土	磨・敲石	V	6.12	6.94	4.30	203.4	頁岩	豊山岩B	17079	-	
	S084	豊穴建物跡23	C-15	-	磨・敲石	V	5.63	8.46	4.56	258.6	頁岩	豊山岩B	-	-	
	S085	豊穴建物跡23	C-15	輝土	石屋	V	21.87	(9.94)	(10.55)	2121.6	砂岩	-	20215	-	
	S086	豊穴建物跡23	C-15	-	磨・切石器	-	(4.70)	(3.90)	0.70	15.0	砂岩	-	-	-	
	S087	豊穴建物跡24	E-16	-	磨・敲石器	-	1.22	2.58	0.43	0.6	頁岩	豊山岩A	15092	-	68
	S088	豊穴建物跡24	E-16	輝土	二次加工片	-	4.25	6.27	1.19	38.7	ホルンフェルス	-	15107	-	
90	S089	豊穴建物跡24	E-16	輝土	二次加工片	-	5.95	5.59	1.55	53.7	ホルンフェルス	-	15104	-	
	S090	豊穴建物跡24	E-16	輝土	使用痕片	-	(4.99)	(3.89)	0.59	11.6	頁岩	豊山岩C	15090	-	
	S091	豊穴建物跡24	E-16	輝土	磨・敲石	V	5.98	4.91	4.10	163.8	頁岩	豊山岩B	15113	-	
	S092	豊穴建物跡24	E-16	輝土	磨・敲石	V	7.67	4.25	1.90	75.1	砂岩	-	15143	-	
	S093	豊穴建物跡24	E-16	輝土	磨・敲石	V	(9.30)	7.1	(5.10)	330.6	頁岩	豊山岩B	15098	-	

第27表 土坑石器観察表1

※右欄参考: 墓剖面の最大深度(±0)の抜き出し口の深さ(±0)の深さ(±0) [単位: cm]

堆積番号	遺構名	出土区	層	器種	分類	計量				石材	石材分類	取上番号	標準(±0.0)	写真回数	
						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)						
102	S094	土坑11	G-3	V	石皿	I	36.70	33.00	12.00	1600.0	花崗岩	-	46478	(±3.1)±0.3±0.9	116
104	S095	土坑12	C-4	-	擦器	-	7.46	10.61	5.76	460.0	砂岩	-	46668	-	
	S096	土坑13	E-4	-	磨・敲石	I	8.99	8.08	5.92	579.5	砂岩	-	46272	-	
106	S097	土坑13	E-4	-	磨・敲石	V	(4.59)	5.16	4.50	129.1	頁岩	豊山岩B	46276	-	
	S098	土坑13	D-4	-	磨・敲石	V	(4.60)	(6.40)	3.30	148.4	頁岩	豊山岩B	46279	-	
	S099	土坑17	-	-	磨・敲石	I	5.44	5.14	4.10	167.5	ホルンフェルス	-	-	-	
112	S100	土坑17	B-6	-	磨・敲石	I	8.38	(4.90)	(4.70)	232.6	頁岩	豊山岩B	37451	-	
	S101	土坑17	B-C-6	-	打削石斧	V	8.31	(4.25)	2.47	86.7	ホルンフェルス	-	-	-	
	S102	土坑18	C-6	-	磨・敲石	I	9.33	6.60	3.99	287.0	ホルンフェルス	-	46743	-	
113	S103	土坑18	C-6	-	磨・敲石	V	5.80	11.35	5.81	495.0	砂岩	-	46751	-	
	S104	土坑18	C-6	-	磨・敲石	V	9.84	5.39	3.98	210.4	砂岩	-	46746	-	
114	S105	土坑20	F-3	-	石皿	I	6.39	4.92	3.00	121.6	頁岩	豊山岩B	46466	-	
117	S106	土坑26	D-7	-	磨・敲石	V	(7.53)	(6.26)	3.35	139.2	頁岩	豊山岩B	SK304-12	-	
	S107	土坑30	C-8	-	打削石斧	V	4.54	2.48	1.66	116.6	ホルンフェルス	-	46181	-	68
120	S108	土坑30	C-8	-	磨・敲石	I	11.87	10.40	4.30	630.6	頁岩	豊山岩B	46671	-	
	S109	土坑30	C-8	Nb	石皿	II	37.40	(21.50)	15.00	18700.0	花崗岩	-	46729	-	
	S110	土坑30	C-8	Nb	石皿	III	(27.40)	(18.40)	(9.00)	4600.0	花崗岩	-	46728	-	
	S111	土坑32	-	-	磨・敲石	I	6.74	4.64	3.65	151.1	頁岩	豊山岩B	DS024-11	-	
122	S112	土坑32	-	-	磨・敲石	V	11.57	7.17	5.49	610.5	石英岩	-	DS024-06	-	69
	S113	土坑32	-	-	磨・敲石	I	12.69	14.00	4.88	1229.6	頁岩	豊山岩B	DS024-10	-	
123	S114	土坑33	E-B	輝土	磨・敲石	I	(8.10)	(4.80)	(4.30)	209.4	頁岩	豊山岩B	45420	-	
	S115	土坑34	E-8	-	磨・敲石	V	(9.21)	(3.67)	1.84	69.8	砂岩	-	46336	-	
	S116	土坑34	E-8	Nb	石皿	I	36.30	30.00	14.40	19500.0	花崗岩	-	46335	(±4.7)±1.0	116
	S117	土坑35	B-9	Nb	石皿	I	34.00	24.20	12.00	11600.0	花崗岩	-	45737	(±1.2)±1.5	116
126	S118	土坑35	B-9	Nb	石皿	V	25.70	22.10	12.90	9700.0	花崗岩	-	45736	-	
	S119	土坑35	B-9	-	石皿	V	27.70	27.10	8.20	6600.0	花崗岩	-	45735	-	
129	S120	土坑41	C-11	V	石皿	V	24.60	27.50	14.40	13500.0	花崗岩	-	22149	-	-

第28表 土坑石器觀察表2

※右面番号: 墓剖面の最大深さ(土の厚さ)と底面の深さ(底面の深さ)の深さ(単位: cm)

種類 番号	通称 番号	出土区 層	器種	分類	法面				石材	石材分類	出土番号	偏心(1)(2)(3) (cm)	写真 図版	
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)						
129	S121	土坑41	C-11	-	石皿	V	22.00	31.60	12.80	11700.0	花崗岩	-	22145	-
	S122	土坑41	C-11	-	石皿	V	16.60	27.30	11.20	6200.0	花崗岩	-	22151	-
130	S123	土坑42	E-11	壁・	磨・鉄石	V	6.20	3.46	3.80	85.0	安山岩	安山岩B	-	-
	S124	土坑44	F-12	Nb	石皿	V	(27.40)	29.50	7.00	7100.0	花崗岩	-	24737	-
131	S125	土坑45	C-14	壁・	使用痕鉄片	-	7.75	6.36	1.55	63.9	砂岩	-	15440	-
	S126	土坑48	D-15	N	石鍬	I a	5.19	5.19	1.45	76.0	ホルンフェルス	-	17025	-
134	S127	土坑49	D-15	N	磨・石斧	V	6.90	8.10	2.10	151.4	ホルンフェルス	-	17046	-
	S128	土坑49	D-15	N	使用痕鉄片	-	8.10	5.40	0.80	29.7	砂岩	頁岩B	17052	-
135	S129	土坑50	B-16	Nb	打削石斧	V	6.70	5.30	1.20	37.4	頁岩	頁岩B	-	-
	S130	土坑50	B-16	Nb	使用痕鉄片	-	6.30	3.80	1.10	21.6	頁岩	頁岩B	-	-
136	S131	土坑54	F-25	N	石鍬	I	1.74	1.19	0.30	0.3	砂岩	頁岩B	-	-

第29表 集石石器觀察表1

種類 番号	通称 番号	出土区 層	器種	分類	法面				石材	石材分類	出土番号	偏心(1)(2)(3) (cm)	写真 図版	
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)						
141	S132	集石5	B-3	-	磨・鉄石	V	(5.37)	(3.39)	(3.65)	58.6	安山岩	安山岩B	36248	-
	S133	集石6	D-3	Nb	磨・鉄石	V	8.65	5.75	3.30	204.6	砂岩	-	41521	-
143	S134	集石14	C-6	-	磨・鉄石	II a	(9.98)	10.86	6.66	1067.0	砂岩	-	29008	-
	S135	集石14	C-6	Nb	石皿	V	39.00	(20.00)	8.60	7300.0	花崗岩	-	29007	-
146	S136	集石15	C-6	-	石鍬	I a	7.51	8.40	2.74	233.1	砂岩	-	44948	-
147	S137	集石18	D-6	Nb	石皿	III	34.20	(23.10)	8.90	8200.0	花崗岩	-	44941	(4.0)
149	S138	集石23	E-6-7	-	磨・石斧	V	11.87	5.96	3.86	445.3	ホルンフェルス	-	SS18-47	-
151	S139	集石24	E-6	-	磨器	-	8.22	10.56	3.07	310.3	ホルンフェルス	-	46845	-
152	S140	集石25	E-6	-	磨・鉄石	V	10.79	9.97	5.47	972.0	花崗岩	-	33817	-
153	S141	集石27	C-7	Nb	磨・鉄石	V a	10.45	7.54	3.39	391.4	砂岩	-	SS90-01	-
152	S142	集石28	C-7	-	磨・鉄石	II a	9.22	9.09	5.40	633.0	花崗岩	-	45600	-
	S143	集石28	C-7	Nb	石皿	I b	(26.10)	35.60	13.40	14500.0	花崗岩	-	44902	(3.3)20.8530.05
154	S144	集石30	C-7	-	磨・鉄石	I a	11.48	10.18	5.65	1006.0	花崗岩	-	20366	-
155	S145	集石31	C-7	-	石皿	V	15.70	22.60	12.50	3850.0	花崗岩	-	44391	-
154	S146	集石34	F-7	-	體石加工品	-	22.32	18.24	6.91	1052.0	鵞卵石	-	46855	-
	S147	集石34	F-7	V	體石	V	32.97	27.70	16.50	15800.0	砂岩	-	45478	-
155	S148	集石35	B-8	-	磨・鉄石	II a	10.56	9.80	5.25	721.0	砂岩	-	45066	-
156	S149	集石36	C-8	-	磨・鉄石	I	(10.05)	6.25	5.75	469.8	安山岩	安山岩B	26902	-
	S150	集石36	C-8	N a	石皿	II	(22.50)	(14.10)	7.20	2015.0	砂岩	-	36918	-
151	S151	集石39	C-8	-	磨・鉄石	II a	10.33	9.49	5.17	812.0	砂岩	-	29103	-
160	S152	集石41	D-8	V	體石加工品	V	8.05	6.12	1.72	115.2	砂岩	-	45372	-
	S153	集石41	E-8	V	石鍬	I c	6.95	6.86	3.13	182.2	安山岩	安山岩B	46379	-
	S154	集石41	D-8	V	體石加工品	I b	36.30	27.70	10.70	14300.0	花崗岩	-	46356	13.520.8530.9 116
	S155	集石41	D-8	V	石皿	II	(23.30)	22.40	6.10	5050.0	花崗岩	-	46369	(1.9)
	S156	集石41	D-8	V	石皿	III	23.40	20.00	6.60	4030.0	花崗岩	-	46361	-
	S157	集石41	D-8	V	石皿	V	15.60	25.30	6.70	3420.0	花崗岩	-	46357	-
161	S158	集石42	E-8	V	磨・鉄石	II a	10.68	9.55	5.22	838.0	花崗岩	-	45883	-
	S159	集石43	E-8	Nb	磨・鉄石	I	7.61	6.68	4.30	287.5	安山岩	安山岩B	33818	-
160	S160	集石43	E-8	Nb	磨・鉄石	I	9.41	6.96	5.77	535.4	安山岩	安山岩B	33827	-
162	S161	集石44	E-8	Nb	石皿	I b	(23.80)	(28.70)	11.90	7600.0	花崗岩	-	23150	-
	S162	集石45	C-9	-	磨・鉄石	V a	12.25	7.79	6.65	854.0	ホルンフェルス	-	44318	-
163	S163	集石45	C-9	-	石皿	I a	25.70	26.70	12.40	10240.0	花崗岩	-	44319	-
	S164	集石48	B-10	-	磨・鉄石	II a	11.14	10.31	5.04	879.1	砂岩	-	45273	-
165	S165	集石48	B-10	Nb	石皿	I	29.80	32.00	11.00	16200.0	花崗岩	-	45271	(1.3)20.8
166	S166	集石53	C-10	-	磨・鉄石	I	9.30	6.29	4.19	347.7	安山岩	安山岩B	23081	-
	S167	集石54	C-10	-	石皿	V	17.00	21.20	8.40	3069.0	鵞卵岩	-	32661	-
169	S168	集石56	C-10	Nb	石皿	III	44.70	29.30	9.50	16200.0	花崗岩	-	32666	(13.1) 116
170	S169	集石59	C-10	-	磨・鉄石	II b	13.50	16.38	5.41	1536.5	砂岩	-	45423	-
171	S170	集石60	D-10	Nb	石皿	I a	(26.80)	30.80	12.10	13400.0	花崗岩	-	27556	赤色顕料付帯
	S171	集石60	D-10	-	體石加工品	-	37.09	30.60	11.70	3600.0	鵞卵岩	-	27559	(15.2) 117
172	S172	集石62	C-11	-	石皿	V	(20.06)	(18.57)	(10.50)	4800.0	砂岩	-	25308	-
	S173	集石63	C-11	V	石皿	II	32.50	(14.80)	8.50	3100.0	鵞卵岩	-	25388	-
173	S174	集石64	C-11	-	石皿	V	15.74	17.37	10.10	6350.0	砂岩	-	25344	-
	S175	集石64	C-11	-	石皿	V	(20.83)	(19.74)	(10.55)	3100.0	安山岩	安山岩B	25343	-
174	S176	集石65	C-11	-	磨・鉄石	II a	10.50	9.74	5.68	872.0	砂岩	-	25180	-
	S177	集石65	C-11	-	鵞卵石	-	19.90	15.00	9.00	3000.0	砂岩	-	25171	-

第30表 集石石器觀察表2

※右面参考：剖面の最大深さ×正面の深さ×底面の深さ（単位：cm）

排列番号	種類番号	遺物名	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	出土番号	備考①②③ (cm)	写真 図版
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
174	S178	集石65	C-11	-	石器	II	(14.12)	(25.65)	(7.30)	2500.0	花崗岩	-	25172	⑩.5	
175	S179	集石66	C-12	N'a	磨・敲石	IIIa	12.73	11.38	5.24	1035.0	花崗岩	-	SS4-02	-	
176	S180	集石67	C-12	N'a	砾石	-	18.95	9.69	6.95	1507.0	砂岩	-	SS6-03	69	
177	S181	集石70	D-12	N'b	石器	II	39.40	29.10	9.80	15000.0	安山岩	安山岩B	25052集	44936と後合	
	S182	集石71	C-14	-	磨・敲石	IIIb	7.65	8.39	6.25	529.0	砂岩	-	16446	-	

第31表 土器集中石器觀察表

排列番号	種類番号	遺物名	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	出土番号	備考①②③ (cm)	写真 図版
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
181	S183	土器集中3	C-3	N'b	磨・敲石	I	(11.10)	(7.90)	(4.80)	463.3	安山岩	安山岩B	35480	-	
182	S184	土器集中4	D-3	N'b	磨・敲石	I	7.81	6.75	4.87	351.7	安山岩	安山岩B	36672	-	
194	S185	土器集中13	C-15	N'a	使用痕片	-	8.68	7.10	1.61	84.1	安山岩	安山岩C	6332	-	
196	S186	土器集中13	C-15	N'a	磨石加工品	-	41.30	25.80	13.10	2500.0	磨石	-	6329	⑩.4	
198	S188	土器集中14	C-16	N'b	磨削石斧	II	8.68	6.97	3.89	375.6	ホルブルックス	-	12643	-	
199	S189	土器集中15	D-16	N'a	磨石加工品	-	7.14	7.00	5.15	52.4	磨石	-	23006	-	
201	S190	土器集中17	D-16	N'b	使用痕片	-	5.73	4.70	0.65	15.5	安山岩	安山岩C	DS804-47	-	
						-	7.96	6.21	1.00	43.6	安山岩	安山岩C	DS804-27	-	

第32表 立石遺構石器觀察表

排列番号	種類番号	遺物名	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	出土番号	備考①②③ (cm)	写真 図版
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
207	S191	立石遺構3	C-6	N'b	石器	I b	36.30	28.60	11.70	10100.0	花崗岩	-	46436	⑩(3.0)30.8	
208	S192	立石遺構5	C-6	N'b	石器	I a	(22.80)	22.30	7.90	510.0	花崗岩	-	46437	⑩.22.5	
209	S193	立石遺構6	B-8	N'b	石器	II	43.30	(21.10)	13.60	16900.0	花崗岩	-	58865	⑩.0	
210	S194	立石遺構7	C-7	N'b	石器	VI	19.60	14.70	9.90	3300.0	花崗岩	-	46427	⑩.7	
210	S195	立石遺構8	C-7	N'b	石器	VI	(19.60)	(19.10)	8.90	4900.0	花崗岩	-	46426	⑩.35	
211	S196	立石遺構10	D-7	N'b	石器	VI	(25.80)	(26.30)	12.40	9600.0	花崗岩	-	45337	⑩.40	
212	S197	立石遺構10	D-7	N'b	輕石加工品	-	11.74	12.00	5.29	163.9	輕石	-	45338	赤色顕料付毛	
213	S198	立石遺構11	D-7	N'b	磨・敲石	II b	9.86	7.04	5.70	513.6	砂岩	-	45905	-	
219	S199	立石遺構11	D-7	N'b	石器	I a	35.60	27.50	12.70	10500.0	安山岩	安山岩B	45904	⑩.7	
214	S200	立石遺構12	D-7	N'b	石器	IV'	(23.70)	(27.40)	7.70	6900.0	花崗岩	-	46241	⑩.2	
220	S201	立石遺構13	E-7	N'b	石器	I b	36.00	28.90	10.30	15100.0	花崗岩	-	45925	⑩.22.0 9.3 6.5	
222	S202	立石遺構14	E-7	N'b	石器	I s	29.00	26.50	9.30	6000.0	花崗岩	-	46116	⑩.7	
223	S203	立石遺構15	E-7	N'b	石器	I a	(37.90)	(34.80)	10.10	18500.0	花崗岩	-	46156	⑩.9	
224	S204	立石遺構16	F-7	N'b	石器	VI	(21.70)	(20.50)	8.50	3600.0	花崗岩	-	45836	⑩.4	
225	S205	立石遺構17	B-7	N'b	石器	VI	15.40	23.10	9.00	3600.0	安山岩	安山岩B	SK237-01	⑩.8	
226	S206	立石遺構18	C-8	N'b	石器	VI	18.50	24.00	10.60	5400.0	花崗岩	-	45726	⑩.20	
227	S207	立石遺構19	C-8	N'b	石器	III	28.80	(10.70)	8.90	3200.0	安山岩	安山岩B	45384	⑩.18	
228	S208	立石遺構20	D-8	N'b	石器	VI	(24.30)	(22.60)	11.30	7600.0	花崗岩	-	46117	⑩.22	
229	S209	立石遺構21	E-8	N'b	石器	II	(33.80)	(40.00)	17.20	21700.0	花崗岩	-	45331	⑩.5.9	
230	S210	立石遺構22	E-8	N'b	石器	I a	37.90	(21.50)	11.90	11200.0	花崗岩	-	46155	⑩.0	
231	S211	立石遺構23	F-8	N'b	磨・敲石	II b	(7.35)	(9.62)	4.85	407.8	安山岩	安山岩B	46425	-	
232	S212	立石遺構23	F-8	N'b	石器	IV'	29.80	(25.40)	5.10	4000.0	花崗岩	-	46424	⑩.7	
233	S213	立石遺構24	F-8	N'b	石器	II	20.30	16.50	10.10	4600.0	花崗岩	-	25949	⑩.1.65	
234	S214	立石遺構25	F-8	N'b	石器	IV'	23.80	18.80	8.80	5500.0	花崗岩	-	45885	-	
235	S215	立石遺構26	B-9	N'b	磨・敲石	II b	12.17	10.21	5.25	975.3	砂岩	-	45748	-	
236	S216	立石遺構26	E-9	N'b	石器	II	(23.90)	29.80	11.80	12000.0	花崗岩	-	45332	⑩.4.6	
222	S217	立石遺構27	B-9	N'b	石器	VI	22.70	18.40	12.40	7500.0	花崗岩	-	SK236-01	⑩.2.2	
223	S218	立石遺構29	B-9	N'b	石器	I b	46.30	32.90	9.90	19800.0	花崗岩	-	45736	⑩.5.2 1.0 31.3	
224	S219	立石遺構30	C-9	N'b	石器	VI	27.10	29.00	11.50	9600.0	砂岩	-	45807	⑩.2.6	
225	S220	立石遺構31	F-9	N'b	石器	VI	14.60	17.60	11.10	3600.0	花崗岩	-	SK32-01	-	
221	S221	立石遺構32	B-16	N'b	石器	III	37.60	37.90	11.30	24200.0	花崗岩	-	29901	⑩.2.0	
222	S222	立石遺構32	B-16	N'b	石器	I b	(35.20)	31.80	9.70	12900.0	花崗岩	-	29902	⑩.3.2 1.5	

第33表 遺構番号新旧対応表

縄文時代前中期概略

新造機名		旧造機番号
土坑	土坑1	土坑162
	土坑2	土坑133
	土坑3	土坑174
	土坑4	土坑189
	土坑5	土坑223
	土坑6	土坑224
集石	集石1	集石13
	集石2	集石89
	集石3	集石95
	集石4	集石94
ピット	ピット1号	ピット842
	ピット2号	ピット844
	ピット3号	ピット877
	ピット4号	ピット864
	ピット5号	ピット860
	ピット6号	ピット863
	ピット7号	ピット861
	ピット8号	ピット862
	ピット9号	ピット865
	ピット10号	ピット876
	ピット11号	ピット873

縄文時代後期前半編成

新造機名		旧造機番号
堅穴建物群	堅穴建物群1	土坑140
	堅穴建物群2	土坑119
	堅穴建物群3	土坑114
	堅穴建物群4	土坑116
	堅穴建物群5	土坑151
	堅穴建物群6	土坑152
	堅穴建物群7	土坑148
	堅穴建物群8	土坑141
	堅穴建物群9	土坑154
	堅穴建物群10	土坑117
	堅穴建物群11	土坑153
	堅穴建物群12	土坑126
	堅穴建物群13	土坑145
	堅穴建物群14	土坑93
	堅穴建物群15	土坑123
	堅穴建物群16	堅穴住居跡33
	堅穴建物群17	土坑124
	堅穴建物群18	土坑135
	堅穴建物群19	堅穴住居跡64
	堅穴建物群20	土坑304
	堅穴建物群21	土坑115
	堅穴建物群22	土坑110
	堅穴建物群23	堅穴住居跡9
	堅穴建物群24	堅穴住居跡4
土坑	土坑7	土坑132
	土坑8	土坑150
	土坑9	土坑136
	土坑10	土坑131
	土坑11	土坑171
	土坑12	土坑172
	土坑13	土坑118
	土坑14	土坑166
	土坑15	土坑143
	土坑16	土坑106
	土坑17	土坑99
	土坑18	土坑175
	土坑19	土坑156
	土坑20	土坑157
	土坑21	土坑159
	土坑22	土坑158
	土坑23	土坑113
	土坑24	土坑111
	土坑25	遺構出土状況25
	土坑26	土坑234
	土坑27	土坑59
	土坑28	土坑96
	土坑29	土坑97
	土坑30	土坑173
	土坑31	土坑233
	土坑32	遺構出土状況24
	土坑33	土坑103
	土坑34	土坑168

新造機名		旧造機番号
土坑	土坑35	土坑161
	土坑36	土坑127
	土坑37	土坑180
	土坑38	土坑182
	土坑39	土坑229
	土坑40	土坑235
	土坑41	土坑56
	土坑42	土坑6
	土坑43	土坑55
	土坑44	土坑81
	土坑45	土坑39
	土坑46	土坑40
	土坑47	土坑9
	土坑48	土坑34
	土坑49	土坑33
	土坑50	土坑42
	土坑51	土坑44
	土坑52	土坑38
	土坑53	土坑39
	土坑54	土坑134
	土坑55	土坑142
	土坑56	土坑147
	土坑57	土坑149
	土坑58	土坑245
	集石	集石78
	集石6	遺物出土状況10
	集石7	集石47
	集石8	集石673
	集石9	集石82
	集石10	集石674
	集石11	集石41
	集石12	集石91
	集石13	集石46
	集石14	集石27
	集石15	集石55
	集石16	集石71
	集石17	集石63
	集石18	集石72
	集石19	集石83
	集石20	集石79
	集石21	集石64
	集石22	集石42
	集石23	集石118
	集石24	集石75
	集石25	集石43
	集石26	集石76
	集石27	集石90
	集石28	集石61
	集石29	集石77
	集石30	集石64
	集石31	集石59
	集石32	集石65
	集石33	集石62
	集石34	集石88
	集石35	集石70
	集石36	集石40
	集石37	集石86
	集石38	集石48
	集石39	集石85
	集石40	集石49
	集石41	遺物出土状況16
	集石42	集石60
	集石43	遺物出土状況4
	集石44	集石28
	集石45	集石56
	集石46	集石68
	集石47	集石80
	集石48	集石32
	集石49	集石66
	集石50	集石67
	集石51	集石51
	集石52	集石68
	集石53	集石29
	集石54	集石52
	集石55	集石87
	集石56	集石51
	集石57	集石50
	集石58	集石58
	集石59	集石84

縄文時代後期から弥生初期過渡

新造機名		旧造機番号
土坑	土坑50	遺物出土状況1
	土坑61	土坑223
	土坑62	土坑186
	土坑63	土坑184
	土坑64	土坑39
	土坑65	土坑35
	土坑66	土坑31
	土坑67	土坑5
	土坑68	土坑4
	土坑69	土坑6
	土坑70	土坑24
	土坑71	土坑9
	土坑72	土坑3
	土坑73	遺物出土状況15
集石	土器集中1号	土器集中18
	土器集中2号	土器集中17
	土器集中3号	土器集中15
	土器集中4号	土器集中16
	土器集中5号	土器集中14
	土器集中6号	遺物出土状況8
	土器集中7号	遺物出土状況7
	土器集中8号	遺物出土状況3
	土器集中9号	遺物出土状況2
	土器集中10号	土器集中12
	土器集中11号	土器集中13
	土器集中12号	遺物出土状況9
	土器集中13号	土器集中1
	土器集中14号	土器集中6
	土器集中15号	土器集中8
	土器集中16号	土器集中6
	土器集中17号	土器集中4
	埋設土器1号	埋設土器3号
	埋設土器2号	遺物出土状況20
	埋設土器3号	埋設土器1
	立石道場1号	土坎179
	立石道場2号	土坎165
	立石道場3号	土坎176
	立石道場4号	土坎178
	立石道場5号	土坎177
	立石道場6号	土坎238
	立石道場7号	KK-10
	立石道場8号	土坎181
	立石道場9号	土坎155
	立石道場10号	土坎164
	立石道場11号	KK-15
	立石道場12号	KK-40
	立石道場13号	土坎100
	立石道場14号	土坎167
	立石道場15号	KK-17
	立石道場16号	KK-31
	立石道場17号	土坎237
	立石道場18号	KK-7
	立石道場19号	土坎163
	立石道場20号	KK-36
	立石道場21号	土坎94
	立石道場22号	土坎101
	立石道場23号	KK-21
	立石道場24号	遺物出土状況5
	立石道場25号	土坎102
	立石道場26号	KK-52
	立石道場27号	土坎236
	立石道場28号	土坎108
	立石道場29号	土坎160
	立石道場30号	土坎107
	立石道場31号	土坎232
	立石道場32号	遺物出土状況27

公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（52）
東九州自動車道建設（志布志IC～鹿屋串良JCT間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

小牧遺跡4（縄文時代前期～弥生時代初頭編） 第1分冊（全3分冊）

発行年月 2023年3月

編集・発行 鹿児島県教育委員会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-70-0574 FAX 0995-70-0576

印 刷 株式会社 トライ社
〒892-0834 鹿児島市南林寺町12-6
TEL 099-226-0815 FAX 099-225-7933

